2022年度
国際文化学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2022/5/2］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【C0100】国際文化情報学入門［和泉　順子、深谷　公宣、大中　一彌、奥石　哲哉］春学期授業/Spring 1
【履修ガイダンスの際にお知らせ（資料を配付）します】チュートリアル［担当教員は履修ガイダンスの際にお知らせ（資料を配付）します］春学期授業/Spring 3
【C0200】国際文化情報学の展開［大西　亮］春学期授業/Spring 5
【C0212】ディジタル情報学概論［重定　如彦］秋学期授業/Fall 7
【C0210】統計処理法［吉田　一星］春学期授業/Spring 8
【C0211】システム論［甲　洋介］秋学期授業/Fall 9
【C0213】文化情報学概論［森村　修］春学期授業/Spring 10
【C0214】情報産業論［鏡　明彦］春学期授業/Spring 12
【C0215】ネット文化論［神戸　雅一］秋学期授業/Fall 14
【C0220】表象文化概論［深谷　公宣、大嶋　良明、岡村　民夫、グアリーニ　レティツィア］春学期授業/Spring 16
【C0221】メディアと情報［君塚　洋一］春学期授業/Spring 17
【C0222】社会と美術［稲垣　立男］春学期授業/Spring 19
【C0223】メディアと社会［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 22
【C0224】身体表象論［深谷　公宣］秋学期授業/Fall 24
【C0232】現代思想［森村　修］秋学期授業/Fall 25
【C0231】言語文化概論［衣笠　正晃］秋学期授業/Fall 26
【C0230】比較文化［竹内　晶子］春学期授業/Spring 27
【C0233】ジェンダー論［佐々木　一惠］春学期授業/Spring 28
【C0234】異文化間コミュニケーション［副島　健作］秋学期授業/Fall 29
【C0237】Philosophy of the Public Sphere［石田　安実］秋学期授業/Fall 31
【C0235】国際関係学概論Ⅰ［今泉　裕美子］春学期授業/Spring 33
【C0236】国際関係学概論Ⅱ［今泉　裕美子］秋学期授業/Fall 35
【C0241】国家と民族［石森　大知］春学期授業/Spring 37
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall 38
【C0244】宗教と社会［佐々木　一惠］春学期授業/Spring 39
【C0245】Religion and Society［難波　美芸］春学期授業/Spring 40
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring 41
【C1001】異文化適応論［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall 42
【C0400,C0401,C0402,C0403,C0404】情報システム概論［和泉　順子、櫻井　茂明、中村　文隆］秋学期授業/Fall 43
【C0410,C0411,C0412,C0413,C0414,C0415】メディア情報基礎［大嶋　良明、米倉　明男、菊池　司］秋学期授業/Fall 44
【C0420,C0421,C0422,C0423,C0424】ネットワーク基礎［大嶋　良明、和泉　順子、松田　裕幸］春学期授業/Spring 45
【C0432】メディア表現法［大嶋　良明］秋学期授業/Fall 47
【C0439】メディアアートの世界［大嶋　良明］春学期授業/Spring 49
【C0433】プログラミング言語基礎［和泉　順子］春学期授業/Spring 51
【C0434】【2022 年度休講】仮想世界研究［甲　洋介］春学期授業/Spring 52
【C0437】社会とデータサイエンス［和泉　順子］春学期授業/Spring 53
【C0300】【2022 年度休講】世界の言語Ⅰ［奥石　哲哉］春学期授業/Spring 54
【C0301】世界の言語Ⅱ［内山　政春］春学期授業/Spring 55
【C0302】世界の英語［小中原　麻友］春学期授業/Spring 56
【C0303】言語の理論Ⅰ［石川　潔］春学期授業/Spring 58
【C0304】言語の理論Ⅱ［石井　創］秋学期授業/Fall 59
【C0305】社会言語学［塩田　雄大］秋学期授業/Fall 61
【C0306】応用言語学［近藤　隆子］秋学期授業/Fall 62
【C0500】英語コミュニケーションⅠ［ANDREW　JONES］秋学期授業/Fall 63
【C0501】英語コミュニケーションⅠ［ANDREW　JONES］秋学期授業/Fall 64
【C0502】英語コミュニケーションⅠ［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 65
【C0503】英語コミュニケーションⅠ［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 66
【C0504】英語コミュニケーションⅠ［ALAN M NICHOLLS］秋学期授業/Fall 67
【C0505】英語コミュニケーションⅠ［ラスカイル　L. ハウザー］秋学期授業/Fall 68
【C0506】英語コミュニケーションⅠ［ラスカイル　L. ハウザー］秋学期授業/Fall 69
【C0510】英語コミュニケーションⅡ［ANDREW　JONES］春学期授業/Spring 70

【C0511】英語コミュニケーションⅡ［ANDREW　JONES］春学期授業/Spring 71
【C0512】英語コミュニケーションⅡ［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 72
【C0513】英語コミュニケーションⅡ［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 73
【C0514】英語コミュニケーションⅡ［MARK E FIELD］春学期授業/Spring 74
【C0515】英語コミュニケーションⅡ［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 75
【C0516】英語コミュニケーションⅡ［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 76
【C0520】英語コミュニケーションⅢ［ANDREW　JONES］春学期授業/Spring 77
【C0521】英語コミュニケーションⅢ［ANDREW　JONES］春学期授業/Spring 78
【C0522】英語コミュニケーションⅢ［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 79
【C0523】英語コミュニケーションⅢ［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 80
【C0524】英語コミュニケーションⅢ［MARK E FIELD］春学期授業/Spring 81
【C0525】英語コミュニケーションⅢ［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 83
【C0526】英語コミュニケーションⅢ［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 84
【C0530】英語アプリケーションⅠ［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 85
【C0531】英語アプリケーションⅡ［Kregg　Johnston］春学期授業/Spring 86
【C0532】英語アプリケーションⅢ［ウォルター・カズマー］春学期授業/Spring 87
【C0533】英語アプリケーションⅣ［ウォルター・カズマー］秋学期授業/Fall 89
【C0534】英語アプリケーションⅤ［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 91
【C0535】英語アプリケーションⅥ［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 93
【C0536】英語アプリケーションⅦ［ANDREW　JONES］秋学期授業/Fall 94
【C0537】英語アプリケーションⅧ［大野　ロベルト］秋学期授業/Fall 95
【C0538】英語アプリケーションⅨ［MARK E FIELD］春学期授業/Spring 96
【C0539】英語アプリケーションX［ラスカイル　L. ハウザー］秋学期授業/Fall 97
【C0580】ドイツ語コミュニケーションⅠ［Annette　Gruber］秋学期授業/Fall 98
【C0585】ドイツ語コミュニケーションⅡ［Schmidt　Ute］春学期授業/Spring 99
【C0590】ドイツ語コミュニケーションⅢ［Annette　Gruber］春学期授業/Spring 100
【C0595】ドイツ語アプリケーション［三ツ石　祐子］春学期授業/Spring 101
【C0596】ドイツ語アプリケーション［熊田　泰章］春学期授業/Spring 102
【C0597】ドイツ語アプリケーション［Schmidt　Ute］秋学期授業/Fall 103
【C0598】【2022 年度休講】ドイツ語アプリケーション［国際文化学部　テスト用ダミー］秋学期授業/Fall 104
フランス語コミュニケーションⅠ（臨時増コマ用）［コリンヌ　ヴァリエンヌ］秋学期授業/Fall 105
【C0610】フランス語コミュニケーションⅠ［カレンス　フィリップ］秋学期授業/Fall 106
【C0615】フランス語コミュニケーションⅡ［大中　一彌］春学期授業/Spring 107
【C0620】フランス語コミュニケーションⅢ［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring 108
【C0625】フランス語アプリケーション［PHILIPPE JORDY］春学期授業/Spring 110
【C0626】フランス語アプリケーション［PHILIPPE JORDY］秋学期授業/Fall 111
【C0627】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring 112
【C0628】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］秋学期授業/Fall 113
【C0640】ロシア語コミュニケーションⅠ［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 114
【C0645】ロシア語コミュニケーションⅡ［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 115
【C0650】ロシア語コミュニケーションⅢ［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 116
【C0655】ロシア語アプリケーション［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 117
【C0656】ロシア語アプリケーション［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall 118
【C0670】中国語コミュニケーションⅠ［ショウ　イクテイ］秋学期授業/Fall 119
【C0675】中国語コミュニケーションⅡ［薬　会］春学期授業/Spring 120
【C0680】中国語コミュニケーションⅢ［ショウ　イクテイ］春学期授業/Spring 121
【C0685】中国語アプリケーションⅠ［曽　士才］秋学期授業/Fall 122
【C0688】中国語アプリケーションⅡ［ショウ　イクテイ］春学期授業/Spring 123
【C0687】中国語アプリケーションⅢ［周　重雷］春学期授業/Spring 124
【C0686】中国語アプリケーションⅣ［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 125
【C0700】スペイン語コミュニケーションⅠ［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 126
【C0705】スペイン語コミュニケーションⅡ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 127
【C0710】スペイン語コミュニケーションⅢ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 128
【C0715】スペイン語アプリケーション［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 129
【C0716】スペイン語アプリケーション［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 130
【C0720】スペイン語アプリケーション［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 131
【C0721】スペイン語アプリケーション［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 132

【C0740】朝鮮語コミュニケーションⅠ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 133
【C0745】朝鮮語コミュニケーションⅡ［乾　浩］春学期授業/Spring 134
【C0750】朝鮮語コミュニケーションⅢ［富所　明秀］春学期授業/Spring 135
【C0755】朝鮮語アプリケーション［梁　禮先］春学期授業/Spring 136
【C0756】朝鮮語アプリケーション［梁　禮先］秋学期授業/Fall 137
【C0754】朝鮮語アプリケーション［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 138
【C0770】【2022 年度休講】情報コミュニケーションⅠ［甲　洋介］春学期授業/Spring 139
【C0771】情報コミュニケーションⅡ［和泉　順子］春学期授業/Spring 140
【C0772】情報コミュニケーションⅢ［稲垣　立男］春学期授業/Spring 142
【C0773】情報アプリケーションⅠ［重定　如彦］秋学期授業/Fall 144
【C0774】情報アプリケーションⅡ［大嶋　良明］秋学期授業/Fall 145
【C0800】こころの科学［甲　洋介］秋学期授業/Fall 146
【C0802】こころとからだの現象学［森村　修］秋学期授業/Fall 147
【C0801】ゲーム構築論［重定　如彦］春学期授業/Spring 148
【C0810】【2022 年度休講】道具のデザイン学［甲　洋介］春学期授業/Spring 149
【C0813】情報セキュリティとプライバシー［和泉　順子］秋学期授業/Fall 150
【C0814】文化と生物［川上　裕司、松崎　素道、黒沼　真由美、鈴木　忠］秋学期授業/Fall 151
【C0815】文化と環境情報［佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂］秋学期授業/Fall 152
【C0820】文化情報空間論［甲　洋介］秋学期授業/Fall 154
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理［大嶋　良明］春学期授業/Spring 155
【C0830】コネクション・デザイン［川村　たつる］秋学期授業/Fall 157
【C0831】情報の編集論［川村　たつる］春学期授業/Spring 158
【C0832】文化情報の哲学［森村　修］春学期授業/Spring 159
【C0833】ソーシャル・プラクティス［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 160
【C0852】サブカルチャー論［島田　雅彦］春学期授業/Spring 162
【C0438】道具による感覚・体験のデザイン［甲　洋介］秋学期授業/Fall 163
【C0860】マルチメディア表現法［大嶋　良明］春学期授業/Spring 164
【C0861】【2022 年度休講】メディア表現ワークショップ 1［稲垣　立男］春学期授業/Spring 166
【C0862】メディア表現ワークショップ 2［島田　雅彦］秋学期授業/Fall 167
【C0863】メディア表現ワークショップ 3［グアリーニ　レティツィア］秋学期授業/Fall 168
【C0864】【2022 年度休講】五感共生論［川村　たつる］秋学期授業/Fall 169
【C0870】映像文化論［岡村　民夫］秋学期授業/Fall 170
【C0871】【2022 年度休講】写真論［丹羽　晴美］秋学期授業/Fall 171
【C0872】【2022 年度休講】映像と文学［林　志津江］秋学期授業/Fall 172
【C0880】【2022 年度休講】演劇論［竹内　晶子］春学期授業/Spring 174
【C0881】ポピュラー音楽論［大嶌　徹］春学期授業/Spring 175
【C0882】コミックス論［野田　謙介］春学期授業/Spring 176
【C0883】【2022 年度休講】空間デザイン論［前田　尚武］秋学期授業/Fall 177
【C1000】比較表象文化論［竹内　晶子］秋学期授業/Fall 178
【C1011】異文化と身体表現［深谷　公宣］春学期授業/Spring 179
【C0850】パフォーマンスの美学［森村　修］秋学期授業/Fall 180
【C0854】現代美術論［稲垣　立男］秋学期授業/Fall 181
【C0900】世界の中の日本文学［グアリーニ　レティツィア］春学期授業/Spring 183
【C0901】世界の中の日本語［大野　ロベルト］秋学期授業/Fall 184
【C1021】日英翻訳論［大野　ロベルト］春学期授業/Spring 185
【C1022】実践翻訳技法［大野　ロベルト］春学期授業/Spring 186
【C0910】中国の文化Ⅰ（現代中国社会）［曽　士才］春学期授業/Spring 187
【C0911】中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）［曽　士才］秋学期授業/Fall 188
【C0912】【2022 年度休講】中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 189
【C0913】中国の文化Ⅳ（中国語の構造）［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 191
【C0914】中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 192
【C0915】中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）［野村　英登］春学期授業/Spring 193
【C0916】中国の文化Ⅶ（近代文学）［桑島　道夫］春学期授業/Spring 194
【C0917】中国の文化Ⅷ（現代文学）［桑島　道夫］秋学期授業/Fall 195
【C0918】中国の文化Ⅸ（中国俗文学）［鈴木　靖］春学期授業/Spring 196
【C0919】【2022 年度休講】中国の文化Ⅹ（歴史）［張　玉萍］秋学期授業/Fall 197
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）［神谷　丹路］春学期授業/Spring 198

【C0921】【2022 年度休講】朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）［内山　政春］秋学期授業/Fall 199
【C0922】アジアの伝統芸能［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 200
【C0930】【2022 年度以降閉講】アフロ・アジアの文化［江村　裕文］春学期授業/Spring 201
【C0931】ロシア・中央アジアの文化［油本　真理］春学期授業/Spring 202
【C0932】ロシア・東欧の文化［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 203
【C0940】ドイツ語圏の文化Ⅰ［熊田　泰章］春学期授業/Spring 205
【C0941】【2022 年度休講】ドイツ語圏の文化Ⅱ［熊田　泰章］春学期授業/Spring 206
【C0942】【2022 年度休講】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 207
【C0943】【2022 年度休講】フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）［岡村　民夫］春学期授業/Spring 210
【C0944】フランス語圏の文化Ⅲ（文学）［PHILIPPE JORDY］秋学期授業/Fall 211
【C0999】フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）［廣松　勲］春学期授業/Spring 212
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall 213
【C0945】スペイン語圏の文化Ⅰ［久木　正雄］春学期授業/Spring 214
【C0946】スペイン語圏の文化Ⅱ［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 216
【C0950】カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）［フォルテア　ムニョス　ダニエル］春学期授業/Spring 217
【C0951】カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）［フォルテア　ムニョス　ダニエル］秋学期授業/Fall 219
【C0952】カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）［フォルテア　ムニョス　ダニエル］春学期授業/Spring 221
【C0953】カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）［フォルテア　ムニョス　ダニエル］秋学期授業/Fall 223
【C0960】英語圏の文化Ⅰ（文化史）［宇治谷　義英］春学期授業/Spring 225
【C0961】英語圏の文化Ⅱ（思想史）　［MARK E FIELD］春学期授業/Spring 226
【C0962】英語圏の文化Ⅲ（現代事情）［佐喜真　彩］春学期授業/Spring 227
【C0963】英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）［須藤　祐二］秋学期授業/Fall 229
【C0964】英語圏の文化Ⅴ（文学と社会 B）［北　文美子］秋学期授業/Fall 230
【C0965】英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）［中和　彩子］春学期授業/Spring 231
【C0966】英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）［奥石　哲哉］春学期授業/Spring 232
【C0967】英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）［奥石　哲哉］秋学期授業/Fall 234
【C0970】Structure of English ［奥石　哲哉］春学期授業/Spring 236
【C0968】History of English ［奥石　哲哉］秋学期授業/Fall 238
【C0902】世界とつながる地域の歴史と文化［髙柳　俊男］春学期授業/Spring 240
【C1052】実践社会調査法［松本　悟］春学期授業/Spring 242
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall 243
【C1040】国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）［市岡　卓］春学期授業/Spring 244
【C1049】【2022 年度休講】途上国経済論［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 245
【C1010】【2022 年度休講】国際関係研究Ⅳ（他者イメージ論）［中島　成久、国際文化学部（代講教員）］秋学期授業/Fall 246
【C1030】宗教社会論Ⅰ（仏教思想）［宮部　峻］秋学期授業/Fall 247
【C1031】宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall 248
【C1032】【2022 年度休講】宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）［江村　裕文］春学期授業/Spring 250
【C1020】間文化性研究翻訳論［熊田　泰章］春学期授業/Spring 251
【C1050】多文化社会と人間［挽地　康彦］春学期授業/Spring 252
【C1041】国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））［木口　由香］秋学期授業/Fall 253
【C1043】【2022 年度休講】人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）［曽　士才］秋学期授業/Fall 254
【C1044】人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）［髙柳　俊男］秋学期授業/Fall 255
【C1045】【2022 年度休講】人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）［今泉　裕美子］秋学期授業/Fall 256
【C1047】【2020 以降、次期カリ変まで休講】国際関係研究Ⅲ（地域紛争とエスニシティ）［中島　成久、国際文化学部（代講教員）］秋学期授業/Fall 257
【C0923】【2022 年度休講】国際関係研究Ⅴ（東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学）［中島　成久、国際文化学部（代講教員）］秋学期授業/Fall 258
【C1051】持続可能な社会［中西　由季子］春学期授業/Spring 259
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 260
【C1053】Approaches to Transnational History ［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall 262
【C1054】【2022 年度休講】Cultural Dimension of American Foreign Relations 春学期授業/Spring 263
【C1103】情報文化演習［和泉　順子］春学期・秋学期/Spring・Fall 264
【C1100】情報文化演習［大嶋　良明］春学期・秋学期/Spring・Fall 266
【C1101】情報文化演習［春学期担当：渡邊　日出雄，秋学期担当：甲　洋介］春学期・秋学期/Spring・Fall 269
【C1102】情報文化演習［重定　如彦］春学期・秋学期/Spring・Fall 271
【C1104】情報文化演習［中西　由季子］春学期・秋学期/Spring・Fall 273
【C1105】情報文化演習［森村　修］春学期・秋学期/Spring・Fall 274

【C1106】表象文化演習［稲垣　立男］春学期・秋学期/Spring・Fall 276
【C1108】表象文化演習［グアリーニ　レティツィア］春学期・秋学期/Spring・Fall 279
【C1107】表象文化演習［岡村　民夫］春学期・秋学期/Spring・Fall 281
【C1109】表象文化演習［島田　雅彦］春学期・秋学期/Spring・Fall 282
【C1110】表象文化演習［深谷　公宣］春学期・秋学期/Spring・Fall 284
【C1112】表象文化演習［竹内　晶子］春学期・秋学期/Spring・Fall 286
【C1114】表象文化演習［大嶌　徹］春学期・秋学期/Spring・Fall 287
【C1116】言語文化演習［副島　健作］春学期・秋学期/Spring・Fall 289
【C1121】言語文化演習［大西　亮］春学期・秋学期/Spring・Fall 291
【C1118】言語文化演習［衣笠　正晃］春学期・秋学期/Spring・Fall 293
【C1115】言語文化演習［奥石　哲哉］春学期・秋学期/Spring・Fall 295
【C1119】言語文化演習［佐々木　直美］春学期・秋学期/Spring・Fall 297
【C1120】言語文化演習［佐藤　千登勢］春学期・秋学期/Spring・Fall 299
【C1111】言語文化演習［鈴木　靖］春学期・秋学期/Spring・Fall 301
【C1122】言語文化演習［遠藤　郁子］春学期・秋学期/Spring・Fall 303
【C1113】言語文化演習［廣松　勲］春学期・秋学期/Spring・Fall 305
【C1123】言語文化演習［岩下　弘史］春学期・秋学期/Spring・Fall 307
【C1124】言語文化演習［大野　ロベルト］春学期・秋学期/Spring・Fall 309
【C1117】国際社会演習［廣田　郷士］春学期・秋学期/Spring・Fall 310
【C1126】国際社会演習［今泉　裕美子］春学期・秋学期/Spring・Fall 312
【C1127】国際社会演習［大中　一彌］春学期・秋学期/Spring・Fall 314
【C1128】国際社会演習［熊田　泰章］春学期・秋学期/Spring・Fall 316
【C1129】国際社会演習［佐々木　一惠］春学期・秋学期/Spring・Fall 318
【C1130】国際社会演習［曽　士才］春学期・秋学期/Spring・Fall 320
【C1131】国際社会演習［髙柳　俊男］春学期・秋学期/Spring・Fall 322
【C1132】国際社会演習［石森　大知］春学期・秋学期/Spring・Fall 323
【C1133】国際社会演習［松本　悟］春学期・秋学期/Spring・Fall 325
【C1060】インターンシップ事前学習［石森　大知、北　文美子］春学期授業/Spring 327
【C1501】ディジタル情報学概論［重定　如彦］秋学期授業/Fall 329
【C1502】【2022 年度休講】仮想世界研究［甲　洋介］春学期授業/Spring 330
【C1503】文化情報学概論［森村　修］春学期授業/Spring 331
【C1055】【2022 年度休講】国際関係研究Ⅵ［粟飯原　文子］秋学期授業/Fall 332
【C1056】国際関係研究Ⅶ［石森　大知］秋学期授業/Fall 333
【C1701】海外フィールドスクール［稲垣　立男］オータムセッション/Autumn Session 334
【C0551】Art, Rebellion and Advertising［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 337
【C0550】The History of Tourism［MARK E FIELD］春学期授業/Spring 338
【C0969】History of Western Thought［MARK E FIELD］春学期授業/Spring 339
【C1904】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 340
【C1906】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［梁　禮先］秋学期授業/Fall 341
【C1900】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［ALAN M NICHOLLS］秋学期授業/Fall 342
【C1901】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［JAMES O ESSEX］秋学期授業/Fall 343
【C1902】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［PAUL K KALLENDER］秋学期授業/Fall 345
【C1903】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［林　志津江］秋学期授業/Fall 346
【C1905】スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 347

BSP100GA

国際文化情報学入門

和泉　順子、深谷　公宣、大中　一彌、輿石　哲哉

配当年次／単位：1 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**1 年生全体を 2 クラスに分割する**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『国際文化情報学入門』は各コースの担当教員によるオムニバス講義です。今年度の担当は下記の 4 名です。
情報文化コース：和泉順子
表象文化コース：深谷公宣
言語文化コース：輿石哲哉
国際社会コース：大中一彌
国際文化学部の学生として身につけてもらいたい基本的な知識を捉え、学生各自が在学中に共通に必要となる「文化を学ぶ考え方」を理解するための講義です。私たちの学部では文化を『情報文化』『表象文化』『言語文化』『国際社会』の 4 つの面から捉えようとしており、それぞれの分野を専門とする 4 人の教員が担当します。
今年度は「インターネット…・海外…・日本…」というテーマを 4 つの視座から読み解きます。

【到達目標】
「情報文化」は、現代の都市型社会において「情報」こそが我々の思考や生活の基盤であるとの立場から、情報の生成、編集、再構成と文化の伝達や人間と情報のかかわりについて学びます。特に、デジタル空間で得られる情報の特性を知ると同時に、それらを素材として自ら思考し経験することの意味を考えられるようになるのが目標です。
「表象文化」は、主に人間の知覚と創造行為の関連、創造行為のプロセスとメディアの関連を学びながら、幅広い知の視点の獲得を目指すとともに、研究対象とその方法を選ぶための初歩的な議論を導入します。「表象文化＝芸術に関する知識のインプットではない」こと、創造行為と日常の間にあるもの、表象文化と社会の結びつきについて、思考できるようになるのが目標です。
「言語文化」では，国際文化学部生として知っておいて欲しい言語に関する基本的な知識や様々な外国語学習のコツを，英語を題材にしながら考えていきます．基本的なレファレンス類の使い方，大学での外国語の学び方，日々の情報の収集法等について等が，その内容になります．併せて，他の 3 分野とのインターフェースについて学んでいきます．
「国際社会」では、現代の世界における国家間・集団間の諸問題を文化的な視野のなかで考える態度と方法を学びます。簡単な単語を使い、外国語が下手でも話そうとする姿勢は大切ですが、皆さんの将来にとっては、話をする時の中身が大切です。この「入門」授業では、高校までの知識を確認しながら、国際問題について考え、語るための糸口を見つけることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・1 年生全員が履修します。
・週 2 回講義があります。
・130 名程度の中教室講義 ×2 クラスでの講義です。
・出席、課題、レポート、試験等は分野ごとに課します。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
課題等のフィードバックについては，各分野担当教員が具体的な内容を，学習支援システム等を通じて提示します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体のガイダンスを合同授業で実施する。
2	【A グループ】第 1 講（表象・国際） 【B グループ】第 1 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：大学論、あるいは「アーツ」とは何か 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
3	【A グループ】第 2 講（表象・国際） 【B グループ】第 2 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 2 回） 情報：社会における情報 表象：文学の諸ジャンル 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかり使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
4	【A グループ】第 3 講（表象・国際） 【B グループ】第 3 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 3 回） 情報：文化としての情報 表象：神話と現代 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
5	【A グループ】第 4 講（表象・国際） 【B グループ】第 4 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 4 回） 情報：メディアと情報 表象：アイロニーとキッチュ 言語：大学での外国語学習、小テスト 1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
6	【A グループ】第 5 講（表象・国際） 【B グループ】第 5 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 5 回） 情報：情報とセキュリティ 表象：映画の諸ジャンル 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう） 国際：明治２０年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
7	【A グループ】第 6 講（表象・国際） 【B グループ】第 6 講（情報・言語）	分野別授業（前半第 6 回） 情報：情報とリテラシー 表象：文化産業とメディア 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト２ 国際：国際関係論への基本的な構え
8	【A グループ】第 1 講（情報・言語） 【B グループ】第 1 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 1 回） 情報：国際文化学部と情報 表象：大学論、あるいは「アーツ」とは何か 言語：言語文化と他分野とのインターフェース 国際：文化とは何か
9	【A グループ】第 2 講（情報・言語） 【B グループ】第 2 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 2 回） 情報：社会における情報 表象：文学の諸ジャンル 言語：大学で文献を読む A-1（レファレンス類をしっかり使おう） 国際：教養としての文化（西洋Ⅰ）
10	【A グループ】第 3 講（情報・言語） 【B グループ】第 3 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 3 回） 情報：文化としての情報 表象：神話と現代 言語：大学で文献を読む A-2（背景の文化事象を知ろう） 国際：文明と文化（西洋Ⅱ）
11	【A グループ】第 4 講（情報・言語） 【B グループ】第 4 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 4 回） 情報：メディアと情報 表象：アイロニーとキッチュ 言語：大学での外国語学習、小テスト 1 国際：幕末維新と文化（日本Ⅰ）
12	【A グループ】第 5 講（情報・言語） 【B グループ】第 5 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 5 回） 情報：情報とセキュリティ 表象：映画の諸ジャンル 言語：大学で文献を読む B-1（ジャンルの違いを意識しよう 国際：明治２０年代から大正デモクラシーへ（日本Ⅱ）
13	【A グループ】第 6 講（情報・言語） 【B グループ】第 6 講（表象・国際）	分野別授業（後半第 6 回） 情報：情報とリテラシー 表象：文化産業とメディア 言語：大学で文献を読む B-2（要点を把握しよう）、まとめ、小テスト２ 国際：国際関係論への基本的な構え
14	まとめ	合同授業による総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各コースの授業において予習復習、課題、文献講読などが課されるので毎回の授業の後にかならずこれらの学習活動を行ってください。また大学での最初の科目授業であり、担当ごとの授業スタイルの違いもあるので、学習方法そのものに早い時期に慣れる必要があります。学習支援ハンドブックをはじめ、各教員の指示によくしたがって学習を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書は用いませんが、必要な文献等に関しては、それぞれの分野ごとに必要に応じて指示します。

【参考書】
担当教員それぞれが開講時ないし授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
各分野の点数配分をそれぞれ 25%とし、それを合計する。内訳は（　）のとおり。
情報文化＝ 25%（平常点 10%, 試験 15%）

表象文化＝ 25%（毎回の授業の課題で 25 %）
言語文化＝ 25%（小テストで 25%となります．欠席は原則的に認めず、減点の対象となるので留意のこと．小テストは両グループとも 2 回ずつを予定していますが，進度等により回数が変更されることもあります．なお，小テストに代えて他の課題を課すこともありますが，その場合には詳細を授業支援システムにてお知らせします．）
国際社会＝ 25%（レポート成績（任意）、小テスト、授業への貢献、その他の 4 項目で、各 25 %）
【成績調査願への対応について】
「国際文化情報学入門」科目の成績評価においてＤまたはＥとなった学生が、所定の手続き・期間を守り、成績調査願を提出し、かつ調査後もＤまたはＥの評価が変わらない場合、翌年度の再履修にあたり、『国際文化情報学入門』４分野で、とくに努力が必要な事項について、当該の学生に回答する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
大人数の必修の授業となりますので、円滑な運営が行えるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」を使用します。

【その他の重要事項】
・学年全体を 2 クラスにわけて授業を行ないます。
・どちらのクラスも週 2 回授業があります。
・自分がどちらのクラスに該当するか必ず確認してください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
There are two objectives of this course taught by four instructors from FIC's four subfields of intercultural studies*:
A. You should become acquainted with the basic ideas and concepts which are necessary for intercultural studies.

B. You should begin to develop a framework of learning cultures other than your own, on the basis of which you can start to conduct your own research.
(*FIC's four subfields, in case you don't know:
(1) Informatics, Artefacts and Transculturality (IAT)
(2) Culture and Representation (C&R)
(3) Language and Culture (L&C)
(4) International Society and Culture (ISC))
【到達目標（Learning Objectives）】
We have the following subfield-based objectives:
(1) Re: IAT, you should:
- become acquainted with generation, editing, and restructuring of our information, together with its transmission and human involvement.
- be able to understand the quality of information obtained in cyberspace and to develop a framework thereby you can think and experience.
(2) Re: C&R, you should:
- be able to acquire a wider framework thereby you see the relationship various creative activities and various media.
- begin to develop a rudimentary framework to discuss those activities.
- be able to understand that this subfield is not simply an assemblage of knowledge about various art.
- be able to consider what lies between creative activities and our daily life, as well as how they interact with our society.
(3) Re: L&C, you should:
- familiarise yourself with general methodology of language and culture learning with special focus on the English language.
- be able to understand how to get necessary information by using reference books, the internet, etc.
- be able to understand how this subfield interfaces with other three subfields.
(4) Re: ISC, you should:
- be able to learn basic methodology of considering various nation- or group-based relations from various intercultural perspectives.
- be able to understand the importance of contents rather than mere linguistic fluency (although any attitude of facilitating communication is, of course, recommendable.)
- be able to develop a framework thereby you can reasonably see various international problems, making the most of the knowledge hitherto acquired.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
You should prepare for the class sessions according to the instructions given by instructors. Also, revising/reviewing is highly recommended for consolidating your learning. Minimum of 2 hours of study is required for each class session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Each subfields has an equal 1/4 say (25%) for your final grades. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for this course.

BSP100GA

チュートリアル

担当教員は履修ガイダンスの際にお知らせ（資料を配付）します

配当年次／単位：**1 年／ 1 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**
備考（履修条件等）：**授業形態は担当教員により異なります。ガイダンス時に配布するクラス指定表を参照してください。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
チュートリアルは新入生全員が履修する授業であり、少人数の編成で開講されます。この科目では、法政大学国際文化学部における学びに必須の、基礎的なアカデミック・スキルの習得を目指します。読み書きに重点をおき、図書館の利用法、文献の検索などデータベースの使い方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などについて学びます。また、いわゆるアカデミック・スキルの面以外に、国際文化学部でおこなわれている教育研究の内容についても、チュートリアル担当教員に積極的に質問などをすることで、理解が深まります。

【到達目標】
・「出席しさえすればよい」という受け身での授業態度は卒業し、授業で示された情報をみずから整理する目的でのノートテイクの方法を習得。
・法政大学図書館のサイトを用いて、書誌など研究に必要な情報を集めることができる。
・先行研究をリスペクト（尊重）することがなぜ必要なのかを理解したうえで、アカデミック・ライティングの基本ルールを押さえた文章を作成することができる。
・捏造、改ざん、盗用、それ以外の研究活動上の不適切な行為について理解する。
・口頭で発表をする際に、自分の考えとは異なる考えをもった聞き手がいることを前提に、論理的に話を組み立てるコミュニケーション能力。
・法政大学の歴史や国際文化学部の教育目標が、あなた自身の目指す将来の進路との関連でどのような意味をもっているか、他の人に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・レポート題材の絞り方、文献探し、順序を踏まえた執筆、口頭発表、質疑応答など、少しずつ学びながら実践していきます。作業課題のフィードバックや質問については、授業時間内ならびに Learning Management System（LMS ；学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）を通じて行います。
・想定されている授業回数は 1 年生の春セメスターの「7 回」です（1 単位科目）。ただし、授業の進め方や新型ウィルス感染拡大状況により授業回数が「7 回」ではないグループがある可能性があります。
・基本的に対面授業を行いますが、感染状況によりオンライン授業や、対面授業とオンライン授業の混合となる可能性がありますので、詳しくは担当教員に確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回顔合わせ	・新入生の自己（他己）紹介 ・『学習支援ハンドブック』の法政大学全体の紹介＆法政大学図書館の紹介の項目 ・対応する動画は「法政大学へようこそ」「法政大学お宝コレクション」
第 2 回	大学での学びとは 研究倫理について	・『学習支援ハンドブック』のポータルサイトに関する説明や、ノートの取り方、メールのマナー、ディスカッションについての項目 ・対応する動画は「大学での学びとは」
第 3 回	レポートの書き方① ・アカデミックライティングとは	・『学習支援ハンドブック 2022』のレポートに関する説明や、テーマの決め方、準備の方法、レポートの構成、論証やパラグラフ（段落）の重要性について ・対応する動画は「文献や情報の集め方」(1) & (2)
第 4 回	レポートの書き方② ・レポートの文章術 ・研究倫理について	・『学習支援ハンドブック』の引用ルールに関する説明や、接続表現の使い方、レポート提出前にチェックすべきポイント、いわゆる文章術についての項目 ・先行研究の適切な引用と区別（捏造、改ざん、盗用等について） ・対応する動画は「レポートの書き方」
第 5 回	レポートの作成・提出	第 4 回までに学んだ内容を踏まえ、実際にレポート課題を作成・提出する。
第 6 回	プレゼンテーション技法	・『学習支援ハンドブック 2022』におけるプレゼンテーションの準備や資料、心得に関する項目 ・対応する動画は「プレゼンテーション技法」
第 7 回	レポートの内容にかんするプレゼンテーション	第 6 回までに学んだ内容を踏まえ、実際にプレゼンテーションと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国際文化学部には多様な背景をもった学生が入学し、「チュートリアル」は学部の新入生全員が履修する授業であることから、この科目が開講される 1 年春の段階では、日本語能力や情報リテラシーにも個人差があります。そのため、時間数で表示することはしませんが、担当教員から提示される課題をこなし、『学習支援ハンドブック』の各章を読み、関連する動画を視聴するのに必要な時間が、最低限この科目で求められる授業外学習の時間となります。

【テキスト（教科書）】
・『法政大学学習支援ハンドブック 2022』※ネット上から PDF ファイルでダウンロードできますので、検索しておいてください。
・『法政大学学習支援ハンドブック』の内容に対応する動画が用意されています。以下の URL から閲覧してください。
PC ： https://lms.hosei.ac.jp
スマートフォン/タブレット： https://lms.hosei.ac.jp/rpv
※法政大学から配布される「統合認証 ID」を使ってログインしてください。

【参考書】
・授業内で随時指示するが、大学生向けのレポートの書き方にかんする書籍にどのようなものがあるか調べ、入学前にご自身で読んでみることをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
a. 授業参加　30%
b. 課題提出　40%
c. 口頭発表　30%

通常の科目と異なり、P（合格）または F（不合格）で評価されます。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度、2021 年度における新型コロナウィルスの感染拡大は、ご存知のとおり大学の授業のオンライン化をもたらしました。法政大学で実施されたさまざまなアンケートを見る限り、学生の皆さんからの理解はおおむね得られているようですが、オンライン授業が、学生・教職員の双方にとって、限られた時間で新しいことに挑戦しなければならない困難を伴う課題でした。2022 年度も引き続き新型コロナウィルス感染下での大学生活となりますが、これまでの知見を十分に生かして有意義な大学生活をスタートさせてください。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学図書館のオンライン・データベース、文書やプレゼンテーション資料の作成、法政大学が提供する Learning Management System（LMS ；学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）、リアルタイムのビデオ会議システム（Zoom や Webex、Google Meet）など、高校まではあまり使ったことのない道具をうまく活用できるようになることが、ポスト・コロナ時代に社会に出ていくことになる前途有為の大学生には必要な学びといえます。できれば有線（LAN ケーブル）をもちいた利用時間・データ量に制限のないインターネット接続や、パソコン、タブレットなどの端末を、お住まいの環境に整備してください。2021 年度入学に際しての情報・通信環境の準備について、詳しくは法政大学からの案内をご覧ください。

【その他の重要事項】
・「授業計画」はあくまで一例です。
・どの教員があなたの属するグループを担当するかは、履修ガイダンスの際にお知らせ（資料を配布）します。
・国際文化学部の常として、担当教員のなかには、日本語が第一言語でない先生もいます。多様性が日常の環境にある状況に慣れていない方は、ぜひ慣れてください。
・【重要！】新入生全員が必ず履修する少人数の科目であり、「チュートリアル」という同じ科目名で数多くのグループ向け授業が開講されています。日程や教室、担当教員の氏名に間違いはないか、またあなたが属するグループでは、どのような授業形態で「チュートリアル」が実施されるのか、くれぐれも事前によく確認してください。
・担当教員との連絡は、LMS（学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）や、法政大学が配布する法政 G メールを利用して行ってください。
・学習支援システム-Hoppii ならば「授業内掲示板」機能、Google Classroom ならば「クラスのコメント」機能に書き込みをすることができます。
・法政 G メールを使って担当教員にメールを書くときの書き方は、『学習支援ハンドブック』のメールのマナーに関する注意を参考にしてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The tutorial is a class for new students and is offered in small groups. This course aims to acquire the basic academic skills necessary for studying at university.
Learning Objectives
Students will learn basic academic skills for higher education, such as note-taking, library research, academic writing, and oral presentation.
Learning activities outside of the classroom
There are individual differences in ability in the spring of the first grade. Therefore, it is not displayed by the number of hours.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
a. In class contribution 30%
b. Submission of assignments 40%
c. Oral presentation 30%

BSP200GA

国際文化情報学の展開

大西　亮

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、1 年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである（ただし必修ではない）。本学部の 4 つのコース「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「世界のなかの日本―日本を軸に異文化交流について考える」。今年度のコーディネーターは国際文化学部教員の大西亮が担当する。

【到達目標】
1．本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
2．SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
3．コロナ禍により異文化交流が困難な状況だからこそ、国際文化情報学（intercultural communication）を多角的に捉えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
■本授業は「対面」形式を基本とする。コロナウイルスの感染状況が悪化するなどした場合は Zoom による授業に切りかえることがある。
■フィードバック：質問に対しては、学習支援システムの掲示板を通じて可能なかぎり回答する。あわせて、次回授業のなかでもフィードバックを行なう予定。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にフィードバックすることはしない。
■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4/8 大西亮（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）この授業で何を学ぶか	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明する。
2	4/15 前川裕（法政大学名誉教授）「文化と翻訳―樋口一葉『たけくらべ』の英訳をめぐって」	翻訳とは単に言葉の移植ではなく、文化の移植を伴うものである。日本文学を英訳する場合に起こる問題点について、表示義 (denotation) と共示義 (connotation) という概念を中心に解説し、最終的には翻訳とは何かを考える。
3	4/22 廣松勲（国際文化学部教員）「文学における日本表象： D・ラフェリエールの日本」	海外文学において日本を描いた作品は少なくない。本授業ではラフェリエールの小説『吾輩は日本作家である』を題材にしつつ、どのように或る国・地域を物語化できるのかについて論じたい。
4	5/6 大野ロベルト（国際文化学部教員）「ジャパノロジストたちの見た日本」	明治初期および第二次大戦後を中心に、多くのジャパノロジスト（日本学者）が日本を訪れた。彼らは日本に何を期待し、日本に何をもたらし、また世界に向けて何を発信したのか。現代にまでつづく「日本らしさ」の源流をさぐる。
5	5/13 鈴木靖（国際文化学部教員）「シルクロードの出土文物から明らかになった狂言のルーツ」	1900 年、シルクロードの仏教石窟で、11 世紀ごろに封印されたと思われる小さな隠し部屋が発見された。この隠し部屋から見つかった唐代の謎の古文書を通じて、狂言の代表作「附子」や「鏡男」のルーツを明らかする。
6	5/20 月野楓子（沖縄国際大学教員）「< 日系人> を通して考える日本・沖縄・ラテンアメリカのつながり」	留学やビジネスで海外との往来が盛んになる一方、国内に暮らす多様なルーツを持つ人々についての理解は未だ十分とは言えない。日本の移民の歴史を振り返りながら、足元にある「異文化」理解の可能性を考える。
7	5/27 衣笠正晃（国際文化学部教員）「近代日本人による海外体験」	幕末以降の日本人による海外体験を「洋行」「留学」をキーワードとしてとり上げる。異郷の地において彼らが何と出会い、何を感じ考えたのか、さらにそうした異文化体験が帰国後の彼らに何をもたらしたのかを考察する。
8	6/3 シルビア・リディア・ゴンサレス（神田外語大学教員）「< 記憶> の再現をめぐるドラマ―「折り鶴の声」の方法論をめぐって―」	さまざまな証言をおりまぜながら広島と長崎の原爆をめぐる記憶の再構築を試みた外国人研究者によるドキュメンタリー映像を題材に、ジャーナリズムと大衆文化の観点から過去の歴史の再構築の方法について考える。
9	6/10 輿石哲哉（国際文化学部教員）「中世黒死病から見ることば・異文化交流の世界」	中世の黒死病の影響をつぶさに見る中で、それがヨーロッパの言語状況に及ぼした影響、東西の異文化交流、日本語と英語の対称性について論じ、さらには、世界的な規模で言語・文化に関して考察する意義について触れる。
10	6/17 寺尾隆吉（早稲田大学教員）「日本文学をスペイン語圏へ」	21 世紀に入って以降、村上春樹の人気に引っ張られてスペイン語圏全体で日本文学の翻訳が加速している。グローバル化するスペイン語圏の出版業の現状を踏まえつつ、スペインとアルゼンチンにおける安部公房の翻訳・出版を中心に、日本文学の国際化に向けたこれまでの取り組みと今後の課題を展望する。
11	6/24 浜田和範（慶応義塾大学教員）「< 世界一貧しい大統領> と日系移民」	「世界一貧しい大統領」の愛称で世界に知られた元ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカは折に触れ、若き日の日系移民との交流を語っている。南米、特にウルグアイにおける日系移民の活動を学ぶことで、文化交流の諸相を考察する。
12	7/1 北文美子（国際文化学部教員）「フォークロアと社会：日本とアイルランドを較べて」	日本とアイルランドに民話には「人がさらわれる」というテーマの物語が散見されます。神隠しとも呼ばれる伝承は何を伝えているのでしょうか。日本とアイルランドの物語を比較しながら、社会における意味を考えます。
13	7/8 牧内博幸（前ドミニカ共和国大使）「現場から学ぶ緊急時を生き抜く知恵と力」	1996 年 12 月 17 日から 97 年 4 月 22 日までの 126 日間、在ペルー日本大使公邸でゲリラによる人質拘束事件が続いた。事件の解決にあたる中で学んだ教訓を、今後時代をリードする若者にお伝えする。
14	7/15 大西亮（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える	海外や現場を訪れて直接体験することが難しい今、国際文化学部の学びの本質とは何か、この授業全体の講義を振り返りながら考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・担当講師によっては事前課題を前提に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
・授業後課題を毎回課す。授業日後 3 日以内に短い文章で提出する。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。
●理念・目的
https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/
●ディプロマポリシー
https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/

【参考書】
・事前に学習支援システムに掲示するか、授業の中で各講師が紹介する。
・鈴木靖/法政大学国際文化学部編（2013）『国境を越えるヒューマニズム』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】
授業後課題の提出 60%、最終レポート 40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14 回の講義について論じるものである。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
新規担当科目のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には登録すること。
・コロナウイルス感染状況により、Zoom による授業に切りかえる場合があるため、パソコン等のインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】
本授業の一部は、外部講師がその専門分野に応じて講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

【Outline (in English)】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures. The theme of this course is for this year – Focus on Japan in the world – engaged in aspects of different cultural ideas, current issues and communication "from the eyes of The Japanese".
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Short reports : 60 %、term-end reports 40%

COT200GA

ディジタル情報学概論

重定　如彦

サブタイトル：**ディジタル社会を生き抜くための基礎知識**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。
ディジタル情報化社会、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。
この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。
情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】
ディジタルとは何かについて理解する。
ディジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。
ディジタル情報化社会及び、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解する。
現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
上記の到達目標を達成するため、教科書である「ディジタル情報学概論」の内容をもとにディジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。
授業の前半ではディジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。
具体的にはまず「ディジタルとは何か」から始まり、ディジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、ディジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。
次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうディジタル技術について解説する。
各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。
おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とディジタル	ディジタルとは何か 情報の符号化 ディジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛生を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6 回	ディジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	ディジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型ディジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、ディジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 ディジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、ディジタルマップと GIS	3 次元 GC ディジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】
奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/
にいくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %
「評価基準」
平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。
レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。
期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。
また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】
PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.
Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Distribution.
Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.
Grading Criteria
Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.
Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.
The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

PRI200GA

統計処理法

吉田　一星

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることはけっして容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、統計を学ぶために最低限必要な確率の知識、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】
・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
・データを解釈する方法を身につける
・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。
　数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。
　授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。次の回の始めの時間で、その宿題の解説を行い、理解度を確認します。
　また、小テスト・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うために、小テストに関しては授業中に詳しい解説の時間を確保します。期末試験に関しては、学習支援システム上に解説資料を掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと確率の基礎 1	授業の進め方についての説明・組合せ論的確率の意味
第 2 回	確率の基礎２	場合の数
第 3 回	確率の基礎３	場合の数の応用
第 4 回	確率１	確率の定義と例
第 5 回	確率２	確率の計算
第 6 回	統計の基礎１	数値データの表現方法
第 7 回	統計の基礎２	データの代表値とその性質
第 8 回	統計の基礎３	分散と標準偏差
第 9 回	２次元データの分析１	散布図と相関係数
第 10 回	２次元データの分析２	回帰分析
第 11 回	確率分布１	確率変数と期待値
第 12 回	確率分布２	二項分布
第 13 回	確率分布３	正規分布
第 14 回	期末試験・まとめ	期末試験と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、1 回の分量を少なめにしますので次の授業までに必ず自分で解いてきて下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】
以下の参考書をお勧めします。
"経営・商学のための統計学入門　直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.
この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う小テストと期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、小テスト 30%、期末試験 70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が好評でしたので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
講義時間で演習を行います。演習では計算を行いますので電卓などを持参するようにしてください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.
[Learning Objectives]
Students should be able to do the followings at the end of this course:
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Master basics of data visualization
- Understand basic statistics
- Understand some ways of interpret results of data analytics
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is four hours.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA

システム論

甲　洋介

サブタイトル：**人と社会の営みを理解する、もう一つの視点**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●　『家族』も『人間』もシステム？

コンピュータや SNS ばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国間関係にしても、うまく機能している間は人々は気にしない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかない時に問題として顕在化する。

●　「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

　システムとは何か。文化の中の様々な対象をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

　本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

●　システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何が変わるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する ***questions*** を整理し、明確化することにもつながる。

　社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

社会、またはあなたが直面する一見複雑に見える問題に対して：
　・それはどのような要素からなっているか
　・その本質は何か、何を目的としているのか
　・複数の要素間の相互関係はどうなっているか
　・その問題は、解決可能な幾つかの小さな問題に分けて考えることができるか
　・どのようにすれば解決に近づくことができるか
を、システムの考え方を用いて、問題の構造を理解して、複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導くまでの道筋を、自分で組み立てられるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。
　(1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約 15 分）
　(2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65 分）
　(3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20 分）

講義と小課題の演習を組み合せる。授業冒頭 (1) で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義 (2) につなぐ。各自の内容理解を小演習 (3) で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

　授業中の討議を通じて，他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ，他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

※新型コロナ感染状況により授業の進め方を修正せざるを得ない場合は学習支援システム等で周知する。その場合も上記の基本方針の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方
第 2 回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第 3 回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第 4 回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第 5 回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第 6 回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第 7 回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第 8 回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第 9 回	社会というシステム　～個人から社会へ（パーソンズの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第 10 回	社会のシステム論 (1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第 11 回	社会のシステム論 (2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは，社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第 12 回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第 13 回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第 14 回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 — 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

　・レスポンスシートや，授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %），
　・期末レポートまたは期末試験（40 %）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。　基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会コース、表象文化コースの専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.
By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

FRI200GA

文化情報学概論

森村　修

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**情報倫理学**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
《授業の概要》
本科目は、**国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目**です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2022 年度の本授業では、「エコロジー（=生態学 ecology）ってなに?!」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（=エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の**〈環境に優しい〉とか〈自然との共生〉を唄う「エコ」という意味での「エコロジー」ではない**ということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということを研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

《授業の目的》
そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000」にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人と人（自分と他人、親と子ども、など）の〈あいだ〉の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの〈あいだ〉にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（=エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】
本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミニュケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方で「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】
・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第 3 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第 4 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第 6 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第 8 回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」(1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第 9 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (2)	・三つの「エコロジー（生態学）」(2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第 10 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (3)	・三つの「エコロジー（生態学）」(3) 自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第 11 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」（by 上野俊哉）
第 12 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ①	・「エコソフィー」とは何か？
第 13 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよね——でも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】
・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第 2 版、新思索社、2000 年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ「三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008 年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016 年

【成績評価の方法と基準】
小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30 %）・小テスト（30 %）・平常点（40 %）。
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします

※要注意
リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
【注意点】
(1)「文化情報学」とは、**狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。**。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、**「文化情報」の「学」**を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、**動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります**。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】
大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】
This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2022, we will consider the question of "**What is the relationship between communication and its environment?!** " and we will examine the problems of "communication".
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to examine the issue of communication.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%

FRI200GA

情報産業論

鏡　明彦

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報産業の現状と展望
〜国内外の放送サービスを通して今の情報産業を見つめ、将来を展望する〜
「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させ、社会を発展させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支えるＩＴ産業が飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないといえる。しかし、情報を伝える手段が変わっても、情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得=デジタルリテラシーの醸成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな通信メディアの進展と物との繋がりが広がる IoT や AI と共に、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？　それらのメディアの進展を展望するのも本授業のテーマとする。

【到達目標】
・グローバル視点でのメディア動向把握とその中の個の重要性理解
・アナログからデジタルに移行した TV メディアの変遷の理解
・インターネットの進展に伴う IT 産業の理解
・放送と通信が連携しているメディアサービスの理解
・放送メディアが目指しているサービスの理解
・AI や IoT をはじめとする様々な新情報サービスの理解
・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
・各種マスメディアの今後の展望についての理解
・国内外のメディア動向の理解
・国が進める施策の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
コロナ禍の影響を受けていますが、授業については対面授業を基本としつつ、状況によってリモート授業の実施も検討します。授業方法としては学習支援システムの掲示板や課題の項目を使用して、毎週皆さんに実施内容をお伝えして進めていきます。必ず、学習支援システムの掲示板や課題の確認をお願いします。対面での授業を実施する際は、以下に掲載している方法で進めることになります。
基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してＰＣでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介。現在、自身の仕事でデジタル TV 事業のサービス開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げて、皆さんの意見を聞きながら授業を進めます。毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とします。
また、例年 5 月末に開催されている NHK 放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開が実施された場合、持ち出し授業としてそこに参加します。参加方法については、その時のコロナ禍の状況によって検討します。さらに、8K 技術などの放送外利用として、NTT が進める IOWN 構想などを題材に、将来の通信サービス環境やその世界観を取り上げます。合わせて、NHK が進めるスーパーハイビジョン（8K）やダイバースビジョン、インテグラル立体等の最新映像技術やサービスも紹介します。東京オリンピックに関連するメディアサービスも紹介予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷やトレンドについて触れる
第 2 回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明を行う。その中で、放送法についても触れる
第 3 回	放送局のコンテンツビジネス（オリンピックで NHK が取り組んだサービス等を紹介）	NHK が進めるオンデマンドサービスや Web サービス、データ放送、ハイブリッドキャスト、同時再送信を通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する
第 4 回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES（家電の国際見本市）の展示内容等からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第 5 回	海外の放送業界のトレンド	SXSW や NAB（全米放送機器展）の展示内容等からピックアップして、業界に関する最新情報を紹介
第 6 回	NTT が 2030 年をターゲットに進める IOWN 構想について	NTT が 2019 年 6 月に公表し、2030 年の実現をめざしている IOWN 構想について紹介
第 7 回	情報化社会の今後	IOWN 構想等が実現することで情報化社会の世界がどのようになるのか今後を考える
第 8 回	放送メディアの今後（技研公開があった場合は持ち出し授業とする）	メディアサービスの状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第 9 回	多様なネットサービスについて	ネットサービスやビッグデータなどの情報活用や、ドローン、Uber など個人に直接繋がるサービスの可能性について 5G や SDGs も含め考える
第 10 回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebook などに代表されるソーシャルメディアによる放送メディアへのインパクトを検証
第 11 回	多様化する端末の UI、AI、IoT について	スマート化する端末やそれに搭載される UI（ユーザインターフェース）や AI、さらに物等への搭載が進む IoT の活用ついて考える
第 12 回	情報化の光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得られる情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？ について考える
第 13 回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介
第 14 回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）、合わせて、今回は NHK 等の番組を多く授業で視聴利用する。

【参考書】
テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。日常的に流れているテレビやインターネットのニュースをよく見ること。その上で自分の考えをまとめておくこと。

【成績評価の方法と基準】
コロナ禍の関係で、対面での授業が中々実施出来ない状況下においては、学習支援システムで提示する課題とリモート授業に基づいて、質問や感想文、レポートを提出してもらい、その内容によって評価するものとする。基本、対面授業をベースとし、毎回の授業に関する質問や感想文および 2 回のレポート提出はマストとし、その上で内容を判断して評価を行う。また、対面授業が実施できるようになった場合でも、これまでと同じように以下の内容で評価する。
平常点 6 割、レポート 4 割で評価。レポート提出は必須。レポート提出は NHK の技研公開があった場合は 6 月上旬に１回と 7 月最後の授業で出題するテーマに関するレポート１回の計２回とする。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義終了後に、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えて理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。ただ、リモート授業については、PC での参加を要望。画面が大きい方が共有資料が見やすいため。

【その他の重要事項】
プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業を実施する予定。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this course, we will look at the information industry based on the transmission path (broadcasting, communication), using the services of broadcasting contents both in Japan and abroad, and grasp the current state of various media services. And we will look into the future. Based on the Internet environment, what kind of impact will the development of personal communication media represented by smart terminals, IoT and AI have on broadcasting, newspapers, and magazines of the conventional mass media? I also think about the progress of those media.

【Learning Objectives】

The goal is to understand the following.

- Global media trends.
- Changes in TV media.
- Internet progress

-Broadcast and communication cooperation service

-The service that broadcasting aims for

-Future outlook for various mass media

-Media literacy

-ICT(Information and Communication Technology) policy in Japan

【Learning activities outside of classroom】

Always be interested in newspapers, television, internet information, etc., and deepen your understanding of the current media service development on a daily basis. To deepen your understanding through review of the questions answered in class and the materials to be distributed. The standard learning and review time for lessons is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is based on 60% of normal points and 40% of reports. Submission of two reports is mandatory.Normal points are evaluated based on the impressions of the lesson submitted after the lesson and the content of the questions.

FRI200GA

ネット文化論

神戸　雅一

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回講義のミニレポート提出者から抽選で履修者を決定します。抽選の結果は秋学期の履修登録期間までに学習支援システムのお知らせで通知します。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。
本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。
本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】
日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、リアルタイムオンライン講義で実施します。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。
毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。
期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、EC などのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
14	ネットワーク時代の情報システムの価値	ネットワーク化した情報システムが、どのように価値を付加し人々の生活を変えるのかについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマをを紹介します。各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースや Web サイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】
講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。
1.　期末試験または期末レポート： 70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。
2.　平常点： 15%
講義への関心、参加度を評価し平常点とします。
3.　ミニレポート 15%
毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的にチャット等を利用し声をかけてください。

【学生が準備すべき機器他】
リアルタイムオンライン講義で実施するため、Zoom 等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】
本講義はリアルタイムオンラインで実施します。リアルタイムオンライン講義の内容の録画、公開はしません。リアルタイムで受講環境が確保できない場合は、各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半を PDF で配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。また、リアルタイムで講義を受講できない場合であっても、各回のミニレポートの期限内(講義日の当日) の提出をもって受講の履歴として確認することとします。

【Outline (in English)】
-Course outline
This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”
-Learning Objectives
In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.
-Learning activities outside of classroom
In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.
-Grading Criteria /Policy

Students will be required to take a final exam or submit a report to receive credit. Grades will be based on the following ratio:
1.Final exam or report: 70%.
Students are required to logically describe their own opinions on topics related to Internet culture through lectures. You will be informed during the lecture whether you will be given an exam or a report.
2.Ordinary points: 15%.
Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.
3.Mini-report: 15%.
Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

ART200GA

表象文化概論

深谷　公宣、大嶋　良明、岡村　民夫、グアリーニ　レティツィア

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを示します。各講義では、文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。
　4 人の教員による 4 分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ことを目的とします。

【到達目標】
この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
初回は zoom で行い、担当教員が各自の講義について詳しく解説します。
第二回〜第十三回までは、各担当教員が３回ずつ対面（一部リアルタイム・オンライン）で講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。
第十四回は zoom で実施し、講義のまとめを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第 2 回	身体とその臨界（1） 担当：深谷公宣	フリーク・ショウにおける身体イメージの系譜をたどる。
第 3 回	身体とその臨界（2） 担当：深谷公宣	文芸作品に見られる幽霊、妖精、動物、変身、仮面について概説する。
第 4 回	身体とその臨界（3） 担当：深谷公宣	天使の「身体」について考える。／ケーススタディ：映画『ミスター・ロンリー』分析
第 5 回	電子音楽とコンピュータ（1）担当：大嶋良明	電子音楽の発展史を概観し、電子楽器やコンピュータとの関連性を学ぶ。
第 6 回	電子音楽とコンピュータ（2）担当：大嶋良明	テルミン（Theremin）、ハモンドオルガン、モーグシンセサイザなど電子楽器の系譜を学ぶ。
第 7 回	電子音楽とコンピュータ（3）担当：大嶋良明	電子音楽の学際的研究拠点 CCRMA が及ぼした影響とその功績を、デジタルシンセサイザーの開発研究とコンピュータ音楽の制作環境を中心に学ぶ。
第 8 回	ショットと編集（1） 担当：岡村民夫	映画的ショットの誕生（リュミエール兄弟） フィックスの力（小津安二郎） 移動撮影の力（溝口健二）
第 9 回	ショットと編集（2） 担当：岡村民夫	サイレント的モンタージュ（S. エイゼンシュテイン） トーキー的モンタージュ（アルフレッド・ヒッチコック）
第 10 回	ショットと編集（3） 担当：岡村民夫	短すぎる／長すぎる（ジャン=リュック・ゴダール） 構成としての編集（ホウ・シャオシェン）
第 11 回	メディアにおける家族（1） 担当：レティツィア・グアリーニ	文学における母性の表象について考える。 母娘関係にまつわる作品を取り上げる。
第 12 回	メディアにおける家族（2） 担当：レティツィア・グアリーニ	父親像について考える。 ヘゲモニック男性性や「イクメン」の表象について概説する。
第 13 回	メディアにおける家族（3） 担当：レティツィア・グアリーニ	異性愛規範と家族の表象について考える。 新たな家族像を提示する作品を取り上げる。
第 14 回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の講師が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各担当教員が指示します。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業全体を通して用いるテキストはありません。
各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】
参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】
各担当者が担当回の成績を 25 点満点で示し、合計で 100 点満点で成績をつける。
平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
初回のガイダンスにかならず出席してください。

【Outline (in English)】
· Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, photography, art, and music. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.
· Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.
· Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.
· Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA

メディアと情報

君塚　洋一

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】
以下 3 点を目標とする。
1）身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
2）環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
3）メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR ＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
22 年度、この科目は、7 回の「対面」授業と 7 回の講義動画の配信（オンデマンド）の組み合わせによりすすめる。下述のとおり、教室の収容人数を超えた場合、選抜を行う。
おおむね 2 回の授業で 1 つのテーマを扱い、各テーマの 1 回目はオンラインで基本的な内容を理解し、2 回目に対面授業を行って、補足説明や解題、質疑、受講生のコメント紹介などを行う。対面授業は第 3 回よりほぼ 1 回おきに行う（第 8 回はふりかえりレポート課題のためオンライン、11 回テーマは 1 回のみで対面と、イレギュラーな回もあることに注意してください）。
授業の初めに、前回の授業で゛提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で゛す。
＊
メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNS などの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。
また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。
テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？
第 3 回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの類型（タイプ）
第 4 回	コミュニケーションとは何か-1	コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）
第 5 回	コミュニケーションとは何か-2	コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）
第 6 回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第 7 回	情報（ニュース）-2	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第 8 回	ふりかえりレポート-1	第 1 回〜第 7 回のふりかえりレポート
第 9 回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ (宣伝) と広報 (PR) ／近年の推奨コミュニケーションの問題
第 10 回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第 11 回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第 12 回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第 13 回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第 14 回	まとめ ふりかえりレポート-2	1．情報源＝メディアを識別して扱う 2．「ファクトチェック」を行う 3．メディアと感情 4．メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手 (媒体社、広告会社等) の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
3）前半の 1 回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用しない。

【参考書】
・石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016 年
・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義――メディオロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010 年
・鈴木みどり編『Study Guide　メディア・リテラシー　入門編』リベルタ出版、2000 年
・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1』北樹出版、2005 年
・笠原和俊『フェイクニュースを科学する――拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018 年
・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020 年
・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】
毎回の小課題の提出（約 40 %）、ふりかえりレポート（2 回：約 60 %）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。ただし、7 〜 8 割以上の小課題の提出、2 回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】
メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。
毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。
また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】
本科目は、対面授業、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの 4 つで成り立つ。テーマについて高い関心をもち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【受講者の選抜】
初回授業は対面授業を実施しない。学習支援システム等で資料を掲示する。受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline (in English)】
Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.
*
Learning Objectives
(1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.
(2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.
(3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.
*
Learning activities outside of classroom
(1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.
(2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).
(3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
*
Grading Criteria/Policy
Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA

社会と美術

稲垣　立男

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方に関するきっかけとなる様な入門的な内容の講義となります。特に、21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーミング・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。
第一部「近現代美術の歴史と理論」と第二部「現代社会の課題と美術」の 2 つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
第一部「近現代の芸術史と理論」では、芸術について学ぶ上での基礎となる 18 世紀から 21 世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。
第二部「現代社会の課題と芸術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】
過去から現在に至る美術史、現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。美術史の営みを理解すること、身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PC での学習を推奨します。
授業当日の流れ（重要）
授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。
ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答して提出する。
授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくとお答えします。
授業の方法
授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
課題
受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問・相談
一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4/13	オリエンテーション	社会と美術について 講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
4/20	近現代美術の歴史と理論 1 近代美術の誕生（古典主義、ロマン派、写実主義、印象派）	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によって幕が落とされました。その頃に起こった古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派の芸術は、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では近代社会の変化を参照しながら、これらの芸術運動について学んで行きます。
4/27	近現代美術の歴史と理論 2 アバンギャルドの時代Ⅰ（フォービズム、表現主義、キュビズム）	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の 20 世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
5/11	近現代美術の歴史と理論 3 アバンギャルドの時代Ⅱ （未来派、ダダイズム　シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス）	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイディアが登場します。
5/18	ワークショップ 1 （遠近法）	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの講義内容に関する確認をします。
5/25	近現代美術の歴史と理論 4 戦後アメリカ美術（抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート）	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。
6/1	近現代美術の歴史と理論 5 60 年代　市民運動と新しい動向	1960 年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSD を使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。

6/8	近現代美術の歴史と理論 6 多文化の時代（ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート）	1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist ／リレーショナルアート）についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
6/15	ワークショップ 2	戦後アメリカ美術、60 年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。
6/22	現代社会の課題と美術 1 政治への課題	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争など、プロパガンダ、社会主義リアリズム、戦時中から現在までの文化政策の変化など政治課題と美術について学びます。
6/29	現代社会の課題と美術 2 ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
7/6	現代社会の課題と美術 3 環境問題と美術	私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアプローチを考察します。
7/14	現代社会の課題と美術 3 環境問題と美術	私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアプローチを考察します。
720	ワークショップ 3	14 回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで　世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002 年
辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline
"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.
1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.
Learning Objectives
Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA

メディアと社会

稲垣　立男

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**○　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。
国際文化学部基幹科目「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。
「現代メディア史」「メディア論」「メディアと表象」の 3 つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
メディアの歴史
古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。
メディア論
社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。
メディアと表象
メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】
過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PC での学習を推奨します。
授業当日の流れ（重要）
授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。
ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答して提出する。
授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくとお答えします。
授業の方法
授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
課題
受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問・相談
一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業計画
9/26	メディアの歴史 1 絵と文字	今からおよそ 6 万 6000 年前に人類は言語能力を獲得したと言われています。（諸説あり）その後、絵や文字を使って記録するようになりました。ここでは文字の誕生とその発達の歴史について学びます。
10/5	メディアの歴史 2 文字の進化	活字誕生以前の印刷技術、紙の誕生、活字の誕生と書体とフォントについて学びます。文字の発明により、私たちは様々な情報を記録として残すことが可能になりました。その後、記録を残すための技術が発達していきます。
10/12	ワークショップ 1	タイポグラフィについて 書体とフォント フォントデザイン
10/19	メディアの歴史 3 計算・通信・検索	メディアと歴史をテーマに、コンピューターの発明につながる技術と計算・通信・検索のもたらす社会の変化について学びます。
10/26	メディアの歴史 4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	社会の近代化とともに登場した新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスメディアの起源について学びます。
11/9	ワークショップ 2	ワークショプ・未来のコミュニケーション
11/16	メディア論 1 マクルーハンのメディア論	「メディアはメッセージ」や「グローバルヴィレッジ」などなどメディアに関する新しい概念を発信したマクルーハンの理論やチョムスキーのメディアににについてのメッセージについて学びます。
11/23	メディア論 2 インターネット	1995 年以降のインターネットの進化について、地域社会を取り巻くメディアの役割と課題について学びます。
11/30	ワークショップ 3	ワークショプ・インターネット
12/9	メディアと表象 1 デジタルコンテンツの誕生	1877 年のトーマス・エジソンによる録音技術の開発以降、アナログレコードやテープレコーダー、さらにデジタル技術の発展。 2000 年代から拡大した MP3 プレーヤーやインターネットでの音楽配信サービスに至るまでの歴史について学びます。
12/16	メディアと表象 2 プロパガンダ・コマーシャル	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
12/21	メディアと表象 3 メディアとアミューズメント	日本におけるクリスマスの受容の歴史について、また料理番組やレストラン批評、ネットでの料理の検索など料理をめぐるメディア論について学びます。
1/13	ワークショップ 4	メディアと社会をめぐるディスカッション ワークショプ・デジタルのイメージ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば美術展や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
マーシャル マクルーハン『メディア論―人間の拡張の諸相』みすず書房、1987 年
吉見俊哉『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための 15 話』有斐閣、2004 年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門―美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.
This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.
Focusing on the three themes of "History of Contemporary Media," "Media Theory," and "Media and Representation," we will consider and discuss issues and issues from keywords in each area.
1. Media history
Learn about the history and history of the media from ancient times to the present.
2. Media theory
We will clarify the media that work in society and their problems.
3. Media and representation
Read and understand various expressions from the perspective of the media.
Learning Objectives
Introducing familiar examples of media and society from the past to the present. This lecture aims to find universal and social issues from everyday issues.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA

身体表象論

深谷　公宣

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**定員 60 名。それを超えたら選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどういうことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】
・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ボッティチェリ、ティッツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映画における身体表象の形式と内容について、カメラの視線と人種という 2 つの点から考える。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	西洋近世以降の服飾の歴史的変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	日本の服飾の歴史的変遷を振り返る。
13	漫画と身体	日本の漫画の身体表象の特徴の事例を考察する。手塚治虫、萩尾望都、大友克洋など。
14	まとめ：モードと身体	「モード」について考察することにより、授業全体を振り返る。ボードレール「現代生活の画家」など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
小林康夫『表象文化論講義　絵画の冒険』（東京大学出版会）
諸川春樹他『彫刻の解剖学ードナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
西村清和『視線の物語　写真の哲学』（講談社メチエ）
森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
蓮實重彦『監督　小津安二郎　〔増補決定版〕』（ちくま学芸文庫）
ジル・ドゥルーズ『シネマ』（１・２）（法政大学出版局）
矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
スーザン・ソンタグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）
鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO 出版）
ダムタイプ『メモランダム　古橋悌二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%: 当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
学期末レポート 50 %：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing the human body from a social perspective.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand the various styles in body representation seen in the field of art and culture and connect such styles with historical and social background. As a result, they will be able to provide a critical insight into the bodies in the work of art.
・Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

PHL200GA

現代思想

森村　修

サブタイトル：Bullshit Jobs・くそどうでもいい仕事の理論――デヴィッド・グレーバー「アナーキスト人類学」研究
配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。
2022 年度は、アナーキズム人類学者**デヴィッド・グレーバー（1961-2020）**の**『ブルシット・ジョブ くそどうでもいい仕事の理論』（2018/邦訳 2019）**を基本的なテキストに用いて、21 世紀の資本主義における仕事/労働について哲学的に考察する。

【到達目標】
(1)「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができようになる。
(2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション――	・授業の概要説明 ・デヴィッド・グレーバーとは誰か？
2	アナキスト人類学とは何か①	・アナキスト人類学とは何か
3	アナキスト人類学とは何か②	・マルセル・モース『贈与論』 ・資本主義批判
4	ブルシット・ジョブ①	序章　ブルシット・ジョブ現象について①
5	ブルシット・ジョブ②	第一章　ブルシット・ジョブとはなにか？
6	ブルシット・ジョブ③	第二章　どんな種類のブルシット・ジョブがあるのか？
7	ブルシット・ジョブ④	第三章　なぜ、ブルシット・ジョブをしている人間は、きまって自分が不幸だと述べるのか？（精神的暴力について、第一部）
8	ブルシット・ジョブ⑤	第四章　ブルシット・ジョブに就いているとはどのようなことか？（精神的暴力について、第二部）
9	ブルシット・ジョブ⑥	第五章　なぜブルシット・ジョブが増殖しているのか？
10	ブルシット・ジョブ⑦	第六章　なぜ、ひとつの社会としてのわたしたちは、無意味な雇用の増大に反対しないのか？
11	ブルシット・ジョブ⑧	第七章　ブルシット・ジョブの政治的影響とはどのようなものか、そしてこの状況に対してなにをなしうるのか
12	グレーバー価値論①	・新しいアナキズムとは何か
13	グレーバー価値論②	・人類学的価値理論
14	デヴィッド・グレーバー思想の継承	・新しいアナキズムの哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
(1) デヴィッド・グレーバー『ブルシット・ジョブ』、岩波書店、2020 年
(2) デヴィッド・グレーバー『負債論――貨幣と暴力の 5000 年』2020 年

【参考書】
※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
①期末レポート（30 %）、授業内レポート（30 %）、平常点（40 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】
1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

【Outline (in English)】
The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The aim of this course is to help students philosophically examine the relationship between our lives and works/labors in 21st century capitalism, using "Bullshit Jobs" written by anarchist anthropologist David Graeber.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to think philosophically..
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%、in class contribution: 60%.

LIT200GA

言語文化概論

衣笠　正晃

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、20 世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】
1）テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
2）言語（ことば）と文化・社会との密接なかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
3）学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
　各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。
　授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と履修意図の確認＋ことばから文化・社会を捉える視点（オンデマンドで実施）
2	イントロダクション	4 つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第 1 章）
3	19 世紀から 20 世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
4	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第 2 章）
5	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第 4 章）
6	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第 5 章）
7	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第 7 章）
8	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第 8 章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業 (1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第 9 章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業 (2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第 10 章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第 13 章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第 14 章）
13	現代に求められる「人文知」	20 世紀思想の問題圏（テキスト第 15 章）
14	学期授業の総括	学期授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・石田英敬『現代思想の教科書――世界を考える知の地平 15 章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010 年）
※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】
・岡本裕一朗『フランス現代思想史――構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015 年）
・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014 年）
※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】
　平常点（50 %：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50 %）をあわせて評価します。
　評価にあたっては以下の 4 点の達成度にもとづいて判断します。
1）テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
2）思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
3）授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
4）授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・テキストや資料についてさらに具体的でわかりやすい解説を心がけるとともに、履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みを促すように努めたい。
・リアクションペーパーでの質問や意見、感想をクラス全体に還元することに加えて、クラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
　授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・初回授業はオンデマンド（学習支援システムに資料・課題を掲示）で実施します。受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづいて選抜をおこないます。
・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。
・配付資料として英語資料を用いることがあります。

【Outline (in English)】
This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn" on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, understand the inextricable relationship between language and culture, and have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to have completed the required assignments after each class meeting; the required study time is more than four hours for a class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and term-end examination (50%).

LIT200GA

比較文化

竹内　晶子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」の基礎を学ぶとともに、それらの理論を映画、オペラ、日本人論、和歌、俳句、連歌、英詩、ハイパーテキスト文学作品、能、モダニズム演劇、など実際の作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】
比較文化にあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、オリエンタリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの理論を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎週、課題テキストを読み、あるいは前回の授業で鑑賞した作品を分析して、SQ（Study Questions）への答えを次回授業前に提出することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、文化と文化の間の差異をより深く考えるための素材と思考ツールが身に着く筈だからです。授業内では皆さんが提出した回答をとりあげて、様々な視点をまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。オリエンタリズムについて理論的な説明を行う。
2	オペラ『蝶々夫人』台本分析	オペラ『蝶々夫人』の台本にみられる日本人像を分析した後、オペラの映像を抜粋で鑑賞する。
3	オペラ『蝶々夫人』映像分析	先週鑑賞した映像にみられる日本人像を、オリエンタリズムの観点から分析する。
4	ルース・ベネディクト『菊と刀』	日本人論の古典といわれる『菊と刀』をとりあげ、その方法論および論の立て方にみられるオリエンタリズムを分析する。
5	アニメ『リトル・マーメイド』にみるジェンダー観	アニメ『リトル・マーメイド』の抜粋を鑑賞し、そこにどのようなジェンダー観が見られているか考える。
6	アニメ『リトル・マーメイド』と家父長制	上記作品にみられたジェンダー観がどのように家父長的価値観を反映しているのかを分析し、他の類似した事例をとりあげて議論する。
7	アニメ『アナと雪の女王』にみるジェンダー観	『リトル・マーメイド』と比較しつつ、ディズニーアニメにおける女性像・男性像の変遷を、ジェンダー論を用いながら分析する。
8	言語と構造主義（1）欧米の詩	ヤコブソンの「詩的原理」論を応用しながら、現代のポップカルチャーにまでみられる欧米の「韻律」を考える。
9	言語と構造主義（2）和歌と連歌	ヤコブソンの「詩的原理」を大枠として、欧米の韻律と比較しながら日本の和歌における修辞法を考える。
10	連歌とハイパーテキスト詩	ロマン主義的な作者観と対比しつつ、中世の連歌活動と現代のハイパーテキスト詩を比較考察する。
11	モダニズムと俳句	英米詩の革新運動であったイマジズム運動をとりあげ、俳句からの影響と相違を考察する。
12	能とイエイツ	欧米演劇のモダニズム運動における能の影響を、イエイツの能受容を中心に考察する。
13	文化人類学と「娯楽」（1）理論編	ギアツ、ターナーらの諸理論をとりあげ、文化活動、娯楽活動に関する彼らの定義を比較する。
14	文化人類学と「娯楽」(2)応用編	様々な娯楽活動をとりあげ、上記の諸理論をそれらの分析に応用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・視聴覚教材や課題として出されたテキストに関する毎週の課題（Study Question）を、Hoppii に提出する。締め切り厳守。
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・本授業の準備・復習時間は、約 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】
エドワード・サイード『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・毎週の課題（授業の復習課題と予習課題）：60%
・授業への積極的な参加（ディスカッション）： 10%
・期末レポート： 30%
・100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、学生の回答例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
感染状況により、学期中にオンライン授業（オンデマンド型）になる可能性もあります。その場合は第五回授業の課題として各自にアニメ映画「リトル・マーメイド」(1989) を視聴してもらいます（オンラインでレンタル可）。レンタル代（媒体によって異なるが、300 円前後）は学生の負担となります。

【その他の重要事項】
履修を希望する学生は、初回授業の課題を必ず期日までに提出してください。履修希望者の数によっては、初回課題に基づいて選抜を実施します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course, students will learn how to analyze various socio-cultural issues, especially issues related to gender, orientalism, structuralism, and theatre anthropology.
【Learning Objectives】
Students will learn how to compare and analyze literary and theatrical works in various theoretical frameworks.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.
【Grading Criteria/Policy】
Assignments: 60%
Active Participation in class discussion: 10%
term paper: 30%

GDR200GA

ジェンダー論

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】
1．ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2．言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。
●受講を希望する人は 4 月 8 日（金）までに HOPPII に登録してください。200 名を超える場合は抽選を行います。4 月 11 日（月）に抽選結果を発表します。第 2 回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
● HOPPII の「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。
● HOPPII の「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出をしてください。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ② 1980 年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトゥルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティー	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった３つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996 年）。
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006 年）。
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013 年）。
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006 年）。
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013 年）。
伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　40　%
期末レポート　60　%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業録画をもっと見やすいものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等情報機器ならびにインターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】
●受講を希望する人は 4 月 8 日（金）までに HOPPII に登録してください。
● 200 名を超える場合は抽選を行います。4 月 11 日（月）に抽選結果を発表します。
●第 2 回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】
The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.
Students will be expected to 1）check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.
The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN200GA

異文化間コミュニケーション

副島　健作

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化背景の異なる個人同士が出会い，互いに理解しあえる関係を築くというのは，人や情報の往来が加速度的に増す今日，もはや特別なことではない。
　異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどういうことが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには，どのような知識や心構えが必要だろうか。実例に基づくケーススタディを通して，この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】
1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し，「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
予習を前提として，日本人と外国人がコミュニケーションをする上で，また，性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。可能であれば，授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し，討論や考察をすすめていきたい。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する
2	「文化とコミュニケーション」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し，文化，コミュニケーション，異文化コミュニケーションの概念を整理する
4	事例研究①　海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦
5	事例研究②　海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦
6	事例研究③　海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦
7	事例研究④　帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦
8	事例研究⑤　日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦
9	事例研究⑥　社会的少数者に関するケース	共文化の違いによって起きるさまざまな問題
10	事例研究⑦　国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相
11	事例研究⑧　国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相
12	事例研究⑨　マスメディアの影響に関するケース	メディア報道における交流の諸相
13	受講生による事例報告	文化の体現者であるということと、異文化を理解するということにおける問題点を考得ながら報告する
14	討論・議論	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し，その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容，コメント等を用意すること。また，設定されたテーマに関して，自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。
　本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】
石井敏・久米昭元 (他) (2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション―多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書
久米昭元・長谷川典子 (2007)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書
八代京子 ほか (2001)『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
提出物 20 %
事例報告 20 %
期末レポート 20 %で評価します。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
この授業は「コミュニケーション」の授業なので，学生への質問も活発に行い，グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方，コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば，その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

　When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication
2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations
3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".
【Learning activities outside of classroom】
Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 20%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 40%

PHL200GA

Philosophy of the Public Sphere

石田　安実

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

People often think that "philosophy" is quite an old subject − and very difficult, unfortunately. It is true that so-called "philosophical questions" have been discussed in rather complicated and often confusing manners since many years ago, for example, by Socrates and Aristotle in the ancient Greek period. But many philosophers strongly believe that these questions are closely related to our everyday life issues. We are surrounded by many philosophical issues, though we may not always be aware of their philosophical significances; that is, philosophical issues are basically our everyday issues. But how are they related to our life?

In this course, you will discuss various philosophical topics, their in-depth meanings, and their philosophical significances, trying to find their very relevance to our life. That may help you see your surroundings, your society and the world in quite exciting and interesting ways. Out of many philosophical issues found in our daily life, we will choose 13 topics and discuss them in class.

【到達目標】

This course provides a broad introduction to philosophical ways of thinking. The course is open to students from any disciplines, who hope to:

(1) understand some of the most fundamental philosophical topics (for instance: freedom, truth, and moral rightness /wrongness),

(2) be able to explain the issues in very simple everyday terms, and

(3) apply philosophical ways of thinking (reasoning) on every-day issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

< u > *Basic course requirements:*< /u >

＊ No previous philosophy courses required.

＊ Intellectual curiosity: Keen eyes on everyday-life facts and issues.

＊ Respectful attitude of others' opinions.

< u > *On enrollment:*< /u >

The student enrollment in this course is limited to 20, and you will be admitted on a first-come and first-served basis. So, if you wish to take this course, you need to take an immediate action and do the following:

(1) You have to send me an e-mail (to the address below) expressing your intention to enroll:

yasushi.ishida.85@hosei.ac.jp

(2) When you are accepted to the class, you will receive a note (e-mail) of confirmation. If the class is already filled, you will be put on the waiting list in the order of application.

(3) Those who have received my note of confirmation can go through a procedure of 本登録.

(4) < u > **【Important】Do not fail to notify me, in case you decide to cancel your enrolment.　授業を取らないと決めた場合は、必ず連絡をすること。でないと、ウェイティング・リストに載っている他の学生が登録できません。**< /u >

· Those who are put on the waiting list can register, ONLY IF we have some vacancies in the enrollment AND the registration is still possible (that is, it is still in the registration period).

· You will be accepted on a first-come and first-served basis. Equally importantly, I urge you to attend the first and/or second meeting. **In case you fail to attend both of them, that will affect your final grade (10%); if you have legitimate or good reason to miss the meetings, do not fail to contact me by e-mail**.

< u > *Organization of the class:*< /u >

▶ Each class will consist of (less than)100-minutes of **lecture and discussion**. The class will be conducted in English.

▶ I appreciate interaction and exchange with you in class. So, please make best efforts to express your ideas, even if you find it very difficult to do so. I would NOT penalize you for making mistakes; you ARE entitled to make mistakes in class!

▶ This year, due to the coronavirus situation, this course will be held **online (by using Zoom)**, so please make sure you have the application ready in your computer along with necessary devices.

◉ On the Zoom meetings:

· I will post the "Zoom Link," "授業参加用ミーティング ID" and "パスコード" on 学習支援システム or e-mail you the information by Wednesdays (the day before the class). You will have to sign in with your own Hosei University e-mail address and password.

· Your attendance will be recorded automatically, but I may take attendance.

· **In case someone comes in one of the online classes to do any disturbing acts (which is often called Zoom-Bombing), I will terminate the meeting immediately. And I will report to the University.** I will then post in 学習支援システム what you will have to do.

.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explaining the course
2	Lying	Is lying always wrong?
3	Morality	What does it mean to be "morally right"?
4	Relativism	Is everything relative?
5	Freedom	Are we completely free?
6	Culture vs. Nature (1)	How different are they?
7	Culture vs. Nature (2)	The idea of enhancement
8	Love	What is it?: Just a perception?
9	Perception	What do we perceive?: Is it so accurate?
10	Knowledge vs. Beliefs	What do we know?: How do we know it is true?
11	Truth, Reality	What is really true?: Truth, Reality, Dream
12	Robots and Humans (Mind)	Is the Mind just the Brain? (Your "essay plan" must be submitted by the 12th meeting)
13	Language	What does it do?: What's its role?
14	Wrap-up: The Meaning of Life	Concluding remarks (Your "essay plan" will be returned)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

· I recommend that you review what you have learned in each meeting.

· You are normally expected to spend about two hours for the preparation and review for each class.

· **You will have to submit your paper topic ("essay plan") by the 12th class meeting**.

【テキスト（教科書）】

· There will be no specific textbooks assigned.

· Occasionally, reading materials may be assigned and handouts will be given in class.

【参考書】

No specific books assigned. But looking into any (**large size**) philosophy dictionaries will be of great help.

【成績評価の方法と基準】
I will assess your grade based on the way you participate in the class discussions and on your final project.
Attitude/ Participation: 40% of course grade
Final Project (a paper): 60% of course grade
*Attitude/ Participation:
I appreciate your participation in class and would like to know your ideas and opinions. I will hence consider your participation as part of your grade.
*Final Project:
At the end of the semester, you are expected to submit a short paper (of 700 to 1000 words) on the topic that you choose, explaining your ideas or insights. Your topic should be related to the issues studied or discussed in class. I will give you a specific Guideline before the end of semester.
▶ **Near the end of the semester, you will have to submit your "essay plan," which should include the title (topic) of your paper and your (tentative) conclusion described in a short paragraph (of about 200 words): Note that it is NOT a draft of your final paper. You will receive my comments on your paper plan, and then your "plan" should be re-organized or revised accordingly.**
▶ In writing your paper, you can expand your ideas by citing or referring to books and other documents, including materials from websites. In that case, **you MUST explicitly show the sources or reference either in the footnotes or endnotes.** (Do NOT cite or refer to **Wikipedia** in your paper. If you do so, you will receive a "D" grade.)
▶ Plagiarism: If you copy sentences from any existing documents (again, including any writings from websites) without showing sources or reference, you will receive a "D" grade. It is important that you present **your own view** or insights, not the same ideas as described or explained in published or preexisting documents or on websites.
▶ You have to submit your paper (essay) on the web system (Class Support System, 授業支援システム). The due date will be announced near the end of the semester.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In previous semesters, I received several comments from students: for instance, "having discussions in class was very hard at the beginning, but it helped me improve my English speaking skills and express myself logically. Eventually, I found it quite exciting and stimulating."

【その他の重要事項】
· I urge you to attend the first and/or second meeting. **In case you fail to attend both of them, that will affect your final grade (10%); if you have legitimate or good reason to miss the meetings, do not fail to contact me by e-mail**.
· As I appreciate interaction and exchange with you in class, I would like to know what you think and have your feedback. So, I strongly advise that you attend all the classes and participate in the discussions.
· *Philosophy* is different from ***a*** *philosophy*. "Philosophy" is the discipline that comprises logic, metaphysics, ethics, epistemology, etc.; on the other hand, "*a* philosophy" is a system of beliefs, concepts, or attitude of an individual or a group. Everyone has **a** philosophy of some sort, even if he/she has never read a philosophy book. **An individual's philosophy can be a subject for examination and discussion in philosophy class**.

SOS200GA

国際関係学概論Ⅰ

今泉　裕美子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超えた場合には抽選・選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つがなり”によって形成、展開してきた／いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた／いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】
①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
③①、②を踏まえ、国際関係学の視点を方法を習得し、現代世界の事象、問題について批判的な考察を加え、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。
3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state) の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state) 及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係①「つながる/つなげられる」	ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
6	帝国主義と国際関係②「へだてる/へだてられる」	世界の一体化が生み出した世界の「分断」を、現代世界のグローバリゼーションとの関係性理解する。
7	帝国主義と国際関係③国際関係研究への視座	「植民地」、「帝国主義」を対象とする当時の研究から、国際関係認識や分析を学ぶ。
8	近代国際関係と「民族」- 実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①近代国際関係の再編	人類初の「総力戦」と国際関係再編との関係を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係②国際組織と安全保障	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
13	第一次世界大戦と国際関係③植民地支配体制の再編	委任統治制度を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
14	総括および国際関係学の視点と方法の確認	春学期の授業を総括し国際関係学概論Ⅱにつなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業内容はテキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
②関心があることを 1 つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させるとよい）。
③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
④予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003 年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典　新訂増補版』平凡社、2002 年。
川田侃他編『国際政治経済辞典　改定版』東京書籍㈱、2003 年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して 50%。セメスター末のレポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。
②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】
・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・本授業では、高校で世界史を選択した/しないは関係なく、また日本近現代史の知識も必要です。ただし高校時代に使った教科書や用語集ではなく、授業で紹介する参考文献、資料を使用しましょう。現代世界を理解するためには歴史から考えることは必然。ではどんな風に？ 授業をお楽しみに。

【Outline (in English)】
This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.
It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".
【Learning Objectives】
Students will be able to
１．Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
２．Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2.Final Report:50%

SOS200GA

国際関係学概論Ⅱ

今泉　裕美子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超えた場合には抽選・選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つがなり”によって形成、展開してきた／いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた／いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】
①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
③①、②を踏まえ、国際関係学の視点を方法を習得し、現代世界の事象、問題について批判的な考察を加え、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係①	ヴェルサイユ・ワシントン体制が崩壊する戦間期を踏まえ、第二次世界大戦の特徴から国際関係のなかで捉える。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合の設立、人権の重視、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設を中心に、植民地なき植民地体制が今なおもたらす問題を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①―冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT 体制、冷戦的思考から冷戦体制の特徴を学ぶ。戦後国際関係研究の特徴をみる。
6	冷戦と国際関係②―核開発	東西両陣営の核開発競争から国際関係を捉え、現在に続く核問題を学ぶ。
7	冷戦と国際関係③－植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した事例を中心に冷戦体制の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①―第三世界の台頭と南北問題	A・A 会議、非同盟運動、新国際経済秩序など南北問題をめぐる第三世界の動きから国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②―南北問題” 解決” をめぐって	南北問題” 解決” をめぐる「開発」、「発展」概念の問い直しを中心に国際関係認識と分析の特徴を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③―核軍縮、東西両陣営内の変動	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	冷戦体制の崩壊過程と崩壊後に持ち越された国際関係の問題を学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバリゼーション	ポスト冷戦体制の国際関係を、9.11 やグローバリゼーションの諸問題から理解する。
13	グローバリゼーション下で「国際関係」を問う	受講生の関心に基づきトピックスを定める。
14	総括および国際関係学の視点と方法の確認	秋学期の授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①テキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
②関心があることを 1 つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させるとよい）。
③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
④予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003 年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典　新訂増補版』平凡社、2002 年。
川田侃他編『国際政治経済辞典　改定版』東京書籍㈱、2003 年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物の内容を総合して 50%。セメスター末のレポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。
②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】
・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・「国際関係学概論Ⅰ」未受講生はⅠのシラバスを参照し、テキストの関係個所を読みましょう。

【Outline (in English)】
This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.
【Learning Objectives】
Students will be able to
１．Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
２．Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2.Final Report:50%

SOC200GA

国家と民族

石森　大知

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人々の自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのか考察する。

【到達目標】
・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第 2 回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第 3 回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第 4 回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第 5 回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第 6 回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第 7 回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動
第 8 回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第 9 回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第 10 回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第 11 回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第 12 回	観光開発と国家	ハワイにおける「楽園」の創造
第 13 回	環境破壊と国家	グローバル化のなかの森林資源
第 14 回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業の理解を深める。
・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉―脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013 年。
ジェームズ・C・スコット『ゾミア－脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013 年。
ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007 年。
小熊英二『単一民族神話の起源―「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995 年。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】
文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】
・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic concepts and theories ofnation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine the theoritical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan. At the end of the course, students are expected to understand how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

POL200GA

平和学

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）平和学で取り上げられる方法を理解し実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：履修者数が多いため、14 回全て曜日・時限のないオンデマンド授業で実施する。ただし、毎回の授業動画は火曜日に公開する。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200 字〜400 字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業動画公開日から 3 日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から 13 回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。毎回授業後課題を課す。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業後課題）40%、期末レポート 60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。一方で、リアルタイムオンラインなどで議論をしたいという要望もある。履修者が少なければ 2023 年度以降検討する。
・オンデマンド授業は毎回 50〜60 分に収まるように収録する予定である。一部学生から 100 分授業に満たないとの指摘があるが、内容は教室で 100 分行う授業と同じ内容であり、教える内容は減らしていない。オンデマンド授業の良さは、わからなかった部分を聞き直したり、一度止めてメモを取ったりできることにあるとの指摘もあり、その時間を含めれば対面の 100 分授業以上の学習効果があると考えている。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には授業コードを使って自己登録すること。
・パソコン、および動画（もしくは音声入りパワーポイント）を視聴できるネット環境が必要。

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (40%) and a term-end report (60%).

SOC200GA

宗教と社会

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**150 名（超えた場合は、選抜の可能性あり）**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】
1．宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2．宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
●受講を希望する人は 4 月 8 日（金）までに HOPPII に登録してください。200 名を超える場合は抽選を行います。4 月 11 日（月）に抽選結果を発表します。第 2 回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
●レジュメ、参考資料、文献は、HOPPII の「教材」からダウンロードしてください。
●毎回提出するリアクション・ペーパーは、HOPPII の「テスト/アンケート」にアップロードされた問いに関して、序・本論・結論がある文章を書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出をしてください。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS 細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連していているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
○井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016 年）。
○櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007 年）。
○ロバート・D.・パットナム、デイヴィッド・E.・キャンベル『アメリカの恩寵ー宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019 年）。
○望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009 年）。
○棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005 年）。
○島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006 年）。
○田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007 年）。
○タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006 年）。
○ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007 年）。
○ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009 年）。
○中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002 年）。
○磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006 年）。
○『岩波講座 宗教（全 10 巻）』（岩波書店、2004 年）。
○『諸宗教の倫理学（全 5 巻）』（九州大学出版会、1992〜2006 年）。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　40　%
期末レポート　60 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】
●受講を希望する人は 4 月 9 日（金）までに HOPPII に登録してください。
● 200 名を超える場合は抽選を行います。4 月 11 日（月）に抽選結果を発表します。
●第 2 回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】
The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.
Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.
The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOC200GA

Religion and Society

難波　美芸

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**25 人程度。希望者多数の場合には，入学時以降の TOEFL や TOEIC など標準的なテストの結果と初回授業へのコメントを総合的に評価して選考します。**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
What is religion? And what does it mean to study religion anthropologically? This course introduces students to anthropological approaches to the study of religion. Anthropology is the study of human s and their cultural, sociological and environmental aspects of life in the past and the present. Since religion is inseparable from human culture and society, it has been a crucial subject of anthropological study. Throughout the course, we will explore multiple religious beliefs, meanings, experiences, expressions and practices across the world. The first part of this course will cover the history and theories of anthropological study of religion. In the second part of the course, we will examine sociocultural dimensions of the religion in the modern world. Why is religion still relevant today? Why does its presence seem even more important in certain places? At the end of the course, students will pursue individual research projects that will give an opportunity to deepen understanding of the sociocultural aspects of a specific religious belief and gain training in research, writing and presentation skills.

【到達目標】
Students who successfully complete this course will:
-Understand basic anthropological approaches to the study of religion.
-Become able to appreciate human diversity.
-Develop proficiency in speaking critically and effectively about the religion and its sociocultural aspects.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
This course will be delivered fully online. Students must attend online live classes via Zoom while a few classes will delivered in recorded video form through the semester. In the latter case, students watch the video lecture, write commentary paper and prepare for the group discussion and oral quizzes in the next class. The course instructor will provide feedbacks to the commentary papers and results of quizzes in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course.
2	What is religion?	Various anthropological definitions of religion.
3	Evolution theory and religion	Early history of anthropological understanding of religion.
4	Animism	Anthropological study of animism.
5	Witchcraft	Anthropological study of witchcraft.
6	Science and religion	The relationship between religion and science.
7	Ritual	Performances and meanings of various rituals.
8	Fetishism	Anthropological understanding of fetishism.
9	Syncretism	Fusion of diverse religious beliefs and practices.
10	Modernization and religion 1	Aspects of modernization and secularization.
11	Modernization and religion 2	Religion and development.
12	Modernization and religion 3	Religion and environmentalism.
13	Presentation Day 1	Oral presentation by students.
14	Presentation Day 2	Oral presentation by students.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
For each class, students are expected to spend approximately four hours to read an assigned text and prepare for a quiz and a reaction paper.

【テキスト（教科書）】
No textbook required. Reading materials are shared online.

【参考書】
Bowie, Fiona. 2002. The Anthropology of Religion. Oxford: Blackwell Publishing.
Eller, Jack David. 2007. Introducing Anthropology of Religion: Culture to the Ultimate. New York: Routledge.

【成績評価の方法と基準】
Presentation 40%
Group discussion 30%
Class participation 30%
The cutoff score for passing is 60%.

【学生の意見等からの気づき】
Minor adjustments may be made to the course design based upon the number of participants and their interests.

【学生が準備すべき機器他】
To participate in the course, students must have an access to a stable internet connection and a computer / laptop / tablet with sound, microphone and camera. If any of them cannot be afforded, the student must contact the course lecturer in advance (comikintern[a]gmail.com).

HUM200GA

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：100 **名前後が望ましい**

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）関連する文献の趣旨を的確に読み取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル１以下の場合は対面で実施する。なおレベル２以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■教室定員を超えないように調整する必要があるため、初回授業はリアルタイムオンライン授業を行う。履修希望者は初回授業終了後３日以内（4/13 18 時まで）に履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないものとみなす。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200 字〜400 字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から３日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。
■履修者人数の確認：初回授業日後意思確認の結果、教室定員に収まりそうな場合は希望者全員、２回目からは対面授業に参加する。仮に定員を超えていた場合は抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・最初の授業で具体的に指示する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点 60%、期末レポート 40%
・授業後課題は毎回設問に 200 字程度で答えるものでカッコ内の場合は減点となる（例：設問に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
200 字程度の文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。

【学生が準備すべき機器他】
・初回授業および行動方針がレベル２以上の場合はリアルタイムオンライン授業を行うため、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
・教科書は春学期の前半（5 月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK 記者や、開発協力分野の NGO として実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義する

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international
cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) be able to read relevant literatures critically and analytically.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (60%) and a term-end report (40%).

PSY200GA

異文化適応論

浅川　希洋志

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考える傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】
しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるオンライン授業や課題提示によるオンデマンド授業を実施する可能性もある。また教室定員（コロナ定員）200 人を超えた場合は、受講者選抜を実施する。選抜を実施する場合は、第 1 回授業においてその方法等を指示する。
授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD 等があれば適宜紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第 2 回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第 3 回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第 4 回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第 5 回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第 6 回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第 7 回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第 8 回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知ろう、読もうとする傾向が強いか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第 9 回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第 10 回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第 11 回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第 12 回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第 13 回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】
東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】
(1) Course outline
This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.
(3) Learning activities outside of classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

COT100GA

情報システム概論

和泉　順子、櫻井　茂明、中村　文隆

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
備考（履修条件等）：**担当教員・曜日時限によって、授業コードが異なります。詳細は、学部 HP に掲載している秋学期時間割で確認してください。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報処理システムを構成しているコンピュータのハードウェア及びソフトウェアの基本的な役割や動作を学習する。アセンブラやデータベース機能などの実習も行い、知識の習得だけでなく、自らが設定した条件でコンピュータが実際に動く部分を自ら確認し、学ぶ。

【到達目標】
コンピュータの構成、ハードウェア及びソフトウェアの動作やアセンブラなどを理解し、IT パスポートなどの試験の一部に対応可能な知識や技能の修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オンライン併用での開講の可能性がある。授業計画や授業実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
授業は 6 つのテーマ、すなわち、1. コンピュータのハードウエアの構成及び役割、2. アセンブラの機能の学習・作成、3. ソフトウエアの構成及び役割、4. データベース Access の機能の修得及び使用、5. 情報処理システムの種類と機能、6. 情報システムのセキュリティ、開発・保守の 6 項目である。
アセンブラおよびデータベース Access の学習では実習を予定している。その他のテーマについては、講義が中心になるが、コンピュータの具体的な事例・事柄を示しながら、理解が容易になるような講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの開発経緯	計算具、計算器、計算機と順に開発され、現在の各種のコンピュータの開発を知る
第 2 回	データの基礎的表現	数値データの 2 進数、8 進数、16 進数および 10 進数について、その関係を含めて、理解する
第 3 回	各種データの表現	数値データ、論理データ、文字データ、音声データ及び画像データについて構造を理解する
第 4 回	中央処理装置	中央処理装置を構成する演算装置、制御装置、主記憶装置の構造を学ぶ
第 5 回	記憶装置、入出力装置、通信制御装置	記憶装置、入力装置、出力装置、通信制御装置の構造と役割について学習する
第 6 回	ソフトウエアの基本構成	ソフトウエアを構成する基本ソフトウエア、ミドルウエア及び応用ソフトウエアについて学習する
第 7 回	オペレーティングシステム	OS を構成する各種のプログラムおよびその役割、OS の種類と構成について理解する
第 8 回	言語処理ソフトウエア	機械語、アセンブラ言語および高水準言語の種類及びその処理方式について学ぶ
第 9 回	アセンブラ言語の基礎	仮想的計算機 COMET の構成及びアセンブラ言語 CASL2 の基礎を学ぶ
第 10 回	アセンブラ言語の応用、実習	計算問題を解くプログラムを CASL2 で作成する実習を行い、実行して結果を確認し、計算機の構造を理解する
第 11 回	ファイルシステム	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について学習する
第 12 回	データベースシステムの基礎	データベース Access の構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習する
第 13 回	ソフトウェアの開発と保守、情報セキュリティ	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解し、その方法を学ぶ
第 14 回	授業のまとめ	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．授業内容をテキストに従って予習する。
2．課題を提出し、授業内容を復習する。
3．授業で使用したソフトウエアについて、テーマを考えて独自で使用し、その機能を体験する。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「情報システム概論」, 和泉順子, 櫻井茂明, 中村文隆, サイエンス社, 2018, ISBN 978-4-7819-1430-5

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、課題・小テスト等（40%）、期末テスト（50%）および平常点（10%）で行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
期末テストの実施が困難な場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点、オンライン試験などの実施などで評価する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】
教科書を各自で準備し、予習・復習に用いることで授業内容の理解を深める。
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、実習を想定している Access（データベース）は Windows 環境のみのソフトウェアとなるため、この実習の場合は適宜登校・情報実習室 PC の利用を推奨する。
オンライン併用の場合は、授業の解説や補足のために Zoom あるいは Webex を用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡ

【Outline (in English)】
（Learning Objectives）
We will learn the basic behaviours of the hardware and software of the computer constituting the information processing system. We also do practical training such as assembler and database functions, not only acquire knowledge, but also learn where the computer actually works.
（Learning Objectives）
- To develop an understanding of computer configuration, hardware and software operation and assembler.
- The course aims to provide students with the knowledge and skills to prepare for some of the exams such as IT Passport.
（Learning activities outside of classroom）
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (40%), in-class contribution(10%), and term-end exam (50%).

COT100GA

メディア情報基礎

大嶋　良明、米倉　明男、菊池　司

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
備考（履修条件等）：**担当教員・曜日時限によって、授業コードが異なります。詳細は、学部 HP に掲載している秋学期時間割で確認してください。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品を Photoshop と Premier で作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PC を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTML とスタイルシートによる Web コンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PC マルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・Photoshop や Premier などのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Web サイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）基本的なしくみを学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）その特性の詳細を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法（ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなど）を学ぶ。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshop を用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、Windows Media, MPEG4 など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	AviUtl（または Premier）を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	AviUtl（または Premier）を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Web ページの構成と表現手法	HTML5 による Web ページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTML とスタイルシートを用いた Web コンテンツの構造化、CSS による Web コンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「入門マルチメディア [改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1 を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内 Web 環境ならびに ePortfolio を活用する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA

ネットワーク基礎

大嶋　良明、和泉　順子、松田　裕幸

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
備考（履修条件等）：**担当教員・曜日時限によって、授業コードが異なります。詳細は、学部 HP に掲載している春学期時間割で確認してください。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでも Internet で安全確実にコミュニケーションできるようになろう
コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用と ePortfolio 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、IT パスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて講義および実習を行う。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外や SA などで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャル Web など最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御と DNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IP アドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNS による名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線 LAN	ネットワークコマンド (ping, ipconfig, traceroute, nslookup など) を活用する。無線 LAN でのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解し TCP/IP および UDP/IP の概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSI の参照モデルと TCP/IP の各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
9	Web サービス（1）：HTML 文書の交換と Web サーバ	HTML 文書の設計とその構成法を理解する。Web サーバの基本動作を理解する。HTTP プロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Web サービス（2）：ハイパーテキストデータ	Web コンテンツ (HTTP データ) についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIME データとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしての FTP と SCP を理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCP と UDP の違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。Skype や WindowsMedia 配信などリアルタイムマルチメディアの応用を実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL 暗号化の概念を学ぶ。HTTPS や WinSCP などセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、 ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SA など在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子, 大谷俊郎, 吉田智子 (著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特に SA などキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置した PC のみならず、学生個人が利用するノート PC や携帯端末、情報センターの貸出ノート PC などさまざまな ICT 機器を活用する。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、 CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。
授業の解説や補足には Zoom あるいは Webex を用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
今学期は授業形態の都合上、学期中に授業計画を変更していくことが想定される。変更がある場合は学習支援システムで周知する。
本科目では、Web を基盤とする ICT の実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問う IT パスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline (in English)】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA

メディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう
PC を使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】
Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、ディジタルマルチメディアの特性を活かした**中級以上の作品制作**ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論
- DTP に向けてのスキャナ、プリンタの利用法
●クリティーク（合評）と制作メモの提出
各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・デジタル写真のリタッチ
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・自由なテーマによる最終課題（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
●大事にしたいこと
・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
なお，毎回の授業で小テストを実施し，質問を受け付ける．次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理 (近接、反復、整列、コントラスト) を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前２回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのディジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB, CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。
自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでディジタルカメラやスマートフォンを携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）： Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）： Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：
R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、
ISBN 4895630072

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア　IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット　タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,30%)、クリティーク (課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作 (35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（ディジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるディジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】
情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。
写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique and review: 15%
Homework and in-class assignment: 35%
Individual e-Portfolio: 20%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**○　**実務教員：**○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう
本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Proessing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】
メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。
IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
なお，毎回の授業で小テストを実施し，質問を受け付ける．次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（1）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（2）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（3）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。【課題 1】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題 2 ：学習成果のまとめと Web 化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるので、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Proessing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめよう 第 2 版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】
【p5.js プログラミング】
Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js ―ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974
【メディアアートのためのプログラミング】
Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design ― Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134
【ジェネラティブ・アート】
マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修), 沖 啓介 (翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アート― Processing による実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,20%)、中間課題 (30%)、最終課題 (40%)、相互批評（10%）を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目なので過去年度からの気づきはとくにないが、プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。そのなかで IoT や Maker ムーブメントなどの動向も十分に取り入れた内容を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】
自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「ディジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in
contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Critique: 10%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA

プログラミング言語基礎

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語を JavaScript とする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云える C 言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScript や C 言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】
プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、(1) プログラミング言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。
春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更や それにともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScript のプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if 文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for 文、while 文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム（1）	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム（2）	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数（1）	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数（2）	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す
13	標準入出力、外部ファイル	JavaScript ではあまり扱わないが、他言語で一般的に利用される標準入出力や外部ファイル入出力の概念を学習する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を復習し、課題を提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】
必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
対面での期末テストの実施が困難であればオンライン試験を代替として行う。この場合は、期末テストの配分を下げ、小テスト・課題・レポート、授業内掲示板のコメントや情報共有を平常点を相対的に上げる予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、 テキストエディタを用いることを前提としている。
オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜 Zoom あるいは Webex を用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席・または資料等を閲覧すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline (in English)】
（Course outline）
We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.
（Learning Objectives）
To understand how to write and execute basic programming constructs and basic grammar, and to acquire the ability to create simple programs.
（Learning activities outside of classroom）
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end report (50%).

HUI200GA

【2022 年度休講】仮想世界研究

甲　洋介

サブタイトル：**手ごたえのない現実、なぜか生きやすい仮想世界**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。受動的に講義を受けるのでなく、「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点を用いて検討できるよう、工夫されている科目である。
● **手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」**
ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。
その一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、**”手ごたえ”＝リアリティ**（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が『変化』し、どのように『拡張』されたのか。そして、**それは問題なのか**。
● **つながっているフリは寂しい？　でも親密なのはもっと怖い**
「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。
仮想世界の問題は、SF や物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。そして、新たな仮想世界を造り始めることだろう。

【到達目標】
そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？
本科目の履修を終えると、次の事柄について基本用語を用いて言及できるようになる
a. 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
b. 手ごたえのない現実世界と、妙にリアルな仮想世界、というパラドックス
c.「仮想現実感」(VR) の構成要素と基本的な考え方
d. VR の、社会のさまざまな側面への浸透
e. 仮想世界はなぜ生まれ、どのような意味を持つのか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。
● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は”生きやすい”。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。
仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか**。問い直す必要があろう。
● 授業冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、各回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。
※新型コロナ感染状況によって進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすい − それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑う − なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？
4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へ　−ネットで恋した相手、それは○○だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：理論	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か：方向性	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
14	まとめ	現実？　仮想世界を生きる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「接続された心」"Life on the Screen"（S. タークル、早川書房）
・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD（Association for Computing Machinery）
・「2001 年宇宙の旅」 (A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】
・アニメ：「攻殻機動隊〜GHOST IN THE SHELL」
・映画：「惑星ソラリス」（アンドレイ・タルコフスキー）
・"Alone Together" (S.Turkle、Basic Books 出版)
担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。　他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートまたは試験 (60 %)
・授業・討議における積極性な貢献度合い（発表、コメントシートを含む）(40 %)
を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
『仮想世界におけるこころ』の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

社会とデータサイエンス

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業では IoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】
ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
オンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更や それにともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	４つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、 Excel でデータ分析ができる環境を前提としている。
オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。
詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。
授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.
（Learning Objectives）
- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.
- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.
- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.
（Learning activities outside of classroom）
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end preseentaion (30%) and report (30%).

LIN300GA

【2022 年度休講】世界の言語 I

奥石　哲哉

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の数多くの言語のうち，この授業では，インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます．この語族の言語は世界中に広がっていて，今では全ての大陸で話されています．この語族がどのようにしてできたのか，どのようにこの語族の言語が変化してきたのか，特徴はどのようなものか，世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが，本科目のテーマです．

【到達目標】
具体的には，以下の５つです．
1）インド・ヨーロッパ語族の言語について，その全体像を把握すること．
2）インド・ヨーロッパ語族について，その歴史を知ること．
3）インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること．
4）他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること．
5）一般的に，言語の歴史・構造について，知識を得ること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は，基本的にシラバスに基づき，リアルタイム・オンラインの講義形式で進めていきます．履修者数，履修者の知識等により，内容には修正を加えることがあることを予めご了解ください．
・授業は全て事前に用意したスライドを用いたプレゼン形式で行います．同スライドは予めダウンロード可能です．さらに，背景が白いものを事前に用意しそれを事前にプリントアウトした上で授業に持参して書き込みを作れば，自分だけのノートとしての機能をもたせることも可能です．
・他の対面授業への出席等でリアルタイムに受講できない場合には，授業の録画動画等にて対応しますが，その方法等については，別途お知らせします．
・「学習支援システム」を多用し，事前，事後の学習も可能な限り支援していきます．
・課題等に対するフィードバックは，基本的に「学習支援システム」を用いますが，状況に応じて，個人メール等で行うこともあります．
・各回に可能な限り前回のフィードバックを行い，さらに最終回では，それまでの授業のまとめ，復習を行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向 ・比較の視点	授業のやり方について，概略を説明し，ヨーロッパについて学び，比較することの意味について学びます．
2	・地球単位で言語を考える ・英語で-a で終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます．
3	・Parallel text の意味	言語を比較する際の材料として，parallel text と呼ばれるものを使用することがあります．様々な例を使い，実際に言語の比較を行っていきます．
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	印欧学という学問がどのように発達してきたか，歴史的な背景を見ながら考えていきます．
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます．印欧語族の語派について見ていきます．初回は，Indo-Iranian, Armenian, Albanian についてお話します．
6	・個々の語派（続き）	印欧語族の個々の語派について，引き続き見ていきます．今回は，Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italic の各語派についてお話します．
7	・英語へのラテン語の影響 ・個々の語派（続き） ・非印欧諸語 ・Grimm's Law	最初，英語へのラテン語の影響を見た後，語派の話を続けます．今回は Celtic, Germanic について見ます． さらに，印欧語族でない言語についても学びます．その後，Grimm's Law について話し始めます．
8	・Grimm's Law （続き） ・Verner's Law ・Centum vs. Satem ・音対応と言語再建	Grimm's Law と Verner's Law について学び，さらに印欧語族を 2 分すると言われる Centum-Satem Split についてお話します．それから音対応と言語再建について学びます．
9	・言語の語彙 ・歯擦音化 ・The letter C in English	言語の語彙の成り立ちについて見た後，自然な音変化の例として歯擦音化について考察します．英語の C という文字の歴史を例に取り，歯擦音化を例証します．
10	・ヨーロッパの地勢 ・印欧祖語はいつ話されていたか？	印欧語族の発達に，ヨーロッパの地勢が及ぼした影響について考察し，その後，印欧祖語の「いつ」問題について考察します．
11	・印欧祖語はどこで話されていたか？	印欧祖語の「どこ」問題について，最近の印欧学の成果を解説しながら考察します．
12	・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き） ・印欧祖語の史的発達	前回に引き続き，印欧祖語の「どこ」問題について，最近の印欧学の成果を解説しながら考察しますその後，印欧祖語の発達の経緯を見ていきます．
13	・印欧祖語の史的発達（続き） ヨーロッパ早わかり 現在の欧州言語事情	印欧祖語がどのように発達を遂げたか，引き続きお話します．ヨーロッパの言語文化事情をまとめ，最後に現在の欧州言語事情に触れます．
14	・まとめ	これまでの授業を総括します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みます．基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】
授業中，随時指定いたしますが，とりあえず以下のものを挙げておきます．
泉井久之助 (1968).『ヨーロッパの言語』．東京：岩波書店．[古いですがよい本です．基本的にこの本の内容は，かなり本科目の内容と重なります．]
風間喜代三 (1978).『言語学の誕生』．東京：岩波書店．
マルティネ，アンドレ，神山孝夫訳 (2003).『「印欧人」のことば誌―比較言語学概説―』．東京：ひつじ書房．
Chapters 1 & 2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). *English Vocabulary Elements*. Oxford: Oxford University Press.
Chapters 2 & 3 from Stockwell, Robert & Donka Minkova (2001). *English Words: History and Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
Diamond, Jared (1997). *Guns, Germs and Steel*. London: Caggo & Windus.

【成績評価の方法と基準】
試験の結果 (100%) に基づき成績を出します．人数が多すぎる場合，授業への参加度をみることは現実的ではないため，現段階では平常点は設定していませんが，人数を見て場合によっては平常点を加味します．この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
隔年開講のため，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコン，スクリーン等を用います．

【その他の重要事項】
高校の時に用いた，いわゆる学習者用英和辞書ではなく，語源欄が充実している英語の辞書を用意して，関連の語などについて調べるようにしてください．授業でもお話ししますが，英語は西欧の諸言語を知る上で，非常に重要な言語ですので，何かと授業でも話す機会が多くなります．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，学部専門教育科目の（4）言語科目に属し，ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです．「世界の言語 II」と交替で隔年開講され，2 年生以上が履修できます．

【Outline (in English)】
The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages.Specifically, by the end of the course, you should:
- become acquainted with the European languages in general,
- have enough knowledge about the their historical background,
- become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development.
- have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families.
- begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure.

LIN300GA

世界の言語Ⅱ

内山　政春

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています．「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して，この授業ではアジアの言語，特に東アジア漢字文化圏各国（日本，南北朝鮮，中国，台湾，ベトナム）の言語を中心に取り上げたいと思います．しかしそれに限らず，言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら，みなさんの学習言語が何語であれ，その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています．人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です．

【到達目標】
言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的，英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）．そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること．以上のことを目標にして履修してください．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行ないますが，ＳＡ先の言語に関して言及するときは，該当する学生に質問することもあるでしょう．毎回のみなさんの感想や質問は，次回以降にファイルにまとめて配布する予定です．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語と方言―ひとつの「ことば」とは―	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類―やさしい言語と難しい言語―	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素―同じ「音」と異なる「音」―	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字―文字は「音」をあらわすものか―	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺１	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺２	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	台湾の言語	・「多言語国家」としての台湾
9	朝鮮語とその周辺１	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
10	朝鮮語とその周辺２	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがい ・語彙と文法
11	アルタイ諸言語	・アルタイ諸言語と日本語 ・少数民族語としてのアルタイ諸言語 ・文字と文化
12	ヨーロッパの諸言語	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用
13	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント
14	まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ＳＡ先の言語はもちろん，その他の外国語にも，そして日本語にも，ことばと名のつくものに広く関心を持ってください．関連する本を積極的に読んでください．
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します．

【参考書】
特に指定はしませんが，各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください．

【成績評価の方法と基準】
従来の対面授業では，毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらっていましたが，今回は授業では出席確認のみにし，感想や質問はHoppii で提出してもらうことにしようと思います．その方が時間の余裕をもってまとまったことを書けると思うからです．リアクションペーパーの内容は最低字数を定め（200 字），毎回の内容を総合して評価します（100%）．100 点満点で 60 点以上を合格とします．
あまりにも出席が少ない場合，リアクションペーパーの内容があまりにも投げやりな場合には，毎回の提出評価の対象から外すこともあります．

【学生の意見等からの気づき】
「遅刻した場合に別の紙（講義に関する感想や質問を書くためのもの）を配るのはおかしい」などという意見がありました（遅刻者を判別するために私は数年前の授業でそのようなことを行なっていました）．授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると，他の学生の迷惑にもなり，授業の進行も遅れがちになります．授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです．それが守れない人，また私語をする人は，他の学生に迷惑となりますので，受講しないでください．

【学生が準備すべき機器他】
教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます．

【その他の重要事項】
順序と内容に若干の変更がある可能性があります．

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.
This course will also deals with so-called constructed language "Esperanto".
< Learning Objectives >
The goal of this course is to acquire a fair perspective on language.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to submit a reaction paper after class.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be desided based on your reaction papers.

LIN300GA

世界の英語

小中原　麻友

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes（世界の英語たち）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という２つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。
　学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んで行きます。その後、学期後半では、標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深めます。更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んで行きます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】
1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史的変遷の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【重要１：受講者の選抜について】
・本授業は【対面】で実施する予定で（ただし、初回授業を除く）、使用する教室の定員は２２名の予定です。
・よって、受講希望者多数の場合は、初回授業で選抜を実施します。受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、選抜・導入アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。
【重要２：初回授業の授業形態について】
・受講者数が定まらない初回授業は、三密回避のために、【Zoom リアルタイム配信】で授業を実施します。Zoom 情報は、授業支援システムでお知らせします。
・リアルタイム配信の授業への参加が難しい場合は、【事前に担当教員までメール連絡】をしてください（用件に加え、学年、学籍番号、氏名、明記のこと）。授業終了後、初回授業当日の録画を配信するとともに、授業開始前にメール経由で初回授業の代替となる課題（授業内容に関連する簡単なクイズとアンケート［暫定］）を提示します。この課題を当日中に提出することで、初回授業に参加とカウントします。
【重要３： Google Classroom の使用について】
・課題の提示や提出、フィードバックなどには、「授業支援システム」ではなく、「Google Classroom」を使用します。法政大学の Gmail アカウントで使用が可能です。
・Google Classroom のクラスページへのアクセス方法は、学期開始前までに「授業支援システム」でお知らせします。
・履修を希望する場合は、授業開始前までに「Google Classroom」上で当該クラスへの【参加を済ませておく】ようにしてください（一度登録しても、後から参加を取り消すことが可能ですので、履修を迷っている場合でも参加登録して問題ありません）。
【その他】
・授業は、PPT とオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。
・授業毎に提出するコメントに、個別にフィードバックを行います。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第 2 回	講義・ディスカッション（1）	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users（グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者）
第 3 回	講義・ディスカッション（2）	The global spread of English（英語の地球規模の普及）
第 4 回	講義・ディスカッション（3）	Diversification of English and preparation for group presentations（英語の多様化、グループプレゼン準備）
第 5 回	グループ・プレゼンテーション（1）	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada（英語変種（1）：イギリス、アメリカ、カナダの英語）
第 6 回	グループ・プレゼンテーション（2）	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand（英語変種（2）：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語）
第 7 回	グループ・プレゼンテーション（3）	Varieties of English (3): Englishses in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia（英語変種（3）：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語）
第 8 回	グループ・プレゼンテーション（4）	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea（英語変種（4）：フィリピン、中国、香港、韓国の英語）
第 9 回	講義・ディスカッション（4）	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology（植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー）
第 10 回	講義・ディスカッション（5）	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction（共通語としての英語（ELF) でのコミュニケーション（1）：導入）
第 11 回	講義・ディスカッション（6）	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making（ELF でのコミュニケーション（2）：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略）
第 12 回	講義・ディスカッション（7）	ELF communication (3): CS for coping with communication problems（ELF でのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上の問題に対処する方略）
第 13 回	講義・ディスカッション（8）	ELF communication (4): CS for facilitating communication（ELF でのコミュニケーション（4）：コミュニケーション上を促進する方略）
第 14 回	期末試験（あるいは期末レポート）、および総括	期末試験の実施（あるいは期末レポートの提出）とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
＜準備学習＞
1. リーディング課題（第 3 回、10 回授業開始時まで：全２回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
2. フィールドワーク（第 2 回、10 回、13 回授業開始時まで：全 3 回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。ただし、第 3 回のフィールドワークは感染症の状況によっては実施しない可能性あり。

3. グループ・プレゼンテーション準備（第 5 ～ 8 回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。
＜復習＞
1. 授業毎振り返りコメント（第 2 ～ 14 回：全 13 回予定）：第 2 回以降、授業毎に学習内容を振り返るコメントを書き、次回授業開始前までに Google Classroom の指定のフォームに提出する。
2. その他、期末試験（あるいは期末レポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】
・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第 2 回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。
→ 久保田竜子, 2018.『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京.（参考：アマゾンにて新書 902 円、Kindle 770 円）
・その他、テーマごとに参考文献を紹介します。配布資料やスライドは、原則英語です。
・授業の PPT は、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】
＜ World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識＞
1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; Yew York: Routledge. (Companion website: http://www.routledgetextbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.
8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016).『世界の英語ができるまで』. 東京:亜紀書房.
11. 末延岑生. (2010).『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012).『World Englishes – 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011).『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002).『事典アジアの最新英語事情』. 東京：大修館.
15. 本名信行 (2003).『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.
＜リスニング教材＞
1. 榎木園鉄也 (2012).『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎木薗鉄也. (2016).『インド英語のツボ：必ず聞き取れる 5 つのコツ』. 東京：アルク.
3. 柴田真一. (2016).『アジアの英語』. 東京：コスモピア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008).『いろんな英語をリスニング』東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008).『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモピア.
6. 平本照麿 (2010).『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京：アルク.
7. 里井久輝 (2019).『世界の英語リスニング』. 東京：アルク
＜参考ウェブサイト＞
1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from http://www.dialectsarchive.com/dialects-accents
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html
4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from https://www.univie.ac.at/voice/

【成績評価の方法と基準】
＜平常点： 5%＞
・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ディスカッションに積極的に貢献して下さい。
・遅刻２回（ただし、電車遅延は除く）で、欠席１回とみなします。
＜試験： 50%＞
学期末（第 14 週）に試験（あるいは期末レポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。
＜その他授業内外課題： 45%＞
・授業毎振り返りコメントやリーディング課題、フィールドワーク、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
・グループ・プレゼンテーションの際は、各自で持参した PC を使用することが望ましいですが、それが難しい場合は、こちらで共有 PC を用意します。

【その他の重要事項】
授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In the era of globalization, English is one of the dominant tools of intercultural communication among people from diverse linguistic and cultural backgrounds. What does such a communication look like? The aim of this course is to reconsider 'English' from the perspective of World Englishes and English as a lingua franca. Through this course, you will have the opportunity to understand features of varieties of English particularly in Asian countries as well as features of intercultural communication in English as a lingua franca settings. On the basis of the knowledge you acquired, you will then reconsider the role of English in the globalized world and English communication ability necessary for surviving in such a world.
[Learning Objectives]
1. Students can understand and summarize characteristic features of varieties of English (phonological and grammatical features, etc.).
2. They can understand and summarize how people from multilingual backgrounds communicate with one another in English as a lingua franca.
3. They can understand and explain the problematic nature of standard language ideology and native-speakerism.
4. On the basis of their understanding of the above points, they can make a critical observation of the role of "English" in the globalized world and "English" communication abilities necessary in such a world.
[Learning Activities outside of Classroom]
< Preparation >
1. Reading Assignment (by the beginning of Sessions 3 & 10): Read the assigned reading materials.
2. Fieldwork and Report (by the beginning of Sessions 2, 10 & 13): Carry out fieldwork three times.
3. Digital record your conversation in ELF, transcribe part of the recording, and analyze the use of communication strategies observed in the conversation (this activity may be cancelled depending on the COVID situation).
4. Preparation for a Group Presentation (by the beginning of Session 5/6/7/8): Prepare presentation slides for your group presentation about varieties of English.
< Revision >
1. Weekly comments (Sessions 2-14): Reflect on what you've learned in each session, and write comments in a designated form on Google Classroom. Submit the comment by the beginning of the next session each week.
2. Preparation for final exam (or term-end paper): Prepare for the final exam (or term-end paper) by reviewing what you've learned in each of the sessions.
[Grading Criteria / Policy]
1. Class contribution (5%): Active contribution to class will be evaluated. Students are expected to contribute to discussion actively.
2. Final exam/term-end paper (50%): Exam answers (or term-end paper) will be evaluated in their contents.
3. Other tasks (45%): Weekly comments, reading assignment, fieldwork reports, group presentations will be evaluated in their contents.

LIN200GA

言語の理論 I

石川　潔

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
　（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
　具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
　基本的には講義です。
　リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。
　学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、および「音素」その１（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、*party* はカタカナで何と言うべき？
第 2 回	「音素」その２（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 3 回	「音節」その１（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 4 回	「音節」その２（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 5 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 6 回	今日の文法理論その１（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第 7 回	今日の文法理論その２（統語論）	統語論「研究」実体験：英語の接続詞の種類分け
第 8 回	今日の文法理論その３（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？　そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第 9 回	今日の文法理論その４（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 10 回	今日の文法理論その５（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 11 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	*Without her contributions failed to come in.* ってどういう意味？ ……「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 12 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第 13 回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】
　参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験、100 %。
　公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
　但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【その他の重要事項】
　この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】
（Course outline）An introduction to linguistic sciences for novice.
（Learning Objectives）To clear up common misconceptions concerning langauge, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.
（Learning activities outside of classroom）Reaction papers
（Grading Criteria /Policy）Final (100%)

LIN200GA

言語の理論Ⅱ

石井　創

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】
1．言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2．身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3．科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
1．授業形態
本シラバス執筆時点では、**本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です**。しかし、新型コロナウィルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」（Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式）に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
2．授業の進め方
授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。
教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト／アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。
なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学 1	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学 2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論 1	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論 2	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論 3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第 13 回	意味論 1	意味の記述と語彙分解
第 14 回	意味論 2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各 2 時間とします。
1．準備
後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。
2．復習（宿題、その他応用学習も含む）
その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいです。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1．期末試験： 100%
本シラバス執筆時点では、(A) 通常の教室内試験、(B) 学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。試験形態は定期試験期間中の新型コロナウィルス流行状況や大学の教室使用状況などに左右されるため、試験期間が近づいてきたら (A) と (B) のどちらになるかを改めてお知らせします。
2．プラスアルファの加点
上記 1 の通り、本科目の成績は基本的には期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。
(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）
なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー (e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの) を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】
1．以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追い付かなくなる」という意見が出されたため、近年は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めてきましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されてきました。また、1 つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができていたシラバスの「授業計画」の内容を近年はすべてカバーすることができていません。従って、今年度は各回の授業で取り上げる学習項目をもう一度全体的に見直し、かつ授業中に学生の理解度を細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、「授業計画」の内容をきちんと網羅できる授業を目指していきます。
2．昨年度はリアクションペーパーや質疑応答などで学生から質問やコメントをもらう機会を作ることが少なくなってしまい、「授業中の教員・学生間の双方向的なやり取り」を上手く達成できませんでした。この点を反省し、今年度は学生の授業に対する意見を吸い上げる機会を例年のように積極的に設けていこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】
「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
(a) Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
(b) 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】
1．本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

２．「対面授業」に出席できない受講生 (e.g., 入国できない留学生、基礎疾患を有する学生) は、秋学期開始前にその旨を教員にメールで連絡してください（ハイフレックス授業の準備が必要になるため）。なお、教員のメールアドレスは秋学期開始前に学習支援システムを通じてお知らせします。
３．本科目に割り当てられた教室に全受講者を収容できない事態が生じた場合、全受講者を２グループに分割し、そのグループごとに「対面授業」と「オンライン授業」を交互に繰り返すハイフレックス授業になる可能性があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:
(a) Being able to understand basic knowledge in each field of linguistics.
(b) Being sensitive to facts about languages that are spoken around them, and being able to do introductory consideration and analysis of a fact which they noticed.
(c) Having a correct understanding of a scientific research methodology.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
(a) Preparation
If you read through a handout which is distributed in advance before class, the content of that day's class will be easier to understand. In addition, students are expected to think back to the contents which they have learned in previous classes related to the content of that day's class before class.
(b) Review
You should get the content of that day's class straight by checking handouts and your notes. If a homework is given in that day's class, please work on it prior to attending next week's class. Then, if you have any questions, first of all, please make an effort to provide your answer to it. Furthermore, when you find something similar to the linguistic phenomena that were introduced in this course in daily life, I'd like you to consider the phenomena using the methods that you have learned in this course.

4.Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN300GA

社会言語学

塩田　雄大

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。
社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティー／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。あわせて、実際に方言（沖縄方言を予定）を語学として勉強してみる機会も一回設けてみたい。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】
社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・ＰＣを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。
課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。
基本的に対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば　ほか
第 3 回	周圏論的／逆周圏論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか　ほか
第 4 回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布　ほか
第 5 回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント　ほか
第 6 回	うちなーぐち会話の練習	沖縄方言を、語学の一つとして勉強してみる
第 7 回	アスペクト・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差　ほか
第 8 回	あいさつ・話の進め方の地域差	買い物をしたら何と言って店を出るか　ほか
第 9 回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か　ほか
第 10 回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか　ほか
第 11 回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言　ほか
第 12 回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ　ほか
第 13 回	言語意識、バーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか　ほか
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には 4 時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】
『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013 年、1,800 円＋税）
https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen2lang/hogengak_prm/
履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】
一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。
（1）『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか 編著、ミネルヴァ書房、2016 年、2,800 円＋税）
（2）『実践方言学講座　第 1 巻　社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子 編著、くろしお出版、2020 年、4,300 円＋税）
（3）『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991 年、1,893 円＋税）

【成績評価の方法と基準】
・毎回の事前準備課題　30 %
・最終レポート　　70 %
いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。
課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したものも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】
前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】
質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】
＊＊ Course outline ＊＊
To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.
The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex.　divercity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term. In addition, we would like to have an opportunity to actually learn a dialect (Okinawan dialect is planned) as a language.
＊＊ Learning Objectives ＊＊
The students are expected to be able to see and think in sociolinguistic and dialectological terms.
＊＊ Learning activities outside of classroom ＊＊
Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (summarizing and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically 4 hours or more) will be required for preparation each time.
＊＊ Grading Criteria /Policy ＊＊
Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).
In all cases, emphasis will be placed on the quality of the content rather than the quantity.　Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIN300GA

応用言語学

近藤　隆子

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用言語学の分野の中でも、特に言語習得を中心に扱います。母語話者、第二言語学習者がどのようにことばを習得していくのか、さまざまな研究を通して学びます。また、教室での第二言語習得モデルについて学び、日本の教室環境における英語学習について考えていきます。

【到達目標】
1. こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語獲得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。
2. 教室での第二言語習得に影響を与える要因について学び、日本の教室で英語を教える際に必要な知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業前に教科書の指定範囲と配布資料を読み、質問等をまとめてきてください。授業は基本的に教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式で行いますが、ペア・グループワークの時間を設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていただきます。
小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 母語獲得と第二言語習得	授業の内容説明、母語獲得と第二言語習得についての導入
第 2 回	母語の獲得過程 1	幼児は親の真似をして母語を獲得していくのか？ 母語獲得では共通した発達過程や獲得順序があるのか？
第 3 回	母語の獲得過程 2	言語インプットと生得的な言語獲得装置、UG を仮定しない言語獲得過程を考えてみる
第 4 回	母語の獲得過程 3	母語での音声の獲得過程、人類のことばの獲得
第 5 回	第二言語の習得過程 1	第二言語習得の 4 つの特徴、発達過程が存在する、JLEs の Yes/No 疑問文（一般動詞）の発達過程、JLEs の wh 疑問文の発達過程、JLEs の無生物主語構文の発達過程
第 6 回	第二言語の習得過程 2	JLEs の疑問文と非定文での did の発達過程、JLEs の疑問文と非定文での does の発達過程、JLEs の現在進行形の発達過程、JLEs の名詞単数形・複数形の発達過程、JLEs の関係代名詞節の発達過程、JLEs の定冠詞の発達過程
第 7 回	第二言語の習得過程 3	JLEs の to 不定詞の発達過程、JLEs の現在完了形の発達過程、項目別習得難易度順序が存在する
第 8 回	第二言語の習得過程 4	学習者の母語の特性から影響を受ける、さまざまに異なる母語からの転移、母語の転移かどうかはっきりと判断できない誤りもある
第 9 回	第二言語の習得過程 5	最終到達度において個人差が顕著である、教室での第二言語習得と臨界期仮説・最終到達度、第二言語での語彙の習得
第 10 回	外国語学習と脳の働き	ブローカ言語野とウェルニッケ言語野、さらに詳しい脳内の言語地図、右脳で外国語学習？
第 11 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 1	教室での第二言語習得モデル、（第二言語）インプット
第 12 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 2	明示的指導、インプット処理指導法、タスク活動、内的学習者要因・外的学習者要因
第 13 回	教室での第二言語習得に関する基礎的知識 3	UG (Universal Grammar)、母語知識、一般問題解決能力、アウトプット
第 14 回	まとめ	ことばの習得、教室での第二言語習得とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定範囲や配布資料を事前に読んでから、授業に臨む必要があります。また、授業で説明された内容について理解できているかを確認するための課題が毎回出されるため、授業の復習をしながら、課題に答える必要があります。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
白畑知彦『英語教師がおさえておきたい ことばの基礎的知識』（大修館書店 2021 年）2200 円（税抜）
その他、随時資料を配布します。

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期中の小テスト 40%、課題 45%、平常点 15%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に必ず出席してください
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition and second language acquisition in the classroom.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand basic concepts of first language acquisition and second language acquisition as well as language acquisition in the classroom.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. The required study time is four hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on unit tests (40%), homework assignments (45%), and in-class contribution (15%).

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Personal and Cultural Identity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of personal and cultural identity.
Week 6	Values: Deciding Right and Wrong	Reading, pair work exercises, and small group discussions on personal values and how one decides between right and wrong.
Week 7	Values: Discussing Future Goals	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on one's values and future goals.
Week 8	Culture Shock: Advice for Dealing With Culture Shock	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of culture shock, and how to deal with it.
Week 9	Culture in Language: Proverbs and Idioms	Listening, reading, small group discussions, and written exercise on how culture is reflected in language such proverbs and idioms.
Week 10	Body Language and Customs: Signs and Gestures	Reading, pair work exercises, and small group discussions on how the meaning of signs and gestures change according to cultural customs.
Week 11	Body Language and Customs: Non-verbal Communication Norms	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on how customs affect body language and non-verbal communication norms.
Week 12	Individualism: Individualism and Collectivism	Reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individualism and collectivism.
Week 13	Individualism: The Challenges of Different Working Styles	Listening, pair work exercises, and small group discussions, on how individual preferences can make different working styles challenging.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Initially, course materials will be provided by the instructor, but a textbook may be announced at a later date.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various oral discourse themes will be introduced and practised. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Personal and Cultural Identity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of personal and cultural identity.
Week 6	Values: Deciding Right and Wrong	Reading, pair work exercises, and small group discussions on personal values and how one decides between right and wrong.
Week 7	Values: Discussing Future Goals	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on one's values and future goals.
Week 8	Culture Shock: Advice for Dealing With Culture Shock	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of culture shock, and how to deal with it.
Week 9	Culture in Language: Proverbs and Idioms	Listening, reading, small group discussions, and written exercise on how culture is reflected in language such proverbs and idioms.
Week 10	Body Language and Customs: Signs and Gestures	Reading, pair work exercises, and small group discussions on how the meaning of signs and gestures change according to cultural customs.
Week 11	Body Language and Customs: Non-verbal Communication Norms	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written exercise on how customs affect body language and non-verbal communication norms.
Week 12	Individualism: Individualism and Collectivism	Reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individualism and collectivism.
Week 13	Individualism: The Challenges of Different Working Styles	Listening, pair work exercises, and small group discussions, on how individual preferences can make different working styles challenging.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Initially, course materials will be provided by the instructor, but a textbook may be announced at a later date.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Food: as a reflection of culture.	Listening, reading, and pair work exercises on food as a reflection of culture.
Week 6	Food: as a social tool.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of food as a social tool.
Week 7	Health: yours and healthcare around the world.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on healthcare in different countries.
Week 8	Politics. Explaining your system, and understand others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on political systems in different countries.
Week 9	Money. Value and price in different cultures.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on value and price in different countries.
Week 10	Travel. A practical issue.	Listening, reading, and pair work exercises on the practical issue of travel.
Week 11	Transport as it reflects the needs of its users.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a transportation system being a reflection of the needs of its users.
Week 12	Belief: religion and belief in Japan and elsewhere.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of religion and belief systems being in Japan and elsewhere.
Week 13	Saying 'Goodbye'. How we take our leave.	Listening, reading, small group discussions, and written exercises on different ways of saying 'Goodbye' depending on the situation.
Week 14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Textual preparation and work for Presentations will be necessary. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Food: as a reflection of culture.	Listening, reading, and pair work exercises on food as a reflection of culture.
Week 6	Food: as a social tool.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of food as a social tool.
Week 7	Health: yours and healthcare around the world.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on healthcare in different countries.
Week 8	Politics. Explaining your system, and understand others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on political systems in different countries.
Week 9	Money. Value and price in different cultures.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on value and price in different countries.
Week 10	Travel. A practical issue.	Listening, reading, and pair work exercises on the practical issue of travel.
Week 11	Transport as it reflects the needs of its users.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a transportation system being a reflection of the needs of its users.
Week 12	Belief: religion and belief in Japan and elsewhere.	Listening, reading, and small group discussions on the concept of religion and belief systems being in Japan and elsewhere.
Week 13	Saying 'Goodbye'. How we take our leave.	Listening, reading, small group discussions, and written exercises on different ways of saying 'Goodbye' depending on the situation.
Week 14	Examination/Review.	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Textual preparation and work for Presentations will be necessary. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ALAN M NICHOLLS

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don't Know, Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Identity: Life Experiences	Listening, reading, and pair work exercises on life experiences.
Week 6	Identity: Nature Verses Nurture	Listening, reading, and small group discussions on the concept of a person's character being a result of genetic factors or social factors.
Week 7	Identity: Your Family History	Listening on the concept of the family tree, followed by student presentations about their families, and written assignment introducing one's family history.
Week 8	World Destinations: Describing Places	Listening, reading, and pair work exercises on describing places.
Week 9	World Destinations: Getting Around	Listening, reading, and small group discussions on traveling into, out of, and around different places in the world.
Week 10	World Destinations: Where to Visit in Japan	Listening on places to visit, followed by student presentations about their favorite spots in Japan, and written assignment describing a favorite place.
Week 11	Energy Challenges: Sources and Sustainability	Listening, reading, and pair work exercises on energy production and consumption.
Week 12	Energy Challenges: Organizations and Community Action	Listening, reading, and small group discussions on what activist groups and local communities can do to reduce energy consumption and help the planet.
Week 13	Energy Challenges: Persuading Others to Act	Video on a persuasive presentation, followed by student presentations making recommendations for action, and persuasive paragraph written assignment.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class Level 1 with Online Workbook*, Cengage Learning,
ISBN-13:978-1-285-06309-6

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various oral discourse themes will be introduced and practiced. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, and 4) review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students ' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
Week 2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
Week 3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
Week 4	Learning Strategies: Knowing What You Don ' t Know, and Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 5	Giving your experiences : Finding your stories and setting the scene	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
Week 6	Giving your experiences : Description and compression	Conversation exercises, and written assignment on describing experiences.
Week 7	Midterm Student Presentations	Individual student presentations to the class
Week 8	Discussing your opinions : Discussion and argument	Listening, reading, and pair work exercises on developing and expressing opinions.
Week 9	Discussing your opinions ☒ The triangle of persuasion	Conversation exercises, and written assignment on persuasive discussion styles.
Week 10	Telling how you feel: Physical feelings, likes, wants and emotions	Listening, reading, conversation exercises and written assignment on expressing physical feelings, likes, wants, and emotions.
Week 11	Starting conversations ☒ Friends and acquaintances	Listening, and pair work exercises on starting conversations with friends.
Week 12	Starting conversations: Strangers	Listening, and pair work exercises on starting conversations with strangers.
Week 13	Putting it all together ☒ The flow of conversation	Conversation exercises, and written assignment on how conversations flow naturally from beginning to end.
Week 14	Final Presentation	Group presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for pair presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe100GA

英語コミュニケーションⅠ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on helping students realize studying abroad is not just a dream for them, but will soon be a reality. Since all students are scheduled to study abroad within one-year after the course begins, students should start actively preparing themselves for their study abroad experience.

【到達目標】
The goal of the course is to: 1) develop students' English language skills and abilities to interact more naturally in English, and 2) give students the sociolinguistic confidence and communication skills necessary for a successful study trip abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class Orientation: Requirements of the all-English Classroom	Brief English lecture on course content, students ' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on the differences between the all-English classroom environment and classes where English is taught through Japanese translation.
2	Introductory Learning Strategies: When in Doubt, Ask a Question.	Brief English lecture on concept of learning strategies. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice using confirmation questions to check and clarify meaning in English conversations.
3	More Learning Strategies: Breaking Old Bad Habits	Brief English lecture on typical social behavior and coping strategies Japanese students often employ that are not effective or appropriate in an overseas setting. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on what social habits and behavior students need to change to have a truly successful study abroad experience.
4	Learning Strategies: Knowing What You Don ' t Know, and Can Make Learning Easy and Fun	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
5	Giving your experiences : Finding your stories and setting the scene	Brief English lecture, and reading on effective listening and reading strategies that help students identify unknown expressions and concepts more quickly, so they can develop a more fluid interactive learning style that allows them to ask for help more easily and thus making learning more enjoyable.
6	Giving your experiences : Description and compression	Conversation exercises, and written assignment on describing experiences.
7	Midterm Student Presentations	Individual student presentations to the class
8	Discussing your opinions : Discussion and argument	Listening, reading, and pair work exercises on developing and expressing opinions.
9	Discussing your opinions ☒ The triangle of persuasion	Conversation exercises, and written assignment on persuasive discussion styles.
10	Telling how you feel: Physical feelings, likes, wants and emotions	Listening, reading, conversation exercises and written assignment on expressing physical feelings, likes, wants, and emotions.
11	Starting conversations ☒ Friends and acquaintances	Listening, and pair work exercises on starting conversations with friends.
12	Starting conversations: Strangers	Listening, and pair work exercises on starting conversations with strangers.
13	Putting it all together ☒ The flow of conversation	Conversation exercises, and written assignment on how conversations flow naturally from beginning to end.
14	Final Presentation	Group presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for pair presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the fall semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Analyzing Learning Goals, Silent Interview	Listening, pair work exercise, and written assignment on analyzing one's desires and personal learning goals.
Week 5	Writing about Traditional Japanese Culture	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on traditional Japanese culture.
Week 6	Character Writing, Different Perspectives	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on how a person's character can affect his/her perspective on things.
Week 7	Editing, Common Errors, Writing Conventions	Listening, reading, pair work exercise, and written assignment on writing conventions, common errors and editing one's writing.
Week 8	Creative Writing Prompts, Collaborative Writing	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on individual creative writing, and collaborative group writing.
Week 9	Stretching the Imagination	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on using the written word to create a mental image.
Week 10	Creating a Utopian Society	Listening, pair work exercise, and written assignment on the concept of creating a Utopian society.
Week 11	Class Project	Brainstorming and planning.
Week 12	Evaluating and Revising the Class Project	Evaluating and revising the class project.
Week 13	Practical Tips, Preparation for Travel	Practical tips, preparation for travel.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the fall semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Analyzing Learning Goals, Silent Interview	Listening, pair work exercise, and written assignment on analyzing one's desires and personal learning goals.
Week 5	Writing about Traditional Japanese Culture	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on traditional Japanese culture.
Week 6	Character Writing, Different Perspectives	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on how a person's character can affect his/her perspective on things.
Week 7	Editing, Common Errors, Writing Conventions	Listening, reading, pair work exercise, and written assignment on writing conventions, common errors and editing one's writing.
Week 8	Creative Writing Prompts, Collaborative Writing	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on individual creative writing, and collaborative group writing.
Week 9	Stretching the Imagination	Reading, pair work exercise, small group discussions and written assignment on using the written word to create a mental image.
Week 10	Creating a Utopian Society	Listening, pair work exercise, and written assignment on the concept of creating a Utopian society.
Week 11	Class Project	Brainstorming and planning.
Week 12	Evaluating and Revising the Class Project	Evaluating and revising the class project.
Week 13	Practical Tips, Preparation for Travel	Practical tips, preparation for travel.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to keep an English journal which will require weekly updates. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Classroom techniques and behaviour in Japan and beyond.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on classroom styles of behavior inside and outside of Japan.
Week 5	The culture of eating out.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how culture can effect why and when people eat out.
Week 6	Etiquette: redundant in a Global Society?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on etiquette and if globalization has made the idea of learning manners unnecessary.
Week 7	The politics of having a vote.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on politics and the right to vote.
Week 8	How to stay well.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how to stay well while living abroad.
Week 9	Shopping wisely.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on shopping wisely.
Week 10	Where will you stray to?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on getting lost and what to do.
Week 11	How to get from A to B via X.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on traveling when changing modes of transportation is involved.
Week 12	Superstitions; are they the same everywhere?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on superstitions and different beliefs.
Week 13	Re-entry. A safe landing.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on returning safely and the possibility of re-entry shock.
14	Examination/Comments	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and presentation planning will be required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Materials will be provided as required.

【参考書】
And English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation
20% Homework.
40% Final Examination/Term Project.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation at lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Classroom techniques and behaviour in Japan and beyond.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on classroom styles of behavior inside and outside of Japan.
Week 5	The culture of eating out.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how culture can effect why and when people eat out.
Week 6	Etiquette: redundant in a Global Society?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on etiquette and if globalization has made the idea of learning manners unnecessary.
Week 7	The politics of having a vote.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on politics and the right to vote.
Week 8	How to stay well.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on how to stay well while living abroad.
Week 9	Shopping wisely.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on shopping wisely.
Week 10	Where will you stray to?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on getting lost and what to do.
Week 11	How to get from A to B via X.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on traveling when changing modes of transportation is involved.
Week 12	Superstitions; are they the same everywhere?	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on superstitions and different beliefs.
Week 13	Re-entry. A safe landing.	Reading, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on returning safely and the possibility of re-entry shock.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and presentation planning will be required.

【テキスト（教科書）】
Materials will be provided as required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【参考書】
And English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some Online News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation
20% Homework.
40% Final Examination/Term Project.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

MARK E FIELD

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Express Yourself: Explaining Steps in a Process	Listening, reading, and small group discussions on how to explain a step by step process. Followed by student presentations and a written assignment explaining how to do something that takes a number of different steps.
Week 5	On the Move: Types of Transportation	Listening, reading, and pair work exercises on different types of transportation.
Week 6	On the Move: Sharing Economy	Listening, reading, and small group discussions on new ways to travel around cities created by the new sharing economy.
Week 7	On the Move: An Opinion Paper	Listening, reading, and small group discussions on the best way to travel in special environments. Followed by student presentations and a written opinion assignment on the best way to go some place when the standard way is not possible.
Week 8	Rain or Shine: Climate Extremes	Listening, reading, and pair work exercises on different types of extreme weather.
Week 9	Rain or Shine: Weather and Erosion	Listening, reading, and small group discussions on how weather can change the physical environment.
Week 10	Rain or Shine: A Vivid Description	Listening, reading, and small group discussions how extreme weather can affect people. Followed by student presentations and a written assignment describing a personal experience with a significant weather event.
Week 11	What's Your Game?: Reported Speech	Listening, reading, and pair work exercises on reporting what happened around a sporting event.
Week 12	What's Your Game?: Explaining Important Qualities	Listening, reading, and small group discussions on qualities are important to be good at different types of sports.
Week 13	What's Your Game?: Timed Essay	Timed in class essay on a topic related explaining important qualities for a certain sport.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to find and analyze information from various forms of English media independently as a means of increasing their vocabulary and general knowledge. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class Level 1 with Online Workbook*, Cengage Learning,
ISBN-13:978-1-285-06309-6

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Study skills and time management	Listening, reading, and small group discussions how study more effectively by managing one's time wisely.
Week 5	Sharing your own culture	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on sharing one's own cultural ideas and practices to others.
Week 6	Universal and local cultural rules	Listening, reading, small group discussions, and written assignment on local and universal norms of behavior.
Week 7	Midterm Presentation	Individual student presentations to the class
Week 8	Social Rules	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of social rules and how they can vary according to context and culture.
Week 9	Ethics and honesty	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of ethics and honesty and how they can vary according to context and culture.
Week 10	Diversity and Difference	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of social diversity and individual differences.
Week 11	Individuality and Conformity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individuality and group conformity.
Week 12	Discussing controversial issues	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on some controversial social issues.
Week 13	Presentation Preparation and Practice	Students write up their final presentations scripts incorporating vocabulary and concepts covered in previous classes and practice reading their final presentations with student partners.
Week 14	Final Presentation	Individual student presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe200GA

英語コミュニケーションⅡ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. This course will focus on further developing students' abilities to perform successfully in an all English-speaking academic and social environment. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents skills and future needs.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first-year required courses, the English 1-6 series, and English Communication I, the goal of this course is to help students become responsible international students capable of unsupervised independent language learning while studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will be expected to not only acquire vocabulary and expressions, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to communicative presentation and writing skills necessary for successfully completing their study abroad programs in the Fall Semester. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Reorientation: How to Prepare for Overseas Study	Brief English reorientation lecture on students' responsibilities, and what students should do to be truly ready for their fall study abroad programs. Students take notes, followed by a short reading and class discussion and question and answer session on personal study and preparation plans students plan to pursue before leaving Japan.
Week 2	Express Yourself: Letter of Introduction to a Host Family	Listening, reading, and small group discussions on how life with a host family could be different than life with ones own family. Followed by a written assignment on a self-introduction letter to a host family.
Week 3	Understanding Messages: Rules in the Home and School	Listening, reading, and small group discussions on rules commonly found in the study abroad home and school environments.
Week 4	Study skills and time management	Listening, reading, and small group discussions how study more effectively by managing one's time wisely.
Week 5	Sharing your own culture	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on sharing one's own cultural ideas and practices to others.
Week 6	Universal and local cultural rules	Listening, reading, small group discussions, and written assignment on local and universal norms of behavior.
Week 7	Midterm Presentation	Individual student presentations to the class
Week 8	Social Rules	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of social rules and how they can vary according to context and culture.
Week 9	Ethics and honesty	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the ideas of ethics and honesty and how they can vary according to context and culture.
Week 10	Diversity and Difference	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of social diversity and individual differences.
Week 11	Individuality and Conformity	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concepts of individuality and group conformity.
Week 12	Discussing controversial issues	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on some controversial social issues.
Week 13	Presentation Preparation and Practice	Students write up their final presentations scripts incorporating vocabulary and concepts covered in previous classes and practice reading their final presentations with student partners.
Week 14	Final Presentation	Individual student presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Politeness: Ways of Showing Courtesy and Respect	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on politeness, and different ways of showing courtesy and respect.
Week 6	Communication Styles: Verbal Communication Norms	Reading, pair work exercises, and small group discussions on verbal communication styles and norms can vary between people and cultures.
Week 7	Communication Styles: Common Differences in Spoken Behavior	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on common differences in spoken behavior
Week 8	Gender and Culture: Examining Gender Issues in Japan and Abroad	Reading, pair work exercises, and small group discussions on gender issues inside of Japan and abroad.
Week 9	Gender and Culture: Cultural Expectations and Gender Roles	Listening, pair work exercises, small group discussions on cultural expectations and gender roles.
Week 10	Diversity: Multiculturalism and Stereotypes	Reading, pair work exercises, and small group discussions on Multiculturalism and stereotypes.
Week 11	Diversity: Learning from Our Differences	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on diversity and learning from personal and cultural differences.
Week 12	Social Change: Confronting Social Problems and Discrimination	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on confronting social problems and discrimination.
Week 13	Global Community: What Kind of Global Citizen are You?	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concept of a global community, and what kind of global citizen could be?
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Politeness: Ways of Showing Courtesy and Respect	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on politeness, and different ways of showing courtesy and respect.
Week 6	Communication Styles: Verbal Communication Norms	Reading, pair work exercises, and small group discussions on verbal communication styles and norms can vary between people and cultures.
Week 7	Communication Styles: Common Differences in Spoken Behavior	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on common differences in spoken behavior
Week 8	Gender and Culture: Examining Gender Issues in Japan and Abroad	Reading, pair work exercises, and small group discussions on gender issues inside of Japan and abroad.
Week 9	Gender and Culture: Cultural Expectations and Gender Roles	Listening, pair work exercises, small group discussions on cultural expectations and gender roles.
Week 10	Diversity: Multiculturalism and Stereotypes	Reading, pair work exercises, and small group discussions on Multiculturalism and stereotypes.
Week 11	Diversity: Learning from Our Differences	Listening, pair work exercises, small group discussions, and written assignment on diversity and learning from personal and cultural differences.
Week 12	Social Change: Confronting Social Problems and Discrimination	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on confronting social problems and discrimination.
Week 13	Global Community: What Kind of Global Citizen are You?	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on the concept of a global community, and what kind of global citizen could be?
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given homework in most lessons.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
40% Final Examination/Term Project
20% Homework
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
In order to increase student talking time, students will also take part in a five-minute English conversation during each lesson.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation. How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Appearance reflecting the self and revealing others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on appearances and what they can communicate to ourselves and to others.
Week 6	Meeting people in a domestic environment.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other people in domestic environment.
Week 7	Meeting people: other students, other countries.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other students from different countries at school and elsewhere.
Week 8	Meeting people: expressing ourselves. Etiquette and feelings.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting people, and expressing our feelings while maintaining good manners.
Week 9	Culture: explaining Japan.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on explaining the culture of modern Japan.
Week 10	Culture: exploring tradition.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on exploring traditional Japanese culture.
Week 11	Culture: changing as we speak.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on how quickly cultures can change and evolve.
Week 12	Where we live: Town and Country.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live and the difference between city and country life.
Week 13	Where we live ： Directions and Dimensions.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live, how to get there, how the perception of size and distance can change.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and Presentation planning will be required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation.
20% Homework.
40% Final Examination/term project.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing.The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their current weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation. How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World Is Your Classroom. What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Appearance reflecting the self and revealing others.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on appearances and what they can communicate to ourselves and to others.
Week 6	Meeting people in a domestic environment.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other people in domestic environment.
Week 7	Meeting people: other students, other countries.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting other students from different countries at school and elsewhere.
Week 8	Meeting people: expressing ourselves. Etiquette and feelings.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on meeting people, and expressing our feelings while maintaining good manners.
Week 9	Culture: explaining Japan.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on explaining the culture of modern Japan.
Week 10	Culture: exploring tradition.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on exploring traditional Japanese culture.
Week 11	Culture: changing as we speak.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on how quickly cultures can change and evolve.
Week 12	Where we live: Town and Country.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live and the difference between city and country life.
Week 13	Where we live ： Directions and Dimensions.	Listening, reading, pair work exercises, and small group discussions on where people live, how to get there, how the perception of size and distance can change.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Text preparation and Presentation planning will be required. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
People Like Us Too, Simon Greenall. Macmillan Pub.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In class evaluation.
20% Homework.
40% Final Examination/term project.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

MARK E FIELD

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student Are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	The World's a Stage: From Shakespeare to Internet Stars	Listening, reading, and pair work exercises on traditional and newer forms of entertainment.
Week 6	The World's a Stage: Hip-Hop Goes Home	Listening, reading, and small group discussions on the ancient roots of some very modern music.
Week 7	The World's a Stage: Role-play a Famous Person	Listening, reading, and small group discussions on some famous entertainers, Followed student role-playing their favorite entertainers.
Week 8	In Style: More than Shopping	Listening, reading, and pair work exercises on fashion and different places to shop for and buy things including expensive malls and flea markets.
Week 9	In Style: Real or Fake?	Video on how to spot fake brand goods, pair work exercises, small group discussions on the meaning and real value of expensive iconic brands.
Week 10	In Style: Presenting and Defending an Argument	Listening, reading, and small group discussions on what certain styles of clothes say about people. Followed by student persuasive presentations on the benefits of designer goods or the evils of fake products.
Week 11	Decisions, Decisions: Rational Decisions	Listening, reading, and pair work exercises on making logical decisions.
Week 12	Decisions, Decisions: Peer Pressure	Listening, reading, and small group discussions on how others can sometimes affect what we do and the choices we make.
Week 13	Decisions, Decisions: The Teenage Brain	Video, and short reading on the unique features of young brains, followed by pair work exercises, and small group discussions on making decisions.
Week 14	Examination/Review	Examination/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas & James R. Morgan, *World Class Level 1 with Online Workbook*, Cengage Learning,
ISBN-13:978-1-285-06309-6

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% In Class Evaluation
20% Homework
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourage students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
Week 6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
Week 7	Group presentation	Preparation and practice
Week 8	Mid-term Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback
Week 9	Informative discussion	Learning and teaching
Week 10	Persuasive discussion	Presenting one on one
Week 11	Persuasive discussion	Being politely powerful
Week 12	Presenting yourself socially	Learning to interact on a personal level
Week 13	Final Presentation	Preparation and practice
Week 14	Final Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In-class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe200GA

英語コミュニケーションⅢ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Native English-speaking instructors teach this course using communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. So students are expected to advance all their language skills: listening, speaking, reading and writing. The course will focus on helping students become more independent language learners and prepare for their study abroad in the autumn semester. Since all students are scheduled to study abroad within six months after the course begins, students should become more reflective about their currents weaknesses and what skill areas they need to improve.

【到達目標】
Building on what was studied in previous English Communication classes, the goal of the course is to further develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will continue to work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills necessary for a fruitful academic experience while living abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Various discourse themes related to studying abroad in an English-speaking country will be explored in more depth. The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to: 1) actively participate in classroom activities, 2) ask questions in class, 3) prepare weekly homework assignments at home, 4) and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: How is Overseas Study Different?	Brief English lecture on how studying in English in an English-speaking country is different since everyone in class is a foreign student that must speak English to survive. Students take notes, followed by a short reading and question and answer session on what kind of difficulties students could face in that environment and how they might handle those difficulties.
Week 2	The World is Your Classroom! What Kind of Student are You?	Brief English lecture on how any place, and any situation could be an opportunity to learn something new if one has an open mind. Students take notes, followed by a short class discussion and written assignment where students need to analyze what kind of students they are now and how they may need to change.
Week 3	The World is Your Classroom! What Kind of Student Do You Want to Be?	Brief English lecture and reading on how carefully watching and listening to what others say and do, and asking questions about what they say and do is an easy way to learn about social norms and typical behavior as well as language. Students take notes, followed by short class discussion and pair work practice.
Week 4	The World is Your Classroom! What Kind of Student Should You Become?	Brief recap lecture on how to learn more quickly from your environment. Followed by a question and answer session, short class discussion and written assignment where students describe what kind of students they plan to become to make the most of their study abroad programs.
Week 5	Presentation	Presenting yourself with confidence and power
Week 6	Presentation	Organizing, presenting and arguing your case
Week 7	Group presentation	Preparation and practice
Week 8	Mid-term Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback
Week 9	Informative discussion	Learning and teaching
Week 10	Persuasive discussion	Presenting one on one
Week 11	Persuasive discussion	Being politely powerful
Week 12	Presenting yourself socially	Learning to interact on a personal level
Week 13	Final Presentation	Preparation and practice
Week 14	Final Presentation	Student Q&A and Instructor Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In-class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students. Students in the course will provide feedback on other subjects that may be of interest and can be incorporated into future class plans.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe300GA

英語アプリケーションⅠ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Theme: Art Topic: Symbols and Logos	English lecture, reading, discussion and written assignment on symbols and logos.
Week 3	Theme: Art Topic: Symbols and meanings in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'	English reading, lecture and discussion on the symbols and their means in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'	English lecture, reading, discussion and written assignment on Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'.
Week 5	Theme: Art Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'	English reading, lecture and discussion on Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'.
Week 6	Theme: Art Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?	English lecture, reading, discussion and written assignment on whether functional objects can be considered works of art.
Week 7	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s	English reading, lecture and discussion on the music of Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young	English lecture, reading, discussion and written assignment on the music of Bob Dylan and Neil Young as a stimulus for social change.
Week 9	Theme: Rebellion Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech	English reading, lecture and discussion of Martin Luther King's 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques continued	English reading, lecture and discussion of more techniques used in advertising.
Week 12	Theme: Advertising Topic: Advertising vs Branding	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs Topic: Is the unexamined life worth living?	English reading, lecture and discussion on the underlying briefs people seldom consider.
Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.
Presentations – 70%
Class participation – 30%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
None

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

Kregg　Johnston

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：英語アプリケーション
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
1. Students read individual chapters in the book.
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
4. End of chapter quizzes are taken.
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.
Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices & Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic & social choices.
Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.
Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand & supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry Structure : The Structure of Costs in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output Decisions	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. Read the assigned chapters in the book.
2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. < http://cnx.org/content/col11627/latest/ > .

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
- Quizzes 50%
- Participation 20%
- Homework 15%
- Written Assignments 15%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health Issues: Diet considerations for life stages Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weigh and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up Presentation Tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Contact
kasmersensei@gmail.com

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は秋学期開講とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/regional habits Presentation Tip — Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference Presentation Tip — Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 9	Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs Presentation Tip — Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits Presentation Tip — Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
Week 11	Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip — Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussion of Contrasting Presentation Themes: Discussion of cultural contrasts from country to country and region to region	Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, blog work, some presentation preparation.　The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Contact email
kasmersensei@gmail.com

LANe300GA

英語アプリケーションⅤ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2
Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if …?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'What if …?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
· Final Exam – 30%
· Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
· Class Participation – 20%
· Word-up Tests – 10%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

LANe300GA

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada – The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada – Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada – The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation
Week 6	Regions of Canada – Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art – The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art – Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music – Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music – Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
Students will be graded on their
1. Bi-weekly presentations – 70%
2. Weekly quizzes – 30%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

ANDREW　JONES

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide course material.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).
20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.
20% Portfolio of notes taken during lectures.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

大野　ロベルト

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第 2 回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第 3 回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第 4 回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 5 回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 6 回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 7 回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 8 回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 9 回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 10 回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 11 回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 12 回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 13 回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 14 回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Read about Japanese culture.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some reference materials.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】
40% Presentation(s)
30% Written Assignments
30% Class Participation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Not Applicable.

LANe300GA

英語アプリケーションⅨ

MARK E FIELD

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は春学期開講とする。**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
In this course, we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.
Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル　L. ハウザー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**英語アプリケーション**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation The differences between Japanese and International business presentation styles	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation for student presentations.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

LANd100GA

ドイツ語コミュニケーションⅠ

Annette　Gruber

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, grammar, idiomatic phrases, pronunciation, listening and writing skills in order to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Im Moebelhaus	Akkusativ
3	Wie findest du den?	Syntax
4	Im Kaufhaus	Nomen im Plural
5	Termine vereinbaren	Idiomatische Phrasen
6	Mit Papa im Supermarkt	Personalpronomen im Dativ
7	Orientierung im Supermarkt	Nomen im Dativ
8	Gespraeche mit Verkaeufern	Idiomatische Phrasen
9	Einen Gast bewirten	Imperativ
10	Berufe: Vor-und Nachteile	Modalverben
11	Mein Arbeitsplatz	Wo? in, bei + Dativ
12	Verabredungen	Uhrzeit
13	Datum, Termine	Zeitangaben
14	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Wortschatz, Phrasen

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You need to prepare for and revise every lesson. There will be assigmnments in the "Arbeitsbuch" and on the Learning Management System (HOPPII) every week. The workload should be up to 2 hours.

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell 1, Lektion 1-4
Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】
自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】
There will be a test after each chapter, which accounts for 60%.
Attendance, classroom participation and attitude account for 40%.
Always arrive for the lessons on time.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
There will be weekly homework based on the Arbeitsbuch as well as on HOPPII. The required study time for preparation and review will be up to one hour.
There will be a test at the end of each unit, which accounts for 60%, active classroom participation and regular attendance are essential and account for 40%. Always make sure to arrive on time.

LANd200GA

ドイツ語コミュニケーションⅡ

Schmidt　Ute

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講者が困難なくドイツ語圏で生活をするためと大学生活を送るために、積極的にドイツ語を使う必要があります。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。

【到達目標】
受講者は困難なくドイツ語圏で学生生活を送れるようになること
少しでも多く話せるようになること
一つでも多くの単語と表現を覚えること
がこの授業の目標です。
聴解力・読解力・表現力における弱点を補強し、基礎を確実なもの、使えるものとすることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では基礎文法を含むテキストを用い、ドイツ語圏の日常生活や文化のさまざまな場面に題材を求めた、会話練習、聴きとり練習等に取り組む。口語表現力を重視しますので、必要な分野の語彙を習得、実践的なパートナー練習を通じて、コミュニケーション能力をアップすることをめざしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Einführung	Sich vorstellen Ich und meine Familie
2	日常生活と大学 Mein Alltag	Zeiten und Termine im Alltag und an der Uni
3	余暇 Freizeit	Hobby und Vereinsleben
4	食生活 Ernährung	Lebensmittel einkaufen und Essen im Restaurant
5	買い物 Kaufen, Kaufen	Im Geschäft: Preise und Konsum
6	住居 Wohnen	Wohnungen und Möbel
7	メディア Medien	Breif-Handy-SMS-Mail
8	健康 Gesundheit	Beim　Arzt
9	街の中 Orientierung	In der Stadt
10	場所と方向 Wege	Wegbeschreibungen verstehen
11	天気 Klima und Wetter	Wetterbericht verstehen
12	休暇 Urlaub	Eine Reise planen
13	祝日とお祭り Feiertage und Feste	Feste in Deutschland und der Schweiz kennenlernen, Japanische Feste erklären
14	まとめ Wiederholung	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】
コピーを配布します。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業の積極的な参加（発言）（40 %）、提出した宿題（30 %）、2 回の小テスト（30 %））

【学生の意見等からの気づき】
文章を書く練習は役に立ったようで、引き続き授業で取り上げたいと思っています。

【Outline (in English)】
In this course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing, so that they can manage their study abroad program without major difficulties. Students will not only improve their communication skills, but they also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation（40 %）、homework（30 %）、2 tests（30 %）

LANd200GA

ドイツ語コミュニケーションⅢ

Annette　Gruber

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, grammar, idiomatic phrases, pronunciation, listening and writing skills in order to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、学生一人ひとりが実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語のコミュニケーション能力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Terminvereinbarungen	Dialoge in Partnerarbeit
3	Familie und Freunde	Possessivartikel
4	Arbeiten im Haushalt	trennbare Verben
5	Wo? Wohin?	Wechselpraepositionen mit Dativ und Akkusativ
6	Berlin	Wegbeschreibung
7	Ueber Vergangenes sprechen	Perfekt
8	Meine Stadt	Personalpronomen im Akkusativ
9	Um Auskunft bitten/Auskunft geben	Wo-/Ja-Nein-Fragen Idiomatische Phrasen Training muendlicher Ausdruck
10	Um etwas bitten/auf Bitten reagieren	Imperativ Idiomatische Phrasen
11	Ansagen verstehen	Hoerverstehen (Alltagssituationen)
12	E-Mails schreiben	Training schriftlicher Ausdruck
13	Simulation Pruefung Start Deutsch 1	Leseverstehen, Hoerverstehen, muendlicher Ausdruck, schriftlicher Ausdruck
14	Wiederholung und Zusammenfassung	kommunikative Spiele

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You need to prepare for and revise every lesson. There will be assigmnments in the "Arbeitsbuch" and on the Learning Management System (HOPPII) every week. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】
自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】
There wil a test after each chapter, which accounts for 60%.
Attendance, classroom participation and attitude account for 40%.
Always make sure to arrive for your lessons on time.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
There will be weekly homework based on the Arbeitsbuch as well as on HOPPII. The required study time for preparation and review will be up to one hour.
There will be a test at the end of each unit, which accounts for 60%, active classroom participation and regular attendance are essential and account for 40%. Always make sure to arrive on time.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

三ツ石　祐子

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ドイツ語圏の留学準備とともに、SA によって獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
・ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、ドイツ語で表現・説明することができる。
・抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論に加わることができる。
・まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、お互いの発言とテクストの理解が十分に深まることを目指しながら、学んでいきます。
・各回、指定されたドイツ語テクストを前もって読んでおきます。
・テクストの内容と重要概念（語彙）を確認します。
・授業ではプレゼンテーションやペアワーク、グループワークなどを取り入れつつ、練習を積み重ねながら「言いたいこと」がよりスムーズにドイツ語で言えるようにブラッシュアップしていきます。
・授業時間内、あるいは授業時間外の課題としてドイツ語で作文します。
・テーマによってはヴィデオ教材も扱います。
・法政大学の 2022 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、各自、あるいは全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方等の確認、授業時間外の課題について（1）
2	So wohnt man	どんなところに住んでいる？ 賃貸か、所有か？
3	Sie wünschen?	どんなところで買い物する？ 市場？ スーパーマーケット？ 課題提出（1）
4	Es gibt Essen	ドイツ料理は肉（ソーセージ）とジャガイモ？
5	Politik und Parteien	選挙には行く？
6	課題（1）のプレゼンテーション	ディスカッション
7	Kunst und Wissenschaft	どんな様式がある？
8	Beginn der Moderne	「近代」とは？ 何が変わった？
9	Bis heute	戦後活躍した、あるいは現在活躍している芸術家や作家は？ 課題（2）
10	Wirtschaft und Industrie	ドイツ製品？
11	Krisen und Konflikte	ドイツにはどんな社会問題がある？ 課題提出（2）
12	Medienmarkt	まだ本を読んでるの？
13	Im Nordwesten von Deutschland	ドイツ北西部はどんなところ？
14	課題（2）のプレゼンテーション、期末試験	ディスカッション、春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間以上を標準とします。
・所定の予習・復習課題があります。
・授業時間外の課題については、その都度指示します。
・上記以外にも、できるだけ新聞（日刊紙）を読む、あるいはニュースを聞いてください。国際政治を自分の身近な問題として引き受け思考するようにしましょう。ドイツ語圏のメディアにはインターネットや SNS 等を効果的に活用してください。

【テキスト（教科書）】
„ Dreimal Deutsch“（Klett）　ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60 %、学期末課題（テスト）40 %を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典は必携です。

【その他の重要事項】
・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA 参加予定学生、滞在予定者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては 4 セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。
・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。
・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」、「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。以上の受験結果については、2022 年 7 月 20 日までに、担当者に通知されたもののみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
・質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも随時受け付けます。
メールアドレス： yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.
【Learning Objectives】
· To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
· Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
· Able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
· There are prescribed preparation and review tasks.
· Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
· In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 60% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 40% of end-of-term assignments (tests).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

熊田　泰章

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。授業の前半では、辞書なしで文意を捉えられるよう速読の力を養い、後半ではドイツ語の構文を正しく理解し精緻に読み解けるよう、精読の訓練をしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】
ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く。辞書なしで文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。様々な文化との対比を通して、間文化性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ドイツ語圏の文化や歴史に関する教材資料を用います。授業の前半では、初見のテクストを辞書なしで読み、理解を得ていくことを練習をします。後半では、内容を正確に読み解くとともに、そこで取り上げられているトピックについての議論も行います。毎回、学習したことをレポートとして提出する。
教材資料の提示とレポートの提出は学習支援システムによって行います。
各回の授業の最初に、前回のレポートについてのフィードバックとして、提出レポートの講評を行います。
セメスターの後半では、受講者の提案によって、取り上げるテーマを選定し、テクストを選んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	2021 年の世界を振り返る	2021 年に起きたことや社会情勢を振り返る。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	ドイツ語圏のいまを知る。ドイツの社会や政治制度について、日本とも比較しながら学ぶ。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	ドイツの隣国オーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどにをついて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて	EU 諸外国とは大いに異なるスイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る。
6	ドイツ語圏を知る（4）AfD 台頭とドイツ社会	要人の殺害やシナゴーグ襲撃など、ドイツにおける排外主義の高まりについて考える。
7	ドイツ語圏を知る（5）ドイツの選挙制度	似ているようで大きく異なる日独の選挙制度や政治システムの相違について考察する。
8	ドイツ語圏を知る（6）ドイツと日本の交流史を知る	1861 年に修好通商条約が締結されて間もなく 160 年となる日本とドイツの関係について学ぶ。
9	ドイツ語圏を知る（7）ドイツと EU 諸国との関係	戦後ドイツが諸外国とどのような関係を築いてきたのかを知る。
10	コロナ禍	コロナ禍について確認する。
11	受講者選定テーマ１	受講者選定テーマに即したテクストを用いる。 初級・中級文法の定着を図る。
12	受講者選定テーマ２	受講者選定テーマに即したテクストを用いる。リスニングの練習を加える。
13	受講者選定テーマ３	受講者選定テーマに即したテクストを用いる。 複雑な表現を学ぶことを加える。
14	このセメスターのまとめ	学んだことを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材資料は、学習支援システムで事前に配布しますので、適宜予習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、適宜、教材資料を学習支援システムで提示します。

【参考書】
中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003 年
辻朋季『もやもやを解消！ ドイツ語文法ドリル』三修社、2015 年

【成績評価の方法と基準】
授業での発言と参加 40 %、課題への取り組み 40 %、小テスト 20 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言する授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで教材資料の提示と課題の提出を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to make progress of German language skills acquired by staying and studying in Germany, in Austria or in Switzerland and so on. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read more complicated texts precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).
【Learning Objectives】
The goals of this course are to make progress of German language skills acquired by staying and studying in Germany, Austria, Switzerland or so, and to gain broad cultural understanding.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: contribution to each class meeting: 40%, short reports : 40%, examinations: 20%

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

Schmidt　Ute

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Alltagskultur im deutschen Sprachraum
ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。
この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいです。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut 等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】
1）中級以上のテキストを理解できる。
2）様々な領域の語彙を習得する。
3）基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
4）幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
　長所、短所を挙げることができる。
5）簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
6）簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Einstufung
	自己紹介	Selbsvorstellung
第 2 回	統計でみるドイツ語圏	Statistiken und Grafiken beschreiben
第 3 回	ドイツ語圏のイメージ	Bildbeschreibung
第 4 回	国と国民:典型的とは何か？	Was ist typisch?
第 5 回	ドイツ人と動物　1	Die Tierliebe der Deutschen
第 6 回	ドイツ人と動物　2	Tierschutz
第 7 回	音楽	Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第 8 回	映画	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第 9 回	食生活	Essen und Ernährung
第 10 回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第 11 回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第 12 回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第 13 回	年間行事と祭り　1	Traditionelle Feste Weihnachtenquiz
第 14 回	年間行事と祭り　2	Weihnachten in Deutschland und Neujahr in Japan - Feste von gestern?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】
教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での発言（50 %）と　宿題提出（50 %)）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation（50 %）and homework（50 %）

LANd300GA

【2022 年度休講】ドイツ語アプリケーション

国際文化学部　テスト用ダミー

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、に関連。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：
回　　テーマ　　内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

LANf100GA

フランス語コミュニケーションⅠ（臨時増コマ用）

コリンヌ　ヴァリエンヌ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語コミュニケーションの力を発展させるクラス。フランス語会話を日常生活の中で使えるように土台をつくる。　聞く、読む、話す、書くの四つの能力をまんべんなく鍛え、確実に学習事項を身につけられるように構成されているプログラムです。表現と、関連する文法の機能を体系的に理解する練習を行い、学習のごく早い段階からフランス語のコミュニケーションを可能にし、学習のモチベーションを与えたいと思います。

【到達目標】
The goal of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn basic knowledge which is necessary to speak French. At the end of the course, the students are expected to do the following :
improve comprehension and pronunciation in French
use basic grammar and vocabulary for oral communication
communicate in French about simple topics
and know more about French culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
担当する講師は日本人、ネイティブともに同じテキストを使う。日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を養う。発音の聴き取り、繰り返し、質疑応答などのさまざまな練習を通じてフランス語コミュニケーションの力を発展させる。"遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentations Révisions	自己紹介 復習
2	Unité 4 Leçon13 Les nombres L'heure, les jours La date	数字 時間、曜日 日付
3	Unité 4 Leçon14 Parler de professions Lieux de travail	職業に関して話す 職場
4	Unité 4 Leçon15 Actions dans le temps	スケジュール 日常の行為
5	Unité 4 Leçon15 Actions habituelles Le sport	毎日の行為 スポーツ
6	Unité 5 Leçon17 Habitudes alimentaires Quantités	飲食の習慣 量
7	Unité 5 Leçon18 Actions passées Examen de mi-trimestre	過去の行為 中間テスト
8	Unité 5 Leçon18 Exprimer une opinion	意見を述べる
9	Unité 5 Leçon19 Déplacements (passé)	移動　（過去）
10	Unité 5 Leçon19 Interroger sur le temps Activités de fêtes	時間についての質問 祭日のイベント
11	Unité 6 Leçon21 Permission Interdiction	許可 禁止
12	Unité 6 Leçon22 Possibilités Savoir-faire Volonté, obligation	可能性 能力 意士、義務
13	Unité 6 Leçon23 Faire des propositions	提案する
14	Examen de fin de trimestre	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
Nouveau Taxi 1 . Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal　旺文社

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】
冠詞や前置詞などをよりわかりやすく説明し、初歩の段階から苦手意識を持たず、楽しんで学習できるよう工夫をしたい。

【Outline (in English)】
This course is a conversation class of level A2 with the objective to develop ability to use French in many situations. We will train the four competences as comprehension, reading, speaking and writing but in class, we will emphasize on oral communication.
This course is the first step as part of the program which prepares the students for their study trip and stay in Angers (France).
Students will be expected to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

LANf100GA

フランス語コミュニケーションⅠ

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語コミュニケーションの力を発展させるクラス。フランス語会話を日常生活の中で使えるように土台をつくる。　聞く、読む、話す、書くの四つの能力をまんべんなく鍛え、確実に学習事項を身につけられるように構成されているプログラムです。表現と、関連する文法の機能を体系的に理解する練習を行い、学習のごく早い段階からフランス語のコミュニケーションを可能にし、学習のモチベーションを与えたいと思います。

【到達目標】
The goal of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn basic knowledge which is necessary to speak French. At the end of the course, the students are expected to do the following :
improve comprehension and pronunciation in French
use basic grammar and vocabulary for oral communication
communicate in French about simple topics
and know more about French culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
担当する講師は日本人、ネイティブともに同じテキストを使う。日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を養う。発音の聴き取り、繰り返し、質疑応答などのさまざまな練習を通じてフランス語コミュニケーションの力を発展させる。"遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentations Révisions	自己紹介 復習
2	Unité 4 Leçon13 Les nombres L'heure, les jours La date	数字 時間、曜日 日付
3	Unité 4 Leçon14 Parler de professions Lieux de travail	職業に関して話す 職場
4	Unité 4 Leçon15 Actions dans le temps	スケジュール 日常の行為
5	Unité 4 Leçon15 Actions habituelles Le sport	毎日の行為 スポーツ
6	Unité 5 Leçon17 Habitudes alimentaires Quantités	飲食の習慣 量
7	Unité 5 Leçon18 Actions passées Examen de mi-trimestre	過去の行為 中間テスト
8	Unité 5 Leçon18 Exprimer une opinion	意見を述べる
9	Unité 5 Leçon19 Déplacements (passé)	移動　（過去）
10	Unité 5 Leçon19 Interroger sur le temps Activités de fêtes	時間についての質問 祭日のイベント
11	Unité 6 Leçon21 Permission Interdiction	許可 禁止
12	Unité 6 Leçon22 Possibilités Savoir-faire Volonté, obligation	可能性 能力 意士、義務
13	Unité 6 Leçon23 Faire des propositions	提案する
14	Examen de fin de trimestre	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
Nouveau Taxi 1 . Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal　旺文社

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】
冠詞や前置詞などをよりわかりやすく説明し、初歩の段階から苦手意識を持たず、楽しんで学習できるよう工夫をしたい。

【Outline (in English)】
This course is a conversation class of level A2 with the objective to develop ability to use French in many situations. We will train the four competences as comprehension, reading, speaking and writing but in class, we will emphasize on oral communication.
This course is the first step as part of the program which prepares the students for their study trip and stay in Angers (France).
Students will be expected to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

LANf200GA

フランス語コミュニケーションⅡ

大中　一彌

配当年次／単位：2 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スタディ・アブロード・プログラムで予定されているアンジェ滞在にむけて、必要な語彙や表現を、音声や文字のかたちで使えるようにする授業です。教科書 Le Nouveau Taxi! 1 を中心に進めますが、インターネット上にあるフランス語圏の動画や記事も利用します。

【到達目標】
このコースが終わるまでに、学生の皆さんはつぎのことが最低限できるようになっているはずです：
1) 教科書で学んだ表現を耳で聞いたときに、その意味を理解することができるようになっている。
2) 教科書で学んだ表現を、フランス語で書くことができるようになっている。
3) 教科書で学んだ表現を、自分でも会話のなかで使うことができるようになっている。
4) 日常生活のさまざまな場面に関連する内容のテキストを読み、理解することができるようになっている。
5) 日常生活のさまざまな場面に関連する内容のテキストについて、感想を述べることができるようになっている。
6) 電子メールや簡単な手紙をフランス語で書くことができるようになっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
1. 4 名の教員によるチームティーチングであり、文法事項の説明は主に日本人教員が行なう。また会話の練習はネイティブ教員 2 名が行なう。
2. この授業では、フォネティックの知識にもとづく音声面での production（実際にある程度正確な発音で話したり読んだりできるか）と、automatisme（基本的な表現が自然にでてくるようにすること）を重視する。
3. このシラバスを執筆している 2022 年 1 月 31 日の時点では、2022 年 4-7 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、【授業計画 / Schedule】に「未定」が多くなっていますが、感染状況が落ち着いている限り、対面授業をおこないます。ただし、HyFlex や Zoom 録画を利用するなどして、欠席者にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方についての説明。	Leçon 23 の導入。学生ひとりひとりとのやりとり
2	Leçon 23	ものごとを提案する。提案を受け入れる／断る。
3	Savoir-faire	Unité 2 のふりかえり。Leçon 25 の導入。
4	Leçon 25	好き嫌いについて述べる。頻度（ひんど）や程度の表現。
5	Leçon 26	賛成や反対といった意見をいう。「なんだよそれ違うよ」と異議を唱えるときの、異議の唱えかた。
6	Leçon 27	フランス人にとって最も重要な話題のひとつであるヴァカンスについての話し方。代名動詞に慣れる。
7	Savoir-faire	Unité 7 のふりかえり。Leçon 29 の導入。
8	Leçon 29	あまり遠くない過去や、遠い過去といった、過去のニュアンスを理解する。現代フランスのポップミュージックについて少しかじる。
9	Leçon 30	ラジオのニュースを聞き、自動車事故などの報道でつかわれる表現に慣れる。
10	Leçon 31	フランス人にとって最も重要な話題のひとつである恋についての話し方。その恋がいつのことだったのかについても言えるようにする。
11	Savoir-faire	Unité 8 のふりかえり。Leçon 33 の導入。
12	Leçon 33	天気予報でつかわれる表現を学ぶ。未来のことがいえるようになる。
13	Leçon 34	ふたたびヴァカンスの過ごし方の話をする。
14	Leçon 35 &　期末テスト	大きな買い物をするときの話をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) 教科書にでてきた重要な文は、毎回の授業後、繰り返して発音し、自分のものにしてください。
2) 大学設置基準によると、講義や演習で 2 単位を得るのに必要な予習・復習の時間は 1 回につき 4 時間以上とされているそうです。この基準にしたがうなら、あなたがこの演習の予習や復習にかける時間は、1 日あたり 35 分程度以上となります。

【テキスト（教科書）】
Guy Capelle & Robert Menand, Le Nouveau taxi! 1 Méthode de français, 2009, Hachette.

【参考書】
文法参考書として久松健一『ケータイ［万能］フランス語文法』駿河台出版社、2000 年、を入手してください URL https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00476-5
仏和辞典は、小学館ロベール仏和大辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。« JapanKnowledge »　からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧には VPN 接続が必要です

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %
授業内活動（小テスト等を含む）　40 %
テスト 30%

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり話すよう努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有やテスト、オンライン授業となった場合のコミュニケーションの際に、Google Classroom や Hoppii、Zoom を使うため、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器が必要です。また、学外から接続する場合は、こうした機器やサービスを利用するうえで、十分な情報環境が必要です。

【その他の重要事項】
1. 受け身で授業にいるのではなく、できるだけ積極的に授業に参加しましょう。
2. 使えるフランス語に近づくために、「時事フランス語Ⅰ」や「時事フランス語Ⅱ」の履修をご検討ください。「フランス語コミュニケーションⅡ」よりは、むしろやさしい内容となっています。

【Outline (in English)】
This intermediate French course includes mainly oral production based on phonetic knowledge. Class meets four times a week. Students will prepare to study abroad in Angers, France (fall semester, 2022).
［Learning Objectives］
By the end of this course, students should be able to do the following at a minimum
1) You have learned to understand the meaning of the expressions in the textbook when you hear them.
2) You have been able to write the expressions you have learned in the textbook in French.
3) You have learned how to use the expressions in the textbook in your own conversations.
4) You will know how to read and understand sentences related to various situations in daily life.
5) You are expected to be able to express your opinions on texts related to various aspects of daily life.
6) You have been able to write emails and simple letters in French.
［Learning Activities outside of Classroom］
1) Please repeat and pronounce the important sentences in the textbook after each class to make them your own.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the amount of preparation and revision time required to earn two credits for a lecture or seminar is at least four hours per session. If you follow this standard, the time you will spend on preparation and review for this exercise should be at least 35 minutes per day.
［Grading Criteria］
Your overall grade in the class will be decided on the following:
1) Attendance 30%
2) In-class activities (including quizzes) 40%
3) Tests 30%

LANf200GA

フランス語コミュニケーションⅢ

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス・アンジェへ行く前の直前準備講座。日常生活の中で、フランス語での中コミュニケーションがもっと細かくできるようにレベルアップさせる練習を行う。
さらに基礎文法を固め、必須な語彙を増やし、フランス語のスキルを高める。
練習問題は多くの場合はペアで行うように学習者同士のコミュニケーションが促される仕組みになっているプログラムです。

【到達目標】
The main priority of this class will be the strengthening and brushing up of the speaking ability.
Like last year, the students will learn to deal with facts and actions through everyday situations.
At the end of the course, the students are expected to do the following : improve oral comprehension and speaking ability in French, use any further oral French in concrete situations and have more knowledge about French custom and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
前年度と同じテキストを使い、基本的に同様の教え方を行う。フランスで暮らせる目的を固めながら、フランス語でネイティブとコミュニケーションを取るように会話の能力を強める。それぞれの日常生活の状況に関係がある様々な会話パターンを覚え、反応及び会話のスピードを高める練習も行う。
"遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する"。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Révisions (pronoms) Unité 6 Leçon 24 p72 Un entretien	復習　代名詞 面接のための助言
2	Unité 7 Leçon 25 p79 Exprimer ses goûts et ses préférences Exprimer l'intensité	趣味,　好み 程度
3	Unité 7 Leçon 25 p78 Activités loisirs faire / jouer Pronoms "en" et "y" Fréquence	休暇の行為（復習） en / y 代名詞 行為の頻度
4	Unité 7 Leçon 27 p83 Expression des goûts. (adjectifs)	好みについて評価 形容詞
5	Unité 7 Leçon 26 p81 Donner une opinion Contester	意見 異議を述べる
6	Unité 7 Leçon 27 p83 Donner des conseils	助言 アドバイス
7	Unité 7 Leçon 27・28 p84 Les vacances habituelles ou passées (présent/passé composé) Test mi-trimestre	バカンス (現在と過去） 中間テスト
8	Unité 8 Leçon 29 p89 Evènement récents Etats et habitudes passés	近未来の出来事 過去の習慣　(半過去)
9	Unité 8 Leçon 30 p91 Evènements passés、 Circonstances et états passés	過去の出来事、 過去の状況・状態
10	Unité 8 Leçon 31 p93 Situer dans le temps Le but	時間の表現 目的
11	Unité 9 Leçon 33 p99 Prévisions (météo) Probabilité Certitude	天気予報 可能性
12	Unité 9 Leçon 34 p101 Expression du futur Projets	未来 計画
13	Unité 9 Leçon 35 p103 Hypothèse Condition	仮定 条件
14	Test de fin de trimestre	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
Le Nouveau Taxi 1. Guy Capelle / Robert Menand
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination : 50 %,
Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】
具体的なシチュエーションのなかで、より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【Outline (in English)】
This course is a part of the second step program which prepares students for their study trip and stay in Angers (France). We will review and go further in the program in order to develop more oral skill in French. We will do many different kinds of exercises to reinforce basic grammar, increase vocabulary and learn more about French culture.
Students will be expected to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination : 50 %,
Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des “kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests - Découverte de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 4 : Date limite de consommation (1)	pp.59-60 & p.62 : la France vue par les étrangers ; expression de l'opinion
3	Unité 4 : Date limite de consommation (2)	p.61 & pp.63-65 : mode et consommation ; expression de l'opinion (suite)
4	Unité 4 : Date limite de consommation (3)	pp.66-68 : l'économie de partage ; comparatif et superlatif
5	Unité 4 : Date limite de consommation (4)	pp.69-73 : place de l'adjectif ; la consommation collaborative
6	Unité 5 : Le français dans le monde (1)	pp.75-78 : la langue française ; le plus-que-parfait
7	Unité 5 : Le français dans le monde (2)	pp.78-82 : évolution du français ; pronoms en & y ; la double pronominalisation
8	Unité 5 : Le français dans le monde (3)	pp.83-87 : les francophones ; indicateurs de temps ; TEST INTERMEDIAIRE
9	Unité 6 : Médias en masse (1)	pp.91-94 : l'ère numérique ; la nominalisation de la phrase verbale
10	Unité 6 : Médias en masse (2)	pp.95-98 : journalisme et médias sociaux ; le passif
11	Unité 6 : Médias en masse (3)	pp.99-103 : presse et fausses informations ; les adverbes de manière
12	Unité 7 : Et si on partait ? (1)	pp.107-111 : bien voyager ; le futur
13	Unité 7 : Et si on partait ? (2)	pp.112-114 : préparer ses vacances ; la condition, l'hypothèse
14	Unité 7 : Et si on partait ? (3)	p.116 & p.119 : voyages et assurances ; le conditionnel passé ; TEST FINAL ; Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).
予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各２時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests : 30%
Travaux personnels (devoirs, exposés...) : 40%

【学生の意見等からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se déroule en salle LL (avec Internet, CD, DVD, VHS, OHC) mais les étudiants peuvent y apporter leur PC ou portable pour enregistrement ou recherches liés au cours.

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points, theme-related paper or presentation).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to four hours.
Grading criteria are as follows: in class contribution (30%), tests (30%), assigned papers & presentations (40%).

LANf300GA

フランス語アプリケーション

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unité 8 : La planète en héritage (1)	Consignes pour ce second semestre ; pp.123-125 : livres et papiers recyclés
2	Unité 8 : La planète en héritage (2)	pp.125-129 : verbes et adjectifs suivis de prépositions ; le recyclage
3	Unité 8 : La planète en héritage (3)	pp.130-133 : le gérondif ; la ville écologique
4	Unité 8 : La planète en héritage (4)	pp.134-136 : l'ordre du discours ; solutions pour l'environnement
5	Unité 9 : Un tour en ville (1)	pp.139-143 : actions écologiques citoyennes ; le discours rapporté
6	Unité 9 : Un tour en ville (2)	pp.144-147 : propreté et bien-être en ville ; l'interrogation
7	Unité 9 : Un tour en ville (3)	pp.148-151 : l'art urbain ; les indéfinis (la quantité) ; TEST INTERMÉDIAIRE
8	Unité 10 : Soif d'apprendre (1)	pp.155-159 : les études en France ; la cause et la conséquence
9	Unité 10 : Soif d'apprendre (2)	pp.160-163 : les études ; le participe présent
10	Unité 10 : Soif d'apprendre (3)	pp.164-167 : wikipedia et les connaissances ; les pronoms relatifs composés
11	Unité 11 : du sport (1)	pp.171-175 : temps libre et loisirs ; les doubles pronoms
12	Unité 11 : du sport (2)	pp.177-183 : santé et sport ; la mise en relief ; le futur antérieur
13	Unité 12 : cultiver les talents (1)	pp.187-191 & p.198 : lecture et littérature ; l'opposition et la concession ; le passé simple
14	Unité 12 : cultiver les talents (2)	pp.192-197 & p.199 : arts et artistes ; les indicateurs de temps ; TEST FINAL ; suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).
予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各２時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
Participation active en classe : 30%
Tests : 30%
Travaux personnels (devoirs, exposés...) : 40%

【学生の意見等からの気づき】
Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】
Le cours se déroule en salle LL (avec Internet, CD, DVD, VHS, OHC) mais les étudiants peuvent y apporter leur PC ou portable pour enregistrement ou recherches liés au cours.

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

【Prerequisite】
Un bon niveau de français (A2 au minimum) est nécessaire pour participer à ce cours.

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students (A2/B1 level in French). Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points, theme-related paper or presentation).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to four hours.
Grading criteria are as follows: in class contribution (30%), tests (30%), assigned papers & presentations (40%).

LANf300GA

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】
The goals of this course are as follows :
A.Develop oral (mainly) capacity in French language at intermediate level.
B.Know how to use French in concrete situations of everyday life.
C.Learn more about France and French customs.
This course can also help you to prepare exams as DAPF Jun 2Kyu or DELF A2 / B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.
S'il y a des modications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications sur le programme du cours L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. (Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
②	L2 p12 Passer une commande Prépositions “à”“de" Conditionnel+bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom ”de”	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Test de mi-trimestre	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Test final	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】
Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】
CD

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434393 5.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (A2/B1).Son programme est la suite du cours « Application » de la session de printemps. A travers différents types d'exercices, les compétences de compréhension et de production à l'oral seront aiguisées afin de renforcer le niveau de communication et d'expression non seulement orale mais aussi écrite. Les thèmes étudiés à ce niveau permettront de compléter et même d'élargir encore davantage vos connaissances sur la culture française.

【到達目標】
The goals of this course are as follows :
A.Improve oral (mainly) capacity in French language at intermediate level.
B.Develop any further communication skill in order to use it more precisely in situations.
C. Know more about specific aspects of French culture.
This course can also help you to prepare exams as DAPF 2kyu/Jun 1kyu or DELF B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.
S'il y a des modications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction L17 1.A l'université p66 2.La recherche p68	Présentation du cours et de la méthode. Présent et le futur immédiat Subjonctif
②	L18 Téléphoner p72	Pronoms compléments +verbes semi-auxiliaires Doubles pronoms
③	L21 1.Donner des instructions p86 2.Au bureau p88	Impératif + pronoms Expression de l'ordre
④	L22 Insister p90	Dont trop / assez Hypothèses improbables “si”
⑤	L24 3.Dans un magasin d'informatique p98	Imparfait / passé composé Opposition
⑥	L27 Vérifier, contrôler p110	Indicatif ou subjonctif à la négation
⑦	Révisions	Test de mi-trimestre
⑧	L32 Proposer p134	Expression du but (infinitif /subjonctif)
⑨	L33 Inviter p138	Conditionnel passé employé seul.
⑩	L35 Exprimer la surprise p148	Futur antérieur La probabilité
⑪	L36 Regretter,reprocher p152	Plus-que-parfait /conditionnel passé Concordance des temps
⑫	L37 6.Une véritable vocation p162	Ce qui, ce que, ce dont
⑬	L42 Intentions et espoirs p182 Révisions	Gérondif Prépositions Test final
⑭	Correction du test Culture	Culture francaise

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】
Je simplifierai les tâches d'écriture se rapportant aux devoirs.

【学生が準備すべき機器他】
Les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou smartphone (recherches internet, enregistrement de son ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】
Ce cours se déroule en classe (présenciel) mais quelques séances pourront encore être données en distanciel ("online").

【Prerequisite】
Avoir fait deux ans de français.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French for intermediate level (A2/B1). The program is the prolongation of the “Application”course of the spring term.
Through many kinds of drills (listening, ask and answer questions, reading, writing),we will sharpen the comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.
The different topics studied in class will also give many opportunities to widen your knowledge about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % ,
and in class contribution 10 %.

LANr100GA

ロシア語コミュニケーションⅠ

エレーナ　三神

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる会話表現の習得を目標とする授業です。ロシア語の発音とイントネーションに慣れることから始め、挨拶、受け答えの基礎から徐々に語彙を増やしていき、最小限の日常行動が可能となるような会話の基礎を作ります。また、講師との対話（会話）を通して、現地事情を感じてもらえるような授業を目指します。

【到達目標】
簡単なロシア語の質問を正しく理解し、答えることができる。簡単な言葉で自分のことを表現できる。文章を正確に読むことができる。
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Understand and answer simple Russian questions correctly.
- Can express him/herself in simple words.
- Can read sentences accurately.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
定型的なフレーズの音読練習、暗記、場面での応用で実践的に覚えます。授業では発音・イントネーションの練習、場面設定でのロールプレイなどを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	挨拶の基本	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
2	自己紹介、職業	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
3	出身の話	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
4	家族の話	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
5	趣味や外見	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
6	自己紹介の総合復習	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
7	一日の流れ	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
8	私の一日	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
9	趣味	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
10	食べ物・飲み物	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
11	私の食卓	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
12	街歩き	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
13	道の案内	発音とイントネーションの練習。授業のテーマに関する表現を学ぶ。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に毎回学習支援システムに提出する宿題が出ます。
本授業の準備学習・復習時間は１時間を標準とします。
Students will be expected to have completed the required homework after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布します。
学習支援システムにて授業に使う PDF プリント及び音声データをダウンロードできます。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50 %、平常点（小テスト、宿題、授業への取り組み）50 %
Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】
口述試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、インターネット環境

【その他の重要事項】
実際の授業状況や学生の能力に応じて授業スケジュールが変更できます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn conversational expressions used in everyday life. This course deals with Russian pronunciation and intonation, basic conversational phrases and expanding Russian vocabulary for everyday activities. Students will practice Russian conversation with Russian native speaker teacher.
As a learning activity outside of classroom students will be expected to have completed the homework after each class meeting. Your study time will about one hour for a class.
Grading Criteria: term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr200GA

ロシア語コミュニケーションⅡ

エレーナ　三神

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1 年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返し行います。

【到達目標】
ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- To acquire the vocabulary necessary for studying and living in Russia.
- Understand questions in Russian accurately and answer them appropriately.
- To be able to express one's thoughts in Russian.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
テーマごとに必要な語彙や構文を習い、それらを使う会話練習を行います。その他にリスニング、通訳、シャドーイング、会話実践のペアーワークなどの練習を行います。
会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介（復習）	リスニング、会話練習
2	家	リスニング、会話練習
3	部屋	リスニング、会話練習
4	特徴、色	リスニング、会話練習
5	食べ物、飲み物	リスニング、会話練習
6	レストラン	リスニング、会話練習
7	洋服	リスニング、会話練習
8	１日の流れ	リスニング、会話練習
9	希望、可否、義務	リスニング、会話練習
10	週のスケジュール	リスニング、会話練習
11	交通	リスニング、会話練習
12	移動の表現：まとめ	リスニング、会話練習
13	天気、気候	リスニング、会話練習
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に扱った表現・単語の復習、作文又は聴解宿題が毎回あります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。
授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Students will be expected to have completed the homework after each class meeting.　It helps students to review expressions and vocabulary covered in class.　The homework may include writing and listening comprehension tasks.　The study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50 %、平常点（宿題、小テスト、授業への取り組み）50 %
Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】
口述試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】
実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は多少変更できます。

【Outline (in English)】
The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, to give students the communication skills necessary for a successful study abroad.
As a learning activity outside of classroom students will be expected to have completed the homework after class meeting. It helps students to review expressions and vocabulary covered in class.　The homework may include writing and listening comprehension tasks. Your study time will about one hour for a class.
Grading Criteria:　term-end examination:　50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr200GA

ロシア語コミュニケーションⅢ

エレーナ　三神

配当年次／単位：2 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現地学習に備え、必要な会話力習得を目的とする授業です。1 年次に学習したことを基に、また、会話表現に必要な事項を補いつつコミュニケーション力をつける練習を繰り返し行います。

【到達目標】
ロシアで学習、生活する上で必要な語彙を習得すること。ロシア語での質問を正確に理解し、それに適切に答えられること。自分の考えをロシア語で表現できること。
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- To acquire the vocabulary necessary for studying and living in Russia.
- Understand questions in Russian accurately and answer them appropriately.
- To be able to express one's thoughts in Russian.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
テーマごとに必要な語彙や構文を習い、それらを使う会話練習を行います。その他にリスニング、通訳、シャドーイング、会話実践のペアーワークなどの練習を行います。
会話を中心とした授業なので、積極的に授業に参加していただきたい。誤りを恐れずに発言することが語学上達につながります。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国、出身	会話・リスニング練習
2	好きなこと	会話・リスニング練習
3	ホテル	会話・リスニング練習
4	人柄	会話・リスニング練習
5	世界の朝食	会話・リスニング練習
6	ロシア料理	会話・リスニング練習
7	私の一日	会話・リスニング練習
8	人の外見	会話・リスニング練習
9	できること	会話・リスニング練習
10	いつも通うところ	会話・リスニング練習
11	交通ルート	会話・リスニング練習
12	移動の表現	会話・リスニング練習
13	病院	会話・リスニング練習
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に扱った表現・単語の復習、作文又は聴解宿題が毎回あります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。
授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
Students will be expected to have completed the homework after each class meeting.　It helps students to review expressions and vocabulary covered in class.　The homework may include writing and listening comprehension tasks.　The study time will be about one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題、小テスト、授業への取り組み）50%、期末試験 50%
Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】
口述試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】
実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は多少変更できます。

【Outline (in English)】
The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, to give students the communication skills necessary for a successful study abroad.
As a learning activity outside of classroom students will be expected to have completed the homework after each class meeting.　It helps students to review expressions and vocabulary covered in class.　The homework may include writing and listening comprehension tasks.Your study time will about one hour for a class.
Grading Criteria:　term-end examination:　50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤　千登勢

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでで培ってきたロシア語の文法と読解の力を向上させ、ロシア語で多様な情報や知識を得る楽しみを分かち合いましょう。文法問題と読解を積み重ねていくことで、学生のみなさんが検定試験（ロシア語能力検定試験とＴＰＫИ）の第１レベルを目指せるようにします。

【到達目標】
ロシア語能力検定試験、あるいはロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ＴＰＫИ）の学生各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
文法と読解に重点をおきます。ロシア語能力検定試験やＴＰＫИの練習問題、さらにロシアの文化や慣習、社会をテーマとしたテクストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握する練習を積み重ねていきます。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。使用教材の確認。
第 2 回	ロシア芸術に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの文法問題（形容詞・動詞）、読解（ロシア美術館について）。
第 3 回	ロシアの学者に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの文法問題（形容詞・名詞の格変化）、読解（メンデレーエフについて）。
第 4 回	ロシアの自然に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの文法問題（動詞の時制）、読解（バイカル湖について）。
第 5 回	ロシア社会に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの読解（現代社会で働くロシア女性について）。
第 6 回	ロシア芸術に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの読解（画家グラーバリのチャイコフスキーとの出会いについて）。
第 7 回	ロシアの都市に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの文法問題（形容詞と名詞の格変化）、読解（サンクトペテルブルクについて）。
第 8 回	ロシアの大学に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（モスクワ大学の歴史と現在）。
第 9 回	ロシアの大学に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（モスクワ大学の歴史と現在）の続き。
第 10 回	ロシアの国旗に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（ロシア国旗の歴史）。
第 11 回	ロシアの国旗に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（ロシア国旗の歴史）の続き。
第 12 回	ロシアの国旗に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（ロシア国旗の歴史）の続きと確認。
第 13 回	ロシアの祝日に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（現代ロシアの祝日に関する概説／マロース爺さんと雪娘について）。
第 14 回	ロシアの祝日に関するテクストの読解と解説	ＴＰＫИ第１レベルの長文読解（現代ロシアの新年の祝い方）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア語能力検定試験やＴＰＫИの過去問題の課題、長文読解の予習に、１回につき 1.5 時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付もしはくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 80 %、小テスト 20 %とし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテクスト選びを心がけました。授業もテンポよく、しかし丁寧に進めたいと思います。

【Outline (in English)】
● Course outline
The aim of this course is to maintain and improve Russian grammar and reading comprehension in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading texts in Russian. The level of this course is A2 (CEFR).
● Learning Objectives
Students aim to pass the level targeted by each of you of the Russian Language Proficiency Test or the Test of Russian as a Foreign Language(TORFL) certified by the Ministry of Education and Science of the Russian Federation.
● Learning activities outside of classroom
It takes about 1.5 hours each time to prepare for the Russian language proficiency test, past questions of TORFL, and reading comprehension.
● Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80 %) and quizzes(20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア映画を３編とりあげ、その作品に関する文章をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。読解力、聴解力を身につけます。読解についてはＴＲＫИ第１レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアの日常や慣習、歴史について知識を得ることができるでしょう。

【到達目標】
読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア映画の作品論・作品概要をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、ＴＲＫИ第１レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や歴史に関する知識を獲得できるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ロシア映画の３つの作品に関する資料を講読します。みなさんの予習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明を丁寧におこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を少しずつ鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。資料配付。
第 2 回	映画　Ｂойна и мир:Андрей Болконский について	Ｂойна и мир:Андрей Болконский の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画を鑑賞。
第 3 回	映画　Ｂойна и мир:Андрей Болконский について	Ｂойна и мир:Андрей Болконский の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第 4 回	映画　Ｂойна и мир:Андрей Болконский について	Ｂойна и мир:Андрей Болконский の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第 5 回	映画　Ｂойна и мир:Наташа Ростова について	映画　Ｂойна и мир:Наташа Ростоваの内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第 6 回	映画　Ｂойна и мир:Наташа Ростова について	映画　Ｂойна и мир:Наташа Ростоваの内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第 7 回	映画　Ｂойна и мир:1812 について	映画　Ｂойна и мир:1812 の内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第 8 回	映画　Ｂойна и мир:1812 について	映画　Ｂойна и мир:1812 の内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第 9 回	映画　Ｂойна и мир:Пьер Безуховについて	映画　Ｂойна и мир:Пьер Безуховの内容、鑑賞ポイントについて読解。映画の続きを鑑賞。
第 10 回	映画　Ｂойна и мир:Пьер Безуховについて	映画　Ｂойна и мир:Пьер Безуховの内容、鑑賞ポイントについて読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第 11 回	映画Папа, сдохниについて	映画Папа, сдохниの内容、反響について読解。映画を鑑賞。
第 12 回	映画Папа, сдохниについて	映画Папа, сдохниの内容、反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第 13 回	映画Салют-7 について	映画Салют-7 の内容、反響について読解。映画を鑑賞。
第 14 回	映画Салют-7 について	映画Салют-7 の内容、反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア映画の作品に関するテクスト読解の予習に、１回につき 1.5 時間程度が必要となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 80 %、小テスト 20 %とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。

【Outline (in English)】
● Course outline
We will pick up three Russian films, read the text about the film in Russian, and partially watch the film by confirming this. Acquire reading comprehension and listening comprehension. You will be able to gain knowledge about Russian daily life, customs and history.
● Learning Objectives
Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and history.
● Learning activities outside of classroom
It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.
● Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80 %)　and quizzes(20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc100GA

中国語コミュニケーションⅠ

ショウ　イクテイ

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音及び基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を習得する。

【到達目標】
中国語コミュニケーションに必要不可欠な発音と基礎的な文法に関する知識と技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
発音及び読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。
課題などへのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	会話と授業に関する説明	中国語会話の練習と授業に関する注意事項の説明
②	第１課	名詞の前に置く “的”、動詞の前に置く “地”、助動詞 “要”、連動文
③	第１課	第 1 課のチャレンジ・スキット
④	第２課	動態助詞の “了”、語気助詞の “了”、語気助詞の “吗” と “吧”
⑤	第２課	第 2 課のチャレンジ・スキット
⑥	第３課	経験・経過を表すす “过”、“怎么” の 2 つの用法、副詞 “才” の用法
⑦	第３課	第 3 課のチャレンジ・スキット
⑧	第４課	動作の進行、動作・状態の持続を表す “着”、動作を行う時間の長さ・動作の回数、“因为～所以…”
⑨	第４課	第 4 課のチャレンジ・スキット
⑩	第５課	近い未来 “要～了”・“快～了”、反語の表現、副詞 “就” の用法、“要是～就…”
⑪	第５課	第 5 課のチャレンジ・スキット
⑫	第６課	結果補語、感嘆文、副詞 “还” の用法、“虽然～但是…”
⑬	第６課	第 6 課のチャレンジ・スキット
⑭	復習、試験、まとめ	ここまで習った内容を復習、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語とポイントをしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。
・毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
本間史・孟広学著　『2 年めの中国語ポイント 45』　白水社

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を行うために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
Master the basic knowledge of Chinese pronunciation and fundamental grammatical matter while learning the necessary knowledge for Chinese communication.
Be sure to review and prepare before going to class. Make sure to remember the new words and points of each lesson and check if you understand them.
Practice pronunciation while listening to the text CD for at least 20 minutes each day.
Comprehensive evaluation based on 50% of the final test and 50% of normal points (learning attitude, learning motivation, submission of assignments and quizzes, completeness, etc.). Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LANc200GA

中国語コミュニケーションⅡ

薬　会

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語によるコミュニケーション（会話と作文）の能力を向上させます。

【到達目標】
初級後段階中級前段階の作文能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、発音を練習するための漢詩などの暗誦を確認し、既習の語彙・文法知識に基づく作文を講義し、または課題として提出してもらう場合もあります。さらに「聴く」と「話す」の能力向上を目的とする聞き取りの小テストを行ないます。課題や小テストなどのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数字・量詞の文	・時間とお金 ・「二」と「両」の使い分け ・唐詩などの暗誦
2	断定・否定の文	・「是」構文と動詞・形容詞構文 ・「不」と「没有」の使い分け ・唐詩などの暗誦
3	疑問文	・普通疑問文と反復疑問文 ・疑問詞と疑問文 ・唐詩などの暗誦
4	連体・連用修飾を含む文	・「的」「地」「得」 ・副詞と形容詞 ・唐詩などの暗誦
5	「把」を使用した文	・「把」構文 ・唐詩などの暗誦
6	受け身文	・「被」「叫」「譲」など ・唐詩などの暗誦
7	使役文・兼語文・連動文	・「叫」「譲」「去」など ・唐詩などの暗誦
8	存現文	・「在」「有」「動詞＋着」 ・唐詩などの暗誦
9	比較の文	・「比」「一様」など ・唐詩などの暗誦
10	介詞を使用した文	・「従」「离」「在」「跟」「為了」など ・唐詩などの暗誦
11	助動詞の文	・「会」「能」「可以」など ・唐詩などの暗誦
12	テンス・アスペクト	・「了」「着」「過」 ・唐詩などの暗誦
13	補語の文	・程度､方向、結果、数量、可能補語 ・唐詩などの暗誦
14	試験・まとめ	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①　この授業が始まるまでに『ポイント学習初級中国語』（東方書店）の内容を復習し、また毎回必ず教室に持参してください。
②　教室へ来る前に、必ず前週までに習った内容や授業中に使用したプリントを確認し、事前に暗誦などができるように練習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 30 分間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
『ポイント学習初級中国語』（東方書店）。また、出版社は指定しませんが、各自自分の使い慣れた日中、中日辞典を持参してください。

【成績評価の方法と基準】
課題の完成度などの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
予習や復習の状況を把握する面で改善する必要があります

【Outline (in English)】
The purpose of this Chinese course is to improve the ability of Chinese expression.
Before class, be sure to review what you have learned previously and prepare the sentences that the teacher will ask you to recite. Each lesson requires 30 minutes each for pre-reading and review
Grading will be based on 40% on the quiz and 60% on the final exam.

LANc200GA

中国語コミュニケーションⅢ

ショウ　イクテイ

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一年次の既習内容に引き続き、更に基礎を固め、読解力や表現力などのスキルアップにつないでいくことを目的とする。

【到達目標】
一年次に習った内容を軸に、留学に必要な音読・訳読がこなせる。
コミュニケーションを取れるスキルがアップできる。
表現力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
教科書に沿って、履修者のレベルを確認の上、内容への理解をチェックしながら、効果的に授業を進めていく。
課題などへのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	解説と復習	春学期の学習内容の復習
②	第７課	様態補語、比較の表現、形容詞の重ね型、“不但～而且…”
③	第７課	第 7 課のチャレンジ・スキット
④	第８課	“～得了” ／ “～不了” の可能補語、兼語文、“不是～而是…”
⑤	第８課	第 8 課のチャレンジ・スキット
⑥	第９課	“把” 構文、受身の表現、副詞 “再” と “又”、“只要～就…”
⑦	第９課	第 9 課のチャレンジ・スキット
⑧	第１０課	可能補語、“是～的” の構文、“只有～才…”
⑨	第１０課	第 10 課のチャレンジ・スキット
⑩	第１１課	“～得了” ／ “～不了” の可能補語、兼語文、“不是～而是…”
⑪	第１１課	第 11 課のチャレンジ・スキット
⑫	第１２課	存現文、同じ疑問詞の呼応、“不管～都…”
⑬	第１２課	第 12 課のチャレンジ・スキット
⑭	復習、まとめ、試験	第 7 課～第 12 課の復習と試験、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出るまでに必ず復習と予習をしてくること。各課の新出単語と文法をしっかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
『2 年めの中国語ポイント 45』
著者：本間史・孟広学　白水社

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を目指すために、前年度の授業アンケートの学生の意見や要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
Following the contents of the previous course of the first year, we aim to further strengthen the foundation and link up skills such as reading ability and expressiveness.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅠ

曽　士才

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書やネットを使用しながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
新華社のニュースサイトや中央電視台ニュースアプリなど各種サイトが提供する報道記事を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。
課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板や授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、論説文の基礎①	授業の進め方の説明、教材配布。『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第 1 課
第 2 回	論説文の基礎②	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第 2 課、第 3 課
第 3 回	論説文の基礎③	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第 4 課、第 5 課
第 4 回	論説文の基礎④	『論説体中国語読解力養成講座』第Ⅱ部論説体解析講座の第 6 課、第 7 課
第 5 回	プリント 1 ①	政治・経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント 1 ②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント 1 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント 2 ①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント 2 ②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント 2 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント 3 ①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント 3 ②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント 3 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 14 回	読解力テストと講評	読解力テストの実施とテスト後の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
三潴正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳し、第 2 回から第 4 回までの授業に備える、また、プリント教材（報道記事など）を読み、翻訳し、第 5 回から第 13 回までの授業に備えておく。本授業の準備・復習時間は、各 1〜2 時間程度。

【テキスト（教科書）】
プリント教材。

【参考書】
三潴正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010 年

【成績評価の方法と基準】
第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題の翻訳（20 %）と学期末に実施する読解力テスト（80 %）で達成度を判定する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Chinese Application Ⅰ〜Ⅳ are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application Ⅰ〜Ⅳ is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.
We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.
【Learning Objectives】
At the end of the course, participants should be able to efficiently read news articles and critiques using dictionaries and the Internet.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, participants will be expected to translate exercises for reading comprehension（in the 2nd to 4th classes）、to read and translate specified news articles （in the 5th to 13th classes）. Your study time will be one or two hours.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Translation of basic exercises (20%) and reading comprehension test conducted at the end of the semester (80%)
.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

ショウ　イクテイ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
(2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
(3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が自分の書いた文を発表する機会も設ける。
・教員は練習問題の添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	作文と授業に関する説明	中国語作文の形式と授業に関する注意事項の説明
2	第 1 課	連体修飾構造の作り方 “的” が必要ない時 R42、数量構造、動詞目的語構造、介詞構造、名詞の場所化 R03、大事な補語
3	第 2 課	動詞述語文、形容詞述語文、“是” を用いる文、存現文 R26、二重目的語、比較を表す文型、兼語文 R19
4	第 3 課	ある・いる　-　R01 「…する〜がある・ない」の訳し方　R31、 お飾りの “很”　-　R02
5	第 4 課	“吗” がいるとき　いらないとき　-　R03、「行きませんか」は「行きましょう」-　R04、「何か」「どこか」「だれか」の訳し方 R27、「… (の) ではないか」の対応
6	第 5 課	「何の映画？」と「なんて映画だ！」-　R06、“什么” を用いた不満の決まり文句、「疑問詞＋でも」R34、反語文
7	第 6 課	動詞はどうした？　R14 「サングラスの男」はサングラスをかけている　R18
8	第 7 課	よく現れる “来” と “去”　R11、「動目」構造の動詞はとれない目的語　R23、 「…に行く」の訳し方
9	第 8 課	「思う」あれこれ　R41、 動詞の重ね型　-　R07、 重ね型を作れない動詞
10	第 9 課	文脈に隠れた代名詞をさがせ　R02、 「这么」「那么」がいる　こんな場合あんなとき　R28
11	第 10 課	中国語では現れる副詞 “就”　R05、“才” は「やっと」現れる　R09
12	第 11 課	例外なしは “都” で　R06、「だけ」にあたる “只” の位置　-　R08、 「も」にあたる “也” の位置　-　R09
13	第 12 課	「また」もう一度　“再” “又”“还” -　R10、 ちょっと待って　“再” の出番はこれからだ　R21
14	復習、試験、まとめ	ここまで習った内容を復習、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、テキストの予習/復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相原茂著『作文ルール 66』ー日中翻訳技法ー　　朝日出版社

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline (in English)】
Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the writing skill. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.
After the class starts, thoroughly prepare / review the textbook to establish the learning content.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Comprehensive evaluation based on 50% of the final test and 50% of normal points (learning attitude, learning motivation, submission of assignments and quizzes, completeness, etc.). Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周　重雷

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである：
1、正確な発音で中国語を話す。
2、日常会話を流暢に話す。
3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。
We should achieve to these levels:
1,talk the Chinese language by accurate pronunciation.
2,talk the daily conversation well.
3,achive the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
4、総括する。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第 2 回	文章の読解・日常用語（1）	1、短い文章を読み、文法の基本を確認する。 2、簡単な日常会話を練習する
第 3 回	文章の朗読・日常用語（2）	1、会話文を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第 4 回	会話パターン（1） ものの尋ね方	現地で使用する会話パターンをチェックする
第 5 回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第 6 回	会話パターン（2） イベント	友達と交流する会話パターンをチェックする
第 7 回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第 8 回	実力テスト	HSK 問題を解く
第 9 回	解説	HSK 問題の解説を行う
第 10 回	会話パターン（3） 面接	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する
第 11 回	授業内発表（3）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第 12 回	会話パターン（4） スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第 13 回	授業内発表（4）	スピーチの個人発表をする
第 14 回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備時間は２時間を標準とします。
また作文の課題も２回ほど課される。
Prepare for the conversation and exercise enough. We should do the preparation and review about two hours a week.
We maybe do the task of writing about two times.

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布。

【参考書】
劉月華　他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 %
発表： 40 %
Term-end test:60%
Presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
要望に応じて会話パターンの変更も可能。
また基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンは必須

【その他の重要事項】
HSK や中国語検定の受験を推奨される。

【Outline (in English)】
Chinese Application Ⅰ〜Ⅳ are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.
We should achieve to these levels:
Talk by accurate pronunciation.
Talk the daily conversation well.
Achieve to the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
We maybe do the tusk of writing about two times.
Term-end test:60%
presentation:40%

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木　靖

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語アプリケーションは、SA（Study Abroad）プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。
中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に e-Learning を利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】
HSK5 級と 6 級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閲読」（リーディング力）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は e-Learning や過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。
授業の具体的な進め方は、次のとおり。
〔授業前の事前学習〕
授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK の「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閲読」問題の予習を行う
〔授業の進め方と方法〕
①「聴力」問題の発音練習と解説
②「閲読」問題の解答と解説
〔課題等に対するフィードバックの方法〕
課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用する e-Learning 教材の利用方法を解説する
第 2 回	HSK5 級対策①	・聴力問題第一部分① 1-48（番号は eラーニングの字幕番号） ・閲読問題第一部分 46-60（番号は HSK の問題番号）
第 3 回	HSK5 級対策②	・聴力問題第一部分② 49-88 ・閲読問題第二部分① 61-65
第 4 回	HSK5 級対策③	・聴力問題第二部分① 89-151 ・閲読問題第二部分② 66-70
第 5 回	HSK5 級対策④	・聴力問題第二部分② 152-193 ・閲読問題第三部分①　71-78
第 6 回	HSK5 級対策⑤	・聴力問題第二部分③ 194-236 ・閲読問題第三部分②　79-90
第 7 回	HSK5 級模擬試験	HSK5 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第 8 回	HSK6 級対策①	・聴力問題第一部分 1-69 ・閲読問題第一部分 51-60
第 9 回	HSK6 級対策②	・聴力問題第二部分① 70-139 ・閲読問題第二部分 61-70
第 10 回	HSK6 級対策③	・聴力問題第二部分② 140-178 ・閲読問題第三部分 71-80
第 11 回	HSK6 級対策④	・聴力問題第三部分① 179-213 ・閲読問題第四部分① 81-84
第 12 回	HSK6 級対策⑤	・聴力問題第三部分② 214-249 ・閲読問題第四部分②　85-92
第 13 回	HSK6 級対策⑥	・聴力問題第三部分③ 250-286 ・閲読問題第四部分③ 93-100
第 14 回	HSK6 級模擬試験	HSK6 級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に下記の事前学習を行うこと。
①教材ページ上に用意された e-Learning 教材を使い、HSK の「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う
②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSK の「閲読」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、教材用ページに用意した e-Learning 教材や HSK の問題冊子などを利用する。教材用ページの URL と利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】
・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
①事前学習（ディクテーション・リーディング）の実施状況（60 %）
③ HSK 模擬試験の成績（40 %）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
HSK の取得を希望する人が多くなったため、一昨年度から HSK の過去問を教材として授業を行うことにした。HSK の問題は実際の会話も役立つため、資格の取得とともに、実践的な中国語力も身につけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
e-Learning による事前学習にはパソコンが必要となる。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four language skills, of listening, speaking, reading and writing.
This course will focus mainly upon improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams.
Chinese Application IV is a Chinese course designed specifically for the students who want to prepare for the HSK, Chinese proficiency test, level 5 and 6. This course will focus upon expanding vocabulary and improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams. Students will also do mock examinations of the HSK through the use of a test simulator to help students prepare for the HSK tests.
〔Learning Objectives〕
The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use Chinese language at a level required of the HSK6.
〔Learning activities outside of classroom〕
Students will be expected to have completed the required assignments before each class. These assignments are expected to require four or more hours for students to complete.
〔Grading Criteria /Policy〕
Grading will be decided based on assignments(60%) and mock examinations(40%).

LANs100GA

スペイン語コミュニケーションⅠ

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is for students to become familiar with the spoken Spanish language.

【到達目標】
That at the end of this course students are able to understand and develop simple conversations of everyday life in Spanish, that is our main objective./

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir el objetivo arriba mencionado,además de usar el libro de texto fijado para esta clase,yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.
Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Alfabeto. Ortografía y pronunciación.
2	Comunicación	Expresiones útiles en clase. Comunicación : Saludos y presentaciones.
3	Comunicación	Nombres propios. Números (I). Cultura : Nombres y apellidos.
4	Comunicación	Género y número de los sustantivos. Práctica. Expresiones con el artículo determinado. Práctica de los pronombres personales de sujeto.
5	Comunicación	Verbo SER, presente de indicativo. Usos y práctica. Oraciones interrogativas y negativas.
6	Comunicación	Números (II). Profesiones. Nacionalidades. Práctica. Cultura : Personajes históricos.
7	Comunicación	Expresiones con el artículo indeterminado. Práctica de los adjetivos posesivos y calificativos.
8	Comunicación	Verbo TENER, presente de indicativo. Usos y práctica. Interrogativos (I). Números (III).
9	Comunicación	Miembros de la familia. Comunicación : descripción de personas. Cultura: Gestos. Repaso.
10	Comunicación	Verbo ESTAR, presente de indicativo. Usos y práctica. Usos de HAY. Práctica de los adjetivos y pronombres demostrativos.
11	Comunicación	Comunicación :localización de personas y objetos. Adverbios de lugar. Números (IV)
12	Comunicación	Números ordinales. Cultura : Ciudades patrimonio de la Humanidad.
13	Comunicación	Presente de indicativo, verbos regulares e irregulares. Usos y práctica. Interrogativos (II). Comunicación : actividades cotidianas. Días de la semana
14	Comunicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes.Editorial Asahi
イメージ・スペイン語
朝日出版社

【参考書】
Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Reforzar el uso del material complementario elaborado por la profesora.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish communication.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to become familiar with spoken Spanish. We will put into practice, through simple conversations, the grammatical knowledge that we have already acquired and those we will gain. In addition, we will take care of the correct pronunciation and intonation.
At the end of this course, students will be able to understand and develop simple conversations about daily life in Spanish.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs200GA

スペイン語コミュニケーションⅡ

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Our goal is to increase the students' ability to understand and express themselves mainly orally./
Nuestro objetivo es elevar la capacidad de comprensión y expresión, fundamentalmente oral de los alumnos.

【到達目標】
We propose that, at the end of this course, students will be able to understand and express themselves in a variety of communicative situations./
Nos proponemos que, al final de este curso, los alumnos serán capaces de comprender y expresarse ralmente en diversas situaciones comunicativas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir el objetivo arriba mencionado,además de usar el libro de texto fijado para esta clase,yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.
Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Comunicación : las vacaciones de primavera.
2	Comunicación	Expresiones con IR A + infinitivo. Hablar de planes e intenciones.
3	Comunicación	Práctica de los verbos con cambio vocálico y las preposiciones. Expresión de la hora.
4	Comunicación	Meses y estaciones del año. Medios de transporte Hablar de acciones futuras. Cultura : Museos.
5	Comunicación	Práctica de los verbos reflexivos. La casa. Partes de ella.
6	Comunicación	Expresiones del clima. Cultura : Hábitos y costumbres.
7	Comunicación	Práctica de los pronombres de objeto directo. Expresiones con SABER, CONOCER y PODER.
8	Comunicación	Práctica de QUERER + infinitivo y PODER + infinitivo. Comidas y bebidas. Recetas de cocina.
9	Comunicación	Comunicación: pedir en un restaurante. Repaso. Cultura : Las comidas.
10	Comunicación	Práctica de las preposiciones y los pronombres de objeto indirecto. Expresiones del comparativo y superlativo.
11	Comunicación	Ropa, accesorios, etc. Práctica de los colores. Comunicación: de compras en una tienda.
12	Comunicación	Práctica del verbo GUSTAR y otros que se usan de la misma manera. Expresión de la comparacion del adverbio.
13	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Deportes. Comunicación: hablar de gustos y aficiones. Cultura: Fiestas populares. Repaso general.
14	Comunicación	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes.Editorial Asahi
イメージ・スペイン語
朝日出版社

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por la profesora.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Intermediate communication Spanish.
【Learning Objectives】
Our objective is to increase the capacity of comprehension and expression, fundamentally oral, of the students. Enlargement and enrichment of your vocabulary will be one of our main objectives. We propose that week after week of class, students acquire a greater ability to understand and express themselves orally in very different situations.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs200GA

スペイン語コミュニケーションⅢ

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is, as in the previous courses, to increase the oral comprehension capacity and ability to express.

【到達目標】
They have to considerably increase their vocabulary and communication skills to prepare for the trip to Spain.
Before that time, we aim to reach a level that allows them to make the most of their stay and their classes in Spain.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para lograr el objetivo arriba mencionado, además de usar el libro de texto indicado para esta clase, yo les iré dando a los alumnos el material necesario para las prácticas orales, fundamentalmente.
Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comunicación	Presentación del curso. Repaso. Expresiones con el verbo DOLER.
2	Comunicación	Expresionens con SER, ESTAR + adjetivo. Oraciones exclamativas. Expresiones con TENER QUE y HAY QUE + infinitivo. Práctica de los pronombres y adjetivos indefinidos.
3	Comunicación	Partes del cuerpo. Comunicación : estado físico y sentimientos. Cultura : Hábitos Deportivos.
4	Comunicación	Práctica del pretérito indefinido de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Uso de los marcadores de tiempo.
5	Comunicación	Actividades del tiempo libre. Comunicación : hablar de acciones pasadas.
6	Comunicación	Repaso. Cultura : Lenguas del mundo hispano (el idioma quechua).
7	Comunicación	Práctica del pretérito imperfecto de indicativo. Verbos regulares e irregulares. Práctica del pronombre relativo QUE.
8	Comunicación	Diferencias entre el indefinido y el imperfecto. Práctica. Repaso general.
9	Comunicación	Usos del infinitivo, gerundio y participio. Práctica.
10	Comunicación	Uso del presente continuo. Práctica.
11	Comunicación	Pretérito perfecto de indicativo. Usos y práctica.
12	Comunicación	Pretérito pluscuamperfecto de indicativo. Usos y práctica.
13	Comunicación	Práctica del imperativo.
14	Comunicación	Examen final.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes. Editorial Asahi
イメージ・スペイン語
朝日出版社

【参考書】
Shogokukan DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Reforzar el uso de material complementario elaborado por la profesora.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Advanced communication Spanish.
【Learning Objectives】
Our objective is to increase the capacity of comprehension and expression, fundamentally oral, of the students.
They have to considerably increase their vocabulary and communication skills to prepare for the trip to Spain. Before that time, we aim to reach a level that allows them to make the most of their stay and their classes in Spain.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】
Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.
Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La migración. Latinos en Japón
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura.Debate.
4	Aplicación	Cuentos tradicionales de terror del mundo hispano
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas,refranes, etc.
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
9	Aplicación	Fiestas populares de Japón(obon) y del mundo hispano
10	Aplicación	La coca no es cocaína.
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La NavidadEl Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Application course.
【Learning Objectives】
The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】
At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además,al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y"que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento.El reflexivo "se"
13	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar de la comida favorita. Escribir una receta
14	Examen final	Examen (Presentación del cuento redactado por ellos mismos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.
Nivel intermedio
Editorial Asahi

【参考書】
Concretamente ninguno

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Application course.
【Learning Objectives】
This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.
At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】
At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además,al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento.El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final (Presentación del cuento redactado por los mismos alumnos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.
Nivel intermedio
Editorial Asahi

【参考書】
Concretamente ninguno.

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Application course.
【Learning Objectives】
This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.
At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】
Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
　Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.
Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	EL español en el mundo.
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura.Debate.
4	Aplicación	Música y danzas del mundo hispano: flamenco,música y danza de los andes,etc.
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	La gastronomía del mundo hispano
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	Patrimonio de la Humanidad
9	Aplicación	El Camino de Santiago
10	Aplicación	Fiestas populares de Japón y del mundo hispano
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La NavidadEl Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
プリント使用

【参考書】
Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】
-Exams (50%)
-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】
Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】
【Course outline】
Application course.
【Learning Objectives】
The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, it is mandatory to review the topics covered.
It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.
The standard preparation and review time for this class is 4 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANk100GA

朝鮮語コミュニケーションⅠ

富所　明秀

配当年次／単位：**1 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます.

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語４」「朝鮮語６」「朝鮮語コミュニケーションⅠ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習
3	第 2 課	「～している」の２つの形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます.
5	第 3 課	方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます.
8	第 5 課	用言の名詞形・１
9	第 6 課	話しことばの形
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます.
11	第 7 課	「～して」をあらわす２つの形
12	第 8 課	間接話法
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます.
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通テキストの予習は不要ですが，なるべく復習の時間を多く取ってください．また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです.
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語』を用います.

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします.

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります.

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください.

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください.
第 1 回はオンラインで行います．第 2 回目以降は原則対面での授業を実施する予定ですが，状況によってオンラインに切り替わることもあります．受講者は必ず Hoppii に登録してください.

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.
< Learning Objectives >
By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination(100%)

LANk200GA

朝鮮語コミュニケーションⅡ

乾　浩

配当年次／単位：2 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．
２年次秋学期の SA に備えます．

【到達目標】
ＳＡに通用する語学力の習得，具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「３級」に編入できることを目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語７」「朝鮮語８」「朝鮮語コミュニケーションⅡ」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します．
授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします．
2	第 9 課	ハンダ体と間接話法
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 11 課	合成語と漢字語の濃音化
6	第 12 課	親族名称とその尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 13 課	漢字の音読みと訓読み
9	第 14 課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 15 課	用言の体言形・その２
12	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
13	よみもの	既習の文法・語彙知識を用いてある程度の長さの文章を読む練習を行ないます．
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語彙力を高めるよう自主的に努力してください．
BT20 階の国際文化学部資料室には検定試験の問題集や韓国で出版されている各大学の語学テキストなどを多数取り揃えていますので活用してみましょう．
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語』を用います．

【参考書】
初歩の内容で不十分な箇所があったら『しくみで学ぶ初級朝鮮語』に立ち返ってください．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります．
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません．日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましょう．

【その他の重要事項】
原則，対面での授業を実施する予定ですが，状況によってオンラインに切り替わることもあります．受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
This class aims to comprehensively improve each ability of reading, writing, listening and talking, on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk200GA

朝鮮語コミュニケーションⅢ

富所　明秀

配当年次／単位：**2 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**グループ指定**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に，「読む，書く，聞く，話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします．
２年次秋学期の SA に備えます。

【到達目標】
ＳＡに通用する語学力の習得，具体的には韓国外国語大「韓国語文化教育センター」の「３級」に編入できることを目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語７」「朝鮮語８」「朝鮮語コミュニケーションⅡ」「朝鮮語コミュニケーションⅢ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	前学期の復習と今学期の方針の説明をします．
2	第 9 課	ハンダ体と間接話法
3	第 10 課	間接話法と第Ⅲ語基
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 11 課	合成語と漢字語の濃音化
6	第 12 課	親族名称とその尊敬形
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 13 課	漢字の音読みと訓読み
9	第 14 課	「～して」のさまざまな用法
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 15 課	用言の体言形・その２
12	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
13	よみもの	既習の文法・語彙知識を用いてある程度の長さの文章を読む練習を行ないます．
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語』を用います．

【参考書】
初歩の内容で不十分な箇所があったら『しくみで学ぶ初級朝鮮語』に立ち返ってください．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります．

【学生の意見等からの気づき】
語学の勉強は授業時間内だけで完結するものではありません．日常生活のなかで「朝鮮語ではどう表現するのか？」ということを考える習慣をつけましょう．

【その他の重要事項】
第 1 回はオンラインで行います．第 2 回目以降は原則対面での授業を実施する予定ですが，状況によってオンラインに切り替わることもあります．受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.
< Learning Objectives >
By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination(100%)

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁　禮先

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出てない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現を学んで自ら表現できることを目指します。授業は朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】
朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。また、自分の意見を自信をもって積極的に話したり、討論に積極的に参加できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着していきます。
授業は、朝鮮語で進めていきます。
課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第 2 回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第 3 回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第 4 回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第 5 回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第 6 回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第 7 回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第 8 回	韓国の映像を見る	韓国の話題の映像を見て内容を把握します。
第 9 回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第 10 回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見ます。
第 11 回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第 12 回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第 13 回	韓国語で発表する	討論をする。
第 14 回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント、インターネットなど。

【参考書】
韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を話したり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して (50%) と、 期末レポート (50%) と、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
多様な主題を活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.
< Learning Objectives >
The goal is to speak your opinion with confidence. Please actively participate in the discussion.
< Learning activities outside of classroom >
I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on.The students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Term-end examination (100%)

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁　禮先

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　一定のテーマを決めてディスカッションを実施したり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】
積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
　色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。
映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。
課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第 3 回	話題のテーマについて	意見交換する
第 4 回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第 5 回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第 6 回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第 7 回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第 8 回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第 9 回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第 10 回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第 11 回	日韓伝統について	意見交換をする
第 12 回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第 13 回	話題のテーマについて	討論をする
第 14 回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で説明します。

【参考書】
韓国の近代文学作品
湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】
積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して (50%)、期末レポート (50%)、とこれらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.
< Learning Objectives >
Please actively participate in the discussion in Korean.
The goal is to be able to read Korean literary works as well.
< Learning activities outside of classroom >
Check out the content of the theme.The students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Term-end examination (100%)

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

神谷　丹路

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮・韓国語の青少年文学を読み進めることで、朝鮮語の世界の広がりを体験する。日本語への翻訳する力の伸長を目指し、また内容について朝鮮語でディスカッションしたり、関連事項について調べて朝鮮語で発表したりする。これまで学習してきた「話す力」「書く力」などの定着を図り、自らの力で、朝鮮語・韓国語の世界を渡り歩いていける力を身に着ける。

【到達目標】
韓国の青少年文学を読むことで、朝鮮語の易しい長文を読み進める力を身に着ける。内容を読み解いたり、未知の事項を解明したりする力を養成し、日本語への翻訳についても実践学習する。同時に、内容に関する関連事項を調べ、より深い理解へとつながるような探求心を養成する。内容について、クラスの仲間と朝鮮語で意見交換などできる力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
身の回りの題材で簡単な日常会話のウォーミングアップをしたのち、テキストに沿ってリーディング、翻訳実践練習などを行う。文章や内容について、疑問点、関連事項などについて話し合い、その場で解決できない場合は、それぞれ調べ、次の回に朝鮮語で報告し、互いの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ①「覚めない夢」
3	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ②「サンフランシスコ」
4	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ③ 「生への横断」
5	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ④ 「霧の中の暮らし」
6	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑤ 「明るい夜」
7	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑥ 「木のない果樹園」
8	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑦ 「ニューヨーク」
9	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑧ 「呪われた家」
10	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑨ 「ここからそこへ」
11	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑩ 「暮れない時間１」
12	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑪ 「暮れない時間２」
13	テキストリーディング	受講生の発表と質疑応答。 ⑫ まとめの討論
14	まとめの発表	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、課題を読み日本語に翻訳する予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各 2 時間を標準とします。翻訳アプリを使用しないで、自力で読み進める力を養いましょう。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
小学館『朝鮮語辞典』『日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画度 80 %、プレゼンテーション 20 %この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
テキストは、受講生のレベルによって変更する場合があります。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course deals with the Korean youth literature. It also enhances the development of students' skill in translation to Japanese and discussion about the content.
< Learning Objectives >
The goals of this course are to acquire the ability to comprehensively understand Korean society.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Presentation ： 20%,in class contribution:80 %.

HUI200GA

【2022 年度休講】情報コミュニケーションⅠ

甲　洋介

サブタイトル：**ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**受講状況により選抜することがあります**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
体験をデザインする『面白さ』と『奥深さ』を、実践的に学ぶ科目
わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という２つのテーマに取り組む。　道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。
●　**ユーザーを調べ、道具をもっと使いやすくデザインする**
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。
日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいか？　その手掛かりは、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。　使いやすさの観点から道具を改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。
●　**新しい、近未来の道具をデザインする**
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。
まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？　その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。　利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この２つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。
●　２つのテーマでは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようになる
●　グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の技法を学び、実践できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この２つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。
●　前半では、身近で気になる道具を１つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。
●　後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を１つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。
●　各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイディアを深められるように工夫する。
※新型コロナ感染状況によってはワークショップの進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。実習やグループワークの実践的な効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ（理論編）	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ
3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイディア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】
・「人間計測ハンドブック」第 3 章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】
・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition,(Taylor & Francis) 2006.
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」(ティム・ブラウン著、早川書房) 2019
・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA 編、ワークスコーポレーション）2014.
他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・コメントシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合いなど　５０％
・課題レポート、プロトタイプなど制作物　５０％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義とグループ実習を効果的に組み合わせて、より深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。
〔情報コミュニケーション共通のテーマ〕
本学部には、情報コミュニケーションⅠ〜Ⅲ、SA におけるプロジェクト等、文化情報学を実践するさまざまな機会が用意されている。
　情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT 活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。
「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。
「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」と合わせて履修する事で学習効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
情報実習室で開講する場合は、ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】
This class provides you with an unique "Design Workshop" which allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User-centred Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

COT200GA

情報コミュニケーションⅡ

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**実習設備の許容人数を超えた場合に行う**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化研究と成果発表の方法を身に着ける
【情報コミュニケーションⅠ〜Ⅲ共通テーマ】
文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。
【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】
本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】
SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更や それにともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。
8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。
1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. 個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
佐藤郁哉、「フィールドワーク―書を持って街へ出よう」、新曜社; 増訂版 (2006/12/20) ISBN 978-4788510302
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】
授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。
これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。
最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。
Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.
The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.
(Learning Objectives)
- To acquire a methodology for research and study of cultural information.
- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.
(Learning activities outside of classroom)
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

DES200GA

情報コミュニケーションⅢ

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**席数を超えた場合選抜**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「情報コミュニケーションⅢ」は、情報デザインに関する入門的、実験的な実習授業です。ロゴタイプやシンボルマーク、ピクトグラムやイラストレーションなどのデザインやアートに関わる基本的なトレーニングを行います。

【到達目標】
作品制作と並行して行う毎回のレクチャーを通じて、デザイン概念と視覚言語に関する理解を深め、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作活動全般にも通じるクリエイティブな造形表現に必要な知識や感覚、技術を養います。
絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルでの写真加工やデザイン制作が初めての人も難しく考えずに、積極的に手や体を動かすことで作ることの楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では視覚言語の基本となる
1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィーについて）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）
の 3 つのテーマで、課題制作を進めます。
課題に取り組む際には課題の意義や進め方について講義します。また課題制作のためのポイントとなる点や描くための材料や道具、ソフトの使い方について説明をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会（フィードバック）を行います。
対面での授業を予定していますが、新型コロナウィルス感染の状況次第でオンデマンド授業になる場合も想定しています。
対面授業の場合
実習室のアドビ イラストレーターとフォトショップを使って実習を行います。
オンデマンド授業の場合
オンデマンド実習で必要な道具や材料です。手描きと PC を使用する場合どちらでも構いません。また、課題によって使い分けても構いません。
絵を描くための PC ソフトを一つ準備してください。
イラストレーター、パワーポイント 、キーノート（Mac）のどれか。
その他　フォトショップ　など
対面、オンデマンドどちらにも必要なもの
手描きの道具
絵を描くための描画材（鉛筆、色鉛筆、マーカー、ペン、絵具類など）
絵を描くための紙類（スケッチブックや画用紙、コピー用紙など）
授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
Google Classroom、Google Form（課題提出と課題に関するすべてのフィードバック）
Miro（コラボレーション）
オンデマンドの場合の授業形式
ウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載し、それをみながら授業を受講してもらう方式にします。
授業の方法
授業時間になると授業支援システムを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。
課題と授業内レポート
受講後、Google Form で課題と授業内レポートを提出してもらいます。提出期限は授業終了の数日後です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/11	オリエンテーション	授業の概要
4/18	ロゴタイプとシンボル 1	講義 ロゴタイプとシンボルマーク ワークショップ 基本的な図形の書き方とシンボルマーク
4/25	ロゴタイプとシンボル 2	講義 フォントと書体 ワークショップ ロゴタイプの制作
5/9	ロゴタイプとシンボル 3	課題 ロゴマークの制作
5/16	ピクトグラム 1	講義 ピクトグラムとは ワークショップ ピクトグラムの模写
5/23	ピクトグラム 2	講義 オリンピックのピクトグラム ワークショップ スポーツ・文化をテーマとしたピクトグラムの作成
5/30	ピクトグラム 3	大学構内の案内用サインの作成
6/6	インフォグラフィック 1	講義 インフォグラフィックについて ワークショップ 気になったポスターをコピーする
6/13	インフォグラフィック 2	講義 ZINE について 課題 ZINE の制作 1　デザインのアイディア
6/20	インフォグラフィック 3	課題 ZINE の制作 2　作品制作
6/27	レイアウト 1	講義 インフォグラフィックを元としたイラストの作成 課題制作 パンフレット表紙レイアウト 1 デザインのアイディア
7/4	レイアウト 2	課題制作 パンフレット表紙レイアウト 2 作品の制作 1
7/11	レイアウト 3	課題制作 パンフレット表紙レイアウト 3 作品の制作 2
14	作品の講評	課題作品のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクツなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。
また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジカメ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
永井 弘人「デザイナーになる！　伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室［特別講義］確かな力を身につけられる　〜学び、考え、作る授業〜」SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
使用するソフトは以下の通りです。
　Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
　Adobe Photoshop（写真を加工するためのソフト）
課題提出に授業支援システムを使いますので登録しておいてください。
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】
初心者の皆さんには、各ソフトを使っての作品制作のコツをまず掴んで、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も是非チャレンジしてみてください。
※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。
初回のガイダンスに必ず出席してください。
登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline (in English)】
Outline and objectives
This practical lesson is an introductory and experimental valuable lesson on information design. Basic training related to design and art such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustrations.
Learning Objectives
Through each lecture held in parallel with the production of the work, we will deepen the understanding of the design concept and visual language and provide basic training on visual expression that facilitates communication between people. In addition, we will cultivate the knowledge, sense, and skills necessary for creative modelling expression that is familiar to all creative activities.
People who are not good at drawing or are new to digital photo processing and design production will experience the joy of making by actively moving their hands and body without thinking difficult.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

FRI300GA

情報アプリケーションⅠ

重定　如彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないといっても過言ではないだろう。
ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。
Javascript や CSS の技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。

【到達目標】
ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザーを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどういうものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切（最後の授業の 1 週間後）までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示する。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10% 課題 40% 最終課題 (迷路の課題）50%
課題は授業内で適宜指示する。
最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】
プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire skills and knowkedge about web technology such as HTML5, CSS and Javascript.
At first, this class learns about HTML5 and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javacscipt and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.
Each student is required to review his or her work after the class.
In addition, you are required to create your own original maze page as a final project. Please do so by the deadline (one week after the last class).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Ordinary points 10%, Assignments 40%, Final assignment (maze assignment) 50%.
Assignments will be given in class as needed.
The final assignment will be used as a substitute for the regular exam, so no exam will be given. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class based on this grading method are considered to have passed the class.

COT300GA

情報アプリケーションⅡ

大嶋　良明

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、Maker ムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）を学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】
Maker ムーブメントの背景と現状について理解する。
楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。
Arduino マイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。
課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容は PBL の考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。**作りながら考える、考えながら作る**をモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要となる部品は、既製品を分解する、100 均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明と導入、Maker ムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。
2	Arduino 入門	Arduinno とは何か、Maker ムーブメントにおける Arduino の役割を学ぶ。開発環境 Arduino IDE の使い方を学ぶ。音楽に特化した Arduino 互換機や周辺機器について学ぶ。
3	Arduino ライブラリから音を出す: Mozzi	電子楽器製作の準備として Arduino から音を出力する方法を学ぶ。音を扱うためのライブラリ Mozzi とその機能を学ぶ。
4	各種センサーの使用法を学ぶ	音の強弱、高低を変化させる方法を学ぶ。センサーの使い方を学ぶ。これらを組み合わせてセンサーからの信号に反応して音が変化する仕組みを学び、実装する。
5	打楽器の製作 (1) ：音を生成する仕組み	ドラムスなど打楽器音の性質を学び、Arduino で打楽器音を鳴らす。
6	打楽器の製作 (2) ：楽器としての特色作り	サンプル音を再生する方法を学び、圧電センサーに反応してドラム音のサンプルを再生する電子ドラムを作成する。
7	日用品を打楽器に	さまざまな日用品にセンサーを装着して演奏可能な電子打楽器を自作する。
8	シークエンサーの製作 (1)	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。
9	シークエンサーの製作 (2)	自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
10	電子楽器の相互接続：MIDI	MIDI による電子楽器の相互接続と制御の仕組みを理解する。 【課題製作】課題作品の構想発表
11	表示の高機能化（１）	LCD ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
12	表示の高機能化（２）	LED ディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の進捗状況と問題解決の共有、記録化
13	多様な出力：さらに多彩なモノづくりにむけて	フィジカル・コンピューティングの概念を理解し、Arduino によるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
14	まとめ	学習成果のまとめとして制作物の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【手を動かすことを大事にしよう】
Arduino マイコンの開発環境はフリーソフトで Windows、Mac、Linux いずれの環境でも利用可能です。また実習で使う Arduino は互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。
【感性を磨こう】
Make 関連の書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。Maker ムーブメント（モノづくりの世界）を楽しく学べる２冊と電子楽器の自作についての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。
【何か作りたい！ でも何を作ろう…？】
Karen Wilkinson(著), Mike Petrich(著), 金井哲夫 (訳)、「ティンカリングをはじめよう ―アート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン (2015)、ISBN:978-4873117263
【Arduino ＋音楽】
中西宜人、「Arduino ではじめる手作り電子楽器」、工学社 (2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3
【モノづくり＋デバイスアート】
小林茂 (著)、「Prototyping Lab 第 2 版 ―「作りながら考える」ための Arduino 実践レシピ」、オライリージャパン (2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%)、課題 (30%)、学期末に提出する作品発表 (30%)、合評 (10%) により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。初年度の授業を通して、受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用し、実習に必要な PC、Arduino など共通の電子部品と配線材は用意します。
課題作成時および提出時には貸与 PC または個人 PC が必要になります。

【その他の重要事項】
情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by Arduino micro-controllers. Students will become well familiar with the Arduino IDE (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 30%
Critique: 10%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA

こころの科学

甲　洋介

サブタイトル：**こころが生み出す「体験のリアリティ」**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●　感動の想い出は、なぜかスローモーション

あなたが日々体験している「あなたのこころがはたらいている、という実感」を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。

●　「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？

「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、ふだん私たちは、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりにも当然に考えているから。

しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に出会った時、その" 存在" に気づかされる。よく観察すると、世の中は**「こころ」にとって予想外の現象**が実に多く発生している。

●　「こころ」とはいったい何だろう

「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「感情がわく」「気づく」「覚える」「わかる」「誤る」「問題を解く」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、上手くはたらかない現象にも光をあてる、ことである。

ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・感情がわく、気づく、わかる、覚える、誤る、問題を解く等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる
・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな観点を与えるのか、その意義を簡潔に述べることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
「こころ」のはたらきとして、感情がわく、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、に着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。

こころがうまく機能している状態だけでなく、**こころが上手くはたらかない現象**にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。

各講義の最初に、受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、また後半はできる限り受講生どうしの討議の機会を設け、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。
※新型コロナ感染状況によって授業の進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいてないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	**間違える**、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学
5	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
6	わかる、知らない、**わからない**	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
7	考える、問題を解く	『問題』とは何か、問題解決する、推論する
8	**感情**が生まれる、感情をはたらかせる　〜感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情があふれる、生まれない	感情の果たす役割、感情の障害
10	**脳**からみた、こころ　人工物ではたらく、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能
11	**環境に拡がる**、こころ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方
12	生態学的知覚論という挑戦	アフォーダンス、生態学的視覚論からの問題提起
13	**社会・文化**に埋め込まれた、こころ　〜個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
14	総合討議と、まとめ	「こころ」について再考する　〜こころの哲学から、ゲストをお迎えして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシート作成を含め、準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

・日常と非日常からみる　こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018
・環境に拡がる心―生態学的哲学の展望（河野哲也著、勁草書房）2005

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議への参画、小レポートを含む平常点　５０％
・課題レポートまた期末試験　５０％
を総合的に評価し、評定を決める。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コメントシート、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind by re-examining your real-world experiences in your "mind".
By the end of the course, students should be able to explain overview of fundamental elements of science of the mind including attention, emotion, concept learning, problem solving, mistake, and affordance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村　修

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
こころとからだの関係を考える
あなたたちには「**こころ**」が「**あります**」か? 多くの人が「こころが**ある**」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「**こころがある**」ならば、それは「**どこにあります**」か?」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「**脳にある**」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、**こころと脳とは、どのように関係していますか?**」。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか?」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどうして「ある」と言えるのでしょうか? あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから、「こころはある」のですか? それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか? こころで体験するのですか? からだで体験するのですか?
私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。
「無意識」とは何か
私たちは夢を見ることがあります。それでは夢はわたしたちが見たいときに、いつも見ることができるのでしょうか？　なかなかそうはいきません。また、どうして言い間違いなどが起きるのでしょうか？　正しいことを言おうとしたのに、変なことを言ってしまうのは、なぜでしょうか？　食欲や睡眠欲のような生理的な欲求は別にして、思わずしてしまうことや、嫌いだと思う前に避けてしまうのはなぜでしょう？　これらは「無意識」のせいだと、精神分析学の創始者ジークムント・フロイト（1856-1939）と言います。
2022 年度は精神分析学によって発見された「無意識」を哲学的に考えていきます。フロイトによって創始された精神分析学は、20 世紀後半フランスのジャック・ラカン（1901-1981）によって構造主義的な精神分析学として引き継がれます。本授業では、主にラカンの学説を取り上げながら、無意識の構造を哲学的に分析していきます。

【到達目標】
・精神分析学を学ぶことによって、意識と無意識の関係の基礎を学ぶことができる。
・無意識の構造について、哲学的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生 1 人ひとりが自分の「意識と無意識/からだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、**現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場**だからです。
【授業の方法】
授業は、基本的には、『ラカンの仕事』の解説に即して授業する予定です。事前に必要な箇所を読んで、授業の準備をしてくださると理解が進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	・精神分析学前史 ・ジークムント・フロイトは何をしたか？
2	精神分析学とは何か①	・フロイトによる無意識の発見
3	精神分析学とは何か②	・『夢判断』 ・『精神分析学入門』
4	ラカンの精神分析学①	・初期の著作 （1926-33）
5	ラカンの精神分析学②	・鏡像段階 （1936）
6	ラカンの精神分析学③	・現実原則の彼岸 （1936）
7	ラカンの精神分析学④	・ローマ講演 （1953）
8	ラカンの精神分析学⑤	・「盗まれた手紙」 （1956）
9	ラカンの精神分析学⑥	・「文字（手紙）という審級」 （1957）
10	ラカンの精神分析学⑦	・エディプス・コンプレックス
11	ラカンの精神分析学⑧	・精神病
12	ラカンの精神分析学⑨	・「主体の転覆」 （1960）
13	ラカンの精神分析学⑩	・『アンコール』 （1972-73）
14	ラカンの思想の展開	・ラカンの精神分析学以後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・資料として提示しているテキストを事前に読んで、レジュメを書いて、提出できるように準備しておいてください。レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) ビチェ・ベンヴェヌート『ラカンの仕事』、青土社、1994 年
〔古本でしか手に入らないので、必要に応じて、配布する〕
(2) Bice Benvenuto & Roger Kennedy, The Works of Jacques Lacan: An Introduction, Free Association Books, 1986.

【参考書】
(1) 新宮一成『ラカンの精神分析』、講談社現代新書、1995 年
(2) 向井雅明『ラカン入門』、ちくま学芸文庫、2016 年
※ その他については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・討議への参加（30%）・授業内発表レジュメ（30%）・期末課題レポート (40%)。以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】
「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】
・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。
・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしています。

【Outline (in English)】
【Course outline】**What is the "unconscious"?**
We all have dreams. But do we always see them when we want to? It's not so easy. And why do we say things wrong? Why do we have desires and needs? These are the result of the "unconscious," according to Sigmund Freud (1856-1939), the founder of psychoanalysis.
In 2022, we will philosophically consider the unconscious discovered by psychoanalysis. Psychoanalysis, founded by Freud, was succeeded by the French structuralist Jacques Lacan (1901-1981) in the latter half of the 20th century. In this class, we will philosophically analyze the structure of the unconscious, focusing mainly on Lacan's theories.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn the basics of the relationship between consciousness and the unconscious and to be able to explain the structure of the unconscious philosophically.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%,Short reports : 30%、in class contribution: 40%

FRI300GA

ゲーム構築論

重定　如彦

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、**情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさ**をコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。
実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるである。
日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。
コンピュータゲームの題材としては主に、**占い**や**数当てゲーム**などの初歩的なものからはじめ、最終的には**マインスイーパー**や**テトリス**などの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】
コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に着けることを目指す。
2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ ページの順でクリックすると一覧を見ることができる）。http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業ではコンピュータプログラミングの入門用言語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。
前半では、「占い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。
後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。
実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。
授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Jaascript の基礎について学ぶ
2	占い	変数、乱数、条件分岐について学び、占いのゲームを作成する
3	数当てゲームその１	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその２	数当てゲームを完成させる
5	マインスイーパーその１	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその２	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその３	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその４	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその５	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその１	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその２	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその３	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその４	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその５	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定する教科書を使用する

【参考書】
必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】
平常点 10% 課題 90%
課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウエア等を用いて進める。

【その他の重要事項】
熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.
The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.
Students will prepare and review the textbook and practice their own work. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Ordinary points 10%, Assignments 90%.
Assignments will be given in class as appropriate. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

HUI200GA

【2022 年度休講】道具のデザイン学

甲　洋介

サブタイトル：**うまくデザインすると、暮らしがもっと楽しくなる**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**ヒューマンインターフェイス論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**
旧：ヒューマンイタンーフェイス論の修得者は履修不可

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●　道具をうまくデザインすると、暮らしはもっと心地よいものになる

日常生活を観察すると、私たちはさまざまな道具に囲まれている。人間は道具を次々に作り出すことによって身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。しかし現実は甘くない。高齢者や初心者をはじめ、使い方がよく分からないので新しい道具を諦めてしまう例も多いのである。
暮らしの道具を使いやすくすることは、その人の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結する。道具のデザインは重要である。

●　では、どうデザインするか？

それには基本がある。本講義では、道具を利用者にとって使いやすく、魅力的なものにするための方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会にとって重要な、人と人工物の共生の問題を考えることにも繋がっていく。

●　ある時代をリードする道具をどのようにデザインするのか。このことが文化を築く視点から見た時、きわめて重要な問題であることに受講生は気づくだろう。このような発展的な課題について考える基礎も身につくはずである。

【到達目標】

デザイン手法の基礎知識を身につけ、魅力ある企画書を作ってみよう！

・使いやすい道具をデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方、デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス (experience=体験) の観点からデザインし、企画書を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」*User Experience Design* を、基本から実践までを体系的に学ぶ。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。発表会では受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイディアが得られるように工夫する。

●　前半は、道具のデザインの基本的な考え方を学ぶ

暮らしの中の道具をもっと使いやすいものにするには、まず人間の興味深い特性を知ろう。たとえば、人間は覚えたことをすぐに忘れる。思い込みによって深刻な誤りを起こすこともある。人間のそういった諸特性を考慮してデザインすると、道具に囲まれた日常の暮らしがもっと楽しいものになる。

●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する

後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。受講生それぞれが、日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスをテーマに、デザイン実習に取り組む。
※新型コロナ感染状況により進め方を修正する場合は、学習支援システム等で周知する。その際も実践的な学習効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「人間中心のデザイン手法」*User-Centered Design (UCD)* ①	ユーザの特性を理解し、体験 *(experience)* をデザインする、という考え方
8	「人間中心のデザイン手法」②	*UCD* の基本原則を学ぶ
9	「人間中心のデザイン手法」③	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①	魅力ある商品の企画書を作る
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験 *(experience)* をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学習した方法論に沿ってデザイン実習を行い、その成果を企画提案レポートとして仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）2015
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013
他については適宜指示する。

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社)2014
・NPO 人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、授業・討議における積極性な貢献度合い　５０％
・発表とレポート　５０％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
実務経験のある教員による授業：
情報関連企業のデザイン部門・技術顧問として実践してきた教員がデザイン学を手ほどきする。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせて受講すると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・「情報コミュニケーションⅠ」がユーザーエクスペリエンス・デザインの実践ワークショップになっている。これと併行履修すると、基本知識と実習を、効果的に学習できる。
・本科目のテーマは、「文化情報空間論」において発展されていく。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of the "User-Centered Design" and how to conduct concrete design steps using the "User-Centered Design" methodology.

COT200GA

情報セキュリティとプライバシー

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。
　ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システム的手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】
・PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
・より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
・セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業形態や授業計画、授業実施方法の変更については、状況に合わせて変化することが予想される。学習支援システムでその都度提示する。
初回授業には必ず出席または閲覧し、授業の進め方を確認すること。
講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分の PC を守る	アンチウィルスソフト、ファイアーウォール、アップデート。
3	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
6	アクセス制限と効果	ファイアウォールとは。データアクセスの制限の必要性とその手法。
7	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実践。
9	電子署名と認証	電子署名とは。SSH によるネットショッピング。
10	コンテンツ配信と著作権	著作者の利益保護。
11	組織としてのセキュリティ対策 (1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策 (2)	CSIRT の必要性とその適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に必要としない。

【参考書】
特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）と課題（またはレポート）（30%）、期末テストの成績（50%）を併用した評価を行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。
基本的には Windows でも macOS でも構わないが、CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。
オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。
詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。
授業は「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.
（Learning Objectives）
- To acquire the necessary information security knowledge for the use of personal information devices such as PCs.
- To be able to plan measures to achieve higher security.
- Understand what social systems are in place to protect security.
ks and related information technologies.
（Learning activities outside of classroom）
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end exam (50%).

BIO200GA

文化と生物

川上　裕司、松崎　素道、黒沼　真由美、鈴木　忠

サブタイトル：**生活にいかす生物との関わり**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**バイオインフォマティクス**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化という視点からみた生命の実像を学ぶ.
内容は大きく 2 つに分けて，(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と，(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う．分野は衛生学，美術，生物学，農業にわたり，生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ.

【到達目標】
ヒトの生活と生物にまつわる歴史，文化そして，現代的な問題を解決する方法について，考え理解する．生物の多様性や進化について，考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている．ここでは，生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について，現代生物学の手法を体験し，現状を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う.
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．11 回までは，講義が中心ですが，特に，5-8 回は，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します．最後の実習（12 回以降）は，実際にパソコンのソフトを用いて，外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います.
メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い），②食中毒とは何か，③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か，②医食同源は健康的な食生活の基本，③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態，②ダニ・昆虫アレルギーについて，③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤と IPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物〜歴史を作る影の立役者〜 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物と生態系 (1) 生物と生態系 担当教員：松崎	生態系とは、共生による生物進化、地球環境の改変、ヒトと生態系
8	(II) 生物と生態系 (2) 生態系における寄生と共生 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置，生態系改変，宿主操作，食文化との関わり
9	(III) 動物とは？ (1) 生き物のなかでの動物の位置 担当教員：鈴木	生き物の体系と，私達人間が含まれる「動物」とは何か？ を考える．①生き物とは何か，②動物とは，③生態系の中の動物の食物連鎖における位置，④新たな動物学の研究.
10	(III) 動物とは？ (2) 新種の発見 担当教員：鈴木	①生き物に名前をつけるということ，②生き物を名前をつけて認識する，③分類学とは何か.
11	(III) 動物とは？ (3) 新種に名前をつけると言うこと 担当教員：鈴木	①名前とはなにか，②学名とは何か，③新種はいつみつかるか，④どの様にして新種に名前をつけるか
12	(III) 動物とは？ (4) 未発見の生物を発見するために，冒険に出よう. 担当教員：鈴木	①船で海で未知な生物を捕獲する，②.深海で未知な生物を捕獲する，
13	(IV) 生物の進化を推定する （1） 塩基配列情報によって進化を推定する. 担当教員：鈴木	生物の塩基配列情報から，実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）DNA 情報をテキスト配列として，操作して，様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし，様々な形態や筋肉のつき方，動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し，柔軟な思考ができるように努めてもらいたい．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない．個人的に作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある．教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート (60%) だが，この他に講義内で提出してもらう様々な文書 (ビデオ等の感想，小テストなど)(40%) も加え，総合的に評価する.
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
今年度，カリキュラムを大幅に改訂し，国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である.
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい.

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用します．パソコンにインストールされているソフトを元に，実習します．遺伝子データベース　http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html を使います.

【その他の重要事項】
情報実習室で行うことに注意してください.

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.
The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA

文化と環境情報

佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂

サブタイトル：**人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのか**

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまの技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】
人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている．ここでは，生態系，地球環境と，人間生活，食文化，病気などについて，現代生物学，栄養学，医学，保全生態学の観点から現状を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う．
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．講義が中心ですが，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します．メールの添付などの方法をもちいて課題等に対するフィードバックをおこないます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 持続可能な社会づくりと食文化 (1) 2020 SDGs 担当教員：中西	講義内容のあらすじ 「2030 SDGs（ニイゼロサンゼロ エスディージーズ）」を通じて，17 の大きな目標を我々の世界が達成していく，現在から 2030 年までの道のりを体験し，SDGs の本質を体感する． ① 2030SDGs カードゲーム，② 17 の目標，③ 196 のターゲット，④ 232 のインジケーター，⑤ SDGs の本質
2	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (2) ワークショップ 担当教員：中西	なぜ，私たちの世界にとって SDGs が必要であるのか，SDGs があることでどのような可能性が広がるのかについて，ダイアローグを活用したワークショップを通して理解を深める ① 2030SDGs，② SDGs の必要性，③ SDGs の可能性、④見える化、⑤ SDGs の本質
3	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (3) SDGs de 地方創生 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGs を「まちづくり」や「地方創生」の身近な” プロジェクト” に引き寄せながら “自分事として体感” する．地域で暮らす市民，事業者，ＮＰＯ，自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生 ×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する． ①「SDGs de 地方創生」，②まちづくり，③地方創生，④人口減少
4	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (4) 連鎖関係や地球の限界，その他 担当教員：中西	世界や日本で起こっている様々なできごとの連鎖関係や地球の限界（プラネタリーバウンダリー），エコロジカルフットプリント，バイオキャパシティー，アースオーバーシュートデ―などとの関連について理解を深める． ①連鎖，②プラネタリ―バウンダリー，③エコロジカルフットプリント，④バイオキャパシティー，⑤アースオーバーシュートデ―
5	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (5) SDGs を題材にしたイノベーション 担当教員：中西	金沢工業大学が開発した THE SDGs Action card-game「X（クロス）」を通して，SDGs を題材にイノベーションを体験する．トレードオフカードは SDGs の 17 個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており，トレードオフを手持ちのリソースカードカードを使って解決していく． ① X(クロス)，②トレードオフ，③社会問題解決，④イノベーション
6	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (6) SDGs と食の視点 担当教員：中西	SDGs の目標の一つに「３．すべての人に健康と福祉を －健康的な生活に不可欠な栄養－」がある．生産から流通，製造，加工，教育，消費まで幅広い分野にかかわり，我々の生命活動を支える食の視点から，持続可能な社会について理解を深める． ①フードマイレージ，②食品ロス，③栄養，④健康，⑤安全
7	(II) 感染症と日本社会 (1) エイズと社会 担当教員：塚田	①「エイズ」ってなんだろう　②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
8	(II) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？　②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション　③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
9	(II) 感染症と日本社会 (3) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
10	(III) 食環境と文化 (1) 食生活の変遷 担当教員：中西	①世界における微量栄養素欠乏症，②栄養改善の手法－栄養補給、栄養強化、食の多様性，③栄養強化食品の開発
11	(III) 食環境と文化 (2) 味わう・塩梅 担当教員：中西	①美味しいは、何でできている? ②美味しさの東西比較，③ユネスコ無形文化遺産 “和食；日本人の伝統的な食文化”
12	(IV) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ． さらに，新潟市佐潟の「潟普請」，習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して，湿地の保全や再生にかかわる文化について考える．
13	(IV) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ．さらに，大崎市の「ふゆみずたんぼ米」，檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光，豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して，ワイズユースにかかわる文化を考える．
14	(IV) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進める CEPA（コミュニケーション、力量形成，学習・教育，普及活動）について学ぶ． さらに，高島市の「ふるさと絵屏風」，ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」，日本湿地学会の活動などの事例に即して，CEPA にかかわる文化を考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し，柔軟な思考ができるように努めてもらいたい．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない．作成した講義資料を使用する．

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある．

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート (60%) だが，この他に講義内で提出してもらう様々な文書 (ビデオ等の感想，小テストなど)(40%) も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である．
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい．

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii 学習支援システムを利用するので，情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい．

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.
The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

HUI300GA

文化情報空間論

甲　洋介

サブタイトル：**『拡張された人間』『超える人工物』『仮想の空間』**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は現代社会の重要な主題の一つとして、『知を変える人工物』『人間と社会の拡張』の問題を取り上げる。
● **人工物を次々に生み出すことで自らの限界を超える**
人間は自然界で非力な存在である。人工物を次々に生み出すことで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その結果、この世界は自然的な世界と言えなくなりつつある。むしろヒトが作り出した人工的世界の中で生きている、と考えるほうが自然だろう。
● **人工物が姿を変える　*Society 5.0* の後、どこに向かう？**
人工物は、文具や玩具のように人間から独立した分かりやすいモノだけではない。身体に装着する義足やコンピュータを埋込んだ衣服、脳波で作動させる道具やクルマなど、ヒトの身体や能力と一体化して機能する人工物もある。暮らしの至るところに埋め込まれた知的人工物に、やがて気がつかなくなると言われる。またスマート住宅のように人々を包む環境として存在する人工物もある。
● 本講義を通じて履修者は、「人間と人工物の一体化と拡張」という一見矛盾する２つの現象と、今後発展する方向性を、まず「人工物の科学」(H.A. サイモン）を理解することから始め、それをベースとして「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。講義の終わりには、「都市」や「社会」もある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。
また、人間の拡張と『持続可能な社会』の両立は今日的な検討課題となりうるだろう。

【到達目標】
・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
・知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムの基礎を理解する。
・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析観点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしのデザインに取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は、まず「現在」を人間と知的な人工物との共生社会として捉えることから始まる。　そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、
①人間と独立したモノとして存在するいまの人工物、
②人間の身体や能力と一体化して作動し、人間を拡張する人工物、
③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
の 3 つの存在形態について検討を加える。
　これらの人工物が日常生活に埋め込まれることによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されうるのか。幾つかの生活場面を取り上げ、人間と社会の拡張を具体的にデザインすることに取り組む。
※新型コロナ感染状況により授業の進め方を修正せざるを得ない場合は学習支援システム等で周知する。その場合も上記の学習効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし　〜サイバーパンクＳＦを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に、講義と討議を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・システムの科学 第 3 版（H. サイモン著、パーソナルメディア）1999. 可能なら、The Sciences of the Artificial (The MIT Press、English Edition) 2019 が良い。J.E.Laird による序文が追補された.
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】
・Society 5.0（内閣府・科学技術政策）https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.
・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.
・「攻殻機動隊」（監督：押井守、ワーナー）他一連の作品群
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートまたは試験 (50 %)、
・授業・討議における積極性な貢献度合い（発表、レスポンスシートを含む）(50 %)
を総合して評価する。
期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
こころ、空間デザイン、人工知能、ロボットに興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】
・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせて受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline (in English)】
This class addresses the "Augmented Human", "Virtual Society" and "Intelligent Artifacts", as one of the essential issues of our modern society.　It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis and augmentation of human, society, and artifacts.
By the end of the course, students should be able to (a) explain basic concepts and framework of the augmentation of human and the intelligence of artifacts, and (b) discuss the design of the symbiosis of the “Augmented Human/Society” and “Intelligent Artifacts”.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student’s in-class contribution (50%).

COT300GA

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。 本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、 Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMF トーン（プッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】パッチ（Pd のプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】シンセサイザーの出力音にポルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。MIDI 信号による制御を付加する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報リテラシー、メディア情報基礎、ディジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】
参考書・参考資料等
【Pure Data】
美山千香士、『Pure Data チュートリアル＆リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424
松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804
中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821
【音響モデリング】
Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、課題（30 %）、最終課題の評点（40 %）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC（Mac 版、Linux 版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。Raspberry Pi、Arduino、Kinect、Leap Motion などの実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業：
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理（特にディジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI300GA

コネクション・デザイン

川村　たつる

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**ハイパーテクスト論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**定員 45 名　定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。**
備考（履修条件等）：**旧：ハイパーテクスト論の修得者は履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、現代において様々な変化が起こっている人と人の繋がり方や、人と物・事との繋がり方の事例を考察していきながら、人にとって家庭や仕事場とは別に必要とされる“第三の居場所（サードプレイス）”は、今後はどのような形態のものになり、どのような役割を持つものになるのかを考えていきます。

【到達目標】
受講者それぞれが、これからの“第三の居場所（サードプレイス）”を考えていくことで、現代社会における人と人、人と社会の繋がり方を再考察できることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■人数制限・選抜
授業は対面を基本に行いますので、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。
※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方
①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。受講者の中にオンライン受講者がいる場合は、ハイフレックス形式でオンライン配信も行います。
②毎回の授業後には、授業内容に関するリアクションの提出してもらいます。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。その中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要なリアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。
③課題は、中間と最終の計 2 回のレポート提出を行ってもらいます。提出されたレポートは、講評会の形で発表と講評を行います。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代における人と人の繋がりを考える
第 2 回	考察 1「サードプレイス」	「サードプレイス」を考える
第 3 回	考察 2「住まい方」	「これからの住まいの在り方」を考える
第 4 回	考察 3「シェアリング」	「シェアリングエコノミー」を考える
第 5 回	考察 4「サブスクリプション」	「サブスクリプション社会」を考える
第 6 回	考察 5「キャッシュレス」	「キャッシュレス社会」を考える
第 7 回	グループディスカッション 1	中間レポートのためのグループディスカッション
第 8 回	中間レポート講評会	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換
第 9 回	考察 6「ネットワーク」	「ネットワーク」を考える
第 10 回	考察 7「ソーシャルネットワーク」	「ソーシャルネットワーク」を考える
第 11 回	考察 8「人と人との繋がり方」	「人と人との繋がり方」を考える
第 12 回	考察 9「ダイアローグとモノローグ」	「ダイアローグとモノローグ」を考える
第 13 回	グループディスカッション 2	最終レポートのためのグループディスカッション
第 14 回	最終レポート講評会	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業リアクションの提出は、授業後に授業支援システムで行うこととします。
●課題は、各自が授業外で行うこととします。
●事前に映像資料（20 〜 30 分）を各自で授業時間外に視聴してもらう事があります。
●本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。
※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT 出版/2018 年）、『新ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK 出版/2002 年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005 年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018 年）、『サードプレイス―コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013 年）、『オープンダイアローグとは何か』斎藤 環著＋訳（医学書院/2015 年）等。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、出席率と受講態度、並びに各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（60%）。
また、課題（中間・最終レポート）に対して受講者自身がどのようなにアプローチができたかを評価（40%）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者各自がテーマを自身に引き寄せて考察できるように、扱う事例の選択や授業の進め方を工夫していきたい。

【Outline (in English)】
In this class, we will examine the various ways in which people are connecting with each other in today's world, and consider what kind of form and role the "third place," which is necessary for people apart from their homes and workplaces, will take in the future.
The goal of the class is for participants to be able to reconsider how people are connected to each other and how people are connected to society, while considering "third places" in the present age.
There will be times when students will be required to watch video materials (20-30 minutes) online as part of their learning outside of class time. Students will also be required to submit their reactions to the class within 3 days of the class. In addition, each student is expected to complete assignments outside of class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Grades will be based on 60% of normal points and 40% of assignments. Students are required to submit all assignments.

DES200GA

情報の編集論

川村　たつる

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**情報編集論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**定員 40 名　定員を超えた場合は選抜を行います。定員 45 名　定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。**
備考（履修条件等）：**旧：情報編集論の修得者は履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「デザインする」という制作側の方法論を使いながら「情報の意味」を考え、「情報を編集する」ということを学んでいきます。
授業内で扱う題材は、受講者のみなさんが普段何気なく見ている広告（ポスターや新聞、雑誌等の静止画広告）やコマーシャル（映像広告）、商品パッケージ（販売される商品を入れてる箱や袋）に設定し、それぞれがどのような意図で作られているのかを制作する側の視点で考察していきます。

【到達目標】
受講者それぞれが、情報を伝える側として「情報の編集」を考えることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■人数制限・選抜
授業は対面を基本に行いますので、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。
※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方
①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。受講者の中にオンライン受講者がいる場合は、ハイフレックス形式でオンライン配信も行います。
②毎回の授業後には、授業内容に関するリアクションの提出してもらいます。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。その中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要なリアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。
③課題は、発表会を行い、講評を行います。また、提出された課題内容は、全受講者で共有できるように授業支援システム内で閲覧できるようにします。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「情報の編集」を考える
第 2 回	デザインする 1	「デザインする」とは何か？
第 3 回	デザインする 2	「デザインする」を考える
第 4 回	広告と情報 1	「自分が最近気になる広告」を持ち寄って考える
第 5 回	広告と情報 2	「広告」という情報
第 6 回	広告と情報 3	「広告」とは何か？
第 7 回	映像広告と情報 1	「自分が最近気になる映像広告」を持ち寄って考える
第 8 回	映像広告と情報 2	「映像広告」という情報
第 9 回	商品パッケージと情報 1	「自分が最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考える
第 10 回	商品パッケージと情報 2	「商品パッケージ」という情報
第 11 回	映像と情報	「映像」という情報を考えてみる
第 12 回	写真と情報	「写真」という情報を考えてみる
第 13 回	芸術と情報	「芸術」という情報を考えてみる
第 14 回	まとめ	「情報の編集」をもう一度考えてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業リアクションの提出は、授業後に授業支援システムで行うこととします。
●課題は、各自が授業外で行うこととします。
●本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。
※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010 年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001 年）、「Design Rule Index ―デザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004 年）等。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、出席率と受講態度、並びに各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（60%）。
また、課題に対して受講者自身がどのようなにアプローチができたかを評価（40%）。※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で応用できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
In this class, we will learn how to "edit information" from the methodology of "designing".
The goal of the class is for students to be able to effectively "edit information" as a communicator of information.
Students are expected to submit their reactions to the class within three days of the class. In addition, each student is expected to complete assignments outside of class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Grades will be based on 60% of normal points and 40% of assignments.Students are required to submit all assignments.

FRI200GA

文化情報の哲学

森村　修

サブタイトル：**ジュディス・バトラーの思想――性的マイノリティの挑戦**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
《授業の概要》
本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分（self）」としての「主体性=主観性（subjectivity）」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私（自分）」とは何でしょうか？　「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか？　あるいは、「私」はどうして「他者（the other）」とは異なるでしょうか？　これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちはだかってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を根底で支えている「人生・生・生命（Life）」に焦点を当てて考えてみます。その際に、私たちが日常生活を営むとき、自分が「生きていること」に、それほど意識を向けていません。

でも、突然、病気になったり怪我をしたりすると、自分が「生きている」という当たり前のことがとても重要なことであることに気づきます。私たちの「生活（Life）」も「無事に生きている」からこそ営めるのです。

【授業の目的】
そこで、本授業では、**ジュディス・バトラー（1956-）の思想**を取り上げ、性的マイノリティを通じて、私たちの「生」と「性」、さらには社会のあり方について哲学的に考えてみることを試みます。

【到達目標】
（1）21 世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
（2）哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など ・ジュディス・バトラーとは誰か
2	序　なぜバトラーなのか？	・バトラー思想のキーワード（弁証法・パフォーマティヴィティ）
3	第一章　主体①	・ヘーゲル哲学とコジェーヴ
4	第一章　主体②	・構造主義とポスト構造主義
5	第二章　ジェンダー①	・女性性という問題
6	第二章　ジェンダー②	・メランコリーとしてのジェンダー
7	第三章　セックス①	・物質としての身体
8	第三章　セックス②	・ラカン精神分析における女
9	第三章　セックス③	・ファルス「である」こと、ファルスを「もつ」こと
10	第四章　言語①	・傷つける言葉
11	第四章　言語②	・呼びかけとしての言葉
12	第五章　精神①	・権力と精神
13	第五章　精神②	・バトラー以降
14	バトラー思想のまとめと批判	・バトラーの残したもの

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・サラ・サリー『ジュディス・バトラー』竹村和子他訳、青土社、2005 年
【テキストが手に入りにくい場合は、必要に応じてこちらで準備する】

【参考書】
・授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・期末レポート（30 %）、授業内レジュメ（30 %）、平常点（40 %）
※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする
※要注意【変更】
リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】
・本授業は、テクストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。
・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテクストを正確に読めること、第二に、正確なテクスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】
【Couse outline】
This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture". Therefore, we will first focus on "Life", which underlies "I" or "self". When we go about our daily lives, we do not pay much attention to the fact that we are alive.

However, when we suddenly get sick or injured, we realize that the fact that we are alive is very important. Our life is possible because we are "alive". So what is life? At the end of the course, students are expected to think about our life, and between philosophically.

In this class, we will focus on **the philosophy of Judith Butler** (1956-). From the standpoint of sexual minorities, she philosophizes about the relationship between our lives and sexuality, as well as about society and politics.
【Leaning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to learn how important it is for us to philosophize.
-B. to learn to think philosophically.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%).

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣　立男

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**情報デザイン**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティスあるいはソーシャリー・エンゲージド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野について学びます。社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。

【到達目標】
この授業では、下記の 3 つのテーマで実習を行います。
1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題
自分たちを取り巻く様々な社会的な課題を捉え直し、調査を基に自分なりに課題を設定して作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウィルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面からオンラインへ変更する場合には教員からお知らせしますので、ご確認ください。
実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。
ワークショップの冒頭に課題と関連した社会的課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。
次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。
最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。
○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
Zoom（ミーティング）
Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
Miro（コラボレーション）
Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/26	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
10/3	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ 講義とディスカッション	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など （対面もしくはブレークアウトルームでの）ディスカッション
10/10	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ 作品制作	スピーチについて 環境問題のテーマを考える
10/17	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ プレゼンテーション 1	スピーチによるプレゼンテーションとディスカッション
10/24	ワークショップ 1 環境と社会 / スピーチ プレゼンテーション 2	スピーチによるプレゼンテーションとディスカッション
10/31	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 講義とディスカッション	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など
11/7	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 プレゼンテーション	映像によるプレゼンテーション
11/14	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 作品制作 1	映像による作品制作とディスカッション 1
11/21	ワークショップ 2 共生社会 / 映像 作品制作 1	映像による作品制作とディスカッション 2
11/28	ワークショプ 3　政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義とディスカッション	ジェンダー、貧困問題、表現の自由など
12/5	ワークショプ 3　政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 作品制作	インスタレーション・オブジェなどによるプレゼンテーション
12/12	ワークショプ 3　政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス プレゼンテーション	作品制作 1 インスタレーション・オブジェなどによる作品制作とディスカッション 1
12/19	ワークショプ 3　政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス プレゼンテーション	作品制作 2 インスタレーション・オブジェなどによる作品制作とディスカッション 2
1/18	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
パブロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための 10 のポイント』フィルムアート社、2015 年
アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって』 フィルムアート社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
作品のアイディアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】
遠隔授業への対応（重要）
2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。
授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。
1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。
学習環境
講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。
授業の方法
Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。
対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
課題
受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問・相談
質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline (in English)】
Course outline
We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.
Learning Objectives
In this practical lesson, we will practice the following three themes.
1. Environmental problems and society
2. Symbiotic society
3. Political issues
We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

サブカルチャー論

島田　雅彦

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**教室定員を超過した場合は選抜**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】
イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが，授業内で行った小レポー ト等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	１９６０年代のアメリカの　カウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム　政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教室で指示する。

【参考書】
教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点 20 %、レポート 80 %とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline (in English)】
Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel,fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general.Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age.The goals of this course are to　acquire new awareness of subcultures, comprehensive understanding of subculture genres, and knowledge of historical background.A written test will be given but active participation in the discussion will also be appreciated. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

HUI200GA

道具による感覚・体験のデザイン

甲　洋介

サブタイトル：**カラダの『体験』から空間をデザインする**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● **日常の体験こそ面白い**
おそらくあなたが体験という言葉から連想するのは、可笑しな体験、驚いたこと、つらかったこと、忘れられない事など、ほとんどが非日常的な体験であろう。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の体験の豊かさにこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてでさえ、身体のさまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようになる。

● **『体験』から、空間をデザインする**
今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようになる。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。
　身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するのか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● **体験をデザインする、ということ**
「経験」「体験」(*experience*) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」はかつてない速度で変化が進み、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、” あたかも体験したかのように” 受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】
受講生はつぎの３つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。
　1) 体験するとはどのようなことか
　2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
　3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するのか。
そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようになる。
これらを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる３つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

●【講義の３つのテーマ】
(a) 身体と感覚、体験するということ
(b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
(c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

●【デザインワークショップ】
さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。
※新型コロナ感染状況によって授業方法やグループワーク内容を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。その場合も制作など実践の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第 2 回	**[A] 身体、感覚、体験**	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第 3 回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第 4 回	感情の科学：感情をともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第 5 回	**[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン**	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第 6 回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第 7 回	人間の空間行動〜パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第 8 回	デザインワークショップ 1	からだが『空間を体験する』
第 9 回	**[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す**	体験 *experience* から、空間をデザインする
第 10 回	空間の体験　〜道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第 11 回	身体からみた『日本庭園』〜日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第 12 回	デザインワークショップ 2	カフェ、オフィス、学校、『場所』のデザイン、発表と討議
第 13 回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックスドリアリティ MR、代替現実 SR
第 14 回	まとめ：身体、感覚、体験 -revisit -	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回時に指示をする。

【参考書】
・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
・「空間の経験―身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】
・レポート、作品制作 (50 %)
・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点（50 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
　講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。
　教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】
「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣおよび、ＤＶＤデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】
This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.
By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of "experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student’s in-class contribution (50%).

ART300GA

マルチメディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（15 名）。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、**少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習**です。
わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】
写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル（銀塩＋デジカメ、レフ、ストロボ）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・映像制作技法： Jingle、絵コンテ、ショートフィルム（ハンディカム）
●クリティーク
各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・Jingle (短い 15 秒程度の CM 的映像)
・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。
●大事にしたいこと
・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【自由課題による写真課題】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題： line、pattern、texture】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド　実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク： line、pattern、texture 【写真課題：光と影、色】
4	コミュニケーションデザインの手法－ Web	Web の特性とデザインについて理解する。 クリティーク：光と影、色 【写真課題：人物ポートレート、ライティング（2 週間）】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（ＣＤ，ＤＶＤなど）の構成法を理解する。 実習： Premiere による短いビデオ 【課題：写真ポートフォリオ（2 週間）】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース　制作	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 【課題： Web 写真アルバム（2 週間）】
7	タイポグラフィの基礎 中間のまとめ：課題のクリティーク	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク： Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース　実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。 クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。**長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。**本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
マルチメディア全般について以下の２冊を参考書として挙げる。
参考書（1）CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 参考書（2）CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1　以上の２冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

撮影技法については、キット　タケナガ（著）　東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。
ショートムービーの制作については、ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956 が参考になる。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点 (20%)、中間課題 (30%) ならびに最終課題 (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
2011 年度までは 3〜4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PC を必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびに ePortfolio に提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ： Premiere、Photoshop などを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PC やソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため 20 名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。**作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。**
情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、
高度な ICT の活用実習、ならびに作品制作を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshop の応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 20%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA

【2022 年度休講】メディア表現ワークショップ 1

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表現活動に繋がるフィールドワークに関する実習授業です。各実習はワークショップ形式で行います。
教室や大学の構内外を 3 つのテーマ（カメラを持って旅に出よう。スケッチブックに記録しよう。動きや音を拾うことから。）によるフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】
みなさんは課題を通じて様々な表現活動に通じる取材・調査方法や様々なメディアを使った表現方法を学びます。
各課題に取り組むにあたっては、自由な発想、臨機応変な対応が必要となります。柔軟な姿勢で（楽しんで）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
下記の 3 つの内容に基づいて、制作実習をします。
第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。
記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。
スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしていきます。
第 3 課題　動きや音を拾うことから。
拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。
お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。また、授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
· Zoom（ミーティング）
· Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
· Miro（コラボレーション）
· Flip grid（映像制作、コラボレーション））

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
4/19	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	課題説明 講義　記録としての写真
4/26	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
5/10	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	課題制作
5/17	第 1 課題　カメラを持って旅に出よう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
5/24	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。	課題説明 講義　スケッチの技法
5/31	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
6/7	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう	課題制作
6/14	第 2 課題　スケッチブックに記録しよう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
6/21	第 3 課題　動きや音を拾う。	課題説明 講義　音や映像による記録
6/28	第 3 課題　動きや音を拾うことから。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
7/5	第 3 課題　動きや音を拾うことから。	課題制作
7/12	第 3 課題　動きや音を拾うことから。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
7/19	講評会	3 つの課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
藤田 結子『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践 (ワードマップ)』新曜社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。
楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
スケッチブック及び iPhone や Android などの携帯端末が必要となります。

【その他の重要事項】
遠隔授業への対応（重要）
2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。
授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。
1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。
学習環境
講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。
授業の方法
Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。
対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
課題
受講後に課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問・相談
質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline (in English)】
This is a practical course about fieldwork leading to expression activities. Each practice is done in a workshop format.
Fieldwork is conducted according to three themes inside and outside the classroom and university premises, and the results are presented.

ART300GA

メディア表現ワークショップ２

島田　雅彦

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙 げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方 ABC を伝授する。メールから企画書、報告 書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力 や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】
半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか?
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか?
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人?
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の 8 割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『小説作法 ABC』 島田雅彦　新潮選書２００９

【参考書】
『深読み日本文学』　島田雅彦　集英社インターナショナル新書２０１８

【成績評価の方法と基準】
折々のレポートと期末の創作７０%、平常点３０%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline (in English)】
Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails , we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work.The goals of this course are to　learn the basic theory of creation, the mechanism of speech, how to approach various themes of creation, etc.Evaluate active participation in the workshop and each report submission. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

ART300GA

メディア表現ワークショップ３

グアリーニ　レティツィア

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旅行をテーマにしている実習授業です。ガイドブック、ブログ、写真、漫画、ポッドキャストなど、様々なメディアにおける旅の語り方を分析します。また、受講者が自らガイドになって、好きなメディアで成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】
1）様々なメディアを使った表現方法を学ぶ。
2）グループワークに必要なコミュニケーション能力のスキルを身につける。
3）抽象的なアイディアを具体に落とすスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
制作実習をします。お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。
グループディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9/23 オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。
第 2 回	9/30 ガイドブックを分析する	様々なガイドブックを比較しながら、いいガイドブックの作り方について考える。
第 3 回	10/7 ブログを分析する	様々な旅行ブログを比較する。
第 4 回	10/14 写真を分析する	様々な旅行雑誌や本を比較しながら分析する。
第 5 回	10/21 漫画を分析する	旅行をテーマにした漫画を分析する。
第 6 回	10/28 ポッドキャストを分析する	様々なポッドキャストを比較しながら、いいポッドキャストの作り方について考える。
第 7 回	11/11 課題制作	グループでブレインストーミングを行う。
第 8 回	11/18 課題制作	企画書を作る。
第 9 回	11/25 プレゼンテーション	受講者がそれぞれのプロジェクトについてプレゼンテーションを行い、クラスのメンバーからアドバイスをもらう。
第 10 回	12/2 課題制作	作品に取り組む。
第 11 回	12/9 課題制作	問題点を洗い出しながら、引き続き作品に取り組む。
第 12 回	12/16 課題制作	作品の内容を練り、完成に近い状態まで進む。
第 13 回	12/23 プロポーザル制作	プレゼンテーションの準備
第 14 回	1/20 プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題ごとに、授業外でも教材を考察し、作品の制作に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
授業ごとに参考書や作品について紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワークとプレゼンテーション 50 %、課題制作の作品 50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではスマートフォンや PC といったディバイスを活用し、SNS を役立てる。
作品制作を行う際もスマートフォンや PC の準備が必要です。

【その他の重要事項】
協同作業も多いので、休まず出席すること。
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の教材を使うこともあります。

【Outline (in English)】
In this class, we will analyze the way travel is narrated in various media such as guidebooks, blogs, photos, manga, podcasts, etc. Students will also create their own travel content and present their results in the media of their choice.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
a) Understand how different media apply different communication strategies.
b) Acquire the communication skills necessary for group work.
c) Acquire the skills to make abstract concepts more concrete and understandable.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to work on their own projects.
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Group work and presentation: 50%
Final project: 50%

ART300GA

【2022 年度休講】五感共生論

川村　たつる

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**定員 40 名　定員を超えた場合は選抜を行います。定員 45 名　定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人は物・事をどのように認識しているのかを、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の相互の関係を考察していきながら学んでいきます。

【到達目標】
それぞれが自身の視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の再確認を通して、人の身体感覚を再考察できることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■人数制限・選抜
本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。
※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。
■授業の進め方
「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、下記の①②をセットで進めていきます。
①五感それぞれにまつわる事例紹介や簡単な実験を通して受講者自身が「感覚」を再考察し、その考察を参考にしながら課題制作を行います。
②提出された課題作品は全体鑑賞会において全受講者で鑑賞し、自身と他者の着眼点の違いや表現方法の違いなどを考察していきます。
※課題の内容は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。
※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。
※課題に対しての個別のフィードバックは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	人と感覚の関係を考える
第 2 回	視覚 1	視覚に関する事例から考える
第 3 回	視覚 2	錯覚・錯視という事例から考える
第 4 回	視覚 3	「見る」ということ・「見える」ということを考える
第 5 回	作品鑑賞会 1	課題 1 で提出された作品を全員で鑑賞
第 6 回	聴覚 1	聴覚に関する事例から考える
第 7 回	聴覚 2	「聞く」ということ・「聞こえる」ということを考える
第 8 回	作品鑑賞会 2	課題 2 で提出された作品を全員で鑑賞
第 9 回	触覚 1	触覚に関する事例から考える
第 10 回	触覚 2	「触る」ということ・「触れている」ということを考える
第 11 回	作品鑑賞会 3	課題 3 で提出された作品を全員で鑑賞
第 12 回	味覚	味覚について考える
第 13 回	嗅覚	嗅覚について考える
第 14 回	まとめ	自身の感覚を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。
課題の制作は、各自授業外で行うこととします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『錯覚の世界』ジャック・ニニオ著（新曜社/2004 年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013 年）、『触覚の心理学』ダーヴィット・カッツ著（新曜社/2003 年）、『触覚の心理学』田崎權一著（ナカニシヤ出版/2017 年）、『味臭覚の科学』斉藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018 年）、『「おいしさ」の錯覚』チャールズ・スペンス著（角川亜書店/2018 年）等。

【成績評価の方法と基準】
課題に対して受講者自身がどのようなにアプローチができたかを評価（60%）。
また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
※授業中に授業と関係ない作業を行うこと、他の受講生への迷惑となる行為を行うことに対しては、厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
While considering the mutual relations of the five senses, think about how people perceive objects and things.

ART200GA

映像文化論

岡村　民夫

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**定員 60 名。それを超えたら選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スタジオジブリ結成以前の高畑勲・宮崎駿のアニメ映画を、欧米のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習する。

【到達目標】
　1950 年代〜 1980 年代前半の日本のアニメの映画的・アニメ的特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができる。また、ストーリーづくりだけでなく、ストーリーをどのように表現するかが大事であるということを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
　毎週、アニメ映画の制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行う。そして鑑賞した映画について気づいたことをコメントシートないし宿題に書いてもらう。それらのフィードバックは授業および hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを 15 分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第 2 回	初期東映動画	『白蛇伝』 『わんぱく王子の大蛇（おろち）退治』
第 3 回	高畑勲の初監督映画とその影響	『太陽の王子 ホルスの大冒険』 『長靴をはいた猫』
第 4 回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えたアニメ映画	ポール・グリモー レフ・アタマーノフ
第 5 回	『ルパン三世』第一シリーズ	「宝石横取り合戦」 「ジャジャ馬娘を助けだせ！」
第 6 回	『パンダコパンダ』二部作	『パンダコパンダ』 『パンダコパンダ　雨ふりサーカスの巻』
第 7 回	高畑勲のテレビシリーズ監督第一作 海外ロケーション	『アルプスの少女ハイジ』
第 8 回	主人公に対する距離 心象の表現	『母をたずねて三千里』 『赤毛のアン』
第 9 回	宮崎駿のテレビシリーズ監督第一作	『未来少年コナン』
第 10 回	宮崎駿の映画第一作	『ルパン三世カリオストロの城』
第 11 回	高畑勲の日本回帰	『じゃりン子チエ』 『セロ弾きのゴーシュ』
第 12 回	『アニメージュ』とともに	漫画『風の谷のナウシカ』と映画『風の谷のナウシカ』
第 13 回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた実写映画	溝口健二 オーソン・ウェルズ ジョン・フォード 黒沢明
第 14 回	まとめ	学んできたことを振り返って補い、レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。
授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
随時、プリントを配布します。

【参考書】
高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫
宮崎駿『出発点』徳間書店
叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿　奇異なもののポエジー』みすず書房
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲　アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）とレポート（50 %）。
平常点は出席だけでなく、コメントシートや宿題を通して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
なおコメントシートや宿題のフィードバックは、hoppii や授業を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。
初回にオンラインで選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。

【旧科目との重複履修】
なし。

【Outline (in English)】
　In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work before the foundation of Studio Ghibli, through the position of their style and the history of film, in comparison with occidental animation films.
【Learning Objectives】At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 80's.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】Term-end report : 50%、in class contribution: 50%

ART200GA

【2022 年度休講】写真論

丹羽　晴美

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、デジタルが主体となった写真について 19 世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡げたメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】
写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクションによる講義を実施。19 世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。課題に対するフィードバックは講義内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第 2 回	写真誕生前夜： 19 世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された 19 世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第 3 回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19 世紀半ば、写真発明に伴い何が起こり、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第 4 回	作家論１：現在と異なる写真技法を使った作家について	19 世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第 5 回	写真メディア史１：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第 6 回	写真メディア史２：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第 7 回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子と写真表現を考察する。
第 8 回	作家論２：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第 9 回	ドキュメンタリー１：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第 10 回	ドキュメンタリー２：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第 11 回	作家論３：記録と表現の狭間	記録することと、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第 12 回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第 13 回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第 14 回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約２〜３週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義内に指示

【成績評価の方法と基準】
レポート提出２割、期末試験８割この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】
講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline (in English)】
This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA

【2022 年度休講】映像と文学

林　志津江

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**※ 2021 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！ 私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テクスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】
・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
・「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
・文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。
・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、原則として対面授業で行います（「対面とオンデマンド型オンライン授業の組み合わせ」の可能性もあり）。
・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出します。
・Hoppii および Google Classroom を使用します。
・提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テクスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／ C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995 年、映画 2001 年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年）その１	時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（１）
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967 年、映画 1983 年）その２	学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来
5	R. ブラッドベリ『華氏 451 度』／ F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953 年、映画 1966 年）	「書物の神話」とメディア批判の古典、インターネットの時代の焚書の危機
6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006 年、映画 2009 年）	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント、コンピューターゲームは私たちと世界をどう変えたのか
7	S. フィツジェラルド／ J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 1974 年）その１	キラーコンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（２）
8	S. フィツジェラルド／ B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925 年、映画 2013 年）その２	「時代を超えた真実」V.S.「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響
9	掘辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その１	「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（３）
10	掘辰雄『風立ちぬ』（1937 年）『菜穂子』（1941 年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013 年）その２	「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間
11	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その１	「私」の記憶と真実の複数性、「西洋 V.S. 東洋」という二項対立
12	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968 年、映画 1983 年）その２	「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体
13	W. ヘルンドルフ／ F. アキン『14 歳、僕らの疾走／ 50 年後のボクたちは』（小説 2010 年、映画 2016 年）その１	ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（４）
14	W. ヘルンドルフ／ F. アキン『14 歳、僕らの疾走／ 50 年後のボクたちは』（小説 2010 年、映画 2016 年）その２	ロードムービーの快感、読者・観者に「語りかける」物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。
・授業で扱う文学作品について、配布済みの抜粋テクストをあらかじめ読んでおきます。

【テキスト（教科書）】
（以下「対面授業」が実施できる前提の記載です）
・文学作品については資料として配布、映像作品はこちらで用意して授業中に観てもらいます。最終レポートで扱う作品は各自で著書と映画にアクセスしてください。

【参考書】
・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（１）（２）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年
・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999 年
・J.・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 ― ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017 年
・A・パザン（野崎歓ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015 年
・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005 年
・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990 年
・杉野健太郎編著『［映画学叢書］映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011 年
・杉野健太郎編著『［映画学叢書］交錯する映画 ― アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013 年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と授業ごとの課題（小レポート）65 %、最終レポート課題 35 %を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
詳細は Hoppii 上で秋学期開始前に周知します。
・「対面授業」の場合、授業には筆記用具を持参（「ノートテイク」は必ず手書きで行います）、授業後の課題執筆作業には PC を使用してください。様々な事情で「ノートテイク」がデジタルガジェットでなければならない理由のある方は事前に申し出てください。

・「対面授業とオンデマンド型オンライン授業の組み合わせ」となる場合、「オンデマンド型」で授業に参加する場合は、安定的なインターネット通信環境と PC に加え、授業で扱う文学作品のうち４冊（文庫本）と映画ソフト８点（レンタルで可／映像サブスクリクションサービス上でのレンタル可）を各自でご準備いただきます。万一、全学的に「全面オンライン授業」となった場合も同様です。その場合の詳細は秋学期開始前に追記します。

【その他の重要事項】
・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
・授業に参加し、各回の授業内容を踏まえ執筆するのが「小レポート」です。「出席していない授業の内容について小レポートを提出する」という参加方法は認められません。
・授業運営の性質上、欠席した授業の代替措置といったものは行いません。
・部活動の公欠届や公共交通機関各社の遅延証明書の提出は不要です。担当者が重視するのは、授業参加時の態度とその成果の表現である提出課題です。

【Outline (in English)】
Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of fundamental film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

ART300GA

【2022 年度休講】演劇論

竹内　晶子

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。
この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】
・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
(a) 様々な演劇形態の説明、(b) 基本的演劇理論の解説、(c) 台本読解や DVD 鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題 (SQ) を期日までに提出することが必須です。単に DVD を漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。
基本的に授業は zoom 上で行いますが、オンライン上で手に入らない視聴覚教材を鑑賞する回は対面で行います。
授業では皆さんの課題への回答を紹介し、様々な視点を共有していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすること I ：ゼッフィレッリ版、映画版演の「蝶々夫人」	鑑賞と分析
第三回	演出が可能にすること II ：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	鑑賞
第四回	演出が可能にすること III ：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	議論、分析
第五回	演出が可能にすること IV ：モンティ版、ウィルソン版の「蝶々夫人」	鑑賞、議論、分析
第六回	日本の古典演劇 I	文楽、歌舞伎の歴史、
第七回	日本の古典演劇 II	能の歴史、二層のコミュニケーション
第八回	日本の古典演劇 III	能、文楽、歌舞伎の「所作」
第九回	能と西洋演劇	モダニズム運動と能
第十回	異性装 I	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装 II	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装 III	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ジーザス・クライスト・スーパースター』他
第十四回	学生発表	新作能・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の SQ（Study Questions）への回答を、期限内に提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料を用いる。

【参考書】
毛利三彌『演劇の詩学　劇上演の構造分析』相田書房、2007 年。

【成績評価の方法と基準】
・課題（ＳＱ）：50%。締切厳守。4 回以上課題を提出しなかった場合は、単位取得の権利を失います。
・積極的な授業参加：20%
・期末試験　30%
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の課題への回答を授業で紹介します。

【その他の重要事項】
・必ず初回授業（zoom）に参加すること。履修を希望する学生が多い場合には、選抜を実施します。
・対面の回と zoom の回とが混在するので、学習支援システム上で発表する指示に気をつけること。

【Outline (in English)】
Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater.

ART200GA

ポピュラー音楽論

大嶌　徹

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は春学期開講とする。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代日本における大衆音楽文化の形成を学ぶ。幕末から太平洋戦争終結までに現れた「人々」のための音楽動向を、近代日本音楽史、メディア研究、文化産業論、国際関係史などの観点を交えて検討し、J-ポップの原型となる大衆的な音楽文化環境がいかに成立したのかを理解する。現在との連続性を知るために、近年の音楽動向についても随時参照し、日常的に接している音楽を歴史的な観点で捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】
・音楽史を、作品/演奏の様式だけでなく、制度やイデオロギー、産業や消費行動などの社会的要素を交えた観点から理解できる。
・近代日本の音楽をめぐる諸問題について理解し、現代とのつながりや、他地域の音楽文化との関連を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式。リアクションペーパー等で質問を受け付け、授業内で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の目的と概要の説明
2 回	軍楽隊	軍隊を介した西洋音楽の導入とブラスバンドの普及について
3 回	唱歌	音楽教育と学校で教授される歌の成立について
4 回	俗謡・演歌師	江戸町人文化から連続する巷のはやりうたと明治後期の大道芸人について
5 回	番外編 1:「音楽」からの性愛の排除	官製「音楽」による性愛の排除が現代の音楽文化に与えている影響について
6 回	文化改良運動、歌劇	大正期に興隆する民間主体の芸術運動、とくに西洋風歌曲の創作について
7 回	童謡、新民謡	大正期におこった子供および地域のための歌の創作について
8 回	レコードの到来	レコードメディアの誕生とその日本への伝来について
9 回	流行歌の誕生	歌を売るビジネスの確立と、その音楽スタイルについて
10 回	「洋楽」の大衆化	大正教養主義〜レコード産業の発展にともなう洋楽の普及について
11 回	番外編 2: 音楽著作権ビジネスの確立	1960 年代の音楽ビジネスモデルの転換について
12 回	戦時下の文化統制	文化統制下における音楽実践について
13 回	軍歌・軍国歌謡	音楽普及において軍歌が果たした役割と、15 年戦争期に流行した軍国歌謡について
14 回	まとめ	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を読み直しながら音源を聴く。配布資料掲載の参考文献を読む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート 70%。テーマは授業内で提示する。
リアクションペーパー 30%。　この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに返答する時間を設けるなどして、学生からの要望や質問に応じられるよう工夫する。

【Outline (in English)】
This course deals with the formation of popular music culture in modern Japan. Examining the trends in music for the "people" that emerged from the end of the Edo period to the end of the Pacific War, we will understand how Japanese popular music culture has been established.
【Grading Criteria /Policy】
Report assignment:70 %
Reaction paper　for each class 30 %
Preparatory study and review time for this class are 2 hours.

ART300GA

コミックス論

野田　謙介

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：※ 2022 年度は春学期開講とする。

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外で日本のマンガが人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本のアニメ・マンガを原語で楽しむために日本語を学ぶ外国の若者は、おどろくほど多いです。しかしながら海外における日本マンガ受容の実態を、わたしたちは本当に知っていると言えるのでしょうか。あるいは、そもそも日本語における「マンガ」という表記はどこまでをその範疇にふくめ得るのでしょう。
　本授業では、マンガを理論的、歴史的、社会的な側面から概観します。そうすることによって、わかったつもりになっていたマンガについて学生諸君が主体的に、また自覚的・客観的にとらえなおせるようになることをめざします。

【到達目標】
◆マンガの歴史について基礎的な知識を身につける。
◆マンガが自明な概念でないことを理解し、社会的な観点から説明できるようになる。
◆普段なにげなく読んでいるマンガについて、その表現の仕組みを理論的に指摘することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式ですすめます。毎回リアクションペーパーの提出をお願いします。リアクションペーパーや提出課題は適宜授業内でとりあげ、フィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：まんが、マンガ、漫画、コミックス？	マンガの呼称と現状
2	マンガの読み方 I	マンガの三要素について
3	マンガの読み方 II	時間・運動・音について
4	マンガの読み方 III	世界制作の方法
5	マンガの歴史	起源について
6	マンガの歴史：日本編 I	戦前
7	マンガの歴史：日本編 II	戦前から 80 年代まで
8	マンガの歴史：日本編 III	80 年代以降
9	マンガの歴史：日本編 IV	コミケ
10	マンガとアニメーション	マンガ版とアニメ版の『ナウシカ』比較
11	マンガの歴史：海外編 I	日本マンガの受容史
12	マンガの歴史：海外編 II	米・仏のマンガ史
13	マンガの読み方 IV	翻訳について
14	まとめ	授業の総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えてもらうことがあります。また、課題を提出してもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】
各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験（60%）、提出物（30%）、授業内発言（10%）。
文化を相対化する視点と自覚的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

【Outline (in English)】
We often hear that Japanese manga is quite popular in foreign countries. In fact, there are many young people who learn Japanese to enjoy Japanese anime and manga in their original language. However, do we really know the actual situation overseas? First of all, what is "Manga" in Japan?
This course provides an overview of manga from a theoretical, historical, and social points of view, giving clues for rethinking the manga that has been considered to be self-evident.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- have a basic knowledge on the history of manga.
- understand that manga is not an obvious concept,and explain it from a social perspective.
- point out the mechanism of expression of manga, which we usually read unconsciously.
You may be asked to read the assigned works as a preparatory activity and answer the questions orally in class. You may also be asked to submit assignments.
Term-end examination: 60%、Short reports: 30%、in-class ramarks: 10%
.
The evaluation criterion will be whether or not the student has acquired the perspective of relativizing own culture and the means of reading manga consciously. Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will be considered to have passed the class.

ART300GA

【2022 年度休講】空間デザイン論

前田　尚武

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**定員 40 名**
備考（履修条件等）：**2021 年 9 月に履修希望者の受付を行う。定員超過の場合は選抜を実施する。詳細は 、学習支援システムのお知らせを参照すること（2021 年 8 月以降に掲載予定）。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】
本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解し、表現・伝達する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは第一線で活動している訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などの生の声と空間の実体験から、様々な立場で建築、都市、アートに関わる際の実践的な理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施し、訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などからのヒアリングも行う。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワークの調査先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから良いコメントを紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第 2 回	講義「アートと空間 1 ：現代美術のインスタレーションと空間デザイン」	現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第 3 回	講義「アートと空間 2 ：美術館・博物館建築論」	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察する。
第 4 回	講義「アートと空間 3 ：エリアマネジメントとアート」	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第 5 回	フィールドワーク 六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	都市とアートの関係から現代美術の展示手法、展示空間のデザインまで実例をもとに解説する。
第 6 回	フィールドワーク 六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	都市とアートの関係から現代美術の展示手法、展示空間のデザインまで実例をもとに解説する。
第 7 回	講義「都市と空間 1 ：現代都市デザインの萌芽」	戦後の復興都市計画から 60 年に起きた建築運動メタボリズムから高度経済成長期に日本の建築家たちが描いた未来都市を紹介。
第 8 回	講義「都市と空間 2 ：都市デザインの未来」	70 年の大阪万博から六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第 9 回	フィールドワーク（オンライン） 京都市京セラ美術館	講師が企画し、開催中の「モダン建築の京都」展をオンラインで解説。京都に多数現存するモダン建築を通して日本の都市と建築の近代化を解説。
第 10 回	フィールドワーク（オンライン） 京都市京セラ美術館	現存する美術館建築として最も古く、2020 年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わった講師がオンラインで解説。
第 11 回	講義「伝統と空間 1 ：日本建築の発見」	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第 12 回	講義「伝統と空間 2 ：日本建築のグローバリズムと多様性」	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第 13 回	フィールドワーク 江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第 14 回	フィールドワーク 江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業時に随時配布、紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、レポートの合計。評価基準は平常点 50 %、レポート 50 %とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク訪問先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】
◉講義日程
土曜日３-４限 2 コマ連続開講（原則隔週）を予定しており、詳細日程は、2021 年夏をめどに決定し、学習支援システムで周知する。
◉講師略歴
前田尚武（まえだ なおたけ）
一級建築士／学芸員。１９９４年、早稲田大学大学院修了。２００３年から１５年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」、「建築の日本展」など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で２０１９年度日本建築学会文化賞受賞。

【Outline (in English)】
“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.
Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.

ART200GA

比較表象文化論

竹内　晶子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】
・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。
毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズム III	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『ベイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『ベイマックス』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論 II	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論 IV	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論 V	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論 VI	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題 (SQ) へのレスポンスを提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・課題 (Study Question): 60 %
・積極的な授業参加（ディスカッション）： 10%
・期末レポート： 30%
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の回答を授業内で多く紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
感染状況他の理由でオンライン授業になった場合、「ラスト・サムライ」、「ベイマックス」、ディズニーアニメ「シンデレラ」、「エバーアフター」は当該週に学生各自がオンラインでレンタルして視聴する必要があります。レンタル料はそれぞれ３００円程度〜かかります（レンタル方法によって料金は異なります）。

【その他の重要事項】
第一回目の授業はオンラインで行います。履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).
【Learning Objectives】
Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.
【Grading Criteria/Policy】
Assignments: 60%
Active Participation in class discussion: 10%
term paper: 30%

ART200GA

異文化と身体表現

深谷　公宣

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
舞踊や芸能などの身体表現活動をモチーフとした映画作品を紹介し、そこに見られる異文化の問題を、宗教、性、人種、階級といった観点から解説する。本授業ではそれらの問題を「文化スキーマ」に由来するものと捉え、スキーマがもたらすステレオタイプとその越境の可能性について考えたい。

【到達目標】
・映像作品における文化的要素を意識して捉え、理解することができる。
・文化的要素がどのようにしてステレオタイプや偏見などの固定化された見方を生み出すのかについて、理解することができる。
・舞踊や芸能が果たす文化的役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講者は授業の最後に、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付して返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・『フットルース』、『ハウマーナ』	・授業の概要、進め方の説明 ・キリスト教と舞踊の関係性について考える。
2	『ダーティ・ダンシング』、『屋根の上のバイオリン弾き』	・ユダヤ人の伝統的コミュニティについて考える。
3	『ダンシング・ハバナ』	・キューバ革命が市民にもたらした影響について考える。
4	『フラッシュ・ダンス』、『ダンス・レボリューション』	・「ムラータ」の表象について、性、人種、階級の点から考える。
5	『ビリー・エリオット』、他	・イギリス（およびアイルランド）における労働者階級の歴史・生活・文化について考える。
6	『ムーラン・ルージュ』	・19 世紀パリに始まるレビューの文化とボヘミアニズムについて、デジタル時代の視点から考える。
7	『エリザベート』	・19 世紀のオーストリア＝ハンガリー帝国とボヘミアニズムについて、レビューの視点から考える。
8	『ホワイト・ナイツ』、『タップ』	・19 世紀に始まるクラシック・バレエとタップダンスを軸に、政治イデオロギーと冷戦について考える。
9	『ミス・サイゴン』	・ベトナム戦争とアメリカ文化について考える。
10	『王様と私』	・19 世紀に始まる近代化の諸問題について考える。
11	『花の生涯』	・京劇の歴史とその政治的背景について考える。
12	『祇園の姉妹』、『舞妓はレディ』	・日本のゲイシャについて考える。
13	『西便制ー風の丘を越えて』、『曽根崎心中』	・韓国の「恨」と日本の「情」について考える。
14	まとめ	・授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介された映画は可能な限り観るように努める。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
【映画関連】
・ジャン・ミシェル＝フロドン『映画と国民国家』（岩波書店）
・佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（NTT 出版）
・栗林輝夫他『シネマで読むアメリカの歴史と宗教』（キリスト教新聞社）
・岩本憲児他編『新・映画理論集成〈１〉歴史・人種・ジェンダー』（フィルムアート社）
【舞踊・芸能関連】
・ジェラルド・ジョナス『世界のダンス―民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
・邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
・渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
・三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』（吉川弘文館）
・舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
・矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
・加藤雅彦『ウィンナ・ワルツーハプスブルグ帝国の遺産』（NHK ブックス）
・宮尾慈良『これだけは知っておきたい　世界の民族舞踊』（新書館）
・魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
・矢内賢二『芸術教養シリーズ 9 歌、舞、物語の豊かな世界 日本の芸術史 文学上演篇 I』（幻冬舎）
・赤松紀彦『芸術教養シリーズ 11 中国の伝統文芸・演劇・音楽 アジアの芸術史 文学上演篇』（幻冬舎）
・赤松紀彦『芸術教養シリーズ 12 朝鮮半島、インド、東南アジアの詩と芸能 アジアの芸術史 文学上演篇 II』（幻冬舎）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %
学期末レポート 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
授業で扱う映画作品や進行順序は事情により変更する場合がある。

【Outline (in English)】
・Course outline: This course is designed to help students understand intercultural issues in terms of religion, gender, race, and class, through dance or entertainment films which show characteristic body movements and their social background. By taking the intercultural conflicts derived from "cultural schemata, " which often result in stereotypical misunderstandings, this course aims to explore how to transgress such schemata.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to interpret cultural elements seen in films, and understand how such elements lead to stereotypes or prejudices. Through the interpretation and understanding, they will be able to recognize a crucial role in a society that dance and entertainment culture play.
・Learning activities outside of the classroom: see as many films as possible, particularly those mentioned in class.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final Paper 50%.

ART300GA

パフォーマンスの美学

森村　修

サブタイトル：**〈からだ〉の美学―写される〈からだ〉・加工される〈自己〉、そして構築されるセクシュアリティ**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**パフォーマンス・スタディーズ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり・選抜試験**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、「美学=感性学（aesthetics）」の立場から、文化的・政治的・社会的な文脈で身体を用いて表現された「パフォーマンス（performance）」の「美しさ」を追求することです。
2022 年度では、私たちの〈からだの美しさ〉に着目しながら、〈からだ〉がどのように表現されてきたかを「ボディ・スタディーズ（Body Studies）」の観点からアプローチすることを試みます。その際に、特に「セクシュアリティとパフォーマンス」というテーマで、特定のアーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性／アイデンティティーを問題にしていることを考察します。

【到達目標】
（1）アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
（2）自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
（3）高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
（4）アートの領域の内部で生じた、20 世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる
（5）「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行います。
②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していきます。
③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えています（自由参加）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	Body Studies の基礎①	・Body Studies と Performance との関係について概観する
3	Body Studies の基礎②	・被写体としての〈からだ〉について考察する。
4	Body Studies の応用①――フェミニズムとパフォーマンス①	・表現される〈からだ〉をセクシュアリティから考える
5	Body Studies の応用②――フェミニズムとパフォーマンス②	・〈からだ〉を痛めつけることから見えてくるもの
6	Body Studies の現在①	・〈からだ〉に映し出されるアイデンティティーを考える
7	Body Studies の現在②	・〈からだ〉に刻まれた記憶と痛み
8	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ①	・〈自分〉を映し出すこと――セルフ・ポートレイト
9	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ②	・〈日常〉を切り取ること――スナップ写真の〈顔〉
10	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ③	・〈はだか〉ってキレイだけどヤバイよね？ ①――アートか猥褻か
11	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ④	・〈はだか〉ってキレイだけどヤバイよね？ ②――アートと検閲
12	浮世絵・春画からみた〈からだ〉①	・春画はアートかポルノグラフィか？
13	浮世絵・春画からみた〈からだ〉②	・春画における身体表現
14	まとめ	・これからの Body Studies と Aesthetics of performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
パフォーマンス・スタディーズは、1980 年代に登場した新しい研究です。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらすことで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたいです。また、〈からだ〉に特化した Body Studies は、Performance Studies のひとつの方向性を示しています。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に、特定のテキストは用いません。
授業内で配布するテキストの抜粋などを用いて、事前に読んできてもらうことを考えています。

【参考書】
(1) Margo DeMello, *Body Studies: An Introduction*, Routledge, 2014.（マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ――性、人種、エイジング、健康／病の身体学への招待』、晃洋書房、2017 年）
(2) 早川聞多『春画』、角川ソフィア文庫、2019 年
(3) タイモン・スクリーチ『春画――片手で読む江戸の絵』、講談社学術文庫、2010 年

【成績評価の方法と基準】
【成績評価】
①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25 %）
②期末リポート（75 %）
【評価基準】
①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
②期末リポートは、あくまで「批評（critique）」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準（criterion）」が前提されている必要がある。
（1）自分自身の「評価規準」が明確であること。
（2）自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
（3）自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
（4）自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていることこの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・本講義がめざしているのは、パフォーマンス・スタディーズや Body studies を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。
・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。
・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性（presentation）」は「表象（representation）」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性（performativity）」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

【受講上の注意】
・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。
・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜することも考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire to pursue the "beauty of performance" expressed in the cultural, political and social context from the standpoint of aesthetics. In 2022, we will try to approach from the viewpoint of Body Studies how Body has been expressed while paying attention to the beauty of the body.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn about the basics of "performance studies.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (30%), and in-class contribution (40%).

ART300GA

現代美術論

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。
この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PC での学習を推奨します。
授業当日の流れ（重要）
授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。
ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答して提出する。
授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくとお答えします。
授業の方法
授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
課題
受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問・相談
一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
9/27	オリエンテーション	授業計画について
10/4	現代美術の基礎知識 1 メディアとアート（絵画・彫刻・ドローイング、写真・映像・インスタレーション）	美術の様々な技法やメディアについて確認してみましょう。この授業ではメディアの歴史的変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。
10/11	現代美術の基礎知識 2 20 世紀の美術（未来派・ダダ、シュルレアリズム 、アクション、ハプニング、ポップアート、 コンセプチュアル・ミニマルアート）	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60 年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。
10/18	現代美術の基礎知識 3 21 世紀の美術（新表現主義、YBA、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート）	1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。次に、ミレニアム前夜にイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深めます。2010 年代からソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
10/25	ワークショップ 1	現代美術の基礎知識 単元のまとめ ワークショップ・ドローイング
11/1	身体とパフォーマンス 1 現代美術とパフォーマンス（アクション、ハプニング、インスターション、パフォーマンスアート）	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960 年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70 年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
11/8	身体とパフォーマンス 2 身体とパフォーマンス（パフォーミング・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏）	パフォーミング・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
11/15	身体とパフォーマンス 3 音とパフォーマンス（現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック）	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。

11/22	身体とパフォーマンス 4 言葉とパフォーマンス（ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック）	テキストによる美術表現やパフォーマンスアートと現代詩の世界を比較します。
11/29	ワークショップ 2	身体とパフォーマンス 単元のまとめ ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス
12/6	社会と関わるアート 1 スライス・オブ・ライフ ー日常を描くー	スライス・オブ・ライフは、映画や小説、演劇の世界でありふれた日常を描くことを指しますが、日常を切り取る手法は絵画や映像などの美術作品にも存在します。この講義では、日常をテーマとしてフィールドワークを重ねて作品化するアーティストの手法について考察します。
12/13	社会と関わるアート 2 アートと文化研究	12/14　アートと文化研究 『文化研究』（カルチュラル・スタディーズ）やパフォーマンス研究（パフォーマンス・スタディーズ）は人種や民族、ジェンダーやなどの社会的な課題や日常、アイデンティティなど様々なテーマとした学際的研究アプローチについての理解を深めます。
12/20	社会と関わるアート 3 社会と関わるアート	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
1/10	ワークショップ 3	社会と関わるアート 単元のまとめ ワークショップ・コラボレーションワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで　世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline
This course is about contemporary art theory and practice.
Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.
The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.
Learning Objectives
The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.
It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LIT300GA

世界の中の日本文学

グアリーニ　レティツィア

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。とりわけ、１）移動する日本文学、２）文学における震災、３）文学に見るコロナ禍、三つの視点から世界文学における日本文学の位置付けについて考えながら、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】
１）現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
２）日本文学のテクストを分析できるようになる。
３）文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションやプレゼンテーションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4/8 オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第 2 回	4/15 移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第 3 回	4/22 バイリンガルな文学：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第 4 回	5/6 バイリンガルな文学：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第 5 回	5/13 移動する女性作家たち	大庭みな子、関口涼子、須賀敦子の作品を取り上げる。
第 6 回	5/20 温又柔を読む	温又柔のエッセイを読んで、ディスカッションを行う。小レポート（1）を提出する（800-1,200 文字程度）。
第 7 回	5/27 文学における震災	震災文学論について考える。
第 8 回	6/3　多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第 9 回	6/10　小林エリカ、川上未映子の震災文学	小林エリカ、川上未映子の作品を取り上げる。
第 10 回	6/17　世界から見た震災	ラウラ・今井・メッシーナの作品について考える。小レポート（2）を提出する（800-1,200 文字程度）。
第 11 回	6/24 日本文学に見るコロナ禍	コロナ文学について考える。
第 12 回	7/1 コロナ文学	コロナ文学のさまざまな作品を読んで、ディスカッションを行う。
第 13 回	7/8　世界から見たコロナ禍	パオロ・ジョルダーノ『コロナの時代の僕ら』を読んで、ディスカッションを行う。
第 14 回	7/16 まとめ	世界の中の日本文学／日本文学の中の世界について考える。小レポート（3）を提出する（2,000 文字程度）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 つの小レポートの提出が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて PDF でテキストを配布します。

【参考書】
郭南燕（編）『バイリンガルな日本語文学―多言語多文化のあいだ』（三元社、2013 年）
山出裕子『移動する女性たちの文学―多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010 年）
木村朗子『震災後文学論 ―あたらしい日本文学のために』（青土社、2013 年）
木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018 年）
木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021 年）
高橋 源一郎、斎藤 美奈子『この３０年の小説、ぜんぶ―読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021 年）

【成績評価の方法と基準】
グループワークとディスカッション 10%
小レポート（1）：温又柔「日本語圏の「新しい」台湾人として書く」（2013）についての小レポート（800-1,200 文字程度）　25%
小レポート（2）：対談「ラウラ・今井・メッシーナ × 山崎彩」についての小レポート（800-1,200 文字程度）　25%
小レポート（3）具体的な文学テクストを取り上げた小レポート (2,000 文字程度)　40%
小レポートについて授業内で詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world. In particular, we will consider the position of Japanese literature in world literature from three perspectives: 1) Japanese literature on the move, 2) the earthquake in literature, and 3) the COVID-19 pandemic in literature.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
a) Have basic knowledge about contemporary Japanese literature.
b) Analyze texts of Japanese literature.
c) Understand the relationship between literature and society.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Involvement during discussion and presentation: 10%
Short essay (1): 25%
Short essay (2): 25%
Short essay (3): 40%

LANj300GA

世界の中の日本語

大野　ロベルト

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
外国語を学んだつもりがど忘れし、海外の文化に触れたつもりですっぽ抜ける。現代社会でおなじみのこの悲喜劇の一因は、そもそも日本語と日本文化に対する理解の浅さに起因するのではないか。言葉や文化はどのように出来上がり、どのように相関するのか。この授業では幕末から二十世紀末までの日本語を、近代文学を素材として、主に海外との応答関係のなかで見つめてみたい。原典のみならず英訳されたテクストにも目を向け、必要に応じて外国文学との比較にも供してみる。また、古典文学との比較などを行いながら、日本の近代性についても検討する。講義は春学期に開講される「日英翻訳論」と響き合う内容となっている。

【到達目標】
比較的な視点に立つことで、自国の言語や文化を海外のそれと横並びに眺めたうえで、客観的な評価を加え、それを言語化できるようになる。文学作品を深く読み解く技術が身につき、英語のテクストに触れることで、語学的な運用能力も向上する。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じて随時フィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、日本語の特徴について考える（日本語はどのような言語なのか）。
2	日本語らしさ	「月がきれいですね」を出発点に、日本語にまつわる神話を解体する（日本語は愛せない言語である）。
3	外国語と日本語１	夏目漱石の活動を中心にとりあげ、明治時代の日本語を考える（日本語は借りものの言語である）。
4	外国語と日本語２	中原中也を中心にとりあげ、近代日本の詩歌について考える（日本語は創造的な言語である）。
5	日本語を書く	永井荷風を中心にとりあげ、日本語における書記行為を考える（日本語は組み合わせ自由な言語である）。
6	日本語を聞く	泉鏡花を中心にとりあげ、日本語における「声」について考える（日本語は多声的な言語である）。
7	日本語と影	谷崎潤一郎を中心にとりあげ、日本語の美意識について考える（日本語は光と影のある言語である）。
8	日本語と音	宮沢賢治を中心に、擬態語や擬声語について考える（日本語は音楽的な言語である）。
9	日本語と私	太宰治を中心に、私小説の問題をとりあげる（日本語は私を語る言語である）。
10	世界と日本語１	川端康成を中心に、日本語における伝統への意識を考える（日本語は美しい言語である）。
11	世界と日本語２	三島由紀夫を中心に、世界文学としての日本文学のあり方を考える（日本語は世界的な言語である）。
12	世界と日本語３	大江健三郎を中心に、「個人的」なものとしての日本文学を考える（日本語はあいまいな言語である）。
13	日本語の消失	野口米次郎、牧野信一などをとりあげ、言葉の「息苦しさ」を考える（日本語は寂しい言語である）。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、「未来の日本語」について想像してみる（日本語は楽しみな言語である）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義のテーマとなるテクストについては事前に丁寧に読み込み、時代背景なども調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】
授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』NHK ブックス、1998

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、中間レポート 40 %、期末レポート 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義で取り扱う作品やテーマが多岐にわたるので、情報過多にならぬよう、無駄を削ぎ落とすことを心がけたい。

【Outline (in English)】
One cannot fathom the qualities of foreign language and culture without the set of skills nurtured through learning one's native language and culture. In this course, students will read works of literature produced from the late 19th century to the late 20th century while paying attention to how they contribute to the overall uniqueness of the Japanese language. To survey different works spanning across decades of modern Japan, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course. The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.
The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIT300GA

日英翻訳論

大野　ロベルト

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】
英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパー提出を奨励している。これらについては学習支援システムを通じて随時フィードバックを行い、必要に応じて講義内でも紹介する。成績判断の主な材料としては、中間レポートと期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する１	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する２	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源１	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源２	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生１	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生２	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く１	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く２	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く１	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く２	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。
14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義のテーマとなるテクストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】
授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、中間レポート 40 %、期末レポート 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド授業の特性を活かしつつ、対面と比較して遜色のない、臨場感ある講義を心がけたい。

【Outline (in English)】
This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.
To appreciate various works spanning across centuries of Japanese classical period, and to demonstrate the findings in forms of written assignments and final paper, will be the objective of this course.
The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.
The grading criteria is as follows: 10% participation, 40% mid-term paper, and 50% final paper.　Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIT300GA

実践翻訳技法

大野　ロベルト

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**受講者の人数制限および選抜もありうる。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
完璧な翻訳は存在しない。だからこそ、翻訳は楽しい。この授業では、英語を日本語に、日本語を英語に置き換えることをひたすら繰り返しながら、言葉の仕組みについて学び、またその仕組みが文化ごとにどのように異なるのかを考える。なお、本授業はあくまでも言葉についての理解を深めるための授業であり、職業的な翻訳家の養成を目指すものではないが、そのような志望をもつ学生にとっても有益な内容であることは言うまでもない。

【到達目標】
日本語と英語を中心に、言語の仕組みや文化との相関について理解し、具体的な言葉で説明できるようになる。翻訳はもちろん、比喩などの文彩についても学び、実践を重ねることで、言語運用能力の本質的な向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに沿った簡単な講義のあと、個人やグループで翻訳課題に挑戦し、その成果を発表してもらう。教員やクラスメイトからの講評を受けて、ディスカッションを繰り返しながら理解を深めてゆく。また授業外の時間を使って、個人での翻訳プロジェクトを進めてもらう。具体的には、ある程度の分量のテクストを翻訳し、推敲を重ね、一つの作品に仕上げることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や選抜の方法について説明する
2	人称の翻訳	日本語の特徴とされる人称について考える
3	文彩の翻訳１	隠喩と直喩について学ぶ
4	文彩の翻訳２	換喩と提喩について学ぶ
5	文彩の翻訳３	誇張法や撞着語法について学ぶ
6	韻文の翻訳１	音声について考える
7	韻文の翻訳２	文字表現について考える
8	韻文の翻訳３	古典文学について考える
9	散文の翻訳１	文体について考える
10	散文の翻訳２	文体模写を実践する
11	散文の翻訳３	言葉を社会化してみる
12	翻訳とメディア	多様なテクストの翻訳について考える
13	個人プロジェクト	プロジェクトに関する発表
14	まとめ	ふりかえり、講評と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文学を中心に活字に触れる習慣をつけ、言葉への感度を高める。個人プロジェクトは授業時間外に責任をもって進めること。本授業の準備学習・復習時間は週４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、必要な資料は教員が配布する。ただし使い慣れた辞書は必須。紙・電子・アプリなど、形態は問わない。

【参考書】
授業内でその都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回のクラス内の課題 50 %、個人プロジェクト 50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
・受講者の人数制限および選抜もありうる。
・発表・ディスカッションに積極的になれない者は履修しないこと。

【Outline (in English)】
This course invites the students to participate in the rigorous yet fulfilling challenge of translation. Students are to tackle different assignments each week to appreciate various aspects of language and its relation to culture, while working on their own projects outside the classroom that are to be handed in by the end of the term.
Students will be able to renew their knowledge on language and how it relates to each culture. This class offers an opportunity to vastly improve the command of both English and Japanese, by working individually and in groups.
The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting, and working on their individual projects.
The grading criteria is as follows: 50% weekly in-class assignments, 50% individual project. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSe200GA

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

曽　士才

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすること目指している。

【到達目標】
中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の５つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。クイズの解答例など課題へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第 2 回	都市と農村（1）	経済格差、三農問題、社会主義新農村建設
第 3 回	都市と農村（2）	リテラシーの現状、学校教育、大学生の就職難
第 4 回	都市と農村（3）	拡大する中産階級、政治社会意識
第 5 回	人の移動（1）	都市の出稼ぎ者、ポイント制度、留守児童
第 6 回	人の移動（2）	新型都市化、ポイント制度、強制移住
第 7 回	家族と婚姻（1）	伝統的家族制度、変化する家族像
第 8 回	家族と婚姻（2）	新人類「80 後」「90 後」、人口政策の転換
第 9 回	家族と婚姻（3）	高齢化社会、老人扶養
第 10 回	信仰と習俗（1）	宗教事情、国家と宗教
第 11 回	信仰と習俗（2）	風水思想と実践
第 12 回	日本と中国（1）	中国の近代化と日中協力、構造変化する日中関係
第 13 回	日本と中国（2）	強制連行、戦争の記憶
第 14 回	日本と中国（3）	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業テーマに関連した課題論文を読む。受講者は参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。理解度を自己評価するために、学習支援システムの「課題」にあるクイズに回答する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材（学習支援システムの「教材」に掲載する）。

【参考書】
A 高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための 40 章【第 4 版】』明石書店 2012 年
B 藤野彰、曽根康雄『現代中国を知るための 44 章【第 5 版】（エリア・スタディーズ）』
　明石書店 2016 年
C 藤野彰『現代中国を知るための 52 章【第 6 版】』明石書店 2018 年

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
クイズへの解答例を掲示板にアップし、受講生の復習に活用できるようにする。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan.
【Learning Objectives】
At the end of the course, participants are expected to understand the real China without any prejudice.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and answer to the quiz. Your required study time is two hours for each class meeting. Your study time will be two hours.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Answer to the quiz（10 %）and　term-end report/ dissertation（90 %）.

ARSe200GA

中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

曽　士才

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国文明は、多様な風土のなかでそれぞれ独自の歴史と文化を築いてきた諸民族と漢族との、古くからの交流によって形成されてきた。この授業では、民族の多様性を紹介するとともに、20 世紀以降、国家統合を進めるなか、各少数民族社会において生じた変化を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、民族意識、民族文化の現状などを紹介する。

【到達目標】
「民族」をキーワードにして中国を読み解く力を養う。特に民族の多様性と国家統合との関係と現状について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半の授業では、中国における民族集団とその文化の多様性について論じ、後半では、政治的統一性と文化的多様性との折り合いのつけ方に主眼を置いて論じる。授業の進め方は講義を主体とするが、テーマごとに映像資料を見る。なお、クイズの解答例など課題へのフィードバックは Hoppii の掲示板で公開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	多民族国家中国を概観、授業および授業外学習の説明
第 2 回	民族文化の多様性（1）	森林地帯の狩猟民オロチョン族の伝統と現状
第 3 回	民族文化の多様性（2）	草原地帯の遊牧民モンゴル族の伝統と現状
第 4 回	民族文化の多様性（3）	シルクロードの民ウイグル族の伝統と現状
第 5 回	民族文化の多様性（4）	西南中国山の民イ族の伝統と現状
第 6 回	民族文化の多様性（5）	照葉樹林の民タイ族の伝統と現状
第 7 回	国家と民族（1）	進化論・人種観と民族政策
第 8 回	国家と民族（2）	メディアにおける民族表象
第 9 回	国家と民族（3）	民族エリートとエスニック・シンボル
第 10 回	国家と民族（4）	国民教育と民族教育
第 11 回	国家と民族（5）	観光文化と民族文化
第 12 回	チベット問題の読み方（1）	民族問題の分析の視点
第 13 回	チベット問題の読み方（2）	関係報道の読解のコツ
第 14 回	まとめ	全体の振り返りとレスポンシートへの応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の理解度を測るために、授業支援システムを使って出されるクイズに回答する。本授業の復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
末成道男・曽士才編『世界の先住民族―ファースト・ピープルズの現在　01 東アジア』明石書店 2005 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
私語によって周りの学生が迷惑を蒙らないように、円滑な授業運営に努めたい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course deals with ethnic diversity in China, especially focusing on the changing lifestyle and values of them under the nation-state of China.
【Learning Objectives】
At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about ethnic minorities in China, and also to be able to evaluate the relationship between ethnic diversity and national integration in China.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to answer to the quiz. Your required study time is one hour for each class meeting. Your study time will be one hour.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Answer to the quiz（10 %）and term-end report/ dissertation（90 %）.

HIS200GA

【2022 年度休講】中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）

鈴木　靖

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】
中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とどのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第 2 回	倭人の肖像	六世紀初めの倭人が描かれた絵巻物、南朝梁蕭繹「職貢図」を通じて、中国の人々の古代日本のイメージについて考える。 【キーワード】 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第 3 回	朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二百七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第 4 回	遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第 5 回	民間交流の時代	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第 6 回	元寇	ユーラシア大陸を席巻したモンゴルは、やがてその矛先を中国と日本に向ける。 【キーワード】 ・征服王朝
第 7 回	倭寇	モンゴルの衰退後、倭寇と呼ばれる武装集団が、朝鮮半島や中国沿岸部を襲う。近年、発見された二枚の絵巻物を通じて、中国の対日イメージを大きく悪化させた倭寇について考える。 【キーワード】 ・「倭寇図巻」（東大史料編纂所所蔵） ・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）
第 8 回	鄭成功	中国人の父と日本人の母を持ち、幼少時代を日本で過ごした鄭成功は、異民族王朝清によって明が滅ぼされた後も、台湾に拠点を移して抵抗を続けた。いまも民族の英雄と称えられている鄭成功が対日イメージに与えた影響について考える。
第 9 回	藤野先生	中国の文豪・魯迅をして「私が師と仰ぐ人の中でもっとも私を感動させ、激励してくれた人」と言わしめた藤野厳九郎。魯迅が書いた自伝的エッセー「藤野先生」は、現在も中国の対日イメージに大きな影響を与え続けている。 【キーワード】 ・藤野厳九郎 ・魯迅
第 10 回	霧社事件	1930 年、日本植民地下の台湾で、山地先住民による大規模な反乱事件が起こる。近年、台湾のドラマや映画などに取り上げられ、再び注目されようになったこの事件を通じて、台湾の対日イメージについて考える。 【キーワード】 ・ドラマ「風中緋桜」 ・映画「セデック・バレ」
第 11 回	日中戦争	戦後、60 年以上経ったいまも日中関係に影を落とす日中戦争。日本人戦犯たちの証言を通じて、中国がもつ負の対日イメージの淵源について考える。 【キーワード】 ・「認罪」教育
第 12 回	留用された日本人たち	終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまも中国で高く評価される日本人の事績について考える。 【キーワード】 ・「留用」された日本人
第 13 回	日中国交正常化	1972 年の田中角栄首相の訪中によって、日中国交正常化が実現する。緊迫した交渉の中で、田中らはどのようにして国交正常化を実現したのか。いまも中国で高く評価される田中らの交渉について考える。 【キーワード】 ・田中角栄 ・周恩来
第 14 回	今日の日中関係	歴史問題や領土問題など、日中間にはいまも多くの課題が残されている。閣僚による靖国神社参拝問題と尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題を取り上げ、その淵源と解決方法について考える。 【キーワード】 ・靖国神社参拝問題 ・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のための PDF 資料を配布する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業の前に教材用ページを通じて事前学習のための PDF 資料を配布する。教材用ページへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【参考書】
①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000 年）
②王暁秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000 年）
③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996 年）
④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』(中公新書、2011 年)
⑤孫崎享『日本の国境問題』（ちくま新書、2012 年）

【成績評価の方法と基準】
成績は以下の２つの基準をもとに評価する。
①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80 %）
②期末レポート（20 %）
これらの成績をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
　授業の復習に必要との要望があったため、授業用スライドの PDF を配布することにする。

【学生が準備すべき機器他】
　fixi を通じて資料の配布を行う。fixi へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline (in English)】
How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?
What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?
Unnderstanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

LANc300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺　昭太

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
(2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が練習問題の解答を発表する機会も設ける。
・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現１	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現２	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現３	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語１	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語２	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語３	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把” 構文と “被” 構文	「“把” 構文（処置文）」、「“被” 構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文１	「存現文」、「“是…的” 構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文２	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめの一歩〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱徳熙 (著)，杉村博文・木村英樹 (訳) 1995『文法講義―朱徳熙教授の中国語文法要説―』，東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートを 50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を 50%として合計 100 点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To review grammatical items learned in Chinese course for beginners.
(2) To learn advanced grammatical items and systematically understand Chinese grammar.
(3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· After every class, students are required to review the materials.
· Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
· Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
· No final exam will be held in this course.

LANc300GA

中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）

渡辺　昭太

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いながらもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因を自分なりに説明できる。
(2) 関連する論考や資料の講読を通じて日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現１	中国語／日本語のアスペクト表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
3	動詞関連表現２	中国語／日本語の助動詞、副詞的表現、否定表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
4	形容詞関連表現１	中国語／日本語の形容詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
5	形容詞関連表現２	中国語／日本語の比較表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
6	名詞関連表現１	中国語／日本語の名詞、数量詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
7	名詞関連表現２	中国語／日本語の連体修飾に関する誤用例の分析と考察を行う。
8	補語１	中国語の結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
9	補語２	中国語の可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
10	様々な構文１	中国語の把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
11	様々な構文２	中国語の存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
12	日本語と中国語の表現論的特徴１	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
13	日本語と中国語の表現論的特徴２	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
14	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】
・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書　新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめの一歩〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語　読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店
・寺村秀夫 1982, 1984, 1991『日本語のシンタクスと意味Ⅰ〜Ⅲ』東京：くろしお出版
・寺村秀夫 1992, 1993『寺村秀夫論文集Ⅰ，Ⅱ』東京：くろしお出版
・劉月華 他 2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱徳熙 (著)，杉村博文・木村英樹 (訳) 1995『文法講義―朱徳熙教授の中国語文法要説―』，東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートを 50%、平常点（誤用例分析への取り組み状況や考察内容、発表・質疑応答内容など）を 50%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】
・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、誤用例の分析を手がかりに、日中両言語の諸特徴を考察する授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, we will acquire the basic skills of contrastive study of Chinese and Japanese. Especially, through analyzing various misuses of Japanese and Chinese, we will try to explain why learners took the mistakes and consider how to correct them.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To be able to explain the cause in your own way by examining examples of misuses by Chinese / Japanese learners.
(2) To understand the grammatical features of both Japanese and Chinese languages.
(3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· After every class, students are required to review the materials.
· Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
· Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
· No final exam will be held in this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村　英登

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】
＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯
＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点
＊中国古典の背景となる当時の社会環境
以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。
※初回授業は対面授業を実施しません。学習支援システム等で資料を掲示します。
※受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。
『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。
『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）40 %、期末試験 60 %で成績を評価します。
なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline
This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.
Learning Objectives
To be able to deeply understand modern Japanese society by learning the basic knowledge of Chinese philosophy.
Learning activities outside of classroom
Read the parts of the textbooks that were not mentioned in the lesson to supplement the understanding of the lesson contents.
Grading Criteria/Policy
Grades will be evaluated with 40% reaction paper (submitted each time at the end of class) and 60% final exam.
If you are absent 5 times or more, you will not be eligible to take the final exam. Also, if you are late class twice, you will be considered as absent once.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

桑島　道夫

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀初め、中国でも言文一致運動（「文学革命」）が提唱され、「近代文学」が誕生します。中国近代文学は、近代以前の文学のあり方をどのように変革しようとしたのでしょうか。またそれは、欧米や日本の近代文学とどのような点で共通し、どのような点で異なっていたのでしょうか。本授業では、そうした問いを通して、中国近代（社会・文化）の歩みを文学の視点から考えます。

【到達目標】
中国近代文学とその歴史的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国近代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。
授業でコメントを求めることがあります。
授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。
あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	はじめに	中国「近代文学」の変革を考える前提として、近代以前の中国文学のあり方についてお話します
2	近代文学の誕生１	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の誕生２	魯迅「狂人日記」
4	近代文学の誕生３	魯迅「阿 Q 正伝」
5	近代文学の誕生４	周作人と日本
6	新世代の作家たち１	文学研究会
7	新世代の作家たち２	創造社
8	近代中国のモダニズム１	新月社
9	近代中国のモダニズム２	新感覚派
10	1930 年代、注目すべき作家と作品１	茅盾「子夜」、巴金「家」ほか
11	1930 年代、注目すべき作家と作品２	沈従文「辺城」ほか
12	解放区の「人民文学」	「文芸講話」と趙樹理「 小二黒の結婚」
13	淪陥区の文学	張愛玲「傾城の恋」
14	おわりに	中国近代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。併せて２時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】
随時配布。

【参考書】
『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995 年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011 年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート： 60%
コメントペーパー・平常点： 40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく説明するために出した例があまり効果を発揮していないこともあったので（たとえば中国文学のある作品の傾向を説明しようとして、日本文学の作品を譬えに出すなど）、説明にまだまだ工夫が必要だと思いました。

【Outline (in English)】
Course outline
This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.
Learning Objectives
The goals of this course are to A, B, and C.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%、Short reports /in class contribution: 40%

LIT300GA

中国の文化Ⅷ（現代文学）

桑島　道夫

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1949 年「新中国」建国後から現在までの文学を振り返ります（数篇、映画も取り上げます）。中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾の文学を含みます。

【到達目標】
中国現代文学とその時代的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国現代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。
授業でコメントを求めることがあります。
授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります（毎回というわけではありません）。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。
あるいは、事前に課題（作品の読み込み）に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	はじめに——中華人民共和国建国後の政治と文学	胡風批判、反右派闘争ほか
2	文化大革命	白毛女の表象——民間伝承、集団創作歌舞劇、映画、そして革命現代京劇へ
3	みずからの言葉を取り戻す文学者たち	1970 年代の傷痕文学から新時期文学へ
4	中国的不条理の表現——モダニズムの復活	王蒙「胡蝶」、高行建「ある男の聖書」、残雪「黄泥街」ほか
5	土着の習俗や民間伝承を取り込む情念——ルーツ文学派	莫言「赤い高粱」
6	もの言う農民作家	閻連科「人民に奉仕する」「丁庄の夢」「四書」ほか
7	中国の前衛作家群像——先鋒派	余華、蘇童、格非ほか
8	女性が自己を語る意味——女性作家の作品に表現された内面１	鉄凝「大浴女」
9	女性が自己を語る意味——女性作家の作品に表現された内面２	林白「たったひとりの戦争」、陳染「プライベートライフ」
10	女性が自己を語る意味——女性作家の作品に表現された内面３	衛慧「上海ベイビー」、棉棉「上海キャンディ」、アニー・ベイビー「さよなら、ビビアン」「蓮の花」
11	「80 後」（80 年代生まれ）の青春小説	韓寒「三重の門」、郭敬明「悲しみは逆流して河になる」
12	香港文学と中国映画	李碧華「ルージュ」「さらばわが愛——覇王別姫」ほか
13	台湾文学	李昂「夫殺し」ほか
14	おわりに	中国現代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。併せて２時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】
随時配布。

【参考書】
『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995 年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011 年）、『「規範」からの離脱——中国同時代作家たちの探索』（尾崎文昭編、山川出版社、2006 年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート： 60%
コメントペーパー・平常点： 40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
お世辞でもおもしろかったと言ってくれた学生さんがいたのは良かったのですが、将来ある若人たちに人生を変えるほどのインパクトを与えたとまでは言えません。改善に向けて自問する日々です。

【Outline (in English)】
Course outline
This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.
Learning Objectives
The goals of this course are to A, B, and C.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%、Short reports /in class contribution: 40%

LIT300GA

中国の文化Ⅸ（中国俗文学）

鈴木　靖

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA を機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。
この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。
巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。
いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】
中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第 2 回	殷代	文字の誕生
第 3 回	周代	采詩の官と詩経
第 4 回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第 5 回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第 6 回	漢代	紙の誕生
第 7 回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第 8 回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第 9 回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第 10 回	北宋時代	三国志の誕生
第 11 回	南宋時代	水滸伝の誕生
第 12 回	元代	演劇の隆盛
第 13 回	明代	出版文化の隆盛
第 14 回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習の資料を授業用ページを通じて配布するので、授業前に読んでくること。授業後は授業用スライドの PDF ファイルを配布するので、これをもとに復習を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は計４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、事前学習の資料と授業で使用するスライドの PDF ファイルを教材用ページを通して配付する。

【参考書】
各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のような基準で行う。
①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80 %）
②期末レポート（20 %）
これら成績をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナウィルスの感染拡大によって対面授業に参加できない受講生のために、Zoom でのオンライン配信を行い、あわせて授業のスライドや映像資料などを授業用サイトに公開するようにした。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students understand how the Chinese culture influenced the development of Japanese culture. How kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries, how Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries. How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries. Students will also need to consider when paper and printing were invented and how they changed the world. How Chinese Popular literature was born and influenced Japanese literature.
〔Learning Objectives〕
The goals of this course are to understand the cultural history of China and rethink our culture from an East Asian perspective.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Before each class, students will be expected to have read the relevant article(s). Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.
〔Grading Criteria/Policies〕
Grading will be decided based on reflection essays(80%) and an end of term report(20%).

HIS300GA

【2022 年度休講】中国の文化Ｘ（歴史）

張　玉萍

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】
現在、日中関係は改善に向かいつつあるが、両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中関係史を避けて通ることはできない。19 世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたる日中関係が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業で知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼の醸成にいたる可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業はオンラインの形で進めていく。各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地域文化へのアプローチ
	中国とは何か（1）	地理――東低西高、南船北馬
第 2 回	中国とは何か（2）	民族―― 56 民族の由来と特徴、分布
第 3 回	中国とは何か（3）	言語――普通話と方言
第 4 回	儒教（1）	中国人の価値観の中核
第 5 回	儒教（2）	儒教の興隆、衰退、復活
第 6 回	満族（1）	“入主中原”
第 7 回	満族（2）	“満”と“漢”
第 8 回	旗袍（1）	下位文化から上位文化への上昇
第 9 回	旗袍（2）	上位文化から下位文化への転落および復活
第 10 回	清末留日学生（1）	史上初の留日ブーム ――師弟関係の逆転
第 11 回	清末留日学生（2）	革命の揺りかご――東京と中華民国の成立
第 12 回	日中間における人的交流（1）	政治家としての戴季陶と日本
第 13 回	日中間における人的交流（2）	戴季陶の日本観およびその意義
第 14 回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011 年。
その他は授業中にそのつど紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものについて、自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。
期末テスト（70 点）、平常点（授業態度やテーマごとに課された感想文の完成度など、20 点）、授業中の討議への参画度（10 点）により総合的に評価する。
・授業開始後 20 分以内の到着は遅刻とし、それ以降は欠席とする。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席とする。
・欠席数が全授業数の 1/3 を超えた場合試験を受ける資格を失う。　この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies and clothes, we will enter the world of modern China.　It is the purpose of this lesson to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar.　Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷　丹路

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は，日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です．この授業では，朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます．近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします．

【到達目標】
朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって，日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します．さらに興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的な流れは、以下の通りである。
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し，基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに，一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1970、80、90 年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業資料を配布します．

【参考書】
参考文献はその都度指示します．
『新訂増補　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014 年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014 年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史　前近代編下』（青木書店）2006 年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013 年

【成績評価の方法と基準】
授業の理解度を確認するために、毎回小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。小テスト（50 %）、期末試験（50 %）で評価する方針である。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある場合があります．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.
< Learning Objectives >
The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 50%、Little exams ： 50%.

LANk300GA

【2022 年度休講】朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山　政春

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語を音声，文字，語彙，文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって，朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています．
具体的には大学入試センター試験「韓国語」を解く一方で，必要に応じてプリントを配布しながら，上の内容について解説を進めていきます．それ以外に，日頃接する機会の少ない，北朝鮮の言語と，さらに方言と古語の「さわり」をやりたいと思っています．

【到達目標】
この授業は，実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が，その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで，ブロークンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
みなさんには，少なくとも朝鮮語を２年（週２コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます．他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが，ついていくにはかなりの努力を要します．みなさんにはある程度の予習をしてきてもらい，答える準備をしておいてください．そのためにも「出たり出なかったり」というのは困ります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	導入	資料配布とやり方の説明
2	つづりと発音	資料に基づいて問題を解く
3	漢字音	資料に基づいて問題を解く
4	用言の活用	資料に基づいて問題を解く
5	用言の語尾，助詞	資料に基づいて問題を解く
6	各種表現の和文朝訳１（日本語との表現の違いなど）	資料に基づいて問題を解く
7	各種表現の和文朝訳２（置き換え可能な表現など）	資料に基づいて問題を解く
8	各種表現の和文朝訳３（慣用句など）	資料に基づいて問題を解く
9	会話文１（短文；語彙問題）	資料に基づいて問題を解く
10	会話文２（短文；文法問題）	資料に基づいて問題を解く
11	会話文３（長文）	資料に基づいて問題を解く
12	北朝鮮の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについて解説する．
13	方言	主に韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについて解説する．
14	古語	訓民正音を見ながら現代語との違いについて解説する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「この授業のため」というのではなく，授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です．

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します．

【参考書】
授業中に必要に応じて説明します．

【成績評価の方法と基準】
平常点（80%）とレポート（20%）によります．あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのは上に書いたとおりですが，にもかかわらず，シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います．そういう非常識なことはやめてほしいと思います．
韓国人留学生（朝鮮語母語話者）の受講者の受講も歓迎しますが，単に「簡単そうだから」受講するのではなく，「なぜそうなのか」自分の母語を振り返る機会を持とうという意欲のある者に受講してほしいと思います．前回散見された，授業中に（授業内容とは無関係に）スマホを見てばかりの学生などがいた場合，途中でやめてもらうことになるかもしれません．

【学生が準備すべき機器他】
ＳＡ後，朝鮮語に直接関連する授業は，この授業のほかに「朝鮮語アプリケーション」が通年１コマあるだけ，というのが残念ながら現状です．ＳＡ韓国の学生はこの授業を「アプリ」と合わせて履修することが望まれます．

【その他の重要事項】
履修者の状況によっては，授業を朝鮮語で行ないます．またおそらく少人数の授業になると思いますので，受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.

ART300GA

アジアの伝統芸能

鈴木　靖

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国には「戯曲」と総称される 300 種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される 400 種ほどの語り物がある。こうした芸能を通じて、中国庶民の文芸世界を垣間見ようというのが本講義の目的である。中国の庶民が、どのような物語に笑い、怒り、涙したのかを、彼らの一番身近にあったメディアを通じて追体験していく。
授業では、できるだけ多くの映像資料を使い、中国の伝統芸能とそこから生まれた音楽や映画などの世界を体感していきたい。

【到達目標】
この授業を通じて、中国の伝統芸能の全体像とその代表的作品、演出・技法などを体系的に学び、そうした伝統文化が新たな文化の創出にどのような役割を果たすかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。
課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに〜講義の目的と内容について	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第 2 回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能にはどのようなものがあるのかを概観する
第 3 回	伝統芸能の美〜川劇「白蛇伝」を例に	魯迅が祖母から聞いたという杭州の雷峰塔にまつわる伝説を紹介した後、四川省の地方劇である川劇「白蛇伝」の第一幕から第二幕までを鑑賞しながら、雲牌という表現技巧を例に、「有声必歌、無動不舞」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）といわれる中国伝統演劇の特色について学ぶ
第 4 回	川劇「白蛇伝」の世界（一）	川劇「白蛇伝」の第三場から第五場前半までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である翎子功、船槳、臉譜、水袖功について学ぶ
第 5 回	川劇「白蛇伝」の世界（二）	川劇「白蛇伝」の第五場後半から第八場までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である假嗓、水袖功、水旗、毯子功を学んだ後、川劇独自の特殊技法である開慧眼、変臉について学ぶ
第 6 回	白蛇故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「白蛇伝」の歴史的変遷について学ぶ
第 7 回	現代によみがえる伝統芸能〜映画「舞台姐妹」から見た中国伝統演劇の世界	中国の伝統演劇の役者たちはどのような暮らしをしていたのか。越劇の女優たちを描いた映画「舞台姐妹」を通じて、役者たちの近代への歩みを学ぶ
第 8 回	現代によみがえる伝統芸能〜越劇から西洋音楽へ	越劇と西洋音楽を融合させ、梁山伯と祝英台の伝説を音楽によって克明に描き出したバイオリン協奏曲「梁祝」と、その誕生の背景についての学ぶ
第 9 回	現代によみがえる伝統芸能〜映画「梁祝 Butterfly Lovers」を例に（一）	「梁祝」故事の映画化の歴史を学ぶとともに、バイオリン協奏曲「梁祝」をテーマ曲として、この故事に新たな解釈を加えた映画「梁祝 Butterfly Lovers」の前半を鑑賞する
第 10 回	現代によみがえる伝統芸能〜映画「梁祝 Butterfly Lovers」を例に（二）	映画「梁祝 Butterfly Lovers」の後半を鑑賞するとともに、バレエやドラマなど、この故事に取材した新たな作品について学ぶ
第 11 回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁祝故事」の歴史的変遷について学ぶ
第 12 回	日本の伝統芸能とアジア（一）狂言「附子」「鏡男」を例に	19 世紀の末、敦煌莫高窟から発見された敦煌写本『啓顔録』を通して、日本の狂言と中国との関わりについて学ぶ
第 13 回	日本の伝統芸能とアジア（二）落語・歌舞伎「牡丹灯籠」を例に	（明）瞿佑の怪異小説集『剪灯新話』を淵源とする日本の三大怪談の一つ「牡丹灯籠」を例に、中国の物語が、日本の落語や歌舞伎など古典芸能の演目となった歴史を学ぶ
第 14 回	伝統芸能を学ぶ意義とは	日米間の演劇交流の架け橋となったフォービアン・バワーズを例に、異文化としての伝統芸能を学ぶ意義について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への関心と理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は次のような基準で行う。
①毎回の授業後に提出するリアクションペーパー（80 %）
②期末レポート（20 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナウィルスの感染拡大によって対面授業に参加できない受講生のために、Zoom でのオンライン配信を行い、あわせて授業のスライドや映像資料などを授業用サイトに公開するようにした。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
In China, there still remains more than three hundred forms of theatres and around four hundred types of traditional performing arts. This course aims to increase students' knowledge and understanding of Chinese folk literature through appreciating and studying these performing arts.
〔Learning Objectives〕
The goals of this course are to gain a deeper understanding of Chinese traditional performing arts and their original literary works and stagecraft. By the end of the course, students should be also able to understand the contribution of Chinese traditional performing arts as sources of popular culture.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Before each class, students will be expected to have read the relevant article(s). Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.
〔Grading Criteria/Policies〕
Grading will be decided based on reflection essays(80%) and an end of term report(20%).

ARSh300GA

【2022 年度以降閉講】アフロ・アジアの文化

江村　裕文

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本人にとって意識の上で一番遠いと考えられるのが「アフロ・アジア」地域、つまり北アフリカから中近東にまたがる地域のことである。
本講では、「地理的」あるいは「歴史的」にこの地域にアプローチを試みるのではなく、主にユダヤ教・キリスト教・イスラームという精神的（宗教的）な面からのアプローチを試みる。これらの宗教を、可能な限り現在の我々日本人との関係に重点を置いて紹介したい。

【到達目標】
２０１１年の「アラブの春」以降、ガザ地区におけるハマスとイスラエルの戦闘、また先が見えないシリアのアサド支持派と反政府派との戦闘、さらにそのシリアおよびイラクのシーア派政権に対抗して勢力を拡大する「ＩＳ（イスラム国）」、シーア派のイランとスンナ派のサウジの対立など、この地域で起こったまた起こりつつある事態に対して、正確な知識を得て、この地域に関するメディア・リテラシーを高めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
以下の「授業計画」で提示した各テーマについて、それぞれ原理的・理論的な解説、具体的な事例紹介、ＤＶＤ視聴などを通して、多角的にこの地域について紹介していく。
扱うべきテーマ等があれば、適宜授業内で取り上げ、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「アフロアジアとは何か」	オリエント・中東（中近東）・中東北アフリカ・アラブ・イスラーム地域の自然と国家
2	「宗教」について	「宗教」とは何か
3	「聖書」について	「聖書」の成り立ちと歴史、その内容
4	「ユダヤ教」について　i	「ユダヤ教」の成り立ち、歴史的背景
5	「ユダヤ教」について　ii	映画《十戒》鑑賞
6	「ユダヤ教」について　iii	「ユダヤ教」の特徴、経典と教義
7	「キリスト教」について　i	「キリスト教」の成り立ち、歴史的背景
8	「キリスト教」について　ii	映画《受難》鑑賞
9	「キリスト教」について　iii	「キリスト教」の特徴、経典と教義
10	「イスラーム」について　i	「イスラーム」の成り立ち、歴史的背景
11	「イスラーム」について　ii	映画《メッセージ》鑑賞
12	「イスラーム」について　iii	「イスラーム」の特徴、経典と教義
13	「パレスチナ問題」　i	「パレスチナ問題」の歴史的背景
14	「パレスチナ問題」　ii	記録《エルサレム物語》鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「アラブの春」民主化運動や、ガザ地区を中心に起こったハマスとイスラエルの対立、ロシアのシリア介入、「イスラム国」等、流動的なこの地域に関するメディア等の報道に気を配り、関心を高める努力をしていくこと。授業では解説を試み、複雑に絡まっている現状の糸を解きほぐしていく。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしない。参考文献のリストを紹介するので、各自の興味にしたがって、読書を進めてほしい。

【参考書】
配布する参考文献リストを参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０点、試験６０点、合計１００点で評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
以下は受講した学生が書いてくれた感想の一部である。
以前から日本人は宗教に無縁だと考えていたが、実際はそうではないことを実感した。
イスラーム、アラブ、難民問題などは遠い世界のことだと思っていたが、ＳＡを通してテロを身近に感じるとともに、この世界の問題が日本の経済や社会に直接影響があるのだということがわかった。

【その他の重要事項】
授業予定はあくまでも予定である。「アフロアジア」地域で新たな展開があれば、臨機応変にそのつど取り上げたいと考えている。

【Outline (in English)】
The area thought to be the farest for japanese is "Afro-asiatic" area, namely midle east and north africa.
In this class, we try to approach to this area by religious way, Judaism, Christianity, and Islam.
To know the religions in this area is important to understand the civilization of the modern world and the future.

ARSb300GA

ロシア・中央アジアの文化

油本　真理

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度より偶数年開講から毎年開講に変更。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、中央アジアの過去と現在について、特にロシアとの関係性に注目して学ぶ。主に近代以降の歴史を振り返ったのち、文化と社会に関わる様々なテーマを取り上げて検討を加える。また、ロシア・中央アジアをめぐる国際関係についても考察する。

【到達目標】
(1) ロシアおよび中央アジア諸国の歴史と現状に関わる様々な事項を説明できる。(2) ロシアと中央アジアの類似点及び相違点について自分なりに考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。講義内容へのリアクションおよび質問は Google フォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoom によるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の分析視角
2	中央アジア地域の概要	民族・宗教・文化
3	ロシア・中央アジアの歴史①	帝政期
4	ロシア・中央アジアの歴史②	ロシア革命
5	ロシア・中央アジアの歴史③	ソ連時代
6	ロシア・中央アジアの歴史④	体制転換とその後
7	ロシア・中央アジアの現在①	国家と社会
8	ロシア・中央アジアの現在②	市場と社会
9	ロシア・中央アジアの現在③	宗教
10	ロシア・中央アジアの現在④	家族・ジェンダー
11	ロシア・中央アジアの現在⑤	ナショナリズム
12	ロシア・中央アジアと世界①	旧ソ連圏内の国際関係
13	ロシア・中央アジアと世界②	対米欧・対中関係
14	まとめと確認	講義内容のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な資料は事前にアップロードする。

【参考書】
小松久男（編）『世界各国史 4 中央ユーラシア史』山川出版社、2000 年。
宇山智彦・樋渡雅人（編）『現代中央アジア 政治・経済・社会』日本評論社、2018 年。
湯浅剛『現代中央アジアの国際政治 ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』明石書店、2015 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出）（30 %）、期末試験（70 %）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業タイトルだけでなく、授業内容についてもよく確認してから履修すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to gain a good understanding of the history and various current affairs concerning Central Asia. Special attention will be paid to its relationship with Russia. After reviewing the modern history of Central Asia, we will explore various key topics regarding the culture and society of the region. We will also consider the international relations surrounding Central Asia.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to 1) explain various matters related to the history and current status of Russia and Central Asian countries, and 2) analyze the similarities and differences between Russia and Central Asia.
【Learning activities outside of classroom】
Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be based on the following: Term-end examination: 70%, Reflection papers: 30%.

ARSb300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで「優等生」と位置付けられてきたポーランドが今では EU と対立する傾向にあります。なぜでしょうか。この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）それぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはいかなることかを学生のみなさんに考えてほしいと思います。
本講義は、SA ロシアの事前学習科目なので SA ロシアの２年生は必ず履修してください。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識や批判的観点をもちながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、建築、美術）、現代事情を視聴覚資料を通して東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉えて考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一断面について。
第 2 回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第 3 回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第 4 回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。
第 5 回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第 6 回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録について。
第 7 回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックを紹介。映画と政治の問題はワイダ作品の一部を鑑賞しながら検討。
第 8 回	ポーランド：社会を反映する映画	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れると同時に、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第 9 回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第 10 回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第 11 回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第 12 回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第 13 回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第 14 回	まとめ	これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品の DVD ソフトは大学の AV ライブラリー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回４時間以上、期末レポートの作成には、１週間程度かけてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、コメントシート 30 %、期末レポート 20 %に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍以前のように大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、皆さんの協力に期待します。

【Outline (in English)】
● Course outline
In this course, students will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process you will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.
● Learning Objectives
While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.
● Learning activities outside of classroom
Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Please take about a week to create the term-end report.
● Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50 %),Short reports(30 %) and term-end reports(20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa300GA

ドイツ語圏の文化Ⅰ

熊田　泰章

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【近現代ドイツの歴史と文化】
ドイツ語圏のうち、主に近現代のドイツとオーストリアを扱います。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなしとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。ドイツ帝国の成立から二度の大戦、東西冷戦と分断国家の成立、ドイツ再統一とその後に至る歴史を、文化と芸術を通じて概観します。
2022 年度の授業では、特に、「オペラ」「タンツテアター」「カッセル・ドクメンタ」「ミュンスター彫刻プロジェクト」「ヨーゼフ・ボイス」「ゲルハルト・リヒター」「アンセルム・キーファー」等に焦点を絞って、通観します。コロナ禍では “オペラを観る” あるいは “劇場に行く”“国際美術展に行く” ことが奪われていますが、この授業の中ではそれを取り戻すように努めます。

【到達目標】
第 1 の目標は、近現代ドイツ語圏の文化と歴史に関する理解を深めるとともに、抽象的概念や文化に対する知的なアプローチの方法を学ぶことです。
第 2 の目標は、アイデンティティの実体や困難に対する思考・反省能力の涵養です。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には「日本ならでは…」の正体はあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの価値とその面白さを、「ドイツ語圏」を通じて体験してみてください。
第 3 の目標は、表象文化や芸術の形式分析を通じて、抽象的な議論になれることです。文化現象を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
19 世紀末〜 20 世紀のドイツ語圏の文化現象・表象芸術を、時系列に沿って扱います。
2022 年度は、中でも、「オペラ」「タンツテアター」「カッセル・ドクメンタ」「ミュンスター彫刻プロジェクト」「ヨーゼフ・ボイス」「ゲルハルト・リヒター」「アンセルム・キーファー」等に関する教材と資料を用います。
授業は、基本的に教材と資料を見ながら説明する講義形式で行い、加えて、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、参加者が相互に授業内容の理解を深める機会とします。各授業後には小レポートを書き提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第 2 回	オペラ①	モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」
第 3 回	オペラ②	モーツァルト「魔笛」
第 4 回	オペラ③	ヴェルディ「シモン・ボッカネグラ」
第 5 回	オペラ④	オペラ座とは何か
第 6 回	タンツテアター①	ピナ・バウシュ「夢の教室」
第 7 回	タンツテアター②	春の祭典
第 8 回	タンツテアター③	タンツテアターとは何か
第 9 回	カッセル・ドクメンタ①	カッセル・ドクメンタの歴史
第 10 回	カッセル・ドクメンタ②	カッセル・ドクメンタの現在
第 11 回	ヨーゼフ・ボイス	ボイス『7000 本の樫の木』(1982-1987 年）ほか
第 12 回	ゲルハルト・リヒター アンセルム・キーファー	リヒター『1977 年 10 月 18 日』（1989 年）／ケルン大聖堂のステンドグラス（2006 年）ほか
第 13 回	ミュンスター彫刻プロジェクト	ミュンスター彫刻プロジェクト
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で用いた教材と資料を次回授業までに読み直す。
教材と資料に記載の参考文献を読む。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで教材と資料を提供します。

【参考書】
新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017 年
宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015 年
木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001 年
石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007 年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と貢献・小レポート； 50%、学期末レポート； 50%。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。
扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche（German)" or "deutsch（german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".
【Learning Objectives】
The goal of this course is to gain broad cultural understanding on German speaking areas and countries.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: contribution to each class meeting, short reports: 50%, term-end examination: 50%

ARSa300GA

【2022 年度休講】ドイツ語圏の文化Ⅱ

熊田　泰章

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ（昔のドイツ・東ドイツ・西ドイツ・統一後のドイツ）とオーストリア、スイスにおいて、ドイツ語で書かれた文学作品を読む。それによって、ドイツ語によって構築される文化についての考察を行なう。加えて、他の文化圏への参照を行う。
言語使用における理解の仕組みについて考え、インターカルチュラリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を中心に置き、言語テクストを解析することを通して、異文化間の理解と誤解の実例としてテクストを分析する。
言語芸術としての文学作品の作品性も合わせて分析する。
☆作品は、日本語翻訳として出版されているものを用いる。
ドイツ語の知識は必須ではない。
☆他の文化圏で書かれているドイツ語以外の作品（日本語版）を対照として読む。

【到達目標】
インターカルチュラリティとインターテクスチュアリティという重要な概念を理解する。
異文化間の理解と誤解の成立について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
作品を読みながら、考えていく授業です。
作品例として以下のものを予定しています；
クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』
エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』
エーリヒ・ノサック『盗まれたメロディー』
オルハン・パムク『雪』
ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』
ミュリエル・バルベリ『優雅なハリネズミ』
カズオ・イシグロ『チェリスト』
アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』
グリム『グリムの昔話』
アゴタ・クリストフ『悪童日記』
などから選びます。
また、受講者からの提案も入れて取り上げる作品を組み立て直すことも行います。
採用する作品については、学習支援システムでお知らせします。
毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の確認、作品の提案と概説。
第 2 回	作品１：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』	作品１：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説
第 3 回	作品１：クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』	作品１クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』の読解と解説のまとめ
第 4 回	作品２：エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』	作品２：エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説
第 5 回	作品２：エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』	作品２：エルフリーデ・イエリネク『トーテンアウベルク・屍重なる緑の山野』の読解と解説のまとめ
第 6 回	作品３：オルハン・パムク『雪』	作品３：オルハン・パムク『雪』の読解と解説
第 7 回	作品３：オルハン・パムク『雪』	作品３：オルハン・パムク『雪』の読解と解説のまとめ
第 8 回	作品４：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』	作品４：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説
第 9 回	作品４：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』	作品４：ラフィク・シャミ『夜と朝のあいだの旅』の読解と解説のまとめ
第 10 回	作品５：カズオ・イシグロ『チェリスト』	作品５：カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説
第 11 回	作品５：カズオ・イシグロ『チェリスト』	作品５：カズオ・イシグロ『チェリスト』の読解と解説のまとめ
第 12 回	作品６：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』	作品６：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説
第 13 回	作品６：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』	作品６：アントニオ・タブッキ『インド夜想曲』の読解と解説のまとめ
第 14 回	まとめ	これまでの作品のまとめ 授業で学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で読みきれなかった作品を読み通す。
取り扱う作家と作品の背景について調べる。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
選定した作品を用い、学習支援システムで閲覧する。

【参考書】
熊田泰章「テクスト外参照性を封じる語り手の声―アゴタ・クリストフ『悪童日記』における拒絶する語り―」法政大学国際文化学部紀要『異文化』10 号、法政大学国際文化学部、2009 年

【成績評価の方法と基準】
毎回ミニレポートを課す。
その上で、最後に期末試験を行なう。
ミニレポート 50 %、期末試験 50 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
作品内容を文化圏の諸事情に即して理解することがポイントである。

【学生の意見等からの気づき】
学生の提案を反映していきます。
前年度まで学内役職に就いていたため、その任期の間、この授業は担当していません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
学部の授業実施方針に則り、この授業は、原則として、教室での対面授業を行います。ただし、方針の変更次第で、オンライン対応となることもありえます。
受講者数を適切に保つために、開講時に以下の処置を行います；
初回授業は対面授業を実施せず、学習支援システムで教材と課題を掲示する。
受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline (in English)】
We read literary works written in German in Germany (old Germany, East Germany, West Germany, Germany after reunion), Austria and Switzerland. It gives a consideration of the culture constructed in German. In addition, we make references to other cultural areas, thinking about the mechanism of understanding in language use, focusing on the important concepts of interculturality and intertextuality, and analyzing language texts. We analyze texts as an example of cross-cultural understanding and misunderstanding. The workability of literary works will be also analyzed.
☆ We use works published as a Japanese translation. Knowledge of German is not essential. ☆ We read Non-German works (Japanese version) written in other cultures as a contrast.

PHL200GA

【2022 年度休講】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
［授業の目的］この授業では、17 世紀から 18 世紀のフランスにおける思想と文化をめぐり、いくつかの作品を概観する。この授業における学びは、それを身に付ければ何かがすぐにできるようになるという意味での実学ではない。しかし、近代社会の基本的な枠組が―よくも悪くも―西ヨーロッパにおいて形づくられた時代であり、この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、より洗練されたものにしていくのに役立つ。
［授業の概要］
※世界史以外を受験のさいに選んだ人を中心に、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下記述する。
・デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17 世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16 世紀に探検した北アメリカの土地へは、17 世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598 年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ 4 世である。これに続く 17 世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく 17 世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性がもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。
・17 世紀から 18 世紀前半にまたがるルイ 14 世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止（1685 年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ 14 世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約 2000 万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちがつみあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ 14 世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。
・イギリスとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地である 18 世紀フランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ 14 世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。1700 年代後半になると、こうした批判を含め、米州からロシアまで含む拡張されたヨーロッパ世界の中〜上流階級において多少とも共有されていた、洗練された文化・文明のあり方そのものが、自然のままであれば善良であったはずの人間を堕落させてしまったという主張さえ流行する。ジャン=ジャック・ルソーの『学問芸術論』や『人間不平等起源論』が、この種の主張の代表格である。
・少数派の立場にたいする寛容や、「自然に帰れ」といった文化的理想、また宗教的狂信と暴力の関係をどのように考えるかという主題は、17〜18 世紀フランスの思想が、21 世紀の私たちに投げかける重い課題である。

【到達目標】
1．各回のテクストの講読をつうじて、17 世紀から 18 世紀にかけてのフランスにおける思想と文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
2．各回のテクストに登場する人物や作品から主題を選び、いわゆるステレオタイプに陥らない形で、その思想に関する理解を深める。
3．少数派の立場にたいする寛容や、「自然に帰れ」といった文化的理想、また宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
・受講者数にもよるが、基本的には毎回の授業時間＝ 100 分を、（ア）教員による講義と、（イ）受講者の皆さんからの発言・発表に分ける形式を想定している。
・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行うが、学習支援システムや Google Classroom も利用する場合がある。
・語学の授業ではないため、フランス語の能力は求めない。
・期末のテストやレポートは課さない。授業中の活動への参加を重視する。
・この授業は秋セメスター（後期）科目である。このシラバスを執筆している 2021 年 2 月の段階で、2021 年 9 月〜2022 年 1 月の感染拡大状況を予想するのは困難であり、教室における対面授業ができる場合、オンライン授業になってしまう場合、両方を想定しているが、どのような比率になるかは秋セメスター開始以降の感染状況、法政大学の方針を踏まえ決定する。ただし、いずれの授業形態の場合も、授業の進め方や方法には、あまり影響はないと考えている。
・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方の説明 ※「内容 / Contents」欄に書いてあるのは次の回で使うテクストです。	第 2 回で使うテクスト 石井洋二郎『フランス的思考』4-5 頁 アンドレ・シーグフリート『西欧の精神』福永英二訳、第 3 章「フランス人の知性」46-75 頁。 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説―まんがで読破―』第 4 章「形而上学の基礎」84-135 頁。
第 2 回	「フランスの」思想？	第 3 回で使うテクスト ボワロー『詩法』解説（守屋駿二）20-40 頁。 ヴィクトール・リュシアン・タピエ『バロック芸術』高階秀爾・坂本満訳、第二章「フランスのバロックと古典主義」88-105 頁。 アラン・バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』鳥取絹子訳、第 7 章「ル・ノートルと我われ庭師」115-146 頁。

第 3 回	古典主義あるいはフランス式バロック	第 4 回で使うテクスト エルンスト・カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』朝倉剛・羽賀賢二訳、第 2 章「悲劇概説」41-45 頁。 高階秀爾『フランス絵画史』第 2 章「17 世紀フランスの絵画」第 3 節「古典主義の成立」85-102 頁。 コルネイユ『コルネイユ名作集』ル・シッド論争「論争概観」（皆吉郷平・橋本能）488-490 頁。
第 4 回	「1636 年の英雄たち」	第 5 回で使うテクスト セヴィニエ夫人『セヴィニエ夫人手紙抄』井上究一郎訳、23-29、138-150 頁。 エリアス『宮廷社会』波田節夫・中埜芳之・吉田正勝訳、106-115、129-139 頁。 モリエール『町人貴族』鈴木力衛訳、33-35、105、155-157 頁。
第 5 回	習俗の純化	第 6 回で使うテクスト ボシュエ「アンリエット・ダングルテール追悼演説」 フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニタス」（アラン・タピエ＆ニコラ・サント・ファール・ガルノ編『フィリップ・ド・シャンペーニュ 政治と敬神の間』148-151 頁） 高階秀爾『フランス絵画史』第 2 章「17 世紀フランスの絵画」第 2 節「フランス精神の勝利」59-66 頁。 パスカル『プロヴァンシアル（田舎人への手紙）』「第 1 の手紙」と「解説」、中村雄二郎訳、373-378、428-429 頁。
第 6 回	ヴァニタスと神の恩寵	第 7 回で使うテクスト フェヌロン『テレマックの冒険』下、朝倉剛訳、巻 10-11。 ガクソット『フランス人の歴史』第 2 巻、第 19 章「リシュリウとヴェストファーレン条約」451-469 頁。 林田信一『ルイ 14 世とリシュリュー』26-39、46-55 頁。
第 7 回	絶対王政と王国の基本法（リシュリュー、マザラン）	第 8 回で使うテクスト ラ・フォンテーヌ『寓話』今野一雄訳「都会のネズミと田舎のネズミ」「王さまを欲しがるカエルたち」「ハゲタカと鳩」27-29、55-57、133-135 頁。 ペロー『ペロー童話集』新倉朗子訳、「眠れる森の美女」「赤ずきんちゃん」「サンドリヨンまたは小さなガラスの靴」157-180、211-214 頁。
第 8 回	テクストを分析する① 寓話について	第 9 回で使うテクスト ラ・ロシュフーコー『ラ・ロシュフーコー箴言集』二宮フサ訳、11-15、56-57、80-87、147-153 頁。 田中仁彦『ラ・ロシュフーコーと箴言　太陽も死も直視できない』11-68 頁
第 9 回	テクストを分析する② 恋愛について	第 10 回で使うテクスト パスカル「大貴族の身分に関する講話」(伊吹武彦・渡辺一夫・前田陽一『パスカル全集』Ⅰ 161-168 頁) パスカル『パンセ』塩川徹也（上）71-75、80-89、92-93、105-117、124-127、238-259 頁。 拙稿「パスカルにおける情念と政治」
第 10 回	テクストを分析する③ 力と正義について	第 11 回で使うテクスト 赤木昭三『フランス近代の反宗教思想―リベルタンと地下写本』第 1 部第 5 章「17 世紀後半のリベルタン」、第 2 部第 3 章（1）「軍人哲学者」54-68、149-162 頁。 モリエール『ドン・ジュアン』鈴木力衛訳、38-45、50-53、78-81 頁。 フォントネル『世界の複数性についての対話』赤木昭三訳、第三夜「月世界の特徴および他の惑星にも人が住んでいること」78-102 頁。
第 11 回	リベルタン	第 12 回で使うテクスト モリエール『人間嫌い』内藤濯訳、第１幕第１場、第２幕第２場。 矢橋透『劇場としての世界―フランス古典主義演劇再考』第 2 章「仮面の劇　―モリエール『人間嫌い』について―」41-72 頁。 ジャン・ルーセ『フランスバロック期の文学』伊藤廣太・齋藤磯雄・齋藤正直他訳、第 3 章「変装とまやかし（悲喜劇）」、第 8 章「文学におけるバロック」67-108、270-311 頁。
第 12 回	仮面	第 13 回で使うテクスト 「レ枢機卿によるラ・ロシュフーコー卿の肖像」 ラ・ブリュイエール『人さまざま（カラクテール）』上・中、関根秀雄訳、第 3 章 女について 第 11 章 人間について。 辻邦生「プッサンの遺言」
第 13 回	ポルトレ	第 14 回で使うテクスト ラ・ロシュフーコー『箴言集』など、第 1 回から第 12 回までに使ったテクスト全部。
第 14 回	自画像を作ってみる。	モラリスト風の文章により自画像（オートポルトレ）を描く。授業支援システムを利用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）教科書の次回の範囲を予習してきてください。

（イ）指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。

（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

授業計画の内容で毎回のテクストを指示してある。ただし、第 1 回授業時に、とりあげるテクストの一部を差し替えた授業計画を配布する場合があります。

【参考書】

参考となる映像作品：

第 1～2 回に関して、パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994 年。

第 3～4 回に関して、ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000 年。

第 5～6 回に関して、エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969 年。
第 7～8 回に関して、リュック・ベッソン監督『狼（シャネル No.5 の広告）』1998 年。
第 9～12 回に関して、ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973 年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業への参加（30%）
（エ）授業時間外の準備を必要とする学生による発表（30%）
（オ）担当範囲外における発言など積極的な参加（30%）
（カ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
（ア）特にオンラインで行う授業回が混じった場合、あまり過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
（イ）法政大学が提供している LMS（学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。
（ウ）2020 年度に開講された科目では、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を含めた、動画や音声の掲載を行いました。
（エ）就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。
（オ）2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして（強制はしません）、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】
（ア）資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。
（イ）パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行っていただく場合がありえます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントを使って練習をしてください。
（ウ）学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。
（エ）法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト／ VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】
①「授業計画」の内容については、第 1 回の授業で、使用するテクスト類をさしかえた「授業計画」を配布するかたちで変更する場合がありえます。
②市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。
③学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
④履修にあたりフランス語の能力は要求していません。
（※）この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】
This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral presentations in Japanese will be required.

ART200GA

【2022 年度休講】フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村　民夫

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学ぶ。

【到達目標】
エポック・メイキンギな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになる。あわせて、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行う。
コメントシートに関するフィードバックは授業内や hoppii で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義のオリエンテーション
第 2 回	フランス古典主義	クロード・ロラン ニコラ・プッサン
第 3 回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第 4 回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第 5 回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第 6 回	ポスト印象主義	スーラ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ
第 7 回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第 8 回	アヴァンギャルド１（キュビスム、フォーヴィスム）	ピカソとマチス ドローネーの抽象絵画 ル・コルビュジエの建築
第 9 回	アヴァンギャルド２（ダダイスム、シュルレアリスム）	デュシャン、エルンスト、ダリ、ブニュエル
第 10 回	エコール・ド・パリと詩的レアリスム	ユトリロ、藤田 クレール、ジャン・ルノワール
第 11 回	パリ写真	アジェ、ブラッサイ、カルチエ=ブレッソン
第 12 回	ヌーヴェル・ヴァーグ	バザン、トリュフォー、ゴダール
第 13 回	フランス現代美術	クライン、クリスト、ボルタンスキー
第 14 回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に美術展へ行ったり、画集や DVD などを鑑賞すること。

【テキスト（教科書）】
プリントで代用する。

【参考書】
随時挙げる。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50 %）＋期末試験（50 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】
We take a general view of history of French fine art, photography and movie.

LIT200GA

フランス語圏の文化Ⅲ（文学）

PHILIPPE JORDY

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世時代から現代にいたるまでのフランス語圏の文学の概説。

【到達目標】
フランス語圏の文学の基礎知識を深める。
さまざまな仏文学潮流の代表的な作品の抜粋を読み、分析研究をする。十九世紀から非常に盛んになった大衆文学の研究も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
豊かなフランス語圏の文学の概説をするのは容易ではないが、いくつかの名作の抜粋を通して、この探検を試みる。
フランス語圏の文学の様々な潮流やその歴史的な背景の概説も必要であるが、なるべく原文に没入し解読を試み、その芸術的な喜びを味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中世の文学	授業紹介 フランス文学の最初の作品
②	ルネッサンスの文学	詩とエセー
③	十七世紀の文学	寓話詩と芝居
④	十七世紀の文学	芝居と小説
⑤	十八世紀の文学	エセーと小説
⑥	十八世紀の文学	小説と芝居
⑦	十九世紀の文学	エセーと小説
⑧	十九世紀の文学	小説と詩
⑨	十九世紀の文学	詩と芝居
⑩	二十世紀の文学	エセーと小説
⑪	二十世紀の文学	小説と詩
⑫	二十世紀の文学	詩と芝居
⑬	二十一世紀の文学	小説
⑭	現代大衆文学	ミステリー小説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書は限定するので（莫大な読書量にはならない）、あらかじめ指定された箇所はしっかり読んでおくこと。
本授業の準備・復習時間は、２時間〜を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時指示

【成績評価の方法と基準】
1）フランス語や日本語による発表：50%
2）期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
この授業はフランス語または日本語で行う（英語も可）。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではないが、パソコン、録音機の持参推奨

【Prerequisite】
一定のレベル（2 年間学習済、DELF A2 以上）の仏語学力が望ましい。

【Outline (in English)】
This course is an overview of French literature from Middle-age to 20th century. Some representative works from each period will be studied closely, in order to give students a good grasp of this country prodigious literary field.
Students must read and prepare in advance the literary authors or works introduced through distributed prints in the previous course (about 4 hours of review and preparation are required between two courses). Academic skills will be developed through oral presentation and essay writing techniques.
Grading criteria are as follows: oral presentation of an author (50%); final paper analyzing a literary work (50%).

ARSa200GA

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界 5 大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。
具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】
(1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
(2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
(3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。
2〜3 コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。
毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	Ⅰ．カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	Ⅰ．カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	Ⅰ．カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	Ⅱ．カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	Ⅱ．カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	Ⅱ．カナダ・ケベック州③	【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）①	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。
授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特になし。
・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】
授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。
・鳥羽美鈴著，『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012 年.
・平野千香子著，『フランス植民地主義の歴史』人文書院，2002 年.
・中村隆之著，『カリブ－世界論』人文書院，2013 年.
・小畑精和著，『ケベック文学研究』御茶の水書房，2003 年.
・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
・鵜戸聡著，「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編，名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号），風媒社，2011 年.
・梶茂樹・砂野幸稔編著，『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるということ』三元社，2009 年.
・岩本和子著，『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社，2007 年.
・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】
・評価配分は、以下の通り
①平常点（コメントシートなど）： 30 %
②期末レポート： 70 %
・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料に基づいた講義を行うが、説明が緩慢にならないように、映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつける。

【その他の重要事項】
フランス語の知識は前提としない。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on th folloing:
in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米大陸のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとし、オムニバス形式にて各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会について学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の 2 回ずつ（合計 4 回）は、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（10 回分）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第 2 回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第 3 回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第 4 回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第 5 回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第 6 回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第 7 回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第 8 回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第 9 回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第 10 回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第 11 回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第 12 回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第 13 回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第 14 回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するためにも、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州に関する情報を集めて頂きたい。
・期末レポート執筆のためにも、配布資料についても熟読して頂きたい。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』エリアスタディーズ・72 巻，明石書店，2009 年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）： 40 %
②期末レポート： 60 %
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・授業内容について、より多様性が富んだものにする。
・質疑応答の時間を出来るだけ設けるようにする。

【その他の重要事項】
・初回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席すること。
・毎年度秋学期に開講予定の授業であるが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありうる。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

ARSa300GA

スペイン語圏の文化Ⅰ

久木　正雄

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域と言語・民族の多様性と、それらの歴史的重層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセローナ大学への SA に参加する 2 年生は、バルセローナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】
スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーション、ディスカッション、学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	スペイン史概説（先史時代〜中世）	スペインの自然環境（地勢と気候）と、先史時代から古代・中世までのスペイン史（イベリア史）への理解を得る。
3	スペイン史概説（近世・近代）	国家と地域との関係に留意しながら、近世と近代のスペインに関する通史的な理解を得る。
4	スペイン史概説（現代）	内戦とフランコ体制期を中心として、自治州国家体制へと至るスペイン現代史（20 世紀）に関する理解を得る。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々（前近代）	「三宗教の共存」と称される中世スペインの宗教的・民族的多様性と、近世以降の展開への理解を深める。
7	宗教と人々（近現代）	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。
8	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
9	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
10	都市と建築	バルセローナに焦点を当てて、都市計画とアントーニ・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
11	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
12	サッカー	スペインの国民的なスポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
13	スペインと日本	今日でも官・民のさまざまなレベルにおいて密接な係わりをもつ、スペインと日本との関係への理解を深める。
14	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
立石博高（編著）『概説　近代スペイン文化史―18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784623066759。

【参考書】
- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013 年、本体価格 860 円、ISBN9784582856743。
- 田澤耕『物語　カタルーニャの歴史―知られざる地中海帝国の興亡　増補版』中公新書、2019 年、本体価格 920 円、ISBN9784121915641。
- 立石博高『スペインにおける国家と地域―ナショナリズムの相克』国際書院、2002 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784877911140。
- 立石博高『歴史のなかのカタルーニャ―史実化していく「神話」の背景』山川出版社、2020 年、本体価格 2,750 円、ISBN9784634151628。
- 立石博高・内村俊太（編著）『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750344157。
- エドゥアルド・メンドサ（立石博高訳）『カタルーニャでいま起きていること―古くて新しい、独立をめぐる葛藤』明石書店、2018 年、本体価格 1,600 円、ISBN9784750347578。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション： 30 %、ディスカッションへの参加度： 30 %、学期末レポート： 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】
・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。
・この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化 II」との直接の連続性はない。

【Outline (in English)】
《Course outline》 This course is designed to provide students with a basic understanding of various aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

《Learning Objectives》 Students will gain the basic knowledge of histories, societies and cultures of Spain and its regions, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.
《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria / Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木　直美

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。ラテンアメリカと総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちている。本授業では、特にインカ帝国が栄えたペルーの歴史や文化を中心的なテーマに据えながらも、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】
ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得る。
各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を行う。
授業はすべて、授業支援システムを活用したオンデマンド方式で行うため、指定された期間内に課題やコメントを提出し、電子掲示板を用いて議論を行う。そのため、頻繁に授業支援システムから授業連絡や掲示板をチェックすることが必須となる。特定の時間割に設定されていないため、自ら積極的に授業参加する意識が求められる。
なお、受講生の関心に応じて各回のテーマについては変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「インカ王国の生成」「古代帝国の成熟と崩壊」	『インカとスペイン帝国の交錯』1〜2 章
3	「中世スペインの共生する文化」「排除の思想　異端審問と帝国」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』３〜４章
4	「交錯する植民地社会」「世界帝国に生きた人々」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』５〜６章
5	「帝国の内なる敵　ユダヤ人とインディオ」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』７章
6	「女たちのアンデス史」「インカへの欲望」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』8〜9 章
7	「インカとスペインの決別」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』10 章
8	ラテンアメリカの芸術	ラテンアメリカの画家とその作品を通して、歴史と文化を学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
9	ラテンアメリカの文学	ラテンアメリカ出身の作家と作品について紹介する。受講生によるプレゼンあり。
10	ラテンアメリカの食文化	ラテンアメリカの食の歴史をたどりながら、その多様性について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
11	ラテンアメリカの音楽	ラテンアメリカの音楽について、音源や映像を活用しながら学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
12	日本とラテンアメリカ	日本とラテンアメリカの関係について学ぶ。 受講生によるプレゼンあり。
13	ラテンアメリカの映画	映画を題材に、その背景について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。
14	ラテンアメリカの女性たち	ラテンアメリカの女性像を切り口に、歴史と社会的背景について学ぶ。受講生によるプレゼンあり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に指示したテキストの範囲を読んでおくこと。また AV 資料の視聴が指示された場合にも必ず従い、事前に準備する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
- 網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、2008 年。

【参考書】
- 寺尾隆吉『ラテンアメリカ文学入門 - ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで』中公新書、2016 年。
- 高橋均、網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009 年。

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題： 50 %、授業への貢献とプレゼンテーション： 50 %.

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。
AV 資料を活用する。

【その他の重要事項】
この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。
また、受講生と相談しながら、授業計画にある内容の順番を入れ替える可能性もある。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.
＜ Learning Objectives ＞
By the end of this course, students are expected to gain a basic understanding of Latin American history, culture and society.
You will be able to deepen your interest in problems and translate them into presentations and reports.
＜ Learning activities ＞
Your study time will be more than two hours for a class.
＜ Grading Criteria/Policy ＞
Short reports : 50%、in class contribution: 50%.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）

フォルテア　ムニョス　ダニエル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の基礎をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）」もあるので、関心を持った学生はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】
① 基礎カタルーニャ語の能力を確実に習得すること（ヨーロッパ言語共通参照枠 A1 レベル相当）。
② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
① 小テスト：定期的に行う 10〜15 分の筆記・リスニングのテストです。
② 自主学習ファイル：カタルーニャ語に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
③ 期末テスト： 1 時間前後の筆記・リスニングテストです。
④ 作文：提出日までの文法・語彙を活かした簡単な自己紹介文です。
⑤ 授業態度：主に授業中・外に行った活動を理解・上達しようとする努力です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、挨拶などの日常表現	— Com anem? — Molt bé, gràcies. I tu?
2	アルファベット、発音、二重母音、強勢の位置, 主語の人称代名詞、動詞 ser、疑問文、否定文	— Ets de Barcelona, oi? — No, jo soc de Girona.
3	名詞と形容詞の性数、定冠詞、動詞 tenir、疑問詞	— Com és en Jiro? — En Jiro té 20 anys i és molt simpàtic.
4	位置と存在の動詞、不定冠詞、位置の表現	El Museu Picasso és al centre de Barcelona. A Barcelona hi ha molts museus!
5	指示詞、所有詞	Aquests són els meus pares i aquest és el meu gos.
6	動詞 ser, estar, haver-hi, tenir の使い分け	La Marina és molt activa, però ara està cansada i té una mica de son.
7	現在の規則動詞と不規則動詞	Jo visc a Mallorca. Estudio a la universitat i treballo en un restaurant italià.
8	前置詞、つなぎ言葉	Jo normalment surto de casa aviat per anar a la universitat.
9	動詞 poder、動詞 voler	La Laia vol venir amb nosaltres, però avui no pot.
10	再帰代名詞を使う動詞、時間の表現	Nosaltres normalment ens aixequem a les set.
11	動詞 conèixer, saber, poder の使い分け	— Saps qui és aquell noi? — No, no ho sé, no el conec pas.
12	動詞 agradar と同型の動詞	M'agrada molt el cafè, però avui m'estimo més prendre un te.
13	総復習、期末テスト	1 時間前後の筆記・リスニングテストを実施します。
14	フィードバック	授業の感想や自己活動の相互紹介などを共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少なくとも 30 分の予習と 90 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】
配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。

【参考書】
教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, London and New York, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
① 小テスト〔30%〕
② 自主学習ファイル〔20%〕
③ 期末テスト〔20%〕
④ 作文〔15%〕
⑤ 授業態度〔15%〕
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナ感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】
本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Barcelona", "Gaudí", "Dalí", "Barça", "human towers" … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.
Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire a basic knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture II (Language B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.
【Learning Objectives】
1. Acquire a basic knowledge of Catalan language (CEFR A1 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia’s history, culture and society.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary at least 30 and 90 minutes for preparing and reviewing each class, respectively. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.
【Grading Criteria / Policy】
1. Minitests (30%)
2. Self-study file (20%)
3. Final term test (20%)
4. Composition (15%)
5. Attitude in class (15%)
100 being the best possible grade, it is necessary to reach the 60 to pass the course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）

フォルテア　ムニョス　ダニエル

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。
その魅力はカタルーニャ語なしでは本格的に味わえないことは言うまでもなく、カタルーニャ文化・社会の大部分に触れることもできません。そこで、この授業はカタルーニャ語の初級をしっかり身につけることはもとより、カタルーニャの世界に関心を持つ機会をつくることも目的とします。
最後に、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）」および「カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】
① 初級カタルーニャ語の能力を確実に習得すること（ヨーロッパ言語共通参照枠 A2 レベル相当）。
② カタルーニャ語とカタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
① 小テスト：定期的に行う 10〜15 分の筆記・リスニングのテストです。
② 自主学習ファイル：カタルーニャ語に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
③ 期末テスト： 1 時間前後の筆記・リスニングテストです。
④ 作文：各過去時制を活かした作文です。
⑤ 授業態度：主に授業中・外に行った活動を理解・上達しようとする努力です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、総復習	Quant de temps!
2	直接・間接目的格代名詞	— Quants estudiants hi ha a classe? — N'hi ha vint.
3	比較級、最上級	El Mont Fuji és més alt que la Pica d'Estats.
4	不定語	— Que hi ha algú al lavabo? — No, no hi ha ningú.
5	動詞句と他の便利な表現	Em sembla que en Pau ha de treballar demà.
6	点過去	— Què vas fer ahir? — Vaig anar al cinema amb tota la família.
7	現在完了	— On has dinat avui? — He dinat a un bar.
8	線過去	— Què veies a la televisió quan eres petit? — Sovint hi veia Bola de Drac.
9	過去時制の使い分け	Aquest matí quan m'he aixecat tenia molta gana.
10	未来	— Què faràs dissabte? — Aniré a la muntanya.
11	現在分詞	Avui l'equip està jugant molt bé, oi?
12	関係詞節	Tinc un amic que parla vuit llengües!
13	総復習、期末テスト	1 時間前後の筆記・リスニングテストを実施します。
14	フィードバック	授業の感想や自己活動の相互紹介などを共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少なくとも 30 分の予習と 90 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】
配布資料（文法・練習・語彙を含みます）。

【参考書】
教場ではより細かい参考書リストを提供予定します。
田澤耕（2002）『カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2007）『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャ語小辞典』大学書林。
———（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, London and New York, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
① 小テスト〔30%〕
② 自主学習ファイル〔20%〕
③ 期末テスト〔20%〕
④ 作文〔15%〕
⑤ 授業態度〔15%〕
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナ感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】
本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Barcelona", "Gaudí", "Dalí", "Barça", "human towers" … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.
Obviously, one cannot really appreciate Catalonia's fascinating world without its own language, Catalan. But not only that, since approaching its culture and society also requires it most of the times. Because of this, the main goals of this class are to acquire an elementary knowledge of Catalan, and also to create opportunities to enhance interest in Catalonia's world.
Finally, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture III (History and Society A" and "Catalan Culture IV (History and Society B" as well.
【Learning Objectives】

1. Acquire an elementary knowledge of Catalan language (CEFR A2 level).
2. Find motivation so as to continue having interest in Catalan and Catalonia's history, culture and society.

【Learning activities outside of classroom】
It is necessary at least 30 and 90 minutes for preparing and reviewing each class, respectively. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】
1. Minitests (30%)
2. Self-study file (20%)
3. Final term test (20%)
4. Composition (15%)
5. Attitude in class (15%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach the 60 to pass the course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

フォルテア　ムニョス　ダニエル

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾＝ヒントも多く見出されます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化 IV（歴史・社会 B）」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化 I（言語 A）」および「カタルーニャの文化 II（言語 B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
② カタルーニャと世界とのつながりを視野に入れた研究・論述・議論を行うこと。
③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

① 授業態度：主体的に学ぼうとする姿勢や、ディベートに積極的に参加したりする態度です。
② アクティブラーニング：自分が担当するテーマの準備・授業紹介を行うことです。
③ 自主学習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
④ 期末テスト： 1 時間前後の選択回答・自由記述式のテストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進み方の説明。
2.	先史・古代史・中世史	おおよそ 15 世紀まで。
3.	近代史	おおよそ 16 世紀から 20 世紀初頭まで。
4.	現代史	おおよそ 20 世紀から現在まで。
5.	バルセロナの空間史	空間を分析する意味、歴史的な変貌、大型イベント、現代のジェントリフィケーションなど。
6.	言語	カタルーニャ語の形成過程、各地域の特徴、現代の不安定な状況など。
7.	文学	各時代の文学の特徴と背景、名作の紹介など。
8.	民俗文化	祭りと習俗（クリスマス、サン・ジョルディの日、パトゥム、サン・ジュアン祭り）、民俗芸能（人間の塔、サルダナ）、闘牛の禁止など。
9.	建築・絵画	ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。
10.	音楽	クラシック音楽、ノバ・カンソー、現代音楽など。
11.	食文化	伝統的な料理と行事食、現代の超創作料理など。
12.	スポーツ	巡検運動、人民オリンピック、バルセロナオリンピック、FC バルセロナの特性、スポーツと政治の関係など。
13.	期末テスト	1 時間前後の筆記テストを実施します。
14.	フィードバック	授業の感想や自己活動の相互紹介などを共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも 90 分の予習と 30 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
———（2019）『物語　カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, London, Boydell & Brewer.

【成績評価の方法と基準】

① 授業態度〔30%〕
② アクティブラーニング〔30%〕
③ 自主学習ファイル〔20%〕
④ 期末テスト〔20%〕
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナ感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia's history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today's global society.
Finally, this class is followed by "Catalan Culture IV (History and Society B)", so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture I (Language A)" and "Catalan Culture II (Language B)" as well.
【Learning Objectives】
1. Acquire a general knowledge about Catalonia's history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia's history, culture and society.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary at least 90 minutes for preparing and 30 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.
【Grading Criteria / Policy】
1. Class participation (30%)
2. Active Learning (30%)
3. Self-study file (20%)
4. Written exam (20%)
100 being the best possible grade, it is necessary to reach the 60 to pass the course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

フォルテア　ムニョス　ダニエル

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「バルセロナ」「ガウディ」「ダリ」「バルサ」「人間の塔」……。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにではなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めているに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。
この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な観点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾＝ヒントも多く見出されます。
最後に、カタルーニャの世界を本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語 A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語 B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】
① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
② カタルーニャと世界とのつながりを視野に入れた研究・論述・議論を行うこと。
③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
① 授業態度：主体的に学ぼうとする姿勢や、ディベートに積極的に参加したりする態度です。
② アクティブラーニング：自分が担当するテーマの準備・授業紹介を行うことです。
③ 自主学習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
④ 期末テスト： 1 時間前後の選択回答・自由記述式のテストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進み方の説明。
2.	中世における社会的闘争	おおよそ 9 世紀から 15 世紀まで。
3.	近代における社会的闘争	おおよそ 16 世紀から 20 世紀初頭まで。
4.	現代における社会的闘争	おおよそ 20 世紀から現在まで。
5.	政治	自治復活、カタルーニャ自治憲章、現代の諸政党、近年の政治論争など。
6.	経済	各時代の経済モデル、オルタナティブな経済など。
7.	メディア	メディア業界の企業・団体の概要と特徴、表現の自由、情報倫理など。
8.	移民とアイデンティティ	移民の動向、政策対応の変化、多文化共生の諸相など。
9.	カタルーニャ語の現状	カタルーニャ語の使用をめぐる動向、教育をめぐる論争、グローバル・情報社会がもたらす諸挑戦、将来の展望など。
10.	独立運動	独立運動の歴史、現在の独立運動の特徴、各社会行為者による立場と理由づけ、今後の独立実現の可能性など。
11.	ジェンダー	差別と権利獲得の歴史、言語に潜む差別など。
12.	映画	映画のテーマの推移、バルセロナ映画派、クリエイティブ・ドキュメンタリー、近年の国際化など。
13.	期末テスト	1 時間前後の筆記テストを実施します。
14.	フィードバック	授業の感想や自己活動の相互紹介などを共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少なくとも 90 分の予習と 30 分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。

【参考書】
教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
———（2019）『物語　カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, London, Boydell & Brewer.

【成績評価の方法と基準】
①授業態度〔30%〕
②アクティブラーニング〔30%〕
③自主学習ファイル〔20%〕
④期末テスト〔20%〕
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、新型コロナ感染症の流行等、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助成機関】
本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Barcelona”, “Gaudí”, “Dalí”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia's history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today's global society.
Finally, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture I (Language A)" and "Catalan Culture II (Language B)" as well.
【Learning Objectives】
1. Acquire a general knowledge about Catalonia's history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia's history, culture and society.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary at least 90 minutes for preparing and 30 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.
【Grading Criteria / Policy】
1. Class participation (30%)
2. Report (30%)
3. Self-study file (20%)
4. Written exam (20%)
100 being the best possible grade, it is necessary to reach the 60 to pass the course.

ARSk300GA

英語圏の文化Ⅰ（文化史）

宇治谷　義英

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世イギリス演劇の事情について，基本的な情報を学んだ後，英語で書かれた論文を読むことで，各時代状況の中で，英米のみならず日本などの異文化圏においても，それらの演劇作品がどのように変化をして大衆に受け入れられてきたか，そしてその今日性について，他者とのディスカッションもおこなうことによって，学生一人一人が確認していく．

【到達目標】
異文化間における交流，つまり異文化間コミュニケーションを図るためには，異なる文化的背景を持った者同士が，お互いの文化を理解し合うことが必須である．そして，異なる文化的背景を持つ他者の文化的生産物 (cultural products) を受容，理解するためには，その異文化間に横たわる文化的境界を越境するもの，つまり架け橋のような要素の存在が重要である．
本授業では，時代を超えて英語圏を代表する作家である William Shakespeare の演劇を中心にした近世イギリス演劇を，「異文化圏間」，「異時代間」を縦横に巡る「越境性」，「今日性」をキーワードに，変化する時代，そして異文化圏，特に日本の文化と関連させて把握できるようになること，そして演劇のみならず，時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになることを目指す．
さらには，英文で書かれた関連する論考を自分で読み解くこと，また特定の Shakespeare 作品の「越境性」「今日性」について受講生同士，そして外国人等の異なる文化的背景を持った人とのディスカッションを通して，自身による異文化の「越境」を体験することも目指す．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的な事項の講義の後，あらかじめ割り当てられた受講生に劇作品および論文について発表をしてもらう．毎回リアクションペーパーの提出は必須とする．出されたリアクションペーパーは次回の授業で取り上げてフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「演劇から始める異文化理解」	その目的，今日まで廃れない理由について，日本における歌舞伎，新劇，小劇場文化，同時に各受講者の身近な演劇体験と比較しながら考察する
第 2 回	「劇場」	近世イギリスの劇場と現代との違い，そして日本の劇場との類似性について
第 3 回	「テクスト」	近世イギリス演劇の上演台本の事情と現代との違いと類似性について
第 4 回	「文化と社会」	文化的生産物 (cultural products) から当時の社会状況を割り出す意義
第 5 回	「近世イギリス演劇の今日性」	文化的生産物 (cultural products) が持つ，異文化間，異なる時代と場所を越える要素を見つける方法について
第 6 回	異文化間交流の実体験 (1)	事前に決めた Shakespeare 作品に関して，第 1 回から 5 回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって，お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する．そこから受講生自身も含めて，異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える
第 7 回	論文の解読 A(1)	Shakespeare の「越境性」について，劇団と劇場から考える
第 8 回	論文の解読 A(2)	Shakespeare の「越境性」について，演劇性から考える
第 9 回	論文の解読 A(3)	Shakespeare の「越境性」について，大衆及び社会秩序との関連性から考える
第 10 回	論文の解読 A(4)	Shakespeare の「越境性」について，メディアの問題から考える
第 11 回	論考の解読 A(5)	Shakespeare の「越境性」について，文学作品の観点から考える
第 12 回	論考の解読 B(1)	文化的生産物 (cultural products) の異文化圏における受容の課題と意義について，第二次大戦前から 1960 年代以前の Shakespeare 作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
第 13 回	論考の解読 B(2)	文化的生産物 (cultural products) の異文化圏における受容の課題と意義について，1960 年代以降の Shakespeare 作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
第 14 回	異文化間交流の実体験 (2)	事前に決めた Shakespeare 作品に関して，第 7 回から 13 回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって，お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する．そこから受講生自身も含めて，異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられる．論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する．発表では前もってテーマを決めて準備しておく．
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
The Cambridge Companion to Shakespeare and Popular Culture, ed. Robert Shaughnessy (Cambridge: Cambridge University Press, 2007).
The Cambridge Companion to English Renaissance Drama, eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等課題の提出およびプレゼンによる平常点 (20%) と試験 (80%)．なお，教員による講義中および受講生による発表中の私語，やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁．

【学生の意見等からの気づき】
担当した文献の英語について，教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えるようにしたいと思っています．

【Outline (in English)】
In this course, students will learn about early modern English drama and how it was/is received through discussion with others.
The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and the ability to discuss it.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end exam: 80%, assignments: 20%

PHL300GA

英語圏の文化Ⅱ（思想史）

MARK E FIELD

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：※ 2022 年度は春学期開講とする。

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】
The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of "Western" religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of "Western" social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain's rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman's Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain's Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson's Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR's New Deal
13 回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14 回	Examination/ Comments:	Recapping what has been covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students may also be expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently for the preparation of Research Papers.
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】
Participating students will do independent reading for their written assignments.

【成績評価の方法と基準】
30% In Class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)
30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,
40% Final Examination/Term Project.
**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

ARSk300GA

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

佐喜真　彩

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語圏世界とは、むろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土および占領地なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域・占領地について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「太平洋の要石」と呼ばれた沖縄の歴史・文化的経験を一つの起点として取り上げ、そこから他の旧植民地地域・占領地の経験へ視野を広げることで「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】
・旧植民地地域・占領地について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域・占領地の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域・占領地の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
・毎回資料を配布するので各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、アメリカと占領という視点から「英語圏の文化」とはなにか考える。
第 2 回	アメリカという基地帝国	「西漸運動」という美名の下に展開された領土拡張は、19 世紀半ばのメキシコ戦争以後、キューバ、アラスカ、グアム、ハワイ、フィリピン、アジアへと及んだ。その進出を支えたのが、要衝として点在した駐留地の設置だった。アメリカの軍事基地拡大の軌跡を概観し、現在、世界中に点在し当たり前のように見過ごされているその基地の問題を考える。
第 3 回	冷戦・ポスト冷戦におけるアメリカの「解放とリハビリ」	支配国（者）から植民地住民を「解放」するというイデオロギーは、その後アメリカがその地を占領することの正当性を証明するものとして、国際社会にむけてだけでなく、アメリカ国内にむかっても宣伝された。その一事例として、アメリカの日本占領期における日本人女性のメディア表象を取り上げて、「解放とリハビリ」イデオロギーを批判的に考える。
第 4 回	沖縄から見る冷戦とポスト冷戦	現在もアメリカと日本の二重の共同統治におかれている沖縄では、「解放」イデオロギー（第 3 回テーマ）は当初のものから複雑に変遷した。近代以降の沖縄の歴史を住民の視点から概観し、「解放」イデオロギーで覆い隠された対象地域の実際の経験を沖縄の具体例から学ぶ。
第 5 回	冷戦期におけるアメリカの地域研究と文化統治	アメリカの地域研究は、特に冷戦期に軍事政策や外交政策などの国家的な利害関係と密接に関わりながら発展した。占領地でアメリカ軍が住民へ向けるまなざしと文化統治の実践（第 6 回テーマ）は、こうした地域研究が提供する知に基づいている。その一事例として、1943 年以後本格化するアメリカの沖縄地域研究と占領政策および冷戦との関係を学ぶ。
第 6 回	占領者のまなざし——映画『八月十五夜の茶屋』を事例に	米軍による沖縄占領を題材にした映画『八月十五夜の茶屋』（1956）を観る。この映画のもととなる舞台劇は、アメリカ国務省による文化交流プログラムの一貫として国内にとどまらず、世界各地で上演された。この映画の分析を通じて、アメリカの対占領地住民観が占領政策に具体的にどのように反映されていたのかを学ぶ。
第 7 回	大城立裕「カクテル・パーティー」	大城立裕の芥川賞受賞作「カクテル・パーティー」(1967) は、英語圏で多数、翻訳出版され、「世界文学」の一部とみなされている。「カクテル・パーティー」の読解を通じて、占領者のまなざし（第 6 回のテーマ）を問い返した沖縄住民の思想を学ぶ。
第 8 回	沖縄の反戦運動と「第三世界」との連帯	大城立裕「カクテル・パーティー」の時代背景には、1965 年のアメリカによるヴェトナム戦争での北爆を契機とした、沖縄住民の間で高まった反戦意識と「第三世界」との連帯の試みがある。平和を希求した人びとによる国際的な交流と、それを通して培われた占領、ひいては冷戦秩序をも問うたその思想と実践を学ぶ。
第 9 回	ブラック・ディアスポラ——ヴェトナム反戦運動の広がり	1967 年に結成された「ヴェトナム反戦兵士の会（VVAW: Vietnam Veterans Against War）」に対する共感は、アメリカ国内にとどまらず、米軍基地が駐在する各地域に広がった。また、VVAW の GI たちは実際に海を渡り、ハワイ、フィリピン、沖縄などの地域の人びとと交流を深めた。そのような交流のなかで、GI 達は各地域特有の住民運動に触発され、ヴェトナム反戦というシングルイシューにとどまらず、新しい視点を獲得していった。多様な文化や歴史的背景を持つ人びとの交流が生む視野の広がりを、反戦運動の文脈から学ぶ。
第 10 回	BLM 運動におけるインターセクショナリティ	2020 年に、大きな話題となった Black Lives Matter（BLM）運動の重要な特徴の一つは、インターセクショナリティ（交差性）というフェミニスト的フレームワークを備えていることである。アフリカン・アメリカンをはじめとする、チカーナやラティーナ、先住民女性、アジアン・アメリカンなどのウィーメン・オヴ・カラーが培ってきた感性であるインターセクショナリティの概念を学び、さらにこれに呼応したアメリカ国外の運動も参照しながらその有効性の理解を深める。
第 11 回	軍事主義と性暴力	紛争下の性暴力は戦術の一つであり、それゆえにそれは戦争犯罪であることが国際社会で認められている。そして、紛争地にかぎらず駐留地で起きる性暴力も、戦地へ送り出す兵士の訓練を行う軍隊に起因する問題であることが世界各地で主張されている。軍事主義と性暴力の不可分な関係を考える。
第 12 回	「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」（International Women's Network Against Militarism）	1996 年に沖縄の女性たちが行った「アメリカ・ビース・キャラバン」は、アメリカに加え、フィリピンなどのアジア各地、プエルト・リコなどのカリブ海地域など多様な歴史・文化的背景を持った人々との交流を生み、2004 年にはトランスナショナルな運動（「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」）を構築した。この意義を学び、9.11 以後のアメリカによるアフガニスタン軍事攻撃を正当化する女性解放というレトリックと、これに同調した米国のフェミニストの主張を批判的に検討する。

第 13 回	アートで世界を再想像／創造する	韓国系アメリカ人アーティスト、テレサ・ハッキョン・チャ（Theresa Hak kyung Cha）の実験的著作『ディクテ』（1982）を通じて、トランスナショナルな視点から、アジア系アメリカ人のたずさえる植民地の記憶を考える。
第 14 回	期末課題の説明とまとめ	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（75 %）
・期末課題（25 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】
受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries.
[Learning objectivies]
By the end of this course, students are expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the formerly colonised regions and the occupied territories thus a different perspective on World History.
[Learning activities outside of classroom]
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
[Grading criteria]
Evaluation will be based on weekly assignments (75%) and final paper (25%).

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤　祐二

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などとどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】
受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
第 1 回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。
最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてももう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第 2 回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第 3 回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第 4 回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第 5 回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19 世紀から 20 世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第 6 回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのように反映しているのかを考察する。
第 7 回	時間、都市、産業化	19 世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのように反映されているのかを考察する。
第 8 回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。
第 9 回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第 10 回	観念としての「黒人」は誰のものか	20 世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第 11 回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第 12 回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第 11 回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第 13 回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20 世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と 20 世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第 14 回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。
また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。復習が重要である。

【テキスト（教科書）】
使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】
有賀夏紀 (編) 油井大三郎 (編)『アメリカの歴史――テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣アルマ, 2003 年
亀井俊介 (編)『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』昭和堂, 2006 年
板橋好枝、高田賢一 『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房, 1991 年

【成績評価の方法と基準】
学期末レポートを 70 %、中間レポートを 30 %とする。
両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容を補足するうえで映像資料が役立ったという意見が多かったので、今年度も同様に用いる。
例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】
受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。教室定員を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。
基本的に、授業は対面で行う。しかし、感染症対策として、授業を Zoom を使ったリアルタイム・オンラインに切り替えることがある。連絡は授業支援システム (Hoppii) の「お知らせ」で行う。授業実施方法に変更がないかを毎週授業前に必ず確認すること。なお、Zoom に切り替えても問題なく受講できるように、あらかじめ各自で通信環境を整えてください。

【Outline (in English)】
This course is designed to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds clearly evident in their works, but also into the characteristics of American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact American literary works, even those of different eras, have had on picture, film, and music.
At the end of this course, students should be able to explain some characteristics of American literature and culture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
The 1st report (30%) and the 2nd report (70%)

LIT300GA

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会 B）

北　文美子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１８世紀から２０世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】
それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。対面授業です。毎回講義内容に対する各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパー（課題）としてまとめ、提出してもらいます。レビュー・ウィークにリアクション・ペーパーをもとにしながら内容の復習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2 回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
3 回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4 回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5 回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6 回	バーナード・ショーと地方主義	『ピグマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
7 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
8 回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9 回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10 回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11 回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
12 回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回、プリントを配布します。

【参考書】
適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクション・ペーパー（４０％）
試験（６０％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
参考文献の紹介に加えて、内容についての簡潔な解説も付け加えます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.
(Learning Objective)By the end of the semester, students are expected to make themselves familiar with the history of British and Irish Literature and to acquire an understanding about the relation between social, cultural and historical backgrounds and literary works.
(Learning activities outside of classroom) Students should read the relevant literary materiel beforehand, and spend more than one hour preparing for each class.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 40% Exam 60%

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和　彩子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限・選抜あり**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀から 20 世紀の変わり目に特有の「不安」――ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖――にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読むことを通じ、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】
イギリス小説の代表的な作品を読み、テクスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。
作品と作者の文学史における位置づけを理解する。
イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
予習ワークシートに沿ってグループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理するというのが、演習の基本的な進め方である。各作品につき３回の授業を充て、３回目は主に講義とする。各授業の終わりにはリフレクションペーパーを課し、理解の確認を行う。（予習ワークシート、リフレクションペーパーは、基本的に毎回提出、翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18〜20 世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886 年）小説前半	演習
3	『ジキル博士とハイド氏』（1886 年）小説後半	演習
4	『ジキル博士とハイド氏』全体	演習・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』(1890 年）小説前半	演習
6	『四つの署名』小説後半	演習
7	『四つの署名』全体	演習・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895 年）小説前半	演習
9	『タイムマシン』小説後半	演習
10	『タイムマシン』全体	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902 年）小説前半	演習
12	『闇の奥』小説後半	演習
13	『闇の奥』全体	演習・講義
14	＜世紀末の不安＞まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。
演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。
具体的な方法については、第一回授業で説明する。
本授業の準備・復習時間は、１回の授業につき４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 長篇作品の邦訳は、以下の版を使用する予定。（絶版や新訳の出版等により変更する場合は、掲示等により連絡する）。
①田口俊樹訳『ジキルとハイド』新潮文庫，2015.
②日暮雅通訳『四つの署名』 新訳シャーロック・ホームズ全集， 光文社文庫，2007.
③石川年訳『タイムマシン』角川文庫, 2002.
④黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫, 2009.
(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ワークシート 40%、リフレクションペーパー 20%）と、試験の成績（40%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
・ワークシート、リフレクションペーパーの作成・提出、返却、フィードバックは、対面授業においてもオンラインで実施する。
・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）を持参してください。
・予告のうえ、教室での授業で Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】
Course outline: “Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works published around the turn of the 20th century, and be introduced to their social and cultural contexts. They will thereby understand how these texts are obsessed with the Victorian fin-de-siècle anxieties.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet given online in advance.
Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets (40%), reflection papers (20%), and the term-end examination (40%)

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

奥石　哲哉

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，学生が現代英語の構造について，様々な面から考察するを目標にするものです．良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は，どのような言語であるのか，学生は，担当者とともに，授業を通じて考察していきます．

【到達目標】
1．学生が英語の音声面，文法面等の構造について，知識を得られること．
2．学生が英語の構造についての研究の仕方について，ある程度の知識を得られること．
3．学生が英語という言語に関しての様々な問に対して，答えるべき道筋をつけられること．
4．併せて，学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること．
なお，上記の1，2で述べた知識ですが，ヤマとなる点は以下の通りです．
a) 音声器官，発音記号．
b) 音素の考え方（構造主義）．
c) 言語の知識を構成する各部門の考え方．
d) 記述上のさまざまな単位．
e) 統語範疇（品詞論）．
f) 直接構成素分析，句構造．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
現時点で考えていることは以下の 2 点です．
1．当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが，質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います．
2．何をトピックにするか明確にし，履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います．
課題等のフィードバックについては，「学習支援システム」や，個人メール等により行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方，教材について説明します．後半は，英語という言語について，どこでどのように話されているかなどを見た上で，英語史について簡単に触れます．
2	英語の音声について（1）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．言語音声に関する初回になりますので，音声研究において必要な調音器官などの用語，発声の原理について学びます．
3	英語の音声について（2）	英語の音声について，その特徴を学んでいきます．今回は，英語を離れ，一般的に単音の記述について見た後，子音・母音の分類原理について学習します．
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ 3 回目です．英語の母音について，その分類を学んだ後，各母音について見ていきます．
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ 4 回目です．二重母音，弱母音等について触れ，その後，フォニックスについて学習します．
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ 5 回目です．母音についてまとめ，英語の子音を見ていきます．
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ 6 回目です．子音についてまとめた後，音節，音結合について触れます．最後に，かぶせ音素（アクセント，リズム，イントネーション等）について解説します．
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ 1 回目です．初回ですので，文法という用語の伝統的な意味と，新しい意味，生成文法の考え方等について学びます．
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ 2 回目です．日英の語順の相違について概観した後，形態素，語，語彙素といった基本的な用語について学びます．
10	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ 3 回目です．統語範疇という概念について概観します．具体的に，形容詞を例にとって，いかに統語範疇が規定されるか，検討します．
11	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ 4 回目です．形容詞についての話をまとめ，他の統語範疇と形容詞の関係について学びます．英語の辞書の記述についても，検討します．
12	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ 5 回目です．構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます．そして，不連続構成素をどのように扱うかについての話をします．
13	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です．この回は，SVO+不定詞という構文を例にとり，それがどのように分析されるか，検討します．
14	まとめ〜今後につなげて	これまでの授業を総括し，その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか，授業で学んでいきます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，前回の内容を復習しながら，新しい内容に進みますので，学生は，基本的な用語を習得し，方法論を理解しながら，参考文献等を読んで授業に臨んでください．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものを考えてはいません．適宜，プリントなどを配布，提供いたします．

【参考書】
授業中，随時指定いたしますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．
・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』．東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載．]
・竹林滋・斉藤弘子 (1998).『改訂新版　英語音声学入門』．東京：大修館書店.
・中島文雄 (1991).『英語学とは何か』．東京：講談社 [講談社学術文庫].
・田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』．東京：講談社 [講談社学術文庫].
・竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』．東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】
試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる），5 で失格，というのを一応の目安とします．）
基本的に，最終試験で評価をいたします．その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します．）
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】
1．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めます．
2．本科目はグローバル・オープン科目の Structure of English と内容が同一ですので，重複履修はできません．
3．初回授業に必ず参加してください．
4．かなり速いペースで進みますので，真面目な態度で出席しないと履修は困難です．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の構造をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期ですので，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の構造について，基本的な知識は網羅するように心がけます．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language.Towards the end of the course, students will able to:
1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)
【到達目標（Learning Objectives）】
The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:
a) articulatory organs and phonetic symbols,
b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
c) modular approach to linguistics,
d) various units in linguistic description,
e) syntactic categories (parts of speech),
f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.
Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.
Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LANe300GA

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

奥石　哲哉

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の歴史は，ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります．本授業では，担当者とともに，学生は，本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから，どのような変化を遂げて，21 世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます．

【到達目標】
1．学生が英語の歴史について，ひと通りの知識を得ること．
2．学生が英語の歴史に興味を持ち，現代英語の様々な事象について，歴史的な説明を試みること．
3．学生が言語の歴史研究について，その大まかな方法論を知ること．
4．学生が英語の運用力をつけること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
本授業では，テキストを読みながら，演習方式で英語の歴史について学んでいきます．履修者は，必ずテキストを読んできてください．授業では，教材の内容について皆さんに担当教員が質問したり，付加的な情報を加えたりして，履修者の参考になるべく努めます．その後，復習をして固めれば，理解力が高まります．
課題等のフィードバックについては，「学習支援システム」や，個人メール等により行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション，英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説. - 現代英語の状況，話者数，分布等. - 英語史上の時代区分.
2	EARLY HISTORY 1	- Speech and Writing - The Continental Backgrounds - The Indo-European Languages
3	EARLY HISTORY 2	- The Position of Germanic in the Indo-European Group - Special Development in Germanic
4	OLD ENGLISH 1	- The Old English Dialects - The Conversion of the English to Christianity - Old English ・Vowel Sounds ・Consonant Sounds
5	OLD ENGLISH 2	・Consonant Sounds（続き） ・Word Stress ・Gender Not Based on Meaning ・Case
6	OLD ENGLISH 3	・Case（続き） ・The Development of the Personal Pronouns ・The Development of the Demonstrative and Relative Pronouns ・Adjectives and Adverbs
7	OLD ENGLISH 4	・Verbs ・Word Order
8	OLD ENGLISH 5	・The Old English Word Stock: Native Words and Loan Words
9	MIDDLE ENGLISH 1	- Leveling of Unstressed Vowels ・Spelling Practices ・Changes in Stressed Vowels ・The Blurring of Older Inflectional Distinctions
10	MIDDLE ENGLISH 2	・The Blurring of Older Inflectional Distinctions（続き） - Loan Words ・French ・Latin ・Greek ・Eastern Languages
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Old and Middle English Compared
12	MODERN ENGLISH 1	- The Great Vowel Shift - Changes in the Verb and the Pronoun - Word Borrowing
13	MODERN ENGLISH 2	- Word Borrowing（続き） - The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century
14	MODERN ENGLISH 3	- The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century（続き） - Noah Webster's Influence on American English - Is English Deteriorating?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，まず，テキストを読んでくることから始めてください．この際，批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか，曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと），出てくる用語等を資料，ネット等を用いて調べること，を意識的に行うことが重要です．授業後，復習をして固めれば，理解力が高まります．重要なのは，授業において，何らかの「引っ掛かり」を覚え，それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて，定着させていくことです．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
英文パイルズ『英語の歴史』(1973). この本はずいぶん古い本ですが，英語で読めるものとしては，それなりにいい本であると思います．元来，米国の高校生向けの教科書であるため，発音表記が分かりにくかったり，最近の英語についての説明がなかったりするのは欠点ですが，ModE までの説明はとてもよくまとまっています．

【参考書】
授業中，随時指定しますが，とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます．
・北村達三 (1980).『英語を学ぶ人のための英語史』．東京：桐原書店．（内容として一番標準的ですが，最近の英語についての記述が少々足りません．）
・寺沢盾 (2008).『英語の歴史　過去から未来への物語』．東京：中央公論新社 [中公新書].
・中尾俊夫，寺島廸子 (1988).『図説　英語史入門』．東京：大修館書店．
・ブラッドリ，H. 寺澤芳男訳 (1982).『英語発達小史』．東京：岩波書店 [岩波文庫].

【成績評価の方法と基準】
試験での成績を第一条件にして，平常点を加味します．言うまでもないことですが，出席することはすべての前提です．欠席は基本的に認めません．（やむを得ない場合に限り，欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして１段階下がる），5 で失格，というのを一応の目安とします．）
基本的に，最終試験で評価をいたします．その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します．）
この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
パソコンはあると便利ですし，発音記号のフォント，樹形図の書き方等に慣れることが可能になります．さらに，いろいろ興味深いサイトもありますので，授業や「授業支援システム」等を通じて，幅広く勉強ができます．

【その他の重要事項】
1．具体的なことは履修者の数，知識のレベルなどを加味して決めます．
2．本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので，重複履修はできません．
3．今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました．
4．「英語史」と「英国史」とは異なります．ことばに焦点を当てる授業です．
5．初回授業に必ず参加してください．

【カリキュラム上の位置づけ】
本科目は，言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です．（科目の性質上，SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます．）英語の歴史をひと通り駆け足で学び，言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です．半期のため，かなり駆け足で勉強することになりますが，英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います．履修者は，自分なりに興味があるトピックを見つけ，方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
Towards the end of this course, students will be able to:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.
【到達目標（Learning Objectives）】
The following are the concrete goals of this course:
1. To get a general idea how the English language has evolved,

2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor.Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.
Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LANe300GA

Structure of English

奥石　哲哉

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of this course, students will be able to attain the following goals indicated below.

【到達目標】
1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English SHOULD be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)
The following is the list of important topics (among others) to be covered in this course:
a) articulatory organs and phonetic symbols,
b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
c) modular approach to linguistics,
d) various units in linguistic description,
e) syntactic categories (parts of speech),
f) intermediate constituency, phrase structural analysis

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Class sessions are going to be held online. The basic schedule remains the same; however, schedule change, if any, will be notified by using the Learning Management System (LMS). The details of the methods will be provided by using the LMS by several days prior to the first class session.
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.
Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	General Introduction	- Introduction - What's English? - English studies/linguistics - How many speakers? - AmE vs BritE
2	General Introduction (cont'd)	- Saussurean semiotics - Articulatory organs - Airstream mechanisms - VOT - Sound classification - Consonants
3	Sound Aspects of English (1)	- Vowels - Others - Monophthong vs. diphthong - The phoneme
4	Sound Aspects of English (2)	- Allophones - English vowels - Checked vs. free - Strong vs. weak - Long vs. short (tense vs. lax) - Phonics
5	Sound Aspects of English (3)	- Checked vowels in English - What are good phonetic transcriptions? - Long vowels - Diphthongs - Triphthongs - Weak vowels
6	Sound Aspects of English (4)	- Consonants - Stops - Fricatives and affricates - Nasals - Laterals - Semivowels
7	Sound Aspects of English (5)	- The syllable - English phonotactics - Sound connections - Suprasegmentals
8	Sound Aspects of English (6) and Meaning Aspects of English (1)	- Accent, rhythm and intonation - Grammar and lexis - 'Chain' and 'choice' - Selection vs. combination - Modular approach and brain lateralisation
9	Meaning Aspects of English (2)	- Word orders and generative grammar - Word order generalisation
10	Meaning Aspects of English (3)	- The word - The morpheme - The lexeme - A dozen words of English - Syntactic categories - Important criteria - Distribution, combinability, and ordering
11	Meaning Aspects of English (4)	- The adjective - Attributive vs. predicative uses - Adjectival semantics Central vs. peripheral adjectives - Adjectives and other syntactic categories
12	Meaning Aspects of English (5)	Immediate constituency - Flat vs. hierarchical structures - Phrase structure grammar - Discontinuous constituent?
13	Final Exam	- Final exam of this course given on the 23rd of July.
14	No class.	N/A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to visit the relevant H'etudes site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor.
Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【テキスト（教科書）】
There are no particular textbooks for this course.

【参考書】
Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through H'etudes in due course. However, the following (all written in Japanese) are recommendable prior to the opening of the course:
- 加島祥造 (1976).『英語の辞書の話』. 東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載.]
- 中島文雄 (1991).『英語学とは何か』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
- 田中菊雄 (1992).『英語研究者のために』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
- 竹林滋 (1991).『英語発音に強くなる』. 東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.
Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【学生が準備すべき機器他】
Personal computers, good English dictionaries, etc.

【その他の重要事項】
This is just a half-year (semestral) course about the structural aspects of modern English, which is in many ways similar to 'Intro to English Linguistics' you see in English major's curriculum; only, the speed is much faster! Therefore, the contents covered should be rather selective in nature. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.
Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】
Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and/or language studies in general.

LANe300GA

History of English

奥石　哲哉

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Towards the end of this course, students will be able:
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標】
1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (More than 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:
- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit our Learning Management System (LMS)site and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Please note that feedbacks to the lecture contents will be amply given on the LMS site. After each class session given, the detailed review articles will be given on the web; so please make the most of them.
Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction; early history	- Introduction - IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
2	Early history (cont'd)	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
3	Early history (cont'd) and Old English	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
4	Old English (cont'd)	- Place name studies - *Angli* vs *wealas* - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks casket
5	Old English (cont'd)	- Old English Pronunciation - 'Back to front' movements
6	Old English (cont'd)	- Old English documents and poems (Law of Æthelberht, Ælfric's *Colloquy*, Lindisfarne Gospels, *Beowulf*) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	Old English (cont'd)and Middle English	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	Middle English (cont'd)	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - Middle English (Grammar and lexis, OE and ME dialects, word order, etc.)
9	Middle English (cont'd)	ME documents (*Sumer is Icumen in*, *The Canterbury Tales*, *Piers Plowman*) - Social changes - Great Vowel Shift
10	Modern English	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	Modern English (cont'd)	- Biblical parallel texts - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	Modern English (cont'd)	- The first dictionaries (*A Table Alphabeticall*, Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - *The Oxford English Dictionary*
13	Modern English (cont'd) and Present-day English	- *The Oxford English Dictionary* (cont'd) - Received Pronunciation and General American - Regional varieties
14	Present-day English (cont'd)	- Regional varieties (cont'd) - Jargon and slang - The future of English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.
Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor.Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【テキスト（教科書）】
Viney, Brigit (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press.

【参考書】
Suggested reading materials to enhance students' comprehension will be mentioned through LMS in due course. However, the following are worth reading prior to the opening of the course:
- Algeo, John (2010). *The Origins and Development of the English Language*. Sixth edition. Boston: Wadsworth. [Based on the original work of Thomas Pyles. Careful about special phonetic notations used.]
- Barber, Charles, Joan C. Beal, and Philip A. Shaw (2009). *The English Language: A Historical Introduction*. Second edition. Cambridge: Cambridge University Press. [Offers clear explanations of linguistic ideas.]
- Bradley, Henry (1970). *The Making of English*. Tokyo: Seibido. [A bit out of date, but still a good introduction. Japanese translation available from Iwanami.]
- Schmitt, Norbert and Richard Marsden (2009). *Why Is English Like That? Historical Answers to Hard ELT Questions*. Ann Arbor: The University of Michigan Press. [A recent book; easy to read; written for English language teachers.]

【成績評価の方法と基準】
- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Overall, the instructor gets favourable comments from the students.

【学生が準備すべき機器他】
Using a personal computer is recommended, which enables you to get accustomed to make use of phonetic fonts as well as tree-drawing applications. Also, there are many interesting sites on the web which the instructor recommends you to visit.

【その他の重要事項】
In terms of its content, this course is the same as「英語圏の文化 VIII（英語の歴史）」taught in Japanese. Therefore, if you have obtained credits taking that course, you cannot obtain credits by taking this course.
This course is just a half-year (semestral) course about the history of the English language. Students are highly encouraged to study various matters not treated in class sessions.
Also, as is shown in Goals above, always having a strong interest in English per se is important. So, please study English hard and try to develop a 'feel' for the language.

【カリキュラム上の位置づけ】
Open for the third- and fourth-year FIC students (many of them probably being the SA-English students). Also open for non-FIC students. Appropriate for those who have strong interest in the English language and historical linguistics.

ARSx200GA

世界とつながる地域の歴史と文化

髙栁　俊男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**選抜**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、2012 年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「ＳＪ国内研修」（ＳＪ＝ Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。
「ＳＪ国内研修」とは、一般学生のＳＡに相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとってのＳＡとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。
したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8 日程度の「ＳＪ国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化に重点を置きながらみていく。

【到達目標】
授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「ＳＪ国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。
「ＳＪ国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。
特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と「ＳＪ国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第 3 回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立した当初の市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。
第 4 回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第 5 回	飯田線建設史①	現在のＪＲ飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第 6 回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』の映像を鑑賞しながら、再度考える。
第 7 回	満州移民の歴史①	1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第 8 回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を鑑賞しながら、再度考える。
第 9 回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。
第 10 回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第 11 回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形について、映像で確認する。
第 12 回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、通巻 1000 号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第 13 回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平３人の文化人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。
第 14 回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970 年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても採る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから２週間後）。
従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナの状況を見ながら実施可否を判断したい。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、Ａ３で１枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。
留学生に、かつては自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010 年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。それらの大半は、ＢＴ 20 階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍 2,000 冊以上、映像ＤＶＤ約 350 点所蔵）に収められている。コロナの状況も見ながら、可能なら大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、途中での中間課題 20 %、学期末のレポート 40 %を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
とくにＳＪ国内研修に参加せず、１つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、「個別を極めることを通して普遍に至る」というアプローチは、他の分野にも応用が利くと思われる。
また、自国のことを知り、外国人にも伝えられることは、真の国際人にとって重要な要素であろう。

【学生が準備すべき機器他】
上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。対面授業が不可の場合は、zoom を使用する。

【その他の重要事項】
「ＳＪ国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。
６月末から７月上旬までには今年度のＳＪの実施可否を判断する。可能となった場合は、ボランティア補助員や一般参加者の募集を開始する。

【選抜の有無】
留学生、およびＳＪ参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】
This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.
Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.
Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned.
Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

SOC300GA

実践社会調査法

松本　悟

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に着けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】
（1）統計的な社会調査データの読み取りができる。
（2）質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など）を実践できる。
（3）卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った短い論文執筆ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル 1 以下の場合は対面で実施する。なおレベル 2 以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■教室定員を超えないように調整する必要があるため、初回授業はリアルタイムオンライン授業を行う。履修希望者は初回授業終了後 3 日以内（4/14 18 時まで）に履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないものとみなす。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する。
■履修者人数の確認：初回授業のみ Zoom を使ったリアルタイムオンライン授業を行う。履修の意思確認を行い、教室定員を超える場合は教員の方で選抜を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か？	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ドキュメント分析班の問い	ドキュメント分析を選択した学生たちによる問いの発表とグループ討議。
5	ライフストーリーインタビュー班の問い	ライフストーリーインタビューを選択した学生たちによる問いの発表とグループ討議。
6	ドキュメント分析班の問いの修正と研究・調査計画	2 週間前の議論をもとにドキュメント分析を選択した学生たちが問いを修正し研究・調査計画を発表し、それをもとにグループ討議を行う。
7	ライフストーリーインタビュー班の問いの修正と研究・調査計画	2 週間前の議論をもとにライフストーリーインタビューを選択した学生たちが問いを修正し研究・調査計画を発表し、それをもとにグループ討議を行う。
8	インタビューとプレゼンテーション	インタビューのやり方と口頭発表の際に留意すべきことを演習形式で学ぶ。
9	論文作法・量的リテラシー	チュートリアルの復習を兼ねて論文のルールを演習する。また、量的調査のリテラシーを演習で向上させる。
10	ドキュメント分析の初稿	ドキュメント分析班の論文初稿を事前に共有して、グループでコメントし合う。
11	ライフストーリーインタビューの初稿	ライフストーリーインタビュー班の論文初稿を事前に共有して、グループでコメントし合う。
12	ドキュメント分析班の口頭発表	ドキュメント分析班の調査結果を口頭発表し、全員で議論する。
13	ライフストーリーインタビュー班の口頭発表	ライフストーリーインタビュー班の調査結果を口頭発表し、全員で議論する。（ドキュメント分析班の最終稿提出）
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをＫＪ法を用いて整理する。（ライフストーリーインタビュー班の最終稿提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題は多いが、その分まちがいなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にない

【参考書】
大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ―論理と方法［第 2 版］』ミネルヴァ書房。
鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】
事前・事後課題を通じた平常点 40%、ライフストーリーインタビュー論文もしくはドキュメント分析論文の最終稿が 60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文を書く意思のある 2、3 年生を主な対象とした授業だが、学生の負担が大きいようなので。2022 年度は、各自が取り組む調査はドキュメント分析かライフストーリーインタビューのどちらかを選択してもらうことにした。他の履修者の発表や原稿を通じて、自分が取り組まない調査への理解を補って欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】
1．調査のハウツーを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。
2．教室定員の 22 名を履修者数の上限とする。履修希望者は必ず初回のオンライン授業を受けること（URL は学習支援システムの「掲示板」で連絡する）。初回の授業で上限を超える出席者がいた場合は、その場で選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から 3 日以内に学習支援システムの「掲示板」で学生証番号を発表する。
3．事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4．選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
5．課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
6．遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) develop their literacy skill to understand the quantitative data.
2) practice the qualitative research (life-story interview and document analysis).
3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following one research paper: 60%, short reports: 40%

SOS200GA

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには 2 つの意義があると考える。1 つは体系立った学習の応用として、もう 1 つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル 1 以下の場合は対面で実施する。なおレベル 2 以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■教室定員を超えないように調整する必要があるため、初回授業はリアルタイムオンライン授業を行う。履修希望者は初回授業終了後 3 日以内（9/26 18 時まで）に履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないものとみなす。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の 3 つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■履修者人数の確認：初回授業のみ Zoom を使ったリアルタイムオンライン授業を行う。履修の意思確認を行い、教室定員を超える場合は教員の方で選抜を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース１　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース１を受けたグループ発表・討議	ケース１に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース２　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース２を受けたグループ発表・討議	ケース２に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース３　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース３を受けたグループ発表・討議	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース４　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース４を受けたグループ発表・討議	ケース４に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13 回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。授業直前の昼休み時間にざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題 20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度 40%、授業内試験 40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。
・100 分では討議と発表が終わらないという声が多いので、最初の 2〜3 ケースは 1 つのケースに授業 2 回分を充てることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システムを使う。

【その他の重要事項】
▼国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
▼グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。
▼グループは第 3 回授業から事前に固定して作る。教室定員を超えないように調整する必要があるため、履修希望者は初回授業終了後 3 日以内（9/26 18 時まで）に履修するかどうかを教員が指定した方法で必ず連絡すること。連絡がない場合は履修しないものとみなす。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

POL200GA

国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）

市岡　卓

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**国際関係研究 1**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にＮＧＯや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】
（1）非国家アクターを含む様々なアクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（2）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（3）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義形式で行う。毎回授業の中で課題を提示し、課題に対するリアクションペーパーの提出を求める。
対面による授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、受講者数が教室の定員を超えないことを確認するため、初回の授業はオンラインで行う（具体的方法は４月に入ってから学習支援システムで連絡する。）。以降の取扱いは初回の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、授業計画、授業の進め方を説明する。
2	リアリズム	国家間の紛争をもたらす要因に注目するリアリズムの理論を理解する。
3	リベラリズム	国家間の協調をもたらす要因に注目するリベラリズムの理論を理解する。
4	コンストラクティビズム	理念が国際社会の構造にもたらす変化に注目するコンストラクティビズムの理論を理解する。
5	国際経済関係	国際経済システムのグローバル・ガバナンスの問題について、アクターの役割に注目し考察を行う。
6	貧困と開発	世界規模での富の偏在の問題について、アクターの役割に注目し考察を行う。従属論等関連する理論についても学ぶ。
7	地球環境問題	地球温暖化対策を中心に、地球環境問題への取組みの課題について、アクターの役割に注目し考察を行う。
8	人権	国際社会の人権への取組みやその課題について学ぶ。その中で国際機関、NGO 等のアクターの役割を考察する。
9	安全保障	冷戦終結による安全保障概念の変化、それへの国際社会の様々なアクターの対応について学ぶ。
10	民族や宗教に関わる紛争	冷戦終結後に活発化した民族や宗教に関わる紛争、それへの国際社会の様々なアクターの対応について学ぶ。
11	テロリズム	国際社会に脅威をもたらすアクターである「テロリスト」の活動とそれへの対応の課題について学ぶ。
12	NGO	経済、開発、環境、人権など多様な国際社会の問題の解決を目指す NGO の活動とその課題について学ぶ。
13	企業	グローバル・ガバナンスの担い手としての役割が期待される企業の取組みの可能性と課題について学ぶ。
14	まとめ	これまでの授業を振り返り、多様なアクターの行動とそれらがこれからの国際社会にもたらす影響について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。
準備学習として、事前に共有する資料を参照し下調べをしておくこと（１時間を標準とする。）。復習として、授業の都度示す参考文献を読み考察を深めること（リアクションペーパーの作成を含め３時間を標準とする。）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。参考となる文献は、授業の都度示す。

【参考書】
山田高敬・大矢根聡編（2011）『グローバル社会の国際関係論［新版］』有斐閣。
滝田賢治・大芝亮・都留康子（2017）『国際関係学（第 2 版）』有信堂。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業の後で提出を求めるリアクションペーパーに 60%、期末のレポート試験に 40%を配分する。いずれについても、授業の内容を正しく理解できているか、自分で考察した内容を盛り込んでいるかについて評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の議論の時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】
政府および民間企業で国際関係業務に関わってきた教員が、自身の政府間交渉や国際ビジネスの体験を交え、国際関係をめぐる諸問題について講義を行う。
「国際関係学概論」を受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.
(Learning objectives)
The goals of this course are to A, B, and C.
A. Students become able to explain how vairous actors including non-state actors have effect on international relations.
B. Students become able to theoretically explain issues related to international relations.
C. Students become able to correctly understand content of related materials.
(Learning activities outside of classroom)
A. Students will be expected to read news articles on international relations every day.
B. Students will be expected to study materials to be used in the class before each class. Standard time required for this study will be an hour.
C. Students will be expected to study reference material shown in the class after each class. Standard time for this study including writing a short report will be three hours.
(Grading criteria/policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports: 60%, Term-end report: 40%.

ECN300GA

【2022 年度休講】途上国経済論

武貞　稔彦

配当年次／単位：**年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】
本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅰにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？ ：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】
履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

CUA200GA

【2022 年度休講】国際関係研究Ⅳ（他者イメージ論）

中島　成久、国際文化学部（代講教員）

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**他者イメージ論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：
回　　テーマ　　内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

PHL200GA

宗教社会論Ⅰ（仏教思想）

宮部　峻

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、近現代日本の仏教思想への理解を深めることを目的とします。
仏教は、日本においても長い発展の歴史を持つ宗教の一つです。「家の宗教」という言葉に代表されるように、日本に住む多くの人が、自覚的に信仰していない宗教なのかもしれません。しかし、葬式やお盆などに代表されるように、仏教は、今なお日本の生活に深く根ざしていると言えるでしょう。
日本の生活に根ざしながらも、近現代日本の仏教は、教義、儀礼や実践、教団組織などを近代化させながら発展しました。こうした展開は、仏教が「寺院から出て行く」過程でもあったと言われることもあります。仏教が「寺院から出ていく」歴史は、多くの人はあまり馴染みがないかもしれません。本講義では、仏教が「寺院から出ていく過程」を学ぶことで、近現代日本の仏教思想の発展の歴史に対する理解を深めていきます。それを通じて、今日の仏教のあり方を考えていくヒントを提供します。

【到達目標】
近現代日本の仏教思想について、歴史的事例をもとに論じることができる。
また近現代日本の仏教思想の展開を学ぶことにより、自らの「仏教」イメージを相対化するとともに、今日の仏教のあり方について認識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式で行います。適宜、ディスカッションも設けます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と受講方法について
第 2 回	仏教の近代化（1）	日本の仏教の近代化について、教学の近代化を中心に学ぶ
第 3 回	仏教の近代化（2）	日本の仏教の近代化について、政治・国家との関わりを中心に学ぶ
第 4 回	仏教と社会事業（1）	仏教の社会事業が生じた歴史的背景について、1920 年代の社会問題を中心に学ぶ
第 5 回	仏教と社会事業（2）	仏教の社会事業の制度化について学ぶ
第 6 回	仏教と戦争（1）	仏教と戦争の歴史について、日清・日露戦争期の仏教者の発言と活動を中心に学ぶ
第 7 回	仏教と戦争（2）	仏教と戦争の歴史について、アジア・太平洋戦争期における仏教の戦争協力を中心に学ぶ
第 8 回	仏教と平和（1）	仏教者の非戦・反戦について、日清・日露戦争、アジア・太平洋戦争期を中心に学ぶ
第 9 回	仏教と平和（2）	仏教者の非戦・反戦について、戦後の平和運動を中心に学ぶ
第 10 回	仏教と差別	仏教と差別の問題について近現代日本の歴史から学ぶ
第 11 回	仏教とジェンダー	仏教とジェンダーの問題について、日本仏教における女性の問題を中心に学ぶ
第 12 回	仏教とソーシャル・キャピタル	仏教とソーシャル・キャピタルについて、仏教者の社会貢献を中心に学ぶ
第 13 回	仏教と死	仏教と死の問題について、近年の死生学の議論を中心に学ぶ
第 14 回	まとめ	本講義を通じて学んだ歴史的事例をもとに、近現代日本の仏教思想の課題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進，2012，『現代社会とスピリチュアリティ』弘文堂.
吉永進一・大谷栄一・近藤俊太郎編，2016，『近代仏教スタディーズ』法藏館.
大谷栄一編，2019，『ともに生きる仏教』筑摩書房.

【成績評価の方法と基準】
レポート（50 %）、平常点（50 %）
平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断します。
レポートは、各回で取り上げた事例から一つ以上選んでいただき、各回で示した参考文献をもとに近現代日本の仏教思想が成し遂げたことと課題について論じていただきます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to understand the history of modern Japanese Buddhism. Japanese Buddhism has modernized their theology, practice, institutions. This lecture helps students to acquire the knowledge about the history of modern Japanese Buddhism. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

佐々木　一惠

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は、国際文化学部生のみ 2〜4 年を対象とする。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は１９世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】
１．近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
２．宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
３．キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて学習支援システム（HOPPII) で提出してもらいます。
・授業の中で、各界のリアクション・ペーパーに関するフィードバックやコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19 世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19 世紀末から 20 世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920 年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19 世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの 係を歴史的に概 したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議 する。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をしっかり行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
○岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995 年。
○田村秀夫『千年王国論―イギリス革命思想の源流』研究社、2000 年。
○森本あんり『アメリカ・キリスト教：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006 年。
○小檜山ルイ『帝国の福音ールーシー・ピーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019 年。
○グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000 年。
○土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004 年。
○アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009 年。
○ Motoe Sasaki, Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century (Cornell University Press, 2016).
○ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教―近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】
1. リアクションペーパー（30 %）
2. 期末試験（70 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等情報機器ならびにインターネットへの接続環境が必要です。

【Outline (in English)】
The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.
Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.
The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

HIS300GA

【2022 年度休講】宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）

江村　裕文

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このところアラブおよびイスラームへの関心が急速に高まってきている。だが、一言でアラブといっても、その内容はそう簡単ではない。ましてやイスラームとなると、さらに複雑である。第一に、アラブは三千年にわたる古い歴史を持ち、古典アラビア文化の華を咲かせた時期があり、それらは西欧文明の一部をさえなしている。第二に、今日のアラビア世界は純粋なアラビア民族ばかりでなく、政治的にアラブと呼ばれるにすぎない民族をも包含している。アラブあるいはアラビアという呼称は時代的にも地域的にも、かなり広い範囲にわたって使われるようになっている。イスラームはアラブのもとで生まれたが、アラビアの領域外に拡大し、今日ではきわめて多数の非アラビア民族のもとで活力を保っている。
　本講では、イスラームを、宗教面と世界史の流れから概観したい。

【到達目標】
　アラブ・アラビアないしイスラームについて基本的な知識を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
　テキストを使用する。受講者にテキスト内容を報告してもらい、その内容について質問を受けたり、補足のコメントを加えたりして、「イスラーム」全般を取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション・アラビアの国々	授業の進め方の解説、アラビア諸国の紹介
②	イスラームの発見へ・報告箇所の割当	イスラームに関する一般的な紹介、報告箇所の割当
③	「宗教」とは	イスラームに限らず一般的に「宗教」をどうとらえるか紹介
④	イスラームの誕生	テキストの該当箇所の報告と解説（以下同様）
⑤	経典と教義 I	クルアーンの内容の紹介
⑥	経典と教義 II	イスラームの教義の概要
⑦	共同体と社会生活	ウンマの成立とイスラーム社会について
⑧	ハディース	預言者ムハンマドの言行録について
⑨	知識の担い手と国家	ウラマーの位置づけについて
⑩	神を求める道	神秘主義と正統神学について
⑪	スンナ派とシーア派	はじまりと教義上の違いについて
⑫	現代世界とイスラーム	現代のイスラーム世界と、他の、特に西欧世界との諸問題について
⑬	まとめ	まとめ
⑭	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料を参考にして、理解をしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】
　小杉泰『イスラームとは何か』講談社現代新書

【参考書】
　井筒俊彦氏の（著作集を含む）一連の著作を推薦する。またその他の参考文献等は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　平常点 40 点と、レポートあるいは試験の点 60 点、合計 100 点によって評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
　「パレスチナ問題」や「アラブの春」「イスラム国」「シリア内戦」「イエメン問題」「エルサレム問題」「アメリカとイランとの関係」等の現在進行中の出来事についても詳しく知りたいという要望がある。それらの問題にも可能な限り触れるようにしたい。

【Outline (in English)】
In this class, we learn ISLAM with a historical and religious approach.

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田　泰章

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。
実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テクストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。
サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。
星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めそめそした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テクストに忠実に分析します。
日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】
翻訳についての基本的学術用語を理解する。
翻訳の原理と可能性・限界を知る。
私たちが日常的に行っている他言語テクストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテクスト実例は、学生による分析に付する。毎回、課題を出し、学習支援システムで提出する。
毎回の授業では、最初に、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、講評を行って、全体に対して提出課題のフィードバックを行います。
　＜＜ 1 回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。＞＞
　その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテクスト分析 シニフィアン・シニフィエ ミニレポート１	基本概念の説明１: シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテクスト分析 恣意性 ミニレポート２	基本概念の説明２： 恣意性
4	基本概念の説明とテクスト分析 共時的・通時的 ミニレポート３	基本概念の説明３： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテクスト分析 間文化性 ミニレポート４	基本概念の説明４： 間文化性
6	基本概念の説明とテクスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート５	基本概念の説明５： 固有名詞と代名詞
7	基本概念の説明とテクスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート６	基本概念の説明６： オノマトペと慣用表現
8	基本概念の説明とテクスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート７	基本概念の説明７： 社会制度と翻訳
9	基本概念の説明とテクスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート８	基本概念の説明８： 翻訳と言語変容
10	基本概念の説明とテクスト分析 翻訳と文化変容 ミニレポート９	基本概念の説明９： 翻訳と文化変容
11	基本概念の説明とテクスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート 10	基本概念の説明 10 ： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテクスト分析 解釈学的循環 ミニレポート 11	基本概念の説明 11 ： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテクスト分析 複合的テクスト ミニレポート 12	基本概念の説明 12 ： 複合的テクスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講のために『星の王子さま』を各自が用意することは必須としません。授業の中で教材として示します。
受講者が作品全体を理解するためには、『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入することは可能です：
1. 日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか 1 冊。
2. 加えて、英語、フランス語などなどのどれか 1 冊。
（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）

【参考書】
熊田泰章編『国際文化研究への道―共生と連帯を求めて―』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。
その上で、最後に最終レポートを書く。
ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。
ミニレポート 50 %・最終レポート 50 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
教材と資料を分かりやすくするように努めています。
課題の指示を明確に出すようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを用いて、教材提示と課題提出を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Translation is not only a transformation work between naturallanguages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible.　In this lecture we will consider translation texts between naturalanguages and grasp the basic concept of translation.
We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as any languages as possible. When we read this work now, is the image of the Little Prince the exactsame image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way? The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important academic concept “Interculturality”.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- understand the basic concept of the Faculty: Interculturality.
- understand the mechanism of cultural generation and change.
- understand the mechanism of translation

【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the followings:
- short reports after each class meeting(50%).
- term-end report(50%).

LIN300GA

多文化社会と人間

挽地　康彦

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」（multiculturalism）について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】
多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業形態は同時双方向型のオンライン授業（Zoom）となり、授業資料をデータ（PDF）で配信しながら進める。
リアクションや課題等に対するフィードバックは、授業時間内に行う。
Zoom の URL とパスコードは、以下のとおりです。
https://us02web.zoom.us/j/82256746847?pwd=SkhsbXVBTzVpOStKd05yNWNpc2h2UT09
ミーティング ID: 822 5674 6847
パスコード: 806717

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	問題提起：不和回避のための分離という思考について
第 2 回	欧州移民政策の変遷	20 世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第 3 回	エスニック・リバイバル	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第 4 回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第 5 回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第 6 回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第 7 回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第 8 回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。
第 9 回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第 10 回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90 年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第 11 回	間文化主義	多文化主義のジレンマを克服するモデルとして、カナダのケベックで注目された間文化主義（interculturalism）について解説する。
第 12 回	コスモポリタニズム	社会学領域のグローバリゼーション論の流れで提起されたコスモポリタニズム論を、国民統合を準拠枠としないポスト多文化主義モデルとして紹介する。
第 13 回	多自然主義	人間中心主義の思潮として多文化主義を批判し、非- 西欧の人類学から提起された多自然主義の意義と可能性について検討する。
第 14 回	まとめ／パラダイム・チェンジ	生命科学・認知科学の隆盛のなかで、望ましい多文化社会をどのように構想するべきか。その構え方を最後に示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内容を理解するために準備学習・復習時間として各 2 時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】
参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・学期末に提出を求める課題レポートの内容で評価する（100%）。
・レポートの課題は、提出期限の約 1 カ月前に指示する。
・レポート評価の基準は、以下の 3 つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
・パソコン（カメラ付き）
・インターネット接続が可能な環境
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンに zoom のアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】
・本授業は Zoom を用いたオンライン形式で行う。
・初回の授業は、4 月 12 日（火）3 限（13:10 〜 14:50）となる。
・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】
Course outline ：
The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.
Learning Objectives ：
Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.
Learning activities outside of classroom ：
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies ：
Evaluation will be based on the content of the assignment report to be submitted at the end of the semester (100%). The report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARSf200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

木口　由香

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：国際関係研究２
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】
（1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
（2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
（3）以上の 2 点を通し「国際関係」を学ぶ上で「地域」の理解のための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
*新型コロナウィルス感染の拡大状況によっては、オンラインでの授業を行う。
・第 1-4 回、第 6-9 回、13-14 回は講義形式、第 5 回はロールプレイを用いたディスカッション、第 10-12 回は演習形式で行う。
・演習は講師が提示するテーマをもとに、事前に決めたグループで発表を行う。それを受けてグループ討議を行うとともに、担当教員が関連する短い補足講義を行う。
・発表担当グループは、事前に準備し共同で発表する。なお、発表用のパワーポイントもしくはレジュメは授業前日までに教員にメールで提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（講義）	本授業の狙い、進め方を説明する。
2	メコン河開発 (1) 自然と人びと（講義）	メコン河流域で、大規模経済開発の影響を受けやすい農村部の人びとの暮らしを知る。また、「貧しさに」とは何か考えてみる。
3	メコン河開発 (2) メコン河開発の歴史的経緯と日本の関わり（講義）	日本が歴史的にどのようにメコン河開発に関与してきたか概観し、地域の事例から「国際関係」について考察する。
4	メコン河開発 (3) 開発に対する人びとの反応（講義）	ダム開発における人びとの反応。国際的な市民社会の動きについて。「市民社会」と言われるものが、どのようにつながり、動いていくかを知る。
5	カンボジアでのダム開発（ロールプレイで理解する開発の功罪）（演習）	電力不足を補うと言われる水力発電ダム建設について、様々な立場から建設の是非を議論してみる。
6	メコン河開発 (4) 開発のアクターを理解する（講義）	メコン河流域国で実施される様々な大規模開発とその関連アクターを理解する。
7	ラオス、植林の功罪（講義）	森を様々に利用するラオスの暮らしと経済開発の影響について。
8	気候変動とメコン河流域（講義）	ベトナムでの日本のエネルギー開発援助を概観し、日本の海外支援の影響について考察する。
9	ミャンマーでの「資源の呪い」について（講義）	短い民主化の後、再び軍事クーデターで混乱するミャンマーでの、「資源」の意味。「資源」があることが人びとを不幸にする状況について。
10	環境と開発 1（演習）	メコン河流域で見られる環境問題を取り上げ、それが発生する社会的要因や解決のための道筋について考える。
11	環境と開発 2（演習）	メコン河流域で見られる環境問題を取り上げ、それが発生する社会的要因や解決のための道筋について考える。
12	開発の越境影響（演習）	国を超えた環境影響や、地球温暖化などの世界規模の課題とメコン河流域について考察する。
13	開発の越境影響（講義）	演習の発表を振り返る。ベトナムやタイは、近隣国で開発や海外投資を行う。それに日本がどのように関与しているかも理解する。
14	メコン河開発（講義）	演習の発表を振り返る。メコン河流域での開発を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に紹介するビデオを視聴または、課題文献を読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各 1-2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
タンミンウー (著), 秋元 由紀 (翻訳). ビルマ・ハイウェイ: 中国とインドをつなぐ十字路. 白水社. 2013.
田村克己・松田 正彦編著. ミャンマーを知るための 60 章 (エリア・スタディーズ 125) 明石書店. 2013.
今井 昭夫 (編著) 他. 現代ベトナムを知るための 60 章【第 2 版】(エリアスタディーズ 39)
明石書店. 2012.
阿部 健一 (編)、菊池 陽子・鈴木 玲子 (編著). ラオスを知るための 60 章 (エリアスタディーズ 85). 明石書店. 2010.
東智美 (著). ラオス焼畑民の暮らしと土地政策―「森」と「農地」は分けられるのか (ブックレット《アジアを学ぼう》). 風響社. 2016
綾部真雄 (著) 他. タイを知るための 72 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 30). 明石書店. 2014.
上田 広美・岡田 知子 (編著). カンボジアを知るための 62 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ). 明石書店. 2012.
松本悟. メコン河開発― 21 世紀の開発援助. 築地書館. 1997.
松本悟. 佐藤仁 (編著). 国際協力と想像力　イメージと現場のせめぎ合い. 日本評論社. 2021.
山本信人. 井上真 (編著). 東南アジア地域研究入門 1 環境. 慶應義塾大学出版会. 2017.
生方史数 (編著). 森のつくられかた　移りゆく人間と自然のハイブリット. 共立出版. 2021.
大橋正明他 (編著). 非戦・対話・NGO 国境を超え、世代を受け継ぐ私たちの歩み. 新評論. 2017.

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（授業後のリアクションペーパー）40%、発表の評価 20%、期末レポート 40%。期末レポートでは、授業で取り上げたメコン河流域における開発の功罪、開発の場で起きている環境・社会問題と日本の関係等について論じる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・評価で重要なレポートの書き方について、授業で参考資料を示したが、独学で取り組むのが難しい学生も見受けられた。授業内で補足の解説を行なっていく。
・一般に馴染みのない地域や問題への理解を深めるため、映像資料を活用する。

【学生が準備すべき機器他】
事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】
・課題についての発表を必ず 1 回担当し、グループ討議を行うので、第 1 回・第 2 回の授業を受講した上で、第 2 回授業日までに指示した方法で履修の意思を教員に伝えること。
・遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、オンライン授業となった場合、大学が用意した補助制度などを活用し、Zoom 環境を整えて授業に臨むこと。
・メコン河流域国で NGO 活動に従事する講師が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】
This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend around an hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Presentation: 20%, Final Reports : 40%, in class contribution: 40%.

ARSk300GA

【2022 年度休講】人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

曽　士才

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人の移動」という観点から 19、20 世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると２千万人から３千万人といるといわれており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシェーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】
中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。
課題等へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション〜華僑の誕生	華僑・華人の見方、華僑の歴史
第 2 回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第 3 回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、信用
第 4 回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第 5 回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、ニューヨークの新旧チャイナタウン
第 6 回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、中国との関係
第 7 回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第 8 回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第 9 回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、華僑総会、新移民
第 10 回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、、横浜中華街、池袋の中華街
第 11 回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第 12 回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第 13 回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第 14 回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005 年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017 年
曽士才、王維編『日本華僑社会の歴史と文化―地域の視点から』明石書店 2020 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

髙柳　俊男

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。
我々の暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大勢住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や私自身の見聞をもとに講義する。
朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探求することを通して、移民過程や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるよう努めたい。

【到達目標】
・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。
・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考える契機をつかむ。
・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴って考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、可能ならゲストをお招きした授業も実施したい。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。
また、ネット上の授業支援システムを、もう１つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。
なお、全面オンラインになった際には、上記を基本としつつ必要な変更を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第 2 回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第 3 回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における歴史的な人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第 4 回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第 5 回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第 6 回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに、スターリンによる 1937 年の強制移住について学ぶ。
第 7 回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第 8 回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第 9 回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
第 10 回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている 1959 年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第 11 回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人についてここまで学んできた内容を、映像視聴を通してまとめる。
第 12 回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代の変化しつつあるアイデンティティについて考察する。
第 13 回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに 1992 年のロス暴動に関して学ぶ。
第 14 回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを授業支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、Ａ３で表裏１枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】
参考文献はそのつど指示するが、事典として『韓国朝鮮を知る事典〔新版〕』（平凡社）、『岩波小辞典　現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、授業支援システムを利用した中間での小課題 20 %、学期末のレポート 40 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
過去のアンケートでは、「映像を使っていてわかりやすい」「ゲストを招いての対談がよかった」「学部の中でもすばらしい授業の一つ」、などの好評をいただいた。
今回も、そうした授業になるよう努力したい。

【その他の重要事項】
朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。
また、中華系や日系の移民を扱う「人の移動と国際関係Ⅰ」「人の移動と国際関係Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

【Outline (in English)】
This class examines the history and present condition of Korean residents living in various countries around the world.
Through the case of Koreans, students are expected to think universally about the migration, settlement, ethnic conflicts, and integration.
Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSk300GA

【2022 年度休講】人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）

今泉　裕美子

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**旧：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）の修得者は履修不可**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、人の国際的な移動により異文化間の深刻な摩擦が生じるケースが増加している。本講義では、アメリカの移民政策の歴史や現状を日本や西欧諸国のそれと比較することで、異文化を理解すると同時に自国の文化を客観的に眺めるための通文化的かつ複眼的な視点を身につける。現実の摩擦が生じた場合にも、偏りのない分析と健全な批判精神を保てる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
1)「移民の国」であるアメリカの移民政策と市民権制度の歴史を概観し、2）それらが現代のアメリカ社会でどのような意味をもつのか検討し、3）西欧諸国の政策・現状と比較し、4）少子高齢化の中、入管法の改正により「移民」導入に舵をきった日本の政策の現状と今後の課題を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・本年度は Zoom による同時双方向型の講義形式の授業を中心に行う。
・事前に授業資料を掲示し、授業内で予習・復習の課題を課す。
・米国での人種差別の問題や日本の外国人労働者問題などグループディスカッション
　の時間を設けたい。
・講義の感想や質問事項を逐次受付け、次回にそれについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	導入ー国際的労働力移動を学ぶ意味	国際的労働力移動の現状
2	国境を超えること　国境を超えること　各国の入国管理政策	各国の入国管理政策
3	日米の国籍・市民権制度	市民権制度の比較ーアメリカの場合
4	日米の国籍・市民権制度	市民権（国籍）制度の比較ー日本の場合
5	事例：日系アメリカ人の強制収容	市民権制度の狭間で
6	アメリカの不法入国者	Donald Trump の不法移民政策
7	グローバルシステムの変化と国際労働力移動	国際労働力移動の何が変化しているのか？
8	世界の移民問題― UK の場合	イギリスのＥＵ離脱との関連で考察する
9	世界の移民問題―フランスの場合	テロと移民二世来日東南アジア人について言及する
10	世界の移民問題―フランスの場合	多文化社会の抱える課題
11	世界の移民問題―ドイツの場合	メルケル首相の移民・難民政策
12	トランプ大統領の移民政策ーその後	アメリカの移民政策と世界
13	日本の「外国人」政策の現状と課題	日本の見えざる人種・民族差別
14	終章	世界のナショナリズムと移民問題の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に指示した史料を読んでくる。
・今回の復習事項と次回の予習事項、質問事項につき、与えられた課題をペーパーに記入して次回に提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しないが、かなり大量の資料を指示する予定。

【参考書】
・各回に指定する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回の課題提出〜30 %。
・到達目標の 1)、2)、3)、4) が、どの程度できているかを期末テストによって判定す
る〜70 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格と
する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度が初めての担当なので記載すべき情報がない。

【Outline (in English)】
Over several decades, immigration has transformed not only the United States but many places from the European nations, Middle Eastern states and developing nations. Why do people migrate across international borders? How have these countries treated these people and what have happened? In this lecture, we examine the policies and their influences on the local communities.

ARSl200GA

【2020 以降、次期カリ変まで休講】国際関係研究Ⅲ（地域紛争とエスニシティ）

中島　成久、国際文化学部（代講教員）

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**地域紛争とエスニシティ**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。
現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】
１９６６年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。
オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。DVD、VHS、Youtube などの視聴覚教材を多用する。出席票へのコメントを次の回の授業中に行い、学生の理解を深められるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	国家と暴力、成績評価説明、１９６５年の９月３０日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説＋成績評価説明
第 2 回	国家と暴力	「アクト・オブ・キリング」②
第 3 回	領土と起源①	オランダ東インド会社'VOC)
第 4 回	領土と起源②	オランダ領東インド (蘭印)
第 5 回	領土と起源③	アチェ戦争
第 6 回	ナショナリズム①	インドネシアの国民音楽
第 7 回	ナショナリズム②	日本軍政から独立へ
第 8 回	開発の時代①	アサハンプロジェクト
第 9 回	開発の時代②	コトパンジャンダム裁判
第 10 回	開発の時代③	開発と先住民①オラン・リンバの現状
第 11 回	開発の時代④	開発と「先住民」②アブラヤシ開発
第 12 回	開発の時代⑤	違法入植の現状
第 13 回	開発の時代⑥	エコツーリズムの可能性
第 14 回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１　授業内で指示した参考文献をよく読むこと
２　図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中島成久　『インドネシアの土地紛争――言挙げする農民たち』創成社新書、2011 年
加納啓良（編）　『インドネシアの検定』メコン、2010 年
映画　ジョシュア・オッペンハイマー監督「アクト・オブ・キリング」

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験 (70 %) ＋平常点 (30 %) この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
The topic of this class is post colonialism in Indonesia. Territory and Violence are main issues of this class. Nation and Violence which represent the most important phenomenon of Modern Nation-State are discussed through examples from the data of the colonial state as well as the era of development.

ARSf300GA

【2022 年度休講】国際関係研究Ⅴ（東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学）

中島　成久、国際文化学部（代講教員）

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：東南アジアの文化
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「東南アジアの世界遺産をめぐる文化の政治学」というテーマで授業を行う。地域としての東南アジア像を理解し、その上で、インドネシア（ボロブドゥール、バリ、スマトラの熱帯雨林）、フィリピン（イフガオの棚田）それにタイ、カンボジア国境紛争の原因となっているプレア・ビヘア寺院などの世界遺産をめぐる文化の政治学的な問題を検討する。

【到達目標】
国際文化学部生にとってはなじみのない東南アジアについて、その世界遺産をめぐる文化の政治学的な課題を理解し、日本との共通性と世界史的なコンテキストを把握できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。DVD や Youtube などを多用する。出席票のコメント欄について、次の回に特徴的なものを紹介し、学生の理解を深めるよう努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「文化の政治学」とは、授業内容の説明、成績評価の説明
第 2 回	インドネシア①	ボロブドゥール①曼荼羅の宇宙
第 3 回	インドネシア②	ボロブドゥール②過去の栄光と現在の空白
第 4 回	インドネシア③	バリ①循環する水
第 5 回	インドネシア④	バリ②ブサキ自院はなぜ世界遺産を断ったのか
第 6 回	インドネシア⑤	スマトラの熱帯雨林①グヌン・ルスル国立公園
第 7 回	インドネシア⑥	スマトラの熱帯雨林②クリンチ・スブラット国立公園
第 8 回	インドネシア⑧	スマトラの熱帯雨林③ワイ・カンバス国立公園
第 9 回	フィリピン①	イフガオの棚田①歴史
第 10 回	フィリピン②	イフガオの棚田② 1903 年セントルイス博覧会
第 11 回	フィリピン③	イフガオの棚田③保全事業の検証
第 12 回	カンボジア①	アンコールワット
第 13 回	カンボジア②	プレア・ビヒア寺院
第 14 回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストをしっかりと読むこと、図書館などで関連する文献を調べ、関心を広げること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ベネディクト・アンダーソン『言葉と権力』中島成久訳、日本エディタースクール出版会
永淵康之『バリ　宗教　国家』青土社
高橋　進『生物多様性と保護地域の国際関係』明石書店
清水　展『草の根のグローバリゼーション、世界遺産棚田村の文化実践と世界戦略』京都大学学術出版会
笹川秀夫『アンコールの近代－植民地カンボジアにおける文化と政治』中央公論新社

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験 (70 %) ＋平常点 (30 %) この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
The topic of this class is politics of culture of world heritages in Southeast Asia. It is stressed that the world heritages of Southeast Asian countries reflect not only world wide views but also the nations' inner politics and cultural policies.

SES200GA

持続可能な社会

中西　由季子

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数によっては選抜する。初回授業に出席すること。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGs の実現には、持続可能な社会づくりが重要である。
SDGs とは何かをカードゲームや対話を通して体感しながら、持続可能な社会づくりを構成する「6 つの視点」を軸にして、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、その課題解決に向けて考察する。

【到達目標】
1．サステナブルとは何かを理解し、説明できる。
2．SDGs とは何か理解し、説明できる。
3．グループワークや対話を通して、批判的に考える力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度を身につける。
4．自ら課題を見出し、その解決に向けての対策を考案することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
カードゲームやブロックによる表現、対話 (ダイアローグ）を伴うワークショップ形式を中心とした講義･演習授業を実施する。各回授業後には、Google Form によるリアクションペーパー提出を求めます。適宜、課題提出を求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	持続可能な社会とは	持続可能な社会 サステナブル 脱炭素社会
第 2 回	SDGs 概要	MDGs から SDG ｓへ SDGs とは
第 3 回	SDGs を体感する	「2030SDGs カードゲーム」を通して、SDGs を体感する。
第 4 回	SDGs と地方創生	「SDGs de 地方創生」を体験し、SDGs と地方創生の関わりを体感する。
第 5 回	2030 年の社会	ブロックを使って、2030 年の希望する社会を表現し、対話する
第 6 回	貧困と飢餓	世界および日本における貧困と飢餓の現状と展望
第 7 回	レジリエンス	レジリエンスとは レジリエンスを高める ブロックを使って表現、対話
第 8 回	アンコンシャス・バイアス	システム思考 バイアス ハラスメント ジェンダー平等
第 9 回	地球の限界	気候危機 地球 1 個分の生活
第 10 回	自然災害ー命を守る行動	風水害 24 を体感し、自然災害時に潜む危機を知る
第 11 回	農業と環境課題	農業・肉食と環境
第 12 回	食品ロス削減	「食べ残し No ゲーム」をとおして、つくる責任・使う責任について対話する
第 13 回	プラスチック課題	海洋プラスチック プラスチックごみ削減
第 14 回	SDGs ウォッシュ	SDGs ウォッシュ・グリーンウォッシュの概念を理解し、判断力を身につける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各回のテーマに関する関連資料（新聞記事・書籍など）を読む。
授業後に示されるリアクションペーパー、課題等を期日までに提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】
持続可能な地域のつくり方――未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン
筧裕介
英治出版 (2019/5/9)
ISBN-10 ： 4862762514
ISBN-13 ： 978-4862762511

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、各回毎のレフレクションペーパー 50 %、課題 20 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業には, 主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用います。グループワーク時に PC を用いることがあります。
リフレクションペーパーおよび課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Creating a sustainable society is important for the realization of SDGs. While experiencing what the SDGs are through card games and dialogue, we will find issues related to the creation of a sustainable society centered on the "six perspectives" that make up a sustainable society, and work toward solving those issues.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings,
1.To understand and explain what sustainable means.
2.To Understand and explain what SDGs are.
3. To acquire the ability to think critically, multilaterally and comprehensively, to communicate, to cooperate with others, to respect connections, and to participate willingly through group work and dialogue.
4. To identify problems and devise measures to solve them.
Ecpected learning activities outside of classroom will be collecting information, leading papers, doing homework,preparing your presentation.
It will be taken for 2 hours each lecture.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
Usual performance score 50%, Reports 50%.
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa400GA

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2021 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させてください。まず、法学部なら、第２次世界大戦後の統合をめぐる政治史や EU の諸機構に焦点をあてるやり方がありえます（「ヨーロッパ統合論」「EU の政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第２次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」"Special Studies (Western Economic History B)"）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論Ａ」）。グローバル教養学部（GIS）には、連合王国の外交関係の観点から、対 EU 関係を論じている授業もあります（"UK: Society and People"）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパとその外部の境界をなすとされるものに焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この授業は、リアルタイム・オンライン授業（Zoom）です。
・授業時間（100 分）の前半 70-80 分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20 分）と講義（50-60 分）にあてています。
・授業時間（100 分）の後半 20-30 分程度を、Zoom を使ったグループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料は Google Classroom や学習支援システム-Hoppii をつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppii を利用し、小テストの受験（全員必須）や期末レポート（希望者のみ）の提出を行ってもらっています。
・授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明　※プリント「地域協力・統合　受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 簡単な小テストが、ほぼ毎週、宿題として出されます。単位を履修する全ての学生にとって、このテストへの参加は必須です。この小テストに解答するために、学生は、学習支援システム-Hoppii（インターネット上）を使う必要があります。
2. 大学設置基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで配布する。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格（レターグレードで C マイナス以上）とします。
・期末テストは行いません　0%
・小テストの受験【全員必須：授業終了後、次回授業の開始時刻までの１週間を受験期間として設定するので、その間に必ず受験してください。Hoppii を使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます】45%
・運営への協力【希望者のみ：配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】10%
・グループディスカッション＆学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】10%
・期末レポート【希望者のみ】35%。（ただし、教員に指名され期末レポートの内容を口頭発表した人には、特別点を加算します）

【学生の意見等からの気づき】
・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・「成績評価の方法と基準」の「グループディスカッション＆学生間の共働」は 10%と低めの配点にしてあります。これは、オンライン授業につきものの、システム側の接続障害や、学生の操作ミスでうまく参加できないことが予め想定されているためです。グループディスカッションに熱心に参加してくれる受講者が多数派ですが、配点は 10%であり、あまり点数にはなりません。ただし、対面授業ができない状況でも、講義に加え、学生同士の対話や交流ができる環境を整備するという意味で、重要だと考えています。
・学期の途中で、ご自身のレターグレード（成績）がどうなるかをメールで質問する方がいます。お気持ちは理解しますが、学習支援システム-Hoppii の「成績簿」で通知されている内容以上の回答はできかねますので、あらかじめご承知おきください。
・単位がとれないと困るという相談については、定期試験の欠席が認められるような疾病等の正当な事情がある場合に限り配慮を致します。この場合は、教員に直接メールを送信する前に、まずは所属学部の事務室にご相談ください。

【学生が準備すべき機器他】
・教材の配布や小テストの受験は、すべて LMS（学習支援システム-Hoppii と Google Classroom）上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットを利用することが望ましい。
・ブレイクアウトルーム（学生数名でのグループディスカッション用）機能を含め、オンライン授業にともない Zoom を使います。そのため、できれば有線接続で、通信容量に制限のない状態で受講するのが望ましい。

・この科目を単位履修する場合、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom といった LMS に、初回授業後、仮登録を各自行ってください。
・学習支援システム＞「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができます（ただし成績入力には時間がかかるため、タイムラグが生じます）。
・連絡はメールでお願いします。メールアドレスは学習支援システムを見てください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in this course will be decided based on the following:
- Quizzes on LMS-Hoppii - 45%
- Discussion / Active contribution (Participating in class discussions via Zoom) - 10%
- Other kinds of contribution (Cooperation in class management to facilitate the discussion, etc.) - 10%
- Term paper (optional) - 35%

HIS300GA

Approaches to Transnational History

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed for students who are interested in the history of cultural exchanges from transnational perspectives. By exploring various kinds of cross cultural encounters facilitated by the movement of people, ideas, goods, services, capital, and technology, students will be introduced to the basic concepts and methods of transnational history.

【到達目標】
By the end of this course, students will be able to
● Understand various approaches to transnational history and how these approaches are connected to the issues of colonialism, the development of capitalism, and the formation and spread of the nation-state.
● Critically read and analyze both secondary scholarship and primary historical documents on transnational history.
● Write a short critical essay analyzing cross-cultural encounters and movements across borders.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
The class consists of lectures, class discussions, and student presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of transnational history
Week2	The Atlantic Slave Trade	Reading assignment: “The Atlantic Slave Economy”
Week3	The African Diaspora	Reading assignment: “The Atlantic Slave Economy”
Week4	The British Empire and China	Reading assignment: “The British Empire and Chinese Civilization”
Week5	Imperialism and China	Reading assignment: “The British Empire and Chinese Civilization”
Week6	Japan Opens to the West	Reading assignment: “Japan Opens to the West”
Week7	Japan Opens to the West – The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz	Assigned primary documents
Week8	Colonialism and Orientalism	Reading assignment: “The Influence of African, Asian, and Pacific Islander Art on European Art”
Week9	Colonialism and Primitivism	Reading assignment: “The Influence of African, Asian, and Pacific Islander Art on European Art”
Week10	The Sino-U.S. Relations from the Perspective of History, Culture, and Gender	Reading assignment: "New Women and the World History"
Week11	Film as a Global Industry – Presentation(s): Group or Individual	Reference: “Hollywood and the Global Film Community”
Week12	Cold War Culture – Presentation(s): Group or Individual	Reference: “The Cold War, 1945-1991”
Week13	Americanizing the World through Culture – Presentation(s): Group or Individual	Reference: “Americanization of Popular and Consumer Culture”
Class14	The Age of Global Transformation and Communication – Presentation(s): Group or Individual	Reference: “Commercial Air Travel”

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
Weekly reading assignments are uploaded to the course website (HOPPII).

【参考書】
● Akira Iyrie, Global and Transnational History: The Past, Present and Future
(Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan, 2013).
● Pierre-Yves Saunier, Transnational History (Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan, 2013).
● Motoe Sasaki, Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century (Cornell University Press, 2016).

【成績評価の方法と基準】
● Class participation (including weekly short response papers based on assigned readings) 30%
● In-class primary document analysis quiz 10%
● Presentation (15-20 mini-group presentation or 10 min-individual presentation) 30%
● Primary document analysis essay (a 700-800 word essay analyzing the primary documents, which will be made available in class or electronically in late December)
30%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Group members will be shuffled several times in the semester to allow for more interaction.

【学生が準備すべき機器他】
ITC devices such as laptops and tablets.

HIS300GA

【2022 年度休講】Cultural Dimension of American Foreign Relations

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスで学生は、アメリカ外交の文化的側面を学びます。グローバルな視点からアメリカの外交政策を理解するために論文を読み理解を深めます。

【到達目標】
The goal of this course is that students to understand American foreign relations. In particular, students will gain academic knowledge on American foreign relations through issues of immigration.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
This course is designed as a series of students' presentations with class discussions. Due to a class size, the method would be changed. At the end of each class, students are required to submit their reaction papers. This class starts on May 5. Please check Hoppii for more detail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	Introduction	How to learn cultural dimensions of American foreign relations
2	This Isn't a Border Wall: It's a Monument to White Supremacy	Critiquing the idea of building the wall by Trump Administration
3	What is immigration crisis?	Understanding why immigration became controversial
4	How Immigration Became So Controversial 1	Looking into the current argument on immigration.
5	How Immigration Became So Controversial 2	Reflection on the current immigration debate
6	The Other Dispute on the US-Mexico Border	The counter argument to building the wall
7	The Self-Destruction of American Power 1	Learning about American hegemony
8	The Self-Destruction of American Power 2	Thinking about American hegemony
9	How the Freedom Agenda Fell Apart 1	The possibilities and impossibilities of American democracy Agenda
10	How the Freedom Agenda Fell Apart 2	The future of American democracy
11	The Republican Devolution 1	Partisanship and the Decline of American Governance
12	The Republican Devolution 2	The future of American Governance
13	Consultation for the Paper	Consultation with students for their papers
14	Wrap Up Session	Overview the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You need to review what you learn in a class and work on your assignment for two hours each. If you are not familiar with American history, you should study basic historical events of American history. 本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Articles will be distributed during classes.

【参考書】
References will be informed during a class. If your are not familiar with American history, recommend the below for your reference.
和田光弘編著、『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014 年。

【成績評価の方法と基準】
Contribution/ Response Papers (30%)
Final Paper (30%)
Presentation (40%)
Due to Covid-19 situation, grading criteria will be changed. Students will be informed on the first day of the class.
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Nothing in particular since I do not have any result from the survey.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【None】
None.

【Outline (in English)】
In this class, students learn the cultural dimension of American foreign relations. To understand American diplomatic policies from a global perspective, we will read articles and essays.

INF300GA

情報文化演習

和泉　順子

サブタイトル：**情報科学技術の問題の発見と考察**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータとコンピュータ、ネットワークとネットワークを相互に接続することから始まったインターネットは、その技術の普及と発展により、ネットワークは社会基盤の一部を担うようになった。インターネットの上では様々なデジタル情報が交換され、既存メディアには無い多様性と価値を生み出している。その一方では、国境を超えたコミュニケーションメディアである点やその広がりから、他の社会システムとの協調や調整が必要なケースも多く、グローバルな視点での問題発見や解決が重要となる。
本演習では、こうしたインターネットを前提とした情報科学時代において、コンピュータネットワークの基本的な考え方や構成技術を多種多様な書籍・文書通読や議論を通じて理解し、社会的課題の発見と解決について学ぶとともに、自らの意見を発信できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
・インターネットの基本原理、考え方、構成技術などを議論を通じて自ら学び理解する
・グローバルな視点による社会課題の発見とその解決方法についての考え方を学ぶ
・技術的な視点に基づいた、自らの意見を発信する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
春学期では、共通の本を精読して発表する「輪読」の他に、各々の興味に関連する読書（サーベイ）を継続的に行う。単純に本を読むだけでなく、そこから何を読み取ったかを他の人に説明するため、できるだけ本の内容や自分の意見を正しく伝えるために必要なスキルを学ぶ。
秋学期では、春学期に得た知識をベースとし、実社会における具体的な問題について議論をおこなうために、現在の情報科学技術を支える構成技術を理解し、自分なりの考えをまとめて発信するために必要なスキルを習得する。
→　追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる可能性がある。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要および春学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマを探る
2	これまでに修得した情報技術の確認	各々が、高校あるいは大学の講義でどのような情報関連科目を履修し、どのようなスキルや知識を修得したのか確認する
3	課題解決に必要な情報技術の議論	今後取り組むテーマや興味に、あるいは解決したい問題に対して、どのような情報技術が影響するのか考え、なにが必要なのかを議論する
4	精読する本の紹介と選定	情報技術とその社会への影響に関する本の中で、履修者の興味に共通する本を複数紹介し、輪読する本と分担を決めるする
5	情報技術と社会環境（1）	近年話題となっているロボットや AI、IoT、ビッグデータなどの情報科学技術の現状と、展開に際しての問題点を議論する
6	情報技術と社会環境（2）	前回の議論を踏まえた自分なりの提案を論理的に説明するための準備を行う
7	学生発表（1）	前回の準備から、情報科学技術の展開に関する問題点とその対応に関する発表を行い、互いの発表の過不足を議論する。
8	学生発表（2）	前回の発表とそれに関する質疑応答、改善策に関する議論を踏まえ、再構築した発表を再度行い、改善を確認する
9	輪読（1）	第 4 回で選定した本を精読した結果として、輪読を行う。担当者によって１〜２章ずつ行う。
10	輪読（2）	前回に続き、輪読を行う。
11	輪読（3）	前回に続き、輪読を行う。 また、輪読によって得られた知見、さらに調査が必要な点などについて確認する。
12	研究テーマに関連する本の紹介	各々が自分の興味、あるいは研究テーマを意識しながら関連する本を選定し、簡単に発表する
13	他の人の研究テーマに関する質疑、提案	前回の発表をもとに、自分以外の研究テーマに関する質問や提案を行うことで、互いに新たな視点を得る
14	秋学期に向けての準備	秋学期に向けて、必要な知識やスキルを確認し、夏休みになにをするか自らが課題を設定する
1	イントロダクション	本演習の概要説明と導入、および秋学期の進め方についての説明と、履修者の興味やテーマについての議論をおこなう
2	インターネット概要	現在のインターネットの役割と環境、およびこれまでの変遷について学ぶ
3	インターネットの構成要素	インターネットを支える技術と構造、およびデジタル情報の特徴について学ぶ
4	インターネットのサービスと課題	インターネットで現在行われているサービスについて考察すると共に、顕在化している、あるいはこれから起こりうる課題について議論する
5	学生発表 (1)	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
6	IoT・ビッグデータ (1)	具体的なテーマとして、センサデータの利活用の事例や国内外の動向について学ぶ
7	IoT・ビッグデータ (2)	前回の授業を受けて、センサデータの利活用や事例に対して理解を深めると共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
8	セキュリティ	具体的なテーマとして、インターネット上のセキュリティ問題や国内外の動向について学ぶと共に、課題の発見と解決に向けた議論をおこなう
9	グローバルガバナンス	情報科学技術の規格化・標準化や、国際的なルール作りの方法や過程について学ぶ
10	学生発表 (2)	履修者自身の経験や調査に基づく、問題意識や解決手法について発表をおこなう
11	テーマ演習 (1) ：テーマ選定	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマを定める
12	テーマ演習 (2) ：テーマ分析	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマの問題や解決法の分析をおこなう
13	テーマ演習 (3) ：テーマ整理	履修者の問題意識やテーマに基づき、具体的な事例やケースについて対話形式の議論によって理解を深め、個々の扱うテーマに対し、情報科学技術的なアプローチでとりまとめる
14	最終発表	履修者が、それぞれが情報科学技術の視点から、自身の問題発見・問題解決に向けた考察内容について、発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題として毎週「読書」し、そのメモを作成することが求められる。
授業を受けるにあたって特別な前提知識は必要としない。課題やレポートについては、授業の中で適宜指示をする。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に必要としない

【参考書】
必要な参考書などは授業の中で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業における研究発表、および授業での学習状況などの平常点を総合して評価する。具体的には、授業における発言、議論、発表を 50%、および読書課題などの平常点を 50%を目安とした配分とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline:
In this seminar, we learn about the basic concepts and composition techniques of computer networks, discuss the organisation and the solution about social problems regard to the internet. Moreover we also acquire the skill to represent their own opinions.
Learning Objectives:
The goal of this course is to provide students with an understanding of the basic concepts and configuration techniques of computer networks through reading and discussing a wide variety of books and documents, to learn about the discovery and solution of social problems, and to acquire the ability to communicate their own opinions.
Learning activities outside of classroom:
As an assignment, you are expected to make notes on the weekly readings.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading Criteria:
Grading will be decided based on reading assignments (50%) and the discussions and presentations will account (50%).

FRI300GA

情報文化演習

大嶋　良明

サブタイトル：**PureData で音楽、CG、ディジタル・アートを創ろう**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●テーマ
永遠のテーマは、「マルチメディアとネットワーク」ですが、特に先端芸術（音・映像・インタラクティブが融合した表現芸術）に関心があります。マルチメディアは**メディアアート**へと拡張し、ネットワークといえば今日では **IoT**、すなわち我々を取り巻く総てのモノがインターネット上で有機的に繋がること。2022 年度の重点テーマは、**アートなモノ作りに没頭**すること。
PureData, Arduino, Kinect, leapmotion, Raspberry Pi などを駆使して音楽、楽器、メディア・アート作品を制作します。
●授業運営の方針
「やりたくなったらまず動く」“Be Proactive!” これに尽きます。
●ことし研究室では何をするのか？
Pure Data というメディア処理ソフトに習熟し、MIDI 機器や iPad で対話的に反応する音楽や CG 作品の制作技法を身に着けて、その学習成果を ePortfolio にまとめます。
●「何を学ぶのか？」から「何ができるのか？ 何のために学ぶか？」へ
これまでのゼミ生たちは Web, サウンドデザイン、アニメ制作、映画監督、UX、情報科教員などの分野に進み、留学、大学院進学者もたくさん輩出しました。参考にして下さい。最近の実績分野については後述しました。

【到達目標】
●目標
・コンピュータを自分の表現のために応用すること
・インターネットネット社会で自分を表現すること
・新しい物作りを構想し提案すること
を通して
・社会の中で十分に役に立つもの
・長期的に世の中を見通す力
を身につけたいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
● ICT の最先端を学びます。
●各自がテーマを決めて、個人研究あるいは作品制作に取組みます。
●学習成果の「見える化」には e-Portfolio を積極活用しましょう。
● 4 年生は各自（あるいは連名）で、3 年生は全員でひとつのテーマで、**国際文化情報学会**および学外での成果発表に向けて取組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、学術活動とその基盤	【講義】　アカデミック・スキルズと研究環境を理解する。とくにネットワーク環境について全員で習得する。Web を学ぶためのクライアント環境、端末について検討する。 【演習】　ePortfolio を立ち上げる。
2	【Pure Data 入門】	【講義と演習】　Pure Data とは何かを学ぶ。環境設定、パッチ、オブジェクト、入出力、パラメータなど Pure Data の構成要素を理解する。
3	リズムを作る	【講義と演習】　音叉の生成、リズムの生成、テンポ（BPM）の指定方法などを理解し、メトロノームを作成する。
4	サンプリング音源	【講義と演習】　Pure Data にサンプリング音源ファイルを読込んで利用する。マイクからの Pure Data へ音データを録音する。 【月例報告】　ePortfolio
5	ドラムマシン	【講義と演習】　サンプル音源によるドラムマシンを作成する。テンポの可変化、音源増設など機能を拡張する。
6	【Pure Data 応用（1）：自作楽器】	【課題演習】　学習内容を組合せてビートボックスの自作に挑戦する。 【調査】　メディア・アートと Pure Data
7	【第 1 回中間発表（構想発表）】	【発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
8	ループ・サンプラー	【講義と演習】　サンプラ、ループ、ピッチ変換、逆再生などサンプルデータの書込み・読出し操作による音の処理を学ぶ。
9	エフェクト（1）	【講義と演習】　ギターエフェクト（音色系）：　ディストーション、イコライザ、ワウワウ、ディレイ、コンプレッサなど楽器音の音色加工の原理と実装を学ぶ。
10	エフェクト（2）	【講義と演習】　ギターエフェクト（空間系）：　コーラス、フランジャー、ハーモナイザなど楽器音の音像定位や時間処理の原理と実装を学ぶ。
11	【Pure Data 応用（2）：オリジナル・エフェクターの自作】	【課題演習】自作エフェクタのデモ リング・モジュレータやビット・クラッシャーなど市販製品にない仕様の音響効果の自作に挑戦する。 【調査】デバイス系への応用 Arduino, Raspberry Pi と Pure Data 【月例報告】　ePortfolio
12	【電子音楽の世界】 シンセサイザー（1）：音作りの原理	【講義と演習】　シンセサイザーとは何か、正弦波音源、MIDI による音源制御、エンベロープ生成を学ぶ。
13	シンセサイザー（2）：音色加工の手法	【講義と演習】　様々な音源波形、フィルタによる音色変化、ポリフォニック化による機能拡張、FM 音源の手法などを学ぶ。
14	【第 2 回中間発表】	【発表】　研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。 【夏休み宿題】　Raspberry Pi 上で Pure Data を立ち上げておく。
15	秋学期キックオフ	【月例報告】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
16	【ビジュアルな作り込み】 アプリ操作性の向上	【講義と演習】　スケーラなど直感的なインターフェースの作成とプリセットによるパラメータ設定の自動化を学ぶ。
17	機能の部品化と可視化、外部ハード（Arduino）との連携	【講義と演習】　アブストラクションによるモジュール化、GUI ボックス、VU メータなど操作インターフェースの部品化と可視化を学ぶ。あわせて Pure Data と外部機器（Arduino）との接続と連携方法を学ぶ。
18	外部アプリとの連携	【講義と演習】　オーディオデータのルーティングを設定し、Pure Data と DAW などの外部アプリを連携させる手法を学ぶ。
19	ネットワークの利用	【講義と演習】　LAN 環境を構築し、相互接続した複数機器上の Pure Data を連携して稼動させる手法を学ぶ。LAN 上で連携するドラムマシンを作成する。 【月例報告】ePortfolio
20	モバイル端末との連携	【講義と演習】　iPad などのモバイル端末と PC, Mac 上の Pure Data を連携して稼働させる手法を学ぶ。
21	【第 3 回中間発表・学会発表準備】	【発表】　研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。本中間報告会の成果により学会発表応募の形態を検討する。
22	映像の生成： GEM とコンピュータグラフィックス	【講義と演習】　GEM の基本、ウィンドウの生成、3 次元モデルへの操作とチェーン、照明、テクスチャー、Web カメラ映像の取り込み、簡単なアニメーションの作り方を学ぶ。
23	Web カメラの活用	【講義と演習】　Web カメラ映像から動きや色を検知抽出する方法を学ぶ。

24	Pure Data 応用（3）：音と映像のインタラクション	【課題演習】　音、映像、GUI、外部機器を組合わせた作品制作に挑戦する。 【報告】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。12 月初めの学会発表にむけての準備状況を情報共有する。
25	イメージ処理	【講義と演習】　外部イメージデータの取込み、フィルタの適用、複数イメージのレイヤー化、背景の消去などの技法を学習する。
26	対話性の実現：マウス、キーボード、自作インターフェース	【講義と演習】　マウス位置、キーボードイベントの検知法、ビデオコントローラ、各種センサーと Arduino による自作インターフェース、簡単な対話的アニメの作成を学ぶ。
27	物理モデル	【講義と演習】物理演算モデルと pmpd、バネの動き、重力の影響のモデル化、複数のモデル要素の連結、GEM による視覚表現などを学ぶ。
28	【期末発表】　2022 年度のまとめ	【発表】　個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。 【学習成果の総括と見える化】学習内容の総まとめを実施する。ePortfolio で学習成果の公開コンテンツ化を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読、プロジェクト活動、自主的な学習など授業時間外に求められる学習行動はとても大事です。プロジェクト運営、文献レポータなど積極的に活動してください。
とくに学外での貴重な学びの機会として Pure Data Japan のパッチングサークルのような勉強会やオトアソビなどのメディアアート関連のイベントがあります。まずは聴講参加を心がけてください。そしてできれば作品発表できるようになりたいです。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習では学ぶべきことが多岐にわたるので必要に応じて文献を紹介します。
今年度にとりあげる PureData の教科書として
美山千香士,「Pure Data　チュートリアル＆リファレンス」, ワークスコーポレーション (2013), ISBN 978-4862671424
を指定します。
関連文献については、こちらのページを参照ください。
http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10296　（学内アクセス）
PureData 関連の Web については、こちらのページを参照ください。
http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10554　（学内アクセス）

【参考書】
【Pure Data】
Pure Data の参考書として：
松村 誠一郎,「Pd Recipe Book － Pure Data ではじめるサウンドプログラミング」, ピー・エヌ・エヌ新社（2012),ISBN 978-4861007804
中村隆之,「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」工学社 (2015), ISBN: 978-4777518821
の 2 冊を挙げておきます。
最新動向については、Pure Data Japan の Web サイトを参照してください：
http://puredatajapan.info/
【Raspberry Pi】
日本語で読める参考書がたくさん出版されています。例えば
Japanese Raspberry Pi Users Group,「Raspberry Pi〔実用〕入門」, 技術評論社 (2013),ISBN: 978-4774158556
は良くまとまっています。
【Arduino】
PureData と Arduino の連携については上に挙げた「Pure Data　チュートリアル＆リファレンス」のほかに
青木直史,「Arduino と Processing ではじめるプロトタイピング入門」, 講談社 (2017),ISBN 978-4-06-156569-2
藤本 直明ほか,「電脳 Arduino でちょっと未来を作る」,CQ 出版 (2010),ISBN: 978-4789818506
が参考になります。
【Web】
今日の Web の最前線に触れると言う意味で：
「Web サイト制作 最新トレンドの傾向と対策」MdN(2012)、ISBN: 978-4844362456 を多く参照しますが、これに限らず他の文献も多用します。
【文化情報学】
大学院で情報学系の研究を目指す学生のためにじっくりとまた批判的に読んでもらいたい論集と書籍を挙げておきます：
Durham and Kellner (ed), "Media and Cultural Studies Keyworks", Blackwell(2001), 978-0-631-22095-4
Thomas Swiss(ed), "Unspun - Key Concepts for Understanding the World Wide Web", New York University Press(2000), ISBN 0-8147-9759-8
Cambridge, "Eportfolios for Lifelong Learning and Assessment", Jossey-Bass(2010), ISBN: 978-0470503768
西垣通,「基礎情報学―生命から社会へ」, NTT 出版 (2004)、ISBN-13: 978-4757101203

【成績評価の方法と基準】
●成績評価方法　セメスタ毎に総合評価します。欠席は認めません。止むを得ない事情で欠席する場合には必ず申し出てください。また講義内容を復習して次の授業までに実習課題を済ませておいてください。
Proactive な運営方針にもとづき、学生個人による制作・研究（40%)、研究室全体で取り組むグループ活動 (40%)、学会参加、作品応募、分野知識の外部実践（情報、データサイエンス、英語関連など)(20%) をすべて総合的に評価します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
最後にまとめとしての学会発表、あるいは何らかの作品制作（狭い意味での表現に限らず、システム・プログラム等でもよい）と制作レポートを課します。

【学生の意見等からの気づき】
（1）演習形式であるため、授業アンケートのような期末アンケートではその場の学習ニーズに対応できない。面談による個別指導によってこれまでも対応してきており、今後もこの方針を継続します。面談を通じての個別の研究指導とゼミでの学びをうまく組み合わせて効率的な学びをサポートできるようを配慮してゆきます。
（2）意欲ある学生の参加を歓迎します。4 年次からの研究や作品制作も可能ですので、演習変更希望の場合は事前に相談ください。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミは国際文化学部情報セミナー室（BT#0704）にて行います。
2020 年度の学習には、Windows PC, Mac, iPad, LINUX サーバ、MIDI 楽器、Kinect, Raspberry Pi などのデバイス等を使いますが**必要な機器はすべて研究室**にあります。講義時間外での作業のために WindowsPC か Mac(あるいは LINUX サーバ) が必要です。また **Web や iPhone 環境でも Pure Data は稼働します。**Pure Data はオープンソースですので、自分にパソコンにダウンロードしてすべての課題実習と作品制作に取り組むことができます。またユーザー同士の交流もとてもさかんです。
研究活動は情報準備室（BT#0703）のネットワーク、サーバ、マルチメディア装置からなる SOHO 環境を基盤として実習します。

【その他の重要事項】
●履修上の注意
まず手を動かす、自分で調べる、しっかり聞く、物怖じせずに発言する。そこから文化と情報を発想します。自分ひとりでは解らないこともありますから、担当教員と面談を通じて指導を受ける、あるいは作品制作について助言を受けるなど風通しの良いコミュニケーションを心がけてください。
また、
・情報系、メディア系専門科目の 3〜4 年次での履修
・情報処理・メディア・データサイエンス関連の検定資格取得
・継続的な英語力養成の必要性
を明言します。
非常に関連が深い科目として「コンピュータ音楽と音声情報処理」があります。おなじく Pure Data を重点的に扱う科目として、きっと参考になると思います。

【研究室の活動実績】
【研究・制作活動】
2011 年度：学部の動画配信システムの構築。
2012 年度： e-Portfolio の学部導入、全学導入にむけての技術的検討。大学院でのメディア論科目と連携。
2013 年度： e-Portfolio（HOPS）の構築に参加。
2014 年度より： PureData パッチングサークルに参加、発表。
2015 年度（研究留学）： Carnegie Mellon 大学の Music & Technology においてコンピュータ音楽とサウンドデザインの研究。（演習は東京工科大学デザイン学科の松村誠一郎先生）
2016 年度： PureData でシンセサイザ、エフェクタ、シークエンサなどをインタラクティブな仕組みと組み合わせてライブ演奏向けに制作。
2018 年度： Prezi Night　（2019 年 2 月）に参加。
【学部学会】3 年生は連名で学部学会に発表参加する、4 年生は個人で研究成果を発表することを目指してきました。
2014 年度は研究室からポスターとデモで発表 3 件。
2015 年度は 4 年生が研究の成果を学会発表。
2016 年度は 3 年生が中間成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。
2017 年度は 4 年生が研究の成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。
2018 年度は 3 年生がポスター発表 1 件。
2019 年度は 4 年生がインスタレーション発表 1 件。
2020 年度は 3 年生が発表 2 件、2 年生が発表 1 件。
2021 年度は 4 年生が発表 2 件、3 年生が発表 1 件。
【学外の学会等】
2012 年度の学会参加
私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」
教育システム情報学会「全国大会」
日本教育工学会「e ポートフォリオの活用と普及」研究会
2013 年度の学会参加
Mahara Open Forum 2013 での研究発表（2 件）
2014 年度の学会参加
Mahara Open Forum 2014 での研究発表（1 件）
Pure Data パッチングサークルへの参加（5 回）
2016 年度の学会参加
私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」
Pure Data パッチングサークルへの参加（2 回）
2016 年度の学会参加
私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」
2018 年度の学会参加
ADADA2018 学術大会にて研究発表。
2019 年度の学術活動

研究室で Prezi Night Tokyo 8 に参加

【教員の実務経験】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野の経験がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: The course deals with computer music and media art programming by PureData and extends interactive creativity by use of various kinds of external data obtained through stand-alone and micro-controller-based, IoT-enabled sensor devices such as Arduino , Raspberry Pi, webcams, depth cameras, accelerometers, thermo sensors, gesture detectors.
Learning Objectives: his course is to help acquire independent research skills and creative styles in media art, device art, and physical computing through learning activities and projects.In addition to classroom activities and regular assignments, all students are encouraged to familiarize themselves with Maker Movement, attend academic conferences and workshops such as ADADA and Pure Data Patching Circle, so as to broaden their views and strengthen area knowledge and develop programming skills. ePorfolio is provided as the learning platform to support reflection and active learning.
Grading Policy: Individual research (40%), Lab activities (40%), Academic or area-specific activities(20%) 60% of overall evaluation score is required for academic credit.

DES300GA

情報文化演習

春学期担当：渡邊　日出雄，秋学期担当：甲　洋介

サブタイトル：〖こころ・身体・空間〗　おどる！ デザイン学
配当年次／単位：3〜4 年／ 4 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

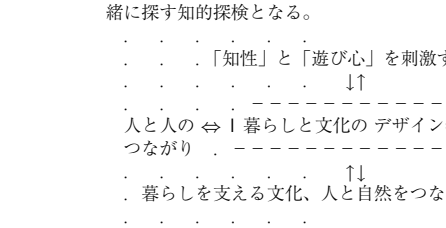
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【コミュニケーション：人とつながる、身体が感じる、こころはダンスする】
　人と人のこころが動き、感情が働き、言葉を超えて体験が生み出される。しかし、他者とつながるのはやさしいことではない。　おどるデザイン学　ー
　ダンスは人々の生命が凝縮した現れである。　人々の生の深い処に踏込んでデザインする、それを目指す。
　演習では**こころと感情の仕組みを基礎から学び**　それを生かして、心地よい「空間の体験」、言葉にならない思いを伝える「新しいコミュニケーション」、知性と遊び心を刺激する「暮らしの道具」を**デザインする**。
　時には、建築空間で人の行動をフィールドワークしたり、「モノづくり」にも挑戦する。 そのために、ふだん忘れている感覚、懐かしい匂い、言葉にならない色あい、うっとりする肌触り、ぞくっとする出会い…、そういう言葉を超えた身体と感覚の体験を呼び起こし、あなたのこころの声にじっくり耳を傾けよう。日常風景に隠れていた音たちが聴こえ始める。禅が思い起こされる。
　基礎文献をじっくり読み、仲間と考えを深め、デザインを実践する演習である。
【興味あるテーマの例】
(1) 楽しくて使いやすい「道具、インテリア、家具」の制作
(2) モノづくりと体験づくり、アートとコミュニケーション、遊び心のデザイン
(3) 居心地よい空間、癒しのデザインの研究
(4) つながってるフリは寂しい、でも濃密なのはもっと怖い　〜　家族・恋人たちを繋ぐ、丁度よいつながり（コミュニケーション）のデザイン
(5) コトバでは嘘をつけても、カラダは本心を語ってしまう！　非言語コミュニケーションの研究
(6) モーションキャプチャ技術を用いて『身体の見せる繊細な語りと情熱の表情』の研究
(7) 繋がりたいのに『つながれない』、メタバース（仮想世界）における「こころ」の問題
(8) こころと感情の科学、人工の知能
(9) 身体、いのち、自然の息吹を伝える ***Zen*** 的文化情報空間のデザイン
本当の君は何処？　気がつくとこころは**メタバース**にいる... しかしそれは今に始まったことではない

【到達目標】
・具体的な場面に対して、ユーザの視点から「感覚の体験」「道具」のデザインを実践できるようになる（人間中心デザイン技法）。
・演習を通じて、問題の本質を洞察する力、よりよいデザインの方向性を嗅ぎ分ける美意識、研究をやり遂げる計画・実行力、を育む
　君もやがて実社会に出たとき、答のない課題に取り組むことになる。そのときにここで得た力は頼りになるはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
「暮らしと文化のデザイン学」がテーマである。「コミュニケーション」「道具」「空間」のデザインを軸に、つぎの４つの観点を意識しながら学ぶ。ゼミ生は各回の討議、ワークショップで主体的に意見を出し合い、アイディアを提案できる。担当教員は討議やアイディアにフィードバックを返し、考えをさらに深めるよう導く。
本演習で取り組む課題のいくつかは未だ正解が分かっていない。《答え》を一緒に探す知的探検となる。



※　実習や各回の実施方法などは、COVID-19 感染状況によって修正する可能性がある。その場合は Hoppii 等で適宜周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、自己紹介
2	暮らしを豊かにする道具や空間	暮らしの道具・空間をフィールドワークする
3	暮らしの道具をデザインする①	基礎的な考え方を学ぶ
4	暮らしの道具をデザインする②	デザイン方法論を学ぶ
5	デザイン・ワークショップ	デザイン実習
6	こころと、感情の科学①	基礎的な考え方を学ぶ
7	こころと、感情の科学②	理論を学び、考えを深める
8	こころと、感情の科学③	実例を学ぶ、体験する、考えを深める
9	【話題】非言語コミュニケーションと空間行動	身体的で、空間的な、非言語コミュニケーション、って何だろう
10	空間の体験をデザインしよう①	基礎的な考え方を学ぶ
11	空間の体験をデザインしよう②	アクティビティを分析し、体験をデザインする
12	空間の体験をデザインしよう③	実例を学ぶ：体験する、考えを深める
13	デザイン・ワークショップ	デザイン実習（グループ）
14	個人研究、グループ研究の育て方	個人研究／グループ研究のテーマの発表
15	オリエンテーション（秋）	テーマの紹介、進め方の話し合い
16	【話題】『知』の新しいカタチ	人工物がよきパートナーとなるために
17	遊び心、知を刺激する道具	基礎的な考え方を学ぶ
18	遊び心、知を刺激する道具②	理論を学び、考えを深める
19	遊び心、知を刺激する道具③	実例を学ぶ、体験する、考えを深める
20	【問題意識を育てる】心と心はつながれるのか	あなたの心と、他人のココロがつながる不思議
21	心をつなぐコミュニケーション②	コミュニケーションの新しいカタチ、を考える
22	心をつなぐコミュニケーション③	実例を学ぶ、体験する、考えを深める
23	デザイン・ワークショップ	体験、デザイン実習（グループ）
24	【話題】近未来の情報空間の姿	討議し、一緒に考えてみる
25	近未来の情報空間のデザイン	暮らしと人間を拡張する
26	近未来の情報空間のデザイン②	理論を学び、考えを深める
27	近未来の情報空間のデザイン③	実例を学ぶ、体験する、考えを深める
28	まとめ、発表、討議	個人研究の成果発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読む、発表準備、学内外でのフィールドワーク。実施可能な場合は、美術館、建築空間の探検に出かけ、夏や春には合宿がある。準備と復習は２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各自の研究テーマを伺い、道具のデザイン、こころの科学、コミュニケーション、空間デザイン、情報学と人工知能、を中心に提示する。

【参考書】
・「感情の科学」「コミュニケーションとしての身体」「こころの情報学」
・「未来のモノのデザイン」「弱いロボット」「ネット接続された心」「遊びと人間」
・「建築する身体」「アフォーダンス」「サステナブル建築」
・森の葬祭場（アスプルンド）、湖畔のアトリエ（コルビュジエ）、光の教会（安藤）、修学院離宮

【成績評価の方法と基準】
①発表や討議への参画、各回のレスポンス、②グループ実験や実習の取り組み、③成果レポート、の３つの観点を同じ配分で評価する。３つを総合した評価が到達目標の 60%以上である者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実施できる場合は、実験、体験、モノづくり実習、建築探検にぜひ出かけよう

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC があるとグループワークや合宿の時に便利。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
情報演習室と、甲研究室の先進的な機材を生かした実習を行う。

【参加希望者へ】
人間の「こころ」や感情のしくみ、コミュニケーション、モノづくり、建築、空間、玩具、家具のデザインに興味をもつ方に向いている。

次のような人物とのコラボレーションに興味がある：　①不完全燃焼なまま大学生活を終えたくない、②モノづくりが好き、③言葉にならない思いを大切にする、④建築、空間デザイン、インテリアに興味がある、⑤土俗的な感性をもつデザイナー、⑥子どもや高齢者が楽しめる情報の道具を作りたい、⑦芸術家肌のプログラマー、⑧少なくともゾウとイルカには心が通じると信じている、⑨北欧建築、日本庭園、仏像に魅せられる、⑩海の中には、自分の知らない地球があと半分あることを知ってしまったダイバー、⑪人はそう簡単につながれない、SNS は孤独と分断の増幅装置であると気づいてしまった人。
　好奇心旺盛で常識ある個性派、歓迎。

重要な関連科目

道具のデザイン学、道具による感覚・体験のデザイン、情報コミュニケーションⅠ、こころの科学、仮想世界研究、システム論

【注意】

”パソコンを実習するゼミ”ではないが、ロボットに魅惑的なしぐさのダンスをさせたり、優しくハグする人工物を作ったりすることがある。

【Outline (in English)】

This seminar allows you to study on DESIGN, Science of Mind, and Non-verbal Communication. You are also encouraged to join several types of Design Workshops including design of "experiences and artifacts" as well as a colloquium of basic literatures. We sometimes go out for a fieldwork of "art and architectures."

By the end of the seminar, students should be able to practice the principles and methodology of "User-centered eXperience Design" (UXD).

Final grade will be decided based on (1) final report, (2) presentations and group discussions, and (3) the quality of the student's contribution to workshops. Three aspects are evaluated with equal weight.

FRI300GA

情報文化演習

重定　如彦

サブタイトル：**コンピュータエンターテイメント**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、われわれの身の周りにはコンピュータを使ったありとあらゆるエンターテイメントが満ち溢れており、電車の中などでスマートフォンや携帯のゲーム機を楽しんでいる人の姿はめずらしくなくなってきている。また、単なる娯楽だけではなく、学習の場においてもコンピュータを使って楽しみながら学習効果を上げることを目的としたエデュテイメントと呼ばれるソフトウェアが注目を浴びている。また、近年では小学校からプログラミング教育が導入されるなど、プログラミングの技能の取得の必要性がますます高まってきている。
本演習ではそういったコンピュータを使ったエンターテイメントについて学び、自ら作品を作り上げていくことを目標とする。

【到達目標】
コンピュータエンターテイメントといってもそのジャンルは幅広く、プラットフォームもパソコン、ゲーム機、携帯端末を使ったものなど様々である。コンピュータエンターテイメントの特徴や、コンピュータエンターテイメントをどのようにして実現するかについて学び、理解する。
次にソフトを作成するための技法（プログラミングやウェブを使ったシステムの使い方）を学び、実際にソフトウェアを作成する。
われわれは普段はコンピュータのコンテンツを消費する立場であるが、コンテンツを提供する側の立場に立つことによって新しい視点を獲得し、新しいものをクリエイトする力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
演習の概要は以下の通り。
・輪講
コンピュータエンターテイメントに関する様々なテーマについて輪講を行い、基礎知識を身につける。
・プログラミングの演習
本演習の最終目的は何らかの作品を作成することであるが、そのためにはプログラミングの知識が必要不可欠になる。そのための演習を行う。
なお、学生のプログラミングの習熟度が異なっている場合は、習熟度別にグループを作り、演習を行う予定である。
・作品の設定と実習
3 年次ではグループごとにいくつかの作品を設定し、その作品を製作する実習を行う。また、作品に関して中間発表と作品発表を行う。後期には対戦可能な作品を作成し、お互いのグループで対戦会を行う予定である。
・テーマの設定と構想発表
3 年次の最後に、輪講やプログラミング演習を通じて、4 年次に作成する作品に関するテーマを各自考え、構想を発表する。
・個人研究
4 年次では各自のテーマに従って研究を行い、各自の研究成果をまとめ、発表する。
・国際文化情報学会における発表
各自の研究成果を国際文化情報学会において発表する。また、国際文化情報学会での発表の際に得られた意見などを自分の研究にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論とテーマ設定	コンピュータエンターテイメントの概論について学び、グループごとの輪講のテーマを設定する
2	グループ１の輪講と演習	グループ１のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（変数について）
3	グループ２の輪講と演習	グループ２のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（条件分岐について）
4	グループ３の輪講と演習。2 回目のテーマ設定。	グループ３のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（繰り返しについて）。2 回目の輪講のテーマの設定を行う。
5	グループ１の輪講と演習	グループ１のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（関数について）
6	グループ２の輪講と演習	グループ２のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（ファイル操作について）
7	グループ３の輪講と演習	グループ３のテーマの輪講を行う。また、プログラミングの演習を行う（アルゴリズムについて）。なお、必要であれば、演習は引き続き行う。
8	作品のテーマの設定と実習	グループごとに作成する簡単な作品のテーマを設定し、実習を行う
9	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
10	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
11	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
12	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
13	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
14	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行うまたグループごとに作品を作成する実習を行う
15	品評会とまとめ	各グループの作品の品評会をおこない、春学期のまとめを行う
16	秋学期のテーマの設定と実習	お互いが対戦可能な作品のテーマを設定し、実習を行う
17	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
18	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
19	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
20	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
21	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
22	グループ３の作品発表と実習	グループ３の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
23	作品の品評会と次のテーマの設定	お互いの作品を対戦させ、品評会を行う。次の少し複雑な作品のテーマの設定を行う。
24	グループ１の作品の中間報告と実習	グループ１の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
25	グループ２の作品の中間報告と実習	グループ２の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
26	グループ３の作品の中間報告と実習	グループ３の作品の中間報告を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
27	グループ１の作品発表と実習	グループ１の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う
28	グループ２の作品発表と実習	グループ２の作品の発表を行う。またグループごとに作品を作成する実習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、輪講の準備や作品の作成の作業などを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【参考書】
必要に応じて各自のレベルにあったものを指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（３０%）、輪講や作品の制作（７０%）で評価する。

発表資料や作品はｅポートフォリオに提出すること。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生のプログラミングの習熟度別にグループを分けたほうが良いという意見があったので、臨機応変にグループ分けを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミ室のコンピュータを使用する。

【その他の重要事項】
　プログラミングは一見難しく、とっつきにくそうに思えるかもしれないが、しっかりと勉強すれば 2 年間で自分自身の作品を作ることは十分に可能である。過去のゼミ生の一人に、途中まではあまりプログラミングに興味がなかったが、16 パズルを作成する演習を行ったところプログラミングに興味を持ち始め、自分で本などを購入してシューティングゲームを作成した学生がいた。本ゼミでは、やる気があればプログラミングの未経験者でも歓迎する。
　また、以下のウェブページに過去のゼミの論文や、ゼミ生の作品の一部があるので興味のある方は参考にして欲しい。ただし、過去のゼミのテーマは現在のものと異なっているので、過去のゼミ論にはコンピュータエンターテイメントとは異なるテーマのものがある。
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/zemi/
　また、2013 年度からゼミ生の制作物をｅポートフォリオに保存することにした。http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/view/groupviews.php?group=142 からこれまでのゼミの作品のページにアクセスすることができるので興味のある方は見てほしい。

【Outline (in English)】
In recent years, computer entertainments are very close to our daily life, and there are many people playing computer entertainment by smart phone in the train. Moreover, software called edutainment software which uses entertainment for studying draws many people's attention. Objectives of this class are to study computer entertainment and to create original computer softwares.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours.
Evaluation will be made on the basis of class participation (30%), circular lectures and production of works (70%).
Presentation materials and works should be submitted. Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals for this class will be considered to have passed the class.

SES300GA

情報文化演習

中西　由季子

サブタイトル：**生物と持続可能な社会**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の加速的破壊が進むなか, 持続可能な社会作りを考える．フィールドワーク等を通して，我々はどうあるべきかを各自考える．世界に視野を広げ見直してみる．「生き物と文化」について，考える．

【到達目標】
与えられた課題をこなすだけでなく, 自分で問題点を見つけて取り組むことが出来るようになること．具体的には, 積極的に現場に出かけて情報を収集できるようになること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業だけではなく夏期休暇などを利用して，フィールドワークを計画している．
また, メイン・テーマ以外に, 自由な視点でプロジェクトを企画・実践し, 秋学期に開催される学部内の研究発表会に参加する（予定）. そして, 論文作成に取り組む．
特に，教室を出てフィールドワークを考える（たとえば，地方への訪問など）．また，ゼミに関係したゲストをお招きする予定．
適宜，メール添付書類等を使った課題提出とその添削を行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介および 1 年間の授業計画
第 2 回	問いの力	問いあつめ 水平の問いと垂直の問い
第 3 回	問いの作法	問いあつめ オープンな問いとクローズな問い
第 4 回	４年生の論文テーマ発表 1	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表． コメントを付けて討議する．
第 5 回	SDG s 新聞ワークショップ①	関心あるテーマに関して記事を収集し、紹介する。
第 6 回	SDG s 新聞ワークショップ②	関心あるテーマに関する記事をまとめ、新聞を作成する
第 7 回	研究論文の要約および紹介①	関心あるテーマに関する記事をまとめ、プレゼンテーション資料を作成し、内容を紹介する。
第 8 回	研究論文の要約および紹介②	関心あるテーマに関する記事をまとめ、プレゼンテーション資料を作成し、内容を紹介する。
第 9 回	SDGs ワークショップ①	SDGs 概論
第 10 回	SDGs ワークショップ②	2030SDGs カードゲームで SDGs を体感する。
第 11 回	SDGs ワークショップ③	2030 年およびその先の世界について対話する。
第 12 回	3 年生の研究テーマ発表	前回，前々回の討議を踏まえて，3 年生の調査研究テーマを発表する．
第 13 回	４年生の論文中間報告	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表． コメントを付けて討議する．
第 14 回	４年生の論文中間報告	論文のテーマについて，プレゼンテーションを交えて発表． コメントを付けて討議する．
第 15 回	生物多様性ワークショップ	生物多様性について対話し、理解を深める
第 16 回	4 年生の論文中間作成（前半）	進捗状況に基づいて，作成にかかる．
第 17 回	4 年生の論文中間作成（後半）	進捗状況に基づいて，作成にかかる．
第 18 回	3 年生のプロジェクト成果発表	プレゼンテーションを交えて発表． コメントを付けて討議する．
第 19 回	国際文化学部学会準備①	テーマを出し合って討議する．
第 20 回	国際文化学部学会準備②	討議したテーマに基づいて，調査研究をすすめる．
第 21 回	国際文化学部学会準備③	まとめ
第 22 回	4 年生の論文発表①	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する． （4 年生の１／３について）
第 23 回	4 年生の論文発表②	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の１／３について）
第 24 回	4 年生の論文発表③	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．（4 年生の最後の１／３について）
第 25 回	個人研究作成①	テーマを出し合って討議する．
第 26 回	個人研究作成②	討議したテーマに基づいて，調査研究をすすめる．
第 27 回	個人研究作成③	まとめ
第 28 回	個人研究発表会	プレゼンテーションを交えて発表．コメントを付けて討議する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で課題を見つけ, 多角的に取り組むこと．文献を収集するだけでなく, 直接, 調査・取材活動をおこなうこと．可能な限り, 情報源に当たり，なにが，オリジナルであるのかを明確にした上で，レポートなどを作成すること．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず, 必要な資料はプリントして配布します．

【参考書】
「地球の論点 ―現実的な環境主義者のマニフェスト」 スチュアート ブランド (著), 仙名 紀 (翻訳), 英治出版, 2011.
他は必要に応じて, その都度, 指示します. また, ゼミに関係したゲストをお招きする予定です．

【成績評価の方法と基準】
年度末までにまとめた各自の成果（50%）, およびそのために各自が行った企画・調査活動状況（＝平常点: 50 %）. 頑張る姿勢, 真摯な姿勢を評価したいと思います．
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミは, 受け身的な授業と異なり積極的にみんなで作り上げていくものです．４年生は後輩をサポートしお手本となるように心掛け，３年生は先輩をよく見て学んで下さい．

【学生が準備すべき機器他】
授業には, 主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用い，各自に，パワーポイント，あるいは，ポスターなどでプレゼンテーションをしていただくことがあります．

【その他の重要事項】
本ゼミの目標は, 文献などの間接情報だけに頼るのではなく, 直接出向いて生の情報に触れ, それらを通して学ぶことの面白さを知り, 自己を鍛えることでもあります．
そして, グループ活動を通じて切磋琢磨し, 相手を思いやる心を身に付け, 少しでも一人前の社会人に近づくことです．
与えられたことを行うだけでは一人前とは言えず, 自分でさらに課題を見つけて取り組んでこそ, 一人前と言えます. そのためには, 小さな事でも損得を考えずに手抜きせず真面目に取り組むことが大切です．
授業の各回のテーマは, 受講生の希望や最新のトピックスなど取り入れることがありますので, 内容や順番が異なる場合があります．

【Outline (in English)】
With accelerated destruction of the global environment, think about creating a sustainable society through fieldwork.
At the end of this course, participants are expected to be able to not only solve a given task, but also find and tackle the problem on your own. Specifically, participants will be possible to actively go to the site and collect information.
Ecpected learning activities outside of classroom will be collecting information, leading papers, doing homework,preparing your presentation.
It will be taken for 2 hours each lecture.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
Usual performance score 50%, Reports 50%.
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PHL300GA

情報文化演習

森村　修

サブタイトル：**思考のパフォーマンス研究――ソーシャリー・エンゲイジド・アートを参考にして**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【本演習の概要】
私たちは、日常生活の中で、自分の意思や意図、気持ちや欲望を表現しています。例えば、ある人たちは、Facebook、Instagram、Twitter などの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を用いて、不特定多数の他者に向かって自分の意見や考えを述べたり、写真などを載せたりします。また、比較的小規模で近しい間柄のグループでは、LINE やメールなどを通じて、自分の気持ちや感情を LINE のスタンプや絵文字を使って表現します。
このように私たちは、様々な情報ネットワークを使って、自分の気持ちや思想の表現を、文字だけでなく記号や絵や写真などを用いて、他者に向けて発信したり、他者からの表現（物）を受信したりしています。
本演習では、それを「思考のパフォーマンス」として捉えて、深く考えたり実践したりしていきます。私たちの日常的なやり取りを「パフォーマンス」として捉えることで、私たちの社会や世界を変える「力」をもつのです。皆さんが発した言葉や、体や表情で表現したりする「パフォーマンス」が、たくさんの人の心を動かし、社会そのものを変える可能性があるのです。

SNS がグローバルな世界に広がっているのだから、どこかの誰かが、皆さんが知らないうちに、皆さんが書いたものや、写真や動画で表現したものを見ています。もはや私たちの狭い人間関係だけで、社会や世界は成り立っていないのです。だからこそ、私たちは、SNS だけでなく、私たちの身体表現や言葉を介した様々な「パフォーマンス表現」が、良い方向にも悪い方向にも社会を変える「力」があることにもっと自覚的になる必要があります。
そこで本演習では、私たちの個人的な表現が、直接的に社会にコミットしていく在り方を、一般的に「**Socially Engaged**」（**社会に関与する=社会に参加（コミット）する**）という「パフォーマンス表現」のもとで考えていきます。
【本演習の目的】
本演習では、「自らの思考・思想を言語や身体などを用いて表現することによって、社会に関与（コミット）することはいかにして可能か」という問いについて考察していくことを目的とします。その際に、「**ソーシャリー・エンゲイジド・アート *Socially Engaged Art*（社会関与の芸術）**」〔以下、SEA〕の理論と実践に着目していきます。1990 年代末から 2000 年代にかけて興った SEA の運動は、アート（芸術）界だけでなく、「ソーシャル・プラクティス」と名のりながら、もっと広い社会運動にまで発展してきています。
ただ、本演習では、**「思想のパフォーマンス」研究**がテーマですから、アート（芸術）やパフォーマンス運動から多くを学びますが、それだけが「Socially Engaged」の思想だとは考えていません。例えば、1960 年代には、仏教思想の中で、ベトナム戦争に抗議する「Socially Engaged Buddhism（社会参加仏教）」運動が発展してきており、21 世紀の現在でもアジアの諸地域で運動を続けています。
私たちを取り巻くグローバルな状況の中で、**植民地主義、外国による侵略、戦争・紛争、権力による弾圧、社会的不公正、貧困、人種差別・性差別・障害者差別・高齢者差別が問題になっています。現在では、新型コロナウィルスの感染爆発によって、日常生活が危機に瀕しています。**これらに対して、アートという手段を用いて、社会にコミットし、社会を少しでもよくしていくことを考えていきます。
そこで本演習では、皆さん自身の思想のパフォーマンス表現が、社会と密接に結びついているということを改めて考えるとともに、自分の思想により良いパフォーマンスを与えることによって、社会に向かって働きかけていくことが目的となります。そのために、演習内部では、仲間と切磋琢磨することで、互いの表現を検討し合いながら、自らの思考や思想を「論文」や「作品」にして表現していくことが重要な活動になります。
【本演習の意義】
本演習の意義は、日々の生活における欲望の力を考察し、欲望を正しく解放すること、すなわち欲望が誤った方向に流れていかないように、欲望を正しくコントロールすることです。そうすることによって、私たちは、私たちの現実の世界を、少しでもよりよいものにしていくための批判的な視座を獲得することを目指します。

【到達目標】
①私たちの思考や行為がどのように社会に関与しているかを理論的に考察することができます。つまり、私たちの思想を表現するために、簡単な文章から難しい哲学的テキストに至るまで**「読む力」**を身につけることができます。
②私たちの思考や行為をどのように表現すれば良いかを実践的に学ぶことができます。私たちの思考の生産物は、どのようにすればより良くなるのかを実践的に体験することで、**「書く力」**を身につけることができます。
③私たちの思考や行為が他者にどのように伝わっているかを技術的に学ぶために、自分が表現したものを公的に発表することで、**「表現力」**を身につけることができます。
④私たちの思考や行為が社会にどのように影響を与えることができるかを実際的に学ぶために、国際文化情報学会などの機会を利用して**「プレゼンテーション力」**を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】
◆通常の授業では、次の二つの研究を主にして進めていきます。
①指定テキストに基づいた**「グループ研究」**
ゼミ生をいくつかのグループに分け、グループごとに事前に担当箇所の「テキストを読解」し、「レジュメを作成し」、ゼミ当日に担当グループが「発表」し、それ以外のゼミ生と「討議」します。そうすることで、テキストの理解を深めます。**演習の基本となる研究なので、最も重要な活動になります。**
②自分のテーマを研究する**「個人研究」**
個人の研究テーマは、演習の時間内で「発表」してもらいます。ゼミ生各自が自らのテーマに即して研究を進めます。**個人研究のテーマは、グループ研究【ゼミのテーマ】とはまったく関係なくてもかまいません。**最終的に、研究の成果を、学期末・年度末に「ゼミ論」や「ゼミ制作」（2・3 年生）、年度末に「ゼミ総括論文」や「ゼミ総括制作」（4 年）にまとめてもらいます。**個人研究は、自分の思想の表現として最も自由に研究できるテーマを担当教員と相談しながら、進めていきます。**
◆ゼミ全体の課題
本演習では、毎年 12 月に開催される「国際文化情報学会」にインスタレーション部門で発表をしています。2022 年度も、学会で発表する予定にしています。希望者があれば、他の部門（論文部門、ポスター部門、映像部門）にも参加を予定しています。
◆学年による課題
③２年生・３年生については、「グループ研究」に重点を置きながら、「読む」「書く」「発表する」「プレゼンする」ための「力」を身につけることが重要です。４年生については、個人研究をまとめあげて、思考表現の「パフォーマンス」を様々な媒体=メディアで発表できるように仕上げていきます。
④課外活動として、年２回（夏・冬）行う「ゼミ合宿」を実施します。
(1) 初夏には、「ゼミ遠足」を計画しています。これは、互いのテーマや関心について自己紹介しながら、ゼミに慣れることが目的です。
(2) 夏のゼミ合宿は、東京を離れて、様々な地域を訪問することで、その地域にある美術館や博物館、資料館などを訪ね、表現の仕方の多様性を学びます。
(3) 冬のゼミ合宿は、２・３年生の「ゼミ論」・「ゼミ制作」、４年生の「ゼミ総括研究」・「ゼミ総括制作」の合評会を行い、互いの「表現」を批評し合います。
⑤個別の希望者には、外部講師と連繋した「課外セミナー」や美術館・博物館などの公共施設の訪問なども考えています。コロナ禍の状況ではまだ未確定ですが、できれば戦後日本の視覚芸術と社会運動の関係性を研究しているワシントン大学（米国・シアトル）の教員と連絡を取り、当地での合宿も実施したいと考えています（自由参加・自費）。
◆ 2021 年度も、例年と同様に、川村たつる先生（本学非常勤講師・デザイナー）のご協力をお願いするつもりです。川村先生には、おもに個人研究の作品制作について直接的な指導をお願いします。また、理論指導ならびに論文表現については、森村が担当します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プレゼミ	1. 顔合わせ 2. 今後の方針 3. 授業の進行など
2	グループ研究① 田中正之編『現代アート 10 講』(1)	・美術作品とそうでないもの――デュシャン、ポップ・アート、クーンズ
3	グループ研究② 田中正之編『現代アート 10 講』(2)	・メディウムの探求――ミニマリズムとポストミニマリズム
4	グループ研究③ 田中正之編『現代アート 10 講』(3)	・抽象表現主義と絵画、あるいは絵画以上のもの――ポロック、ニューマン、ロスコ
5	グループ研究④ 田中正之編『現代アート 10 講』(4)	・コンセプトが前景化するとき――コースースから始める
6	グループ研究⑤ 田中正之編『現代アート 10 講』(5)	・美術における身体表象とジェンダー――眼差しの権力とフェミニズム・アート
7	個人研究① 前期中間発表	・個人研究の構想発表 (1)
8	グループ研究⑥ 田中正之編『現代アート 10 講』(6)	・アート&テクノロジーの様相――メディア・アート、マクルーハン、パイク

9	グループ研究⑦ 田中正之編『現代アート10 講』(7)	・現代アートと写真――アプロプリエーションの時代からティルマンスまで
10	グループ研究⑦ 田中正之編『現代アート10 講』(8)	・現代建築を語るために――モダニズムと５つの建築をめぐって
11	グループ研究⑧ 田中正之編『現代アート10 講』(9)	・現代工芸とデザインの地平――クレイワークとうつわ
12	グループ研究⑨ 田中正之編『現代アート10 講』(10)	・ポスト 3.11 の美術――美術と社会はどう関わるべきか
13	グループ研究⑩ 田中正之編『現代アート10 講』まとめ	・現代アートと社会との関係について
14	個人研究② 個人研究　春学期・期末発表	個人研究の構想発表 (2)
15	秋学期イントロダクション	①秋学期の演習概要説明 ②学会のテーマ決定 ③総括研究の注意など
16	グループ研究① アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(1)	第１章　序論――モダン、ポストモダン、コンテンポラリー
17	グループ研究② アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(2)	第２章　芸術の終焉のあとの 30 年間
18	グループ研究③ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(3)	第３章　巨匠のナラティヴと評論の原理
19	個人研究① 「ゼミ論」中間発表①	ゼミ生の個人研究発表（1）
20	グループ研究④ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(4)	第４章　モダニズムと純粋芸術批判――クレメント・グリーンバーグの歴史像
21	グループ研究⑤ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(5)	第５章　美学から美術評論へ
22	グループ研究⑥ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(6)	第６章　絵画、そして歴史の境界――純粋なものの消滅
23	グループ研究⑦ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(7)	第７章　ポップ・アートと過ぎ去った過去
24	グループ研究⑧ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(8)	第８章　絵画、政治、そしてポスト・ヒストリカルな芸術
25	グループ研究⑨ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(9)	第９章　モノクローム芸術の歴史博物館
26	グループ研究⑩ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(10)	第１０章　美術館と渇いた大衆
27	グループ研究⑪ アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』(11)	第１１章　歴史のさまざまな様相――可能性と喜劇
28	個人研究② 「ゼミ総括研究」最終発表②	ゼミ生の個人研究発表（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

グループ研究の発表のためには、グループのメンバーが授業前に集まって準備する必要があります。メンバーが集まることで、テキストについての互いの理解が深まったり、わからなかった箇所を検討することができたり、テキストを理解するために必要な情報を他の資料やインターネットから得たりすることができます。これらの準備学習をすることで、仲間たちとのコミュニケーションが円滑になり、発表担当外の仲間から授業中に出される質問に対して、適切に応えることができるようになります。

そのために、授業外にグループで集まって集中学習することが、ゼミ内の活性化にも繋がり、各自の研究の広がりと深みを増すことになります。したがって、ゼミの事前研究のために時間は、週に二、三回、各２時間程度かかることを前提としてください。

【テキスト（教科書）】

(1) 田中正之編『現代アート 10 講』武蔵野美術大学出版局、2017 年
(2) アーサー・C・ダントー『アートとは何か――芸術の存在論と目的論』、2018 年
(3) アーサー・C・ダントー『芸術の終焉のあと』三元社、2017 年。
(4) 久保田晃弘・きりとりめでる共訳・編著『インスタグラムと現代視覚文化　レフ・マノヴィッチのカルチュラル・アナリティクスをめぐって』ビー・エヌ・エヌ新社、2018 年。
(5) 阿満利麿『行動する仏教　法然・親鸞の教えを受けつぐ』ちくま学芸文庫、2011 年。
(6) 阿満利麿『社会をつくる仏教　エンゲイジド・ブッディズム』人文書院、2003 年。

【参考書】

(1) ニクラス・ルーマン『社会の芸術』法政大学出版局、2004 年
(2) 北田暁大・神野真吾・竹田恵子『社会の芸術／芸術という社会　社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルム・アート社、2016 年
(3) レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語　デジタル時代のアート、デザイン、映画』みすず書房、2013 年
(4) 北原恵『アート・アクティヴィズム』インパクト出版、1999 年
(5) 北原恵『撹乱分子@境界　アート・アクティヴィズムⅡ』インパクト出版、2000 年
(6) Nicolas Bourriaud, *Relational Aesthetics*, Les Presses du réel, 1998/2008.
(7) Sallis B. King, *Socially Engaged Buddhism*, University of Hawai'i Press, 2009.
(8) Christopher S. Queen and Sallie B. King (ed.), *Engaged Buddhism: Buddhist Liberation Movements in Asia*, State University of New York Press, 1996.
(9) Arnold Kotler (ed.), *Engaged Buddhist Reader: Ten Years of Engaged Buddhist Publishing*, Parallax Press, 1996.

【成績評価の方法と基準】

①グループ研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（30 %）
②個人研究発表・レジュメの完成度・討議の参加（30 %）
③ゼミ論（２・３年生）（40 %）／ゼミ総括研究（４年生）（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・オンライン授業の場合には、インターネットに接続可能な機器を用意してください。
・学習支援システムを基本的に用いていきますが、教員とゼミ生との連絡については様々な SNS やメールなどで、コミュニケーションを欠かさないようにしていきます。

【その他の重要事項】

【授業外の活動】

①ゼミ卒業生や大学院生との交流があります。年一回年末の「望年会」（私たちの演習では「年忘れ」の「忘年会」とは言いません。次の年を「希望の年」として迎えるために「望年会」と呼びます。一期生が 20 年以上前に、この名前をつけてくれました）には、１期生から現役のゼミ生まで、ほとんどの学年の卒業生が集まります。これは、本演習の最大の人的資産であり、他のゼミには絶対に負けない資産です。それ以外にも、様々な方面で活躍する卒業生たちの交流が、密接に行われています。

②年２回の「ゼミ合宿」もまた、基本的には全員参加してください。向上心をもって、より成長したい人が積極的に参加してくれることが前提です。ただ本演習としては、欠かすことのできない課外活動であることに変わりはありません。合宿では、ゼミ生同士の交流、教員との親睦、さらには東京近郊では体験できない他の地域の施設などの訪問など、刺激を得る機会となっています。

※　本演習では、授業外の活動が重要です。積極的に参加し、自らを磨く「修練」を積むことが本演習では要求されていますので、注意してください。

【注意と要望】

基本的に、ゼミで課される課題に集中し、他のゼミ生と交流することが重要です。もちろんゼミ生の個性と自由は尊重しなければなりませんが、ゼミは集団活動ですから、過度な個人プレーには気をつけてもらいたいです。様々なことに好奇心を持ち、互いに切磋琢磨しながら協力し、真面目に研究に取り組む人に来てもらいたいです。本演習では、地味でかまいませんから、ひとつのことに熱中できることが重要です。

【コメント】

本演習は、「情報文化演習」のひとつですが、コンピュータを用いてゼミ活動をすることはありません。ただ、作品を制作したり、研究発表をする際に、パソコンが使えると便利かもしれません。それも、気にする必要はありません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The aim of this exercise is to examine the question of "How can it be possible to engage in society (commit) by expressing one's thoughts?" In doing so, we will focus on the theory and practice of "Socially Engaged Art" [SEA]. In this exercise, it is important to refine your thoughts by giving good expression to your thoughts while working hard with each other.

【Learning objectives】

At the end of this exercise, students are expected to express one's thoughts as "thesis" or "work".

【Significance of this exercise】

The significance of this seminar is twofold. First, in order to properly communicate your intentions and thoughts to others, students can refine their expressions by reflecting on their expressions. And secondly, your good expression can enable your participation and make your real world a little better.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end paper: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%

ART300GA

表象文化演習

稲垣　立男

サブタイトル：**コミュニケーションとアート**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会とつながるアートプロジェクトやワークショップに関する実践を軸として、様々な表象文化（現代美術、現代音楽、コンテンポラリーダンス、演劇、映像、テキスト等）に関する研究を行います。様々なコミュニティとのコラボレーションを通じて、背景の異なる人々の生活や文化を学び、様々な方法で相互の考えを理解することを経験的に学びます。また、学生各自の関心のある表象分野について考察を進め、その背景となる理論についての研究を並行して行います。
研究を通じて以下のような姿勢がこの演習では重要となります。
1. 既成概念に囚われずに自由に発想すること
2. 様々な方法で他者と関わること
3. ものごとの本質を見極めること
こうした姿勢を基に各自の研究課題に取り組み、社会に繋がる問題を発見することを目標とします。このような能力は、周囲の情報に流されがちな現代社会において自らの方向を定め、日々の生活を豊かにすることになるでしょう。

【到達目標】
2、3 年生春学期
様々な表象文化について体験し、研究に関する各個人の関心について考えてみます。学期の後半では、研究発表（作品・ポスター発表）を行います。また、グループで行うワークショップに参加します。
2、3 年生秋学期
個人研究のテーマについて取り組みます。国際文化情報学会、個人研究展での研究発表に取り組みます。
4 年生春学期
個人研究について考察を深めていきます。特に先行研究の調査が中心となります。
4 年生秋学期
研究の仕上げとして国際文化情報学会、個人研究展での研究発表に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
○共同研究、個人研究
・グループによる共同研究
【春学期】表象文化についての理解を深めるため、ワークショップや課題解決型学習が中心となります。
【秋学期】1 年間の研究の成果を国際文化情報学会で発表します。
・個人研究
年間を通じて個別に研究を進めます。
各学期に中間報告会及び研究発表会（展覧会）を行います。
※研究方法については以下の 2 つから選択してください。
また、学内外での研究発表も各自で検討してください。
2 年生
1. 作品制作＋制作報告書（2000 字）
2. レポート（4,000 字程度）＋ポスター
3 年生
1. 作品制作＋制作報告書（2000 字）
2. 論文（8,000 字程度）＋ポスター
4 年生
1. 作品制作＋制作報告書（4000 字）
2. 論文（16,000 字程度）＋ポスター
○ ゼミ合宿など学外での活動（年間に数回程度）
東京ビックサイトで開催される「デザインフェスタ」に参加します。（5/21-5/22）
https://designfesta.com/
2021 年度に参加した「みなとメディアミュージアム 2020→2021」（茨城県ひたちなか市）を訪問する予定です。
機会があれば東京近郊の美術館やギャラリーの展覧会や国際展、劇場での公演を鑑賞します。
○ ぜんまい（in English）
授業の冒頭に個人研究に関連したテーマで 10 分程度の英語によるプレゼンテーションを行います。
○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
・Zoom（ミーティング）
・Slack（授業に関するお知らせと各研究に関する全てのフィードバック）
・Google Classroom、Google Form（課題提出）
・Miro（ブレーンストーミング・コラボレーション）
・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/13	オリエンテーション	春学期の活動について 研究の進め方
4/20	ワークショップ 1-1（デザインフェスタ／展示プラン）	5 月 21・22 日に開催されるデザインフェスタの準備をします。会場で描くウォールペインティングと会場で販売する小作品（マルティプル）の展示プランについてディスカッションします。
4/27	ワークショップ 1-2（デザインフェスタ／作品のプレゼンテーション）	ウォールペインティングとマルティプルの展示プランについてプレゼンテーションをします。
5/11	ワークショップ 1-3（デザインフェスタ／作品の準備 1）	ウォールペインティングとマルティプルの制作をします。広報用のウェブサイト、チラシ、ポスターを準備します。
5/18	ワークショップ 1-4（デザインフェスタ／作品の準備 2）	ウォールペインティングとマルティプル、広報用のウェブサイト、チラシ、ポスターの直前の準備をします。
5/25	ワークショップ 2-1（デジタルコンテンツコンテスト/作品の構想 1）	デジタルコンテンツコンテストに応募する映像作品について、グループワークで制作します。参考作品を観ながら作品のアイディア、コンセプトについて検討します。
6/1	ワークショップ 2-2（デジタルコンテンツコンテスト/作品の構想 2）	参考作品を観ながら作品のアイディア、コンセプトについて検討します。
6/8	ワークショップ 2-3（デジタルコンテンツコンテスト/作品の制作 1）	撮影や編集など、実際の作品の制作に着手します。
6/15	ワークショップ 2-4（デジタルコンテンツコンテスト/作品の制作 2	作品の完成に向けて取り組みます。
6/22	ワークショップ 2-5（作品の講評会）	講評会

6/29	個人研究 1 （研究の構想とプレゼンテーション 1）	パワーポイントとレジュメを準備して個人研究の口頭発表を行います。4 年生による研究発表です。質疑応答を含めて一人 10 分です。
7/6	個人研究 2 （研究の構想とプレゼンテーション 2）	パワーポイントとレジュメを準備して個人研究の口頭発表を行います。2・3 年生による研究発表です。質疑応答を含めて一人 10 分です。
7/13	個人研究 3 （個人研究展 搬入／設営）	外濠校舎メディアラウンジで開催する個人研究展の搬入です。
7/20	個人研究 4 （個人研究展 講評／搬出）	個人研究展 講評／搬出
9/21	オリエンテーション 1 （秋学期の活動について・研究の進め方）	秋学期の活動について 研究の進め方
9/28	オリエンテーション 2 （夏休みの宿題講評会）	夏休みの宿題=デジタルコンテンツコンテスト静止画部門・学部パンフレットの表紙コンテストの講評会を行います。
10/5	ワークショップ 3-1 （パフォーマンス・インスタレーション／作品の鑑賞）	グループワークによる作品制作。現代アート、演劇、現代音楽など様々なジャンルの作品を鑑賞します。
10/12	ワークショップ 3-2 （パフォーマンス・インスタレーション／作品の構想）	各グループでディスカッションし、作品のテーマを選び、アイディア・コンセプトを考えます。
10/19	ワークショップ 3-3 （パフォーマンス・インスタレーション／作品の制作 1）	各グループで制作方法を考えて、実際に作品制作を始めます。
11/2	ワークショップ 3-4 （パフォーマンス・インスタレーション／作品の制作 2）	各グループでの作品制作の第二回目です。
11/9	ワークショップ 3-5 （講評会）	講評会
11/16	国際文化情報学会	プレゼンテーションの準備と構想
11/23	国際文化情報学会	プレゼンテーションの準備と確認
11/30	個人研究 5 （研究の構想とプレゼンテーション 1）	パワーポイントとレジュメを準備して個人研究の口頭発表を行います。4 年生による研究発表です。質疑応答を含めて一人 10 分です。
12/7	個人研究 6 （研究の構想とプレゼンテーション 2）	パワーポイントとレジュメを準備して個人研究の口頭発表を行います。2・3 年生による研究発表です。質疑応答を含めて一人 10 分です。
12/14	個人研究 7 （展覧会／搬入）	外濠校舎メディアラウンジで開催する個人研究展の搬入です。
12/21	個人研究 8 （講評会／搬出）	外濠校舎メディアラウンジで開催する個人研究展展の講評会と搬出です。
1/12	個人研究 9 （研究発表会）	口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1.　これまでの経験などは問いませんが、年間を通じて意欲的に取り組んでください。

2.　個人研究については担当教員と相談しながら進めていくことが大切です。質問・疑問点については教員によく相談してください。大学院などへの進学を希望されている方についても、研究の内容や方法について教員に相談して検討してください。

3.　展覧会・コンサート・映画館などで作品鑑賞する機会を持ち、また他のアートやデザインに関する実習や講義も積極的に受講するようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で使用する教科書はありませんが、いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史: 欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

沼野 雄司『現代音楽史-闘争しつづける芸術のゆくえ』中央公論新社、2021

平田オリザ『〈現代演劇〉のレッスン』フィルムアート社 、2016

各自の研究に関連する実践例（プロジェクトや展覧会）、参考文献を参照しておいてください。

1.　美術に関する展覧会や講演、ダンスや演劇などのパフォーミングアーツの公演

2.　福祉施設、博物館、広場や公園など公的空間における環境計画

3.　病院や学校など、公的な場所でおこなうワークショップなどの研究

4.　地域コミュニティのポータルサイトや映像作品、冊子などの企画制作

5.　地域活性化のためのイベントやプロジェクトなどの計画案

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、共同研究（研究への協力と貢献）個人研究（調査や研究の積極性）の合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1.　平常点（50%）

2.　共同研究（25%）

3.　個人研究（25%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの活動運営は、チームワークについての重要な経験となりますので積極的に関わってください。特に、ゼミ内のコミュニケーションのあり方について考えていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

作品制作やプレゼンテーションで PC を活用する機会が多いと思いますので､関連した実習授業を履修しておくとよいでしょう。Wordpress でのブログや SNS による情報発信も積極的に行います。課題提出では学習支援システムを活用しますので、必ず登録しておいてください。

【その他の重要事項】

演習の活動記録（ブログ）です。

http://inagakiseminar.com/document/

教員のウェブサイトです。

http://www.tatsuoinagaki.com

【Outline (in English)】

Course outline

Focusing on research on art projects and workshops for connecting people and society, we will practice and consider various representational cultures (music, performing arts, and films, among other things).

Through collaboration with various communities, we empirically study the lives and cultures of people from different backgrounds and communicate our ideas in various ways. Students will also study the field of representation that they are interested in, and will also conduct research on the theory behind them.

Learning Objectives

The following attitude is significant throughout the research.

1. Think freely without being bound by established concepts
2. Be involved with others in various ways
3. Determine the essence of things

It is our goal to examine these as individual issues and discover issues that will lead to society. Such abilities will enrich our daily lives in modern society, where the surrounding information tends to be shed.
Learning activities outside of the classroom
1. No matter your experience, please work enthusiastically throughout the year.
2. It is crucial to proceed with individual research in consultation with the instructor in charge. If you have any questions or concerns, please consult with your faculty member.
3. Have the opportunity to appreciate the work at exhibitions, concerts, movie theatres and actively take practical training and lectures on other art and design.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades are evaluated based on class activities, contribution to research, and positiveness to research. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Joint research (25%)
3. Individual research (25%)
Please refer to the attached rubric table for the exact evaluation method.
Based on these grade evaluations, those who have achieved 60% or more of the target will be accepted.

GDR300GA

表象文化演習

グアリーニ　レティツィア

サブタイトル：**現代文化創造論**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、ジェンダーやセクシュアリティの表象について学び、それにもとづく分析を行う能力を養います。
春学期に、ジェイン・ピルチャー とイメルダ・ウィラハン『キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ』(片山亜紀訳、新曜社、2009) を読み、基礎的な知識を身に着けます。その上で、『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』（稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優編、ナカニシヤ出版、2021）を教科書として、「女らしさ」「男性性」「ルッキズム」「LGBT」など、さまざまなテーマに焦点を当てながらメディアにおけるジェンダーやセクシュアリティの表象について学びます。また、文学、映画、漫画、ドラマなど、具体的な表象文化を対象として、分析を行う力を培います。
秋学期には、「ジェンダー&セクシュアリティの表象」というテーマに沿って国際文化情報学会での発表を行います。

【到達目標】
(1) 社会的・歴史的な要素を踏まえながら、表象分析が行える。
(2)　メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティ規範の再生・転覆を分析し、ディスカッションを行うことができる。
(3) 論点を整理して、口頭発表や小論文でまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として対面で行う。
(1) 演習形式で行います。
(2) 春学期は、ジェイン・ピルチャー とイメルダ・ウィラハン『キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ』(片山亜紀訳、新曜社、2009) と『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』（稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優編、ナカニシヤ出版、2021）を教科書として、ジェンダー・セクシュアリティについて学び、プレゼンテーションやディスカッションを行います。
(3) 秋学期は、河野哲也『レポート・論文の書き方入門 （第４版）』 (慶應義塾大学出版会、2018) を教科書にして、リサーチの仕方やレポートのまとめ方を学びます。また、本年度のテーマについて国際文化情報学会での発表を行うためのグループワークを行います。
　フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4/8　オリエンテーション	1 年間の授業計画について説明を行う。
第 2 回	4/15　『キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ』を読む（1）	ジェンダー・セクシュアリティに関する基本的な概念を確認する。
第 3 回	4/22　『キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ』を読む（2）	ジェンダー・セクシュアリティに関する基本的な概念を確認する。
第 4 回	5/6　『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む (1)	第 1 章「フェミニスト現象学とは何か？」、第 2 章「女の子らしい身振りとは何か？」 を読む。 メディアにおける「女性性」を中心に表象作品の分析を行う。
第 5 回	5/13『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む (2)	第 3 章「妊娠とは、お腹が大きくなることなのだろうか？」 、第 4 章「なぜ月経を隠さなくてはいけないのだろうか？」 を読む。 「月経」「妊娠」「出産」を中心に表象作品の分析を行う。
第 6 回	5/20　『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む (3)	第５章「外見を気にしてはいけないのか？」、第６章「どこまでがセクシュアル・ハラスメント？」を読む。 「ルッキズム」や「セクハラ」を中心に表象作品の分析を行う。
第 7 回	5/27　『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む (4)	第７章「一人暮らししなければ一人前じゃないのか？」、第８章「なぜ今、フェミニスト現象学なのか？」を読む。 「ケア」を中心に表象作品の分析を行う。
第 8 回	6/3『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む (5)	第９章「なぜ自分のセクシュアリティを口に出すのか？」、 第 10 章「「性別違和」とは何か？」を読む。 「LGBT」を中心に表象作品の分析を行う。
第 9 回	6/10　『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む（6）	第 11 章「男だってつらい？」、第 12 章「人種は存在するのか？」を読む。 「男性性」や「人種」を中心に表象作品の分析を行う。
第 10 回	6/17『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』を読む (7)	第 13 章「障害はどのような経験なのか？」、第 14 章「年を取ることと、老いることは同じなのか？」を読む。 「インターセクショナリティ」を中心に表象作品の分析を行う。
第 11 回	6/24　4 年生・個人研究発表 (1)	4 年生の個人研究発表をする。
第 12 回	7/1　4 年生・個人研究発表 (2)	4 年生の個人研究発表をする。
第 13 回	7/8　国際文化情報学会に向けての企画会議 (1)	国際文化情報学会に向けての企画会議をする。今年度のテーマに沿いながら、学生が案を発表し、発表部門や企画の大枠を練る。
第 14 回	7/15　国際文化情報学会に向けての企画会議 (2)	国際文化情報学会に向けての企画会議をする。今後どのように進めるのか、計画を決定する。
秋学期・第 1 回	9/23 秋学期・オリエンテーション	秋学期の計画および国際文化情報学会と論集作成に向けて説明する。
第 2 回	9/30 個人研究 (1)	研究テーマの決め方、研究計画の作り方について学ぶ。
第 3 回	10/7 個人研究 (2)	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 （第４版）』の第１章をもとに、レポート・論文の書き方について学ぶ。
第 4 回	10/14 個人研究 (3)	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 （第４版）』の第 2 章をもとに、テキスト批評について学ぶ。
第 5 回	10/21 個人研究 (4)	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 （第４版）』の第 3 章と第４章をもとに、論文の構成やテーマの設定について学ぶ。
第 6 回	10/28　個人研究 (4)	個人研究の内容を発表する方法について学ぶ。
第 7 回	11/11　グループワーク (1)	表象文化作品の案を出し、国際文化情報学会の発表内容について議論する。
第 8 回	11/18　グループワーク (2)	国際文化情報学会の発表内容について決定する。
第 9 回	11/25　グループワーク (2)	表象文化作品を実際に創　る。
第 10 回	12/2 グループワーク (3)	国際文化情報学会での発表の練り直しを行う。
第 11 回	12/9 グループワーク (4)	4 年生の個人研究発表をする。
第 12 回	12/16 個別面談	4 年生の個人研究発表をする。
第 13 回	12/23 まとめ（1）	ジェンダー・セクシュアリティ表象の用語集についてまとめる。
第 14 回	1/20 まとめ (2)	今年度の演習についてのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・春学期
ジェイン・ピルチャー とイメルダ・ウィラハン『キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ』(片山亜紀訳、新曜社、2009)、本体 3,200 円＋税
稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優編『フェミニスト現象学入門―経験から「普通」を問い直す』（ナカニシヤ出版、2021）、本体 2,200 円＋税
・秋学期
河野哲也『レポート・論文の書き方入門 （第４版）』 (慶應義塾大学出版会、2018)、本体¥ 1,000 ＋税

【参考書】
・岩渕功編『多様性との対話　ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社、2021）
・菅野優香編『クィア・シネマ・スタディーズ』（晃洋書房、2021）
・黒岩裕市『ゲイの可視化を読むー現代文学に描かれる＜性の多様性？ ＞』（晃洋書房、２０１６）
・森山至貴『LGBT を読みとく: クィア・スタディーズ入門』(ちくま新書、2017)

【成績評価の方法と基準】
春学期、秋学期ともに、研究発表とグループワーク 50 %、学期末レポート50%で総合的に評価する。
研究発表や学期末レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について論じる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションやレポート作成を行うためのパソコンなど。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course is designed to enhance students' understanding of the representations of gender and sexuality so as to enable them to use theoretical argumentation for their own analyses.
In the spring semester, we will start by reading Jane Pilcher and Imelda Whelehan's "50 Key Concepts in Gender Studies" (translated by Aki Katayama, Shinyosha, 2009). We will then read "Introduction to Feminist Phenomenology" (edited by Inharara Minae et al., Nakanishiya Shuppan, 2020) and study the representations of gender and sexuality in the media, focusing on various themes such as "femininity," "masculinity," "lookism," and "LGBT"' among others. Students will learn to analyze representations of gender and sexuality in several fields, including but not limited to literature, film, manga, and tv series.
In the fall semester, students will work on their presentations for the Intercultural Communication Conference.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
a) discuss the representation of social and political elements in literature, cinema, and popular culture.
b) analyze the role of the media in reflecting, reproducing, and subverting hegemonic gender norms.
c) connect their ideas and present them both through oral presentations and essays.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Involvement during discussion and presentation: 50%, Final essay: 50%

ART300GA

表象文化演習

岡村　民夫

サブタイトル：**場所論**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「場所」とは、私たちの文化を文字通り足下から支える基盤である。文化の観点から場所を研究するとともに、文化を「場所」の観点から見なおす。
春学期の主題として、この演習ではこれまでに「風景」「旅行」「歩行」「都市」「観光」「庭園」「スタジオジブリ」「都市の映像」「江戸・東京」などを取り上げてきた。本年度は「建築」を春学期の主題としながら場所の文化的意義とその変遷について考える。パルテノン神殿から安藤忠雄「水の教会」まで、建築および都市の歴史や諸側面について基礎教養を身につける。

【到達目標】
建築、都市、根本的には文化と場所の相互作用に関して、文献を通して知識をつけるだけではなく、作品鑑賞やフィールドワーク（とミニレポート）を通して、作品分析力、場所に対する感受性や想像力を体験的・実践的に養うことを目指す。
またゼミの諸活動を通じて、調査力、発表力、コミュニケーション力、責任感を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
春学期は、主として安藤忠雄『建築に夢をみた』についてグループ発表とディスカッションを行う。
秋学期前半は、４年生による研究発表、秋学期後半は３年生による研究発表（秋学期末レポート予備発表）を行う。秋学期の発表・レポート・卒論の主題は、場所に関する表象文化の研究であれば「建築」以外の主題でも、また作品制作でも構わない。
年間を通じ、合間に適宜、東京のフィールドワークや展覧会見学を実践する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。 一年間の計画の説明。 『建築に夢をみた』に関する概説。 春学期のグループ発表の計画。
2	江戸東京たてもの園 フィールドワーク	『建築に夢をみた』の「第 1 章　住まい」の読解の準備として近世・近代の東京の住居を体験する。
3	第１回発表 「第１章　住まい」	発表とそれをめぐる全員での討議。
4	第２回発表 「第２章　集まって住む」	発表とそれをめぐる全員での討議。
5	第３回発表 「第３章　広場」	発表とそれをめぐる全員での討議。
6	発表に関連したフィールドワーク	近郊の集合住宅のフィールドワークを予定。
7	第４回発表 「第４章　都市 I ―二〇世紀の夢」	発表とそれをめぐる全員での討議。
8	第５回発表 「第５章　都市 II ―都市に生きる」	発表とそれをめぐる全員での討議。
9	第６回発表 「第６章　都市 III ―都市の記憶」	発表とそれをめぐる全員での討議。
10	発表に関連したフィールドワーク	東京駅・丸の内フィールドワークを予定。
11	第７回発表 「第８章　場をつくる」	発表とそれをめぐる全員での討議。
12	第８回発表 「第 10 章　復興から」 教員講義	発表とそれをめぐる全員での討議。 前期レポートに関するレクチャー。
13	第９回発表 「第 11 章　庭園」	発表とそれをめぐる全員での討議。
14	春学期レポート提出 フィールドワーク	表参道・青山フィールドワークを予定。 ３年は春学期やった主題に関するレポートを提出。 ４年は自由研究レポートを提出。
1	秋学期ガイダンス 教員講義	新ゼミ長ほかの挨拶。 秋学期の計画の説明。 教員による『建築に夢をみた』「第９章　人を育てる場」補講。
2	第１回個人研究発表	４年生による研究発表。
3	第２回個人研究発表	４年生による研究発表。
4	フィールドワーク	日本民藝館を予定。
5	第３回個人研究発表	４年生による研究発表。
6	第４回個人研究発表	４年生による研究発表。
7	第５回個人研究発表	４年生による研究発表。
8	フィールドワーク	回遊式庭園を予定。
9	第６回個人研究発表	３年生による個人研究発表。
10	第７回個人研究発表	３年生による個人研究発表。
11	国際文化情報学会準備、あるいはフィールドワーク	国際文化情報学会の展示物の作成等。 学会参加しない場合は日本橋フィールドワーク。
12	第８回個人研究発表	３年生による個人研究発表。 卒業研究指導。
13	フィールドワーク	３年生の研究レポート提出。
14	フィールドワーク	４年生の卒業研究提出。 初詣を兼ねた神田フィールドワーク。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
-発表や研究に関する文献調査やフィールドワークや作品鑑賞。
-ゼミ生と相談のうえ国際文化情報学会で研究発表をする。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
-「ブラタモリ」の視聴や、法政大学江戸東京研究センターのイベント参加を推奨します。

【テキスト（教科書）】
安藤忠雄『建築に夢をみた』（NHK ライブラリー,2002 年）920 円

【参考書】
藤森照信『人類と建築の歴史』ちくまぷりマー新書
『増補新装 カラー版 西洋建築様式史』美術出版社

【成績評価の方法と基準】
ゼミ参加度 (50 %）と期末レポート（50 %）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の議論をより活発にする。メリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の発表では必ず配布資料（メール添付でも可）を用意すること。

【その他の重要事項】
-100 分では発表・ディスカッションもフィールドワークも終えられませんので、サブゼミへの参加が必須です。
-書籍を買ったり、美術館へ行ったり、映画鑑賞をしたり、街歩きや旅行をしたりする好奇心と体力と余裕がある必要があります。
-ゼミのメンバーと協力しあい、責任を分担してください。

【Outline (in English)】
"Place" is the basis supporting our culture. In this class, we study "Place" from the standpoint of culture and observe culture from "Place". We dealt with "Landscape", "Travel", "Walking", "City", "Tourism", "Garden", "Studio Ghibli", "City Image" , "Edo-Tkyo"as the theme of this class. The theme of this spring semester is "Architecture".
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to understand the importance of an interaction between the culture and the place.
【Learning activities outside of classroom)】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
【Grading Criteria /Policy)】Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report:50%, in class contribution: 50%

ART300GA

表象文化演習

島田　雅彦

サブタイトル：**メディア研究、作品批評、創作**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　具体的には小説やエッセイ、脚本、企画書の書き方を学びながら、個々の興味に即した研究テーマの選択から始める。文化研究、サブカルチャー研究を希望する者には個別指導を行うが、自分の研究テーマがない場合は共通テーマに基づき、リサーチや分析を行う。本年度は「時間と場所」、「ジャンルと形式」、「神話と元型」などのテーマに基づき、文学、音楽、映画、サブカルチャーの作品分析を行う。研究成果は論文、フィクション、映像作品に仕上げることも可能。両者に共通しているのは、コンテンツ作りの具体的ノウハウ、理解や共感を作り出す実践的な表現テクニックを磨くレッスンを行うことである。

【到達目標】
　秋学期の学部学会に向け、計画的に論文、作品制作をすすめ、より完成度の高い映像作品の制作、問題に鋭く切り込む批評、エッセイの執筆をする。個々の中に眠っている表現欲や表現スキルを春学期のうちに開発し、秋学期にはその集大成をする。演習時に各テーマに関するリアクションペーパーの評価を受け、教員と議論をかわすが、学期の終わりには各自の研究、創作の発表機会を持ち、その内容、プレゼンテーションの仕方を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　セメスターの初めに企画会議を行い、各班の方針を決め、早速、必要なレッスンの準備に取り掛かる。またゼミ生が個人的に興味を抱いているテーマを聞き、今後いかに研究を進めるべきか、またどのような形態でその成果を発表するかの相談を受ける。共通の問題系での思考、議論を通じ、また個人研究の指導を通じ、コンテンツ作りに必要な企画力、事務能力を育めればと思う。春学期はエッセイや論文、シナリオや映像の試作品を作ることに当てられるだろう。課外授業を挟んで、秋学期には春学期の成果を生かし、公開可能なレベルの映像作品、エッセイ、そして論文の完成までを指導する。
　文章であれ、音楽であれ、映像であれ、身体表現であれ、表現意欲や好奇心あふれる諸君、眠っている才能を開花させたい学生、プレゼン能力を向上させたい学生などの能動的な参加を望む。演習時に各テーマに関するリアクションペーパーの評価を受け、教員と議論をかわすが、学期の終わりには各自の研究、創作の発表機会を持ち、その内容、プレゼンテーションの仕方を評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回はじめに	ゼミの狙い	自己紹介の発展形としてのセルフプロモーション
第二回企画	「時間と場所」前半	個々のテーマ設定と共通テーマの説明
第三回企画	「時間と場所」後半	リアクションペーパーに基づく討議
第四回実習	「ジャンルと形式」前半	テーマ説明とレクチャー
第五回実習	「ジャンルと形式」後半	課題発表と質疑応答
第六回実習	「神話と元型」前半	関連レクチャー
第七回発表	「神話と元型」後半	課題発表と共同討議
第八回個人研究	個人テーマあるいは共通テーマに基づく研究、創作計画の選択	それぞれのテーマ選びに際し、アドバイス
第九回個人研究	個人テーマあるいは共通テーマに基づく研究、創作計画の吟味	個別相談
第十回共同制作	中間発表会前半	研究論文、エッセイ等の途中経過発表、個別指導
第十一回共同制作	中間発表会後半	研究論文、エッセイ等の報告、個別指導
第十二回共同制作	表現レッスン実践編前半	小説、シナリオ、エッセイの執筆と指導映像作品の試作、ロケハン、リハーサル、撮影①
第十三回共同制作	表現レッスン実践編後半	映像作品の試作。ロケハン、リハーサル、撮影②
第十四回共同制作	発表会	春学期の成果報告
第十五回共同制作	夏休みの課題の発表	課題の発表と評価、討議
第十六回共同製作	新たな企画　共同研究もしくは共同制作討議	企画会議、ゼミ共同での研究もしくは映像作品の共同制作の模索
第十七回個人作品制作	企画の吟味　共同研究もしくは共同制作決定	企画会議、ゼミ共同での研究もしくは映像作品の共同制作のテーマ決定
第十八回個人作品制作	追加リサーチの指示	個別指導
第十九回論文指導	映画鑑賞	教員推薦映画の鑑賞と論評
第二十回論文指導	中間発表前半	個人論文テーマについてのインタビュー
第二十一回個人作品制作	中間発表後半	個人論文指導
第二十二回個人作品制作	短編小説鑑賞	教員推薦小説の鑑賞と論評
第二十三回個人作品制作	共同研究、共同制作の指導前半	研究論文、小説、映像、等の吟味
第二十四回学会準備	共同研究、共同制作の指導後半	共同研究論文、共同制作した映像の吟味
第二十五回学会準備	春学期、秋学期に作った作品の吟味	完成に向けた指導
第二十六回学会準備	春学期、秋学期に作った作品の修正	完成に向けたサポート
第二十七回学会発表	一年の成果の公開	完成度アップし、学会発表
第二十八回学外発表	最終研究成果の提出	最終チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課外活動として、取材、撮影、ロケハンなどあり。ゼミの時間外にこちらが推薦する映画、書籍にできるだけ多く触れること。

【テキスト（教科書）】
「小説作法 ABC」新潮社刊　それ以外は授業で指示する。

【参考書】
　授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
　共同製作での役割、個人研究の成果、学部学会発表などの総合的評価で決定する。評価基準は平常点 40 %、レポート、論文 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
　共同作業の中では必ずサボる学生がいる。ゼミ内の温度差を解消する。

【その他の重要事項】
２０２２年度は水曜日の４限に授業を行う。

【Outline (in English)】

Specifically, while learning how to write novels, essays, scripts, and project plans, start with the selection of research themes that are appropriate for each individual interest. For those who wish to study cultural studies and subculture studies, they will be provided individual guidance, but if there is no research theme of their own, they should research and analyze based on common theme. This year, we plan to analyze various works of literature, music, movies, and comics based on themes such as "time and place," "genre and form," and "myth and archetype."It is also possible to finish research results into papers, fiction, video works. What is common to both is to do concrete know-how on content creation, lessons for learning practical expressive techniques to create understanding and sympathy.A planning meeting will be held at the beginning of the semester, the policies of each group will be decided, and the necessary lessons will be prepared immediately. In addition, we will listen to the themes that the seminar students are personally interested in, and receive consultations on how to proceed with research in what form the results will be expressed. Through thinking and discussion on common themes, and through guidance in individual research, we hope to develop the planning and clerical skills necessary for content creation. The spring semester will be devoted to making essays, dissertations, scenarios and video prototypes. With extracurricular lessons in between, in the fall semester, we will make use of the results of the spring semester and teach the completion of video works, essays, and dissertations that can be published. At the end of the semester, we have an opportunity to present our research and creations. The content and presentation method would be evaluated The evaluation criteria are 40% for normal points and 60% for reports and dissertations.

ART300GA

表象文化演習

深谷　公宣

サブタイトル：**映画研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「映画からみる社会」をテーマとし、映画・映像作品の分析を行う。映画は時代や社会を反映している。作品分析により、時代や社会の有様が見えてくる。一年間の演習を通し、学生は映画作品分析力とそれに基づいた社会観察力を養う。

【到達目標】
(1) 映画の社会的構成要素を検証できる。
(2) 映画の美学的構成要素を検証できる。
(3) 一次資料、二次資料を用いて作品分析を行い、そこから得た知見をもとに、研究発表や論文執筆、創作活動を行うことができる。
また、以上 3 点に付随して、次の力・姿勢も身につける。
・批判的視点
・創造的意欲
・文章作成やコミュニケーションに必要なロジックとパッション

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・春学期：教員が課した映画作品について、担当学生が調査・分析した結果を発表し、意見交換する。必要に応じて研究に資する参考資料を読む。
・秋学期：各自、テーマを設定し、研究／制作を進める。授業では、研究／制作報告、質疑応答、討議を行う。
・研究成果：「ゼミ論文」または「映像作品」にまとめる。後者の場合は、制作過程に関するレポートも提出する。
・フィードバック：ゼミ論文、制作レポートは、提出後にコメントを付して返却する。
・その他：研究／制作発表の媒体として、zine（小冊子）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	授業の概要説明 ・担当者の決定
2	『ウェストサイド・ストーリー』（リメイク版）	映画鑑賞
3	『リメンバー・ミー』	家族 (1) ・死生観 ・参考映画紹介：『洗骨』
4	『インクレディブル・ファミリー』	家族 (2) ・夫婦関係 ・参考映画紹介：『Mr. インクレディブル』
5	『トランスアメリカ』	ジェンダー (1) ・トランスジェンダー ・父子関係
6	『クライ・マッチョ』	ジェンダー (2) ・マチズモ ・国境
7	『スリー・ビルボード』	正義と逸脱 (1) ・暴力 ・フリークス
8	『ウォッチメン』	正義と逸脱 (2) ・自警団 ・冷戦 ・参考映像紹介：『ウォッチメン』（HBO 版）
9	『風の谷のナウシカ』	戦争 (1) ・反戦 ・自然環境
10	『ライオンキング』	劇場鑑賞
11	題目発表会	研究テーマと概要の発表（4 年生）
12	『スウィング・キッズ』	戦争 (2) ・自由 ・イデオロギー ・参考映画紹介：『ホワイトナイツ』
13	『ニワトリはハダシだ』	障がい (1) ・引き揚げ ・ケア
14	『ドント・ウォーリー』	障がい (2) ・孤児 ・赦し
15	秋学期オリエンテーション	研究／制作計画書の提出と報告（3 年生） ・zine 作成準備
16	中間発表会	研究／制作の主題とアウトラインの発表（4 年生）
17	進捗報告 1 回目 (1)	研究／制作報告と意見交換（1） ・zine 作成（1）
18	進捗報告 1 回目 (2)	研究／制作報告と意見交換（2） ・zine 作成（2）
19	進捗報告 1 回目 (3)	研究／制作報告と意見交換（3） ・zine 作成（3）
20	進捗報告 2 回目 (1)	1 回目の進捗報告を踏まえて、研究／制作報告と意見交換（1） ・zine 作成（4）
21	進捗報告 2 回目 (2)	1 回目の進捗報告を踏まえて、研究／制作報告と意見交換（2） ・zine 作成（5）
22	進捗報告 2 回目 (3)	1 回目の進捗報告を踏まえて、研究／制作報告と意見交換（3）
23	フィールドワーク	映画関連施設を訪問し、実地学習
24	ワークショップ	制作に関わる諸活動 ・zine 出版・展示準備
25	進捗報告 3 回目 (1)	2 回目の進捗報告を踏まえて、研究／制作報告と意見交換（1）
26	進捗報告 3 回目 (2)	2 回目の進捗報告を踏まえて、研究／制作報告と意見交換 (2)
27	進捗報告 3 回目 (3)	2 回目の進捗報告を踏まえて、研究／制作報告と意見交換 (3)
28	成果発表会	研究／制作の結論部分を発表（3 年生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で扱わない映画作品も積極的に観る。
・下記【参考書】に記載の資料、授業で配布された参考資料を読む。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。授業で読む論文やエッセイ等はプリント配布する。（従って教科書代は不要だが、劇場での作品鑑賞、レンタル・配信サービス利用料が実費でかかる。）

【参考書】
・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
・ボードウェル、トンプソン『フィルムアート　映画芸術入門』（名古屋大学出版会）
・ライアン『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社）
・ゴックシク他『映画で実践！　アカデミック・ライティング』（小鳥遊書房）
・ジャン・ミシェル＝フロドン『映画と国民国家』（岩波書店）
・佐藤唯行『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（NTT 出版）
・栗林輝夫他『シネマで読むアメリカの歴史と宗教』（キリスト教新聞社）
・岩本憲児他編『新・映画理論集成〈1〉歴史・人種・ジェンダー』（フィルムアート社）
・中条省平『クリント・イーストウッド』（ちくま文庫）
・森崎東『頭は一つずつ配給されている』（パピルスあい）

【成績評価の方法と基準】
・授業への参加度（発表と発言）　40%
・提出物　20%
・研究成果（論文等）　40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・特になし。

【その他の重要事項】
・国際文化情報学会への参加の有無は学生と相談して決める。
・授業で扱う作品は進行状況等により変更する場合がある。

【Outline (in English)】
・Course outline: In this seminar we study films for social observation. Film works are often intended to reflect their age and society; a detailed exploration of films enables us to see how society is shaped during a certain period. The seminar aims to develop our ability to examine films, as well as our way of looking at society through film analysis.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to examine the social and aesthetic aspects of moving images, so that they can analyze and criticize films, or they may even create original short films.

· Learning activities outside of the classroom: go to movies and read the recommended books listed in the "References".
· Grading Criteria/Policy: Class participation 40%, Mini-paper 20%, Final paper 40%. The minimum passing grade is 60%, which indicates that the student has achieved the learning objectives.

ART300GA

表象文化演習

竹内　晶子

サブタイトル：**比較文化・比較演劇**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較演劇・比較文化
「演劇と越境」がテーマ。言語、文化、国籍、ジャンル、性別など、さまざまな「境」を演劇がどう乗り越えていき、新しい作品を作り出していくのかを、具体的な作品鑑賞と分析を通じて考えていきます。
キーワード：ジェンダー、オリエンタリズム、翻案、異性装、演劇、映画、アニメ、ミュージカル、オペラ、能、現代演劇

【到達目標】
・小説、漫画、ミュージカル、映画、アニメ、舞台劇、テレビドラマ、古典演劇など、異なるジャンルの作品間の比較文化的な分析ができるようになる。
・オリエンタリズムやジェンダー、演劇論といった理論を応用した作品分析ができるようになる。
・日本の古典演劇について、基本的な知識を身につける。
・先行研究をふまえ、細密なテキスト分析にもとづいた、客観的かつ説得力をもった論文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
春学期はジェンダーやオリエンタリズムの理論を学びます。ディズニーアニメ『白雪姫』、実写映画『スノーホワイト』（2012 年）とミュージカル"Pacific Overtures" (1976) という事なるジャンルの作品を取り上げ、学んだ理論を実際に用いて作品分析を試みます。
秋学期は、シェイクスピア三大悲劇の一つ「オセロ」を取り上げます。セリフ劇として作られたこの作品がオペラ、映画、新作能としてどのように翻案されていったのかを、基本的な演劇理論を学んだうえで、台本・上演映像と先行研究の分析をもとに考察していきます。演劇における異性装の問題、舞台と観客の関係、演劇における「非リアリズム」の問題などが、考察の際の大きな問題となるでしょう。
また授業外でも、状況が許す限り、上記の様々なジャンルの舞台に足を運ぶ予定。両学期ともに、学生には各自研究発表を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
2	ジェンダー論	ジェンダー理論概説、原作『白雪姫』批評
3	アニメ『白雪姫』鑑賞	映画鑑賞とディスカッション
4	アニメ『白雪姫』分析	『白雪姫』にみる性役割規範についてディスカッション
5	アニメ『白雪姫』先行研究考察	『白雪姫』先行研究の批判的読解
6	映画『スノーホワイト』鑑賞	映画鑑賞とディスカッション
7	映画『スノーホワイト』ディスカッション	『白雪姫』と『スノーホワイト』の比較分析
8	映画『スノーホワイト』先行研究考察	『スノーホワイト』先行研究の批判的読解
9	オリエンタリズムとジェンダー	理論概説
10	Pacific Overtures 台本購読 I	台本輪読
11	Pacific Overtures 台本購読 II	台本輪読
12	Pacific Overtures 舞台鑑賞	舞台鑑賞
13	Pacific Overtures ディスカッション	ディスカッション
14	Pacific Overtures 先行文献	先行文献購読
15	イントロダクション	授業内容の紹介と説明
16	「オセロ」原作	原作購読とディスカッション
17	「オセロ」原作先行研究	先行研究購読
18	映画「オセロ」鑑賞	鑑賞
19	映画「オセロ」ディスカッション	ディスカッション
20	オペラ「オセロ」鑑賞	鑑賞
21	オペラ「オセロ」ディスカッション、先行研究購読	ディスカッションと先行研究購読
22	新作能「オセロ」鑑賞	鑑賞
23	新作能「オセロ」ディスカッション	先行研究購読とディスカッション
24	「夢幻能でクナウカなオセロー」鑑賞とディスカッション	作品鑑賞、ディスカッション
25	学生発表 I	期末論文の中間発表①ディスカッション
26	学生発表 II	期末論文の中間発表②ディスカッション
27	学生発表 III	期末論文の中間発表③ディスカッション
28	まとめ	総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキストを読み、発表準備をすること。
・期末論文の調査・執筆・書き直し。
・本授業の準備・復習時間は、平均 4 時間程度を基準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】
・エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』平凡社、1992 年。
・若桑みどり『お姫様とジェンダー　アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）筑摩書房、2003 年。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30 パーセント
・課題提出　20 パーセント
・発表　20 パーセント
・期末論文　30 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
板書を多用します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】In this course, students will learn how to analyze various socio-cultural issues, especially issues related to gender and orientalism, represented in films and diverse theatrical genres.
Key words: films, musicals, opera, animation films, noh, adaptation, cross gender performance, gender, orientalism, theater semiotics
【Learning Objectives】
Students will learn how to compare and analyze plays of various theatrical traditions and genres.
【Learning Activities outside of Classroom】
If the situation allows, let us go to the theater together.
【Grading Criteria/Policy】
Assignments: 20%
Participation in class discussion: 30%
Presentations: 20%
term paper: 40%

ART300GA

表象文化演習

大嶌　徹

サブタイトル：**ポップ・カルチャー／ポピュラー音楽の系譜**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
あらゆる文化は「不要不急」でしょうか。そして新型コロナウイルス感染症とともに、私たちは今、何を愛しみ、何をこらえて生きているのでしょうか。この演習では、「集う文化」の典型とも言えるポピュラー音楽を手がかりに、あらゆるポップ・カルチャーの「集う」様式、私たちが「つながり」「アイデンティティ」「共感」と感じているものについて、参加者（履修者）がともに学び、議論し、考えを深めていきます。
あなたの日常を彩る SNS を通じて、あなたはそもそも何を共有し、何を伝えようとしているのでしょう？ あるいは人々はなぜ音楽を通じて集うのでしょう？ ロック、ポップミュージック、パンク、ソウル、ヒップホップ、EDM、テクノ＆レイヴ、エレクトロニカ、アンビエント、J-POP、K-POP、アイドル、アニソン・・・こうした音楽やライブの伝える喜びや熱狂は、オンラインになると何がどう伝わって何が伝わらないのでしょうか。演習では、ポップ・カルチャーの成立要素、流行とヒットソング、ファンダム（オタク）的行動様式、インターネットや SNS をめぐる諸現象など、文化とメディアとの関わりを通して見える社会のあり方にするどく迫ります。

【到達目標】
・あらゆる美的形式（音楽、映像、文学、ダンス、舞台、マンガ、アニメ、ゲーム、造形芸術、その他何でも）に軽やかにアクセスできる、自分が「いい」と思えるものを追いかけるフットワークを持てること。
・メディアの構造やポピュラー音楽の基本構成要素、モダニズムの形式に関する知識を得て、批判的な洞察を行うことができる。
・文化研究の諸概念、「記憶」「世代」「身体」「アイデンティティ」「文化受容」等の概念の意味、ポップ・カルチャー（拡大芸術）の歴史的展開を理解することができる。
・ポピュラー音楽／ポップ・カルチャーという現象の特質や、個々の作品やシーンに関するテーマで、論理的に明解でまとまった自分のテーゼを提示できる。
・良い観察者、良いリスナーになれる。ミュージシャン／作曲家と批評家の関係、正当な批評とは何か、芸術批評は印象批評を超えることができるのか、多様化する芸術形式をめぐる問題について思考できる。
・芸術と政治・社会との関わりとその困難に対し、誠実な想像力を持つことができ、それに関する自身の思考を言語化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・法政大学の 2022 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。
・両学期ともに、参加者は研究発表を行います。
・春学期と秋学期初頭は、20 世紀から現代にかけてのポピュラー音楽と文化現象の枠組みを時系列的に概観します。参加者は自身の分担部分について発表を行います。
・秋学期は、自身のテーマで発表を行う方法で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究発表の分担決定、「音楽」「文化」について日頃感じていること、ポピュラー音楽と自分の関わりについてざっくばらんに話す
2	「ポピュラー音楽」と「ポップカルチャー」の基本のき	「ポピュラー音楽」じゃない音楽って何？ ポピュラー音楽とポップカルチャー、楽曲形式（1）
3	音楽と社会（1）— テクノロジーの夜明け	大量生産・大量消費時代の幕開け、著作権とレコード（フォノグラフ、グラモフォン）の誕生
4	音楽と社会（2）— 技術革新とメディアの変容	戦争とラジオとマイクロフォン、映画館とダンスホール、ジャズ・エイジの到来、楽曲形式（2）
5	音楽と社会（3）— 若者・階級・音楽	余暇の誕生、中産階級の産み出した若者世代、ラジオと「音楽番組」
6	音楽と社会（4）— 新しいメディア・新しい音楽	大量消費社会と「アメリカ」の時代、「ティーンエイジャー」の発明とロックンロール
7	音楽と社会（5）— ラジオとテレビと映画と音楽	「スター」を求めて、音楽番組のための音楽、「LP レコード」と「ドーナツ盤（45 回転シングル）」
8	人種と階級（1）— 音楽が社会を変革する？	ロックンロールからロックへ、フォークソングとビートニク、「レイス」から「ソウル」へ
9	「熱狂」を求めて（1）— カウンターカルチャーの台頭	「追っかけ」という人々、ロックの市場価値、FM ラジオとヒットチャート、ヴェトナム戦争と音楽フェスティバル
10	人種と階級（2）—「抵抗の証」が一大文化産業になる	「ポップ戦略」とブリティッシュ・インヴェイジョン、「アートスクール」から世界へ
11	人種と階級（3）— 労働者階級の誇りと人間の尊厳	「パンクはアティテュードだ」、スカとレゲエの存在理由、「ソウル」から「ファンク」へ
12	ダンスと音楽と MTV — 見る音楽とジェンダー・セクシュアリティ	疲弊する工業都市の文化、ディスコと「見る音楽」、「女性ロックミュージシャン」という職業
13	人種と階級（4）— サンプリングあるいは冷戦の終結	DJ というアーティスト、ヒップ・ホップという生き方、ハウス／テクノが興隆する理由
14	熱狂を求めて（2）— レイヴ・ドラッグ・インディーズ	「バンドエイド」の真実、「舞台の下で」つながる、クラブとレイヴがダメになる理由
15	「日本のロック」— 洋楽 VS. 邦楽	グループサウンズと「アメリカ」、ロックかフォークか？「はっぴいえんど」の登場と「日本」というコンテンツ
16	「ガラパゴス化」の起源？— 記号化するアイドル	歌謡曲とニュー・ミュージック、「テレビに出ない」、「清く正しく美しい」スターたち
17	熱狂を求めて（3）— J-POP とバンドとインストアライブ	アイドルの「オタク」、「渋谷系」と蒐集する文化、J-POP と WINMX と CCCD
18	熱狂を求めて（4）—「スター」から「推し」の時代へ	Wi-fi と Youtube、iPod/iTunes からストリーミングへ、会いに行けるアイドルと K-POP の目指す世界
19	研究発表（1）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
20	研究発表（2）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
21	研究発表（3）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
22	研究発表（4）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
23	研究発表（5）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
24	研究発表（6）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
25	研究発表（7）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
26	研究発表（8）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
27	研究発表（9）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う
28	研究発表（10）	各分担者の選んだテーマに沿って研究発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・自分にとって楽しいこと、大好きだと思えることに没頭して、知識と経験を増やすこと。
・各自に必要な文献を読み、研究発表の準備のための資料にアクセスすること。
・自分にとって大切な外国語（もちろん SA 先言語を含む）をしっかり勉強すること。
・毎日活字に目を通す、特に日刊紙を読むこと。
・あなたの日常そのものが、あなたの選ぶ学びのテーマにつながっています。この演習に参加した経験が、充実した日々の営みとなり、自分の人生の糧となることに自信を持ってください。
・自分が何かを大切に思っていること、人と話す時間を愛しんでください。あらゆることに積極的にチャレンジして、心揺さぶられる体験にたくさんめぐりあってください。

【テキスト（教科書）】
毛利嘉孝『ポピュラー音楽と資本主義』（せりか書房、2012 年）
大和田俊之・柳樂光隆・南田勝也『ポップ・ミュージックを語る 10 の視点』（アルテスパブリッシング）2020 年

【参考書】
・ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
・マーシャル・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987 年

・Th.-W. アドルノ（三光長治・高辻知義訳）『不協和音 ― 管理社会における音楽』（平凡社）1998 年／ Th.-W. アドルノ（高辻知義・渡辺健訳）『音楽社会学序説』（平凡社）1999 年
・ヨッヘン・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史 ― ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017 年
・ヘンリー・プレザンツ（片岡義男訳）『音楽の革命 ― バロック・ジャズ・ビートルズ』（晶文社）1971 年
・スーザン・マクレアリ（女性と音楽研究フォーラム訳）『フェミニン・エンディング　音楽・ジェンダー・セクシュアリティ』（新水社）1997 年
・ピーター・ファン＝デル＝マーヴェ（中村とうよう訳／横関裕子・守屋純子協力）『ポピュラー音楽の基礎理論』（ミュージックマガジン社）1999 年
・ジェイソン・トインビー（安田昌弘訳）『ポピュラー音楽をつくる ― ミュージシャン・創造性・制度』（みすず書房）2004 年
・ウルフ・ポーシャルト（原克訳）『DJ カルチャー　ポップカルチャーの思想史』（三元社）2004 年
・ニール・ガブラー（中谷和男訳）『創造の狂気 ウォルト・ディズニー』（ダイヤモンド社）2007 年
・クリストファー・スモール（野澤豊一、西島千尋訳）『ミュージッキング ― 音楽は"行為"である』（水声社）2011 年
・ジェフ・チャン／ DJ クール・ハーク（押野素子訳）『ヒップホップ・ジェネレーション（新装版）』（リットー・ミュージック）2016 年
・スティーヴン・ウィット（関美和訳）『誰が音楽をタダにした? ― 巨大産業をぶっ潰した男たち』（早川書房）2016/2018 年
・ゾーイ・フラード＝ブラナー＆アーロン・M・グレイザー（関美和訳）『ファンダム・レボリューション － SNS 時代の新たな熱狂』（早川書房）2017 年
・キム・ヨンデ（桑畑優香訳）『BTS を読む　なぜ世界を夢中にさせるのか』（柏書房）2020 年
・小泉文夫『日本の音 世界のなかの日本音楽』（青土社）1978 年／（平凡社）1994/2017 年
・小泉文夫『歌謡曲の構造』（冬樹社）1984 年／（平凡社）1996 年
・中村とうよう『大衆音楽の真実』（ミュージックマガジン社）1985 年
・小川博司『音楽する社会』（勁草書房）1988 年
・渡辺裕『聴衆の誕生 ― ポスト・モダン時代の音楽文化』（中公文庫）1989 年
・中村とうよう『ポピュラー音楽の世紀』（岩波新書）1999 年
・渡辺潤『アイデンティティの音楽 ― メディア、若者、ポピュラー文化』（世界思想社）2000 年
・南田勝也『ロックミュージックの社会学』（青弓社）2001 年
・野田努『ブラック・マシン・ミュージック ― ディスコ・ハウス・デトロイト・テクノ』（河出書房新社）2001 年
・東浩紀『動物化するポストモダン ― オタクから見た日本社会』（講談社現代新書）2001 年
・東谷護（編著）『ポピュラー音楽へのまなざし』（勁草書房）2003 年
・生明俊雄『ポピュラー音楽は誰が作るのか ― 音楽産業の政治学』（勁草書房）2004 年
・増田聡『聴衆をつくる ― 音楽批評の解体文法』（青土社）2006 年
・宇野常寛『ゼロ年代の想像力』（早川書房）2008/2011 年
・大澤真幸『不可能性の時代』（岩波新書）2008 年
・前川洋一郎（編著）『カラオケ進化論』（廣済堂）2009 年
・上田誠二『音楽はいかに現代社会をデザインしたか ― 教育と音楽の大衆社会史』2010 年
・長谷川町蔵・大和田俊之『文化系のヒップホップ入門』（アルテスパブリッシング）2011 年
・大和田俊之『アメリカ音楽史 ― ミンストレル・ショウ・ブルースからヒップホップまで』（講談社）2011 年
・ピーター・バラカン『ピーターバラカン音楽日記』（集英社インターナショナル）2011 年
・高増明『ポピュラー音楽の社会経済学』（ナカニシヤ出版）2013 年
・斎藤環『承認をめぐる病』（日本評論社）2013 年
・小泉恭子『メモリースケープ あの頃を思い出す音楽』（みすず書房）2013 年
・マキタスポーツ『すべての J-POP はパクリである ― 現代ポップス論考』（扶桑社）2014 年
・ブレイディみかこ『ザ・レフト ― UK 左翼セレブ列伝』（P ヴァイン）2014 年
・柴那典『初音ミクはなぜ世界を変えたのか？』（太田出版）2014 年
・佐々木敦『ニッポンの音楽』（講談社現代新書）2014 年
・東園子『宝塚・やおい・愛の読み替え ― 女性とポピュラーカルチャーの社会学』（新曜社）2015 年
・鈴木惣一郎『細野晴臣 録音術』（DU Books）2015 年
・太田省一『ジャニーズの正体 エンターテインメントの戦後史』（双葉社）2016 年
・柴那典『ヒットの崩壊』（講談社現代新書）2016 年
・ピーター・バラカン『ロックの英詩を読む ― 世界を変える歌』（集英社インターナショナル）2016 年
・谷口昭弘『ディズニー・ミュージック～ディズニー映画 音楽の秘密』（スタイルノート）2016 年
・谷口ヨシキ『暗黒ディズニー入門』（コアマガジン）2017 年
・中川和亮『ライブ・エンタテインメントの社会学 ― イベントにおける「受け手（Participants）」のリアリティ』（五絃舎）2017 年
・レジー／ blueprint（編）『夏フェス革命 ― 音楽が変わる、社会が変わる』（垣内出版）2017 年
・若尾裕『サステナブル・ミュージック』（アルテスパブリッシング）2017 年
・山田陽一『響きあう身体: 音楽・グルーヴ・憑依』（春秋社）2017 年
・牧村憲一・藤井丈司・柴那典『渋谷音楽図鑑』（太田出版）2017 年
・毛利嘉孝（編著）他『アフター・ミュージッキング』（東京藝術大学出版会）2017 年
・金成玟『K-Pop ― 新感覚のメディア』（岩波新書）2018 年
・田中雄二『エレベーター・ミュージック・イン・ジャパン 日本の BGM の歴史』（DU Books）2018 年
・田中雄二『AKB48 とニッポンのロック～秋元康アイドルビジネス論』（スモール出版）2018 年
・藤井丈司『YMO の ONGAKU』（アルテスパブリッシング）2019 年
・ピーター・バラカン『新版 魂（ソウル）のゆくえ』（アルテスパブリッシング）2019 年
・大谷能生『平成日本の音楽の教科書』（新曜社）2019 年
・近田春夫『考えるヒット テーマはジャニーズ』（スモール出版）2019 年
・大谷能生・速水健朗・矢野利裕『ジャニ研! Twenty Twenty ジャニーズ研究部』（原書房）2020 年
・岡田暁生『音楽の危機 ―《第九》が歌えなくなった日』（中公新書）2020 年
・日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）2020 年
その他適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
【２・３年生】（春学期）研究発表作成・プレゼンテーション・議論への貢献 50 %、レポート 50 %を基本ラインとし、授業への参加・貢献を総合的に判断します。（秋学期）研究発表と授業への積極的な参加・貢献 60 %、レポート課題 40 %を基本ラインとし、総合的に判断します。
【４年生】（春・秋学期）研究発表と授業への積極的な参加・貢献 60 %、レポート課題 40 %を基本ラインとし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見ヒアリングは逐次行い、意志の疎通と内容改善につとめます。

【その他の重要事項】
・本年度は林先生がサバティカルで不在のため大嶌が担当します。
・本シラバスは林先生が執筆したものです。受講者と相談のうえで授業内容が変更される可能性があることをご了承ください。
・夏季休暇中ないしその前後、フィールドワーク（音楽フェス・音楽ライブ体験）とその事前・事後学習を行う予定です。ただし新型コロナウイルス感染症の拡大動向次第で、フィールドワークはオンライン上のフェスやその他のコンテンツをフォローする形式に切り替えます。
・フィールドワークは基本的に全員参加です。音楽フェスの費用はひとり２万円程度、オンラインならその 1/3 ～ 1/2 程度で無料配信のものも数多くあります（この点に不安がある場合はぜひ担当者に事前に相談して下さるとありがたいです）。
・音楽が大好きという方の参加はもちろん大歓迎です。でも知識がないから参加できないというわけでは全くなく、むしろ演習の最大の目的は「興味がない人同士が議論しあえる場所」であることです。
・自分の研究テーマについては、本演習の近接分野を自由に選んで構いません。一般的に「ポピュラー音楽」の範疇には入らない、古典的西洋音楽の形態（クラシック音楽）へのアプローチも可能です。
・音楽学（楽典、音楽理論）やデジタル音楽技術についての知識は特に必要ありませんが、それがあればより楽しめるテーマもありえます。また平易な音楽理論は楽曲分析に必要ですが、そこは発表者の説明次第で、参加者の誰もが理解できるはずです。
・音楽コンテンツを制作するという演習ではありません。
・本演習は、芸術談義・音楽談義を繰り広げる場ではなく、むしろそうした談義的文化の背景にあるもの、嗜好品と社会とのかかわり、アイデンティティを構成するものとしての排他性について考える場所です。よって演習で鍛えられるのは「誰もがわかる言葉で事柄を説明できる能力」の方であり、知識の量で相手を圧倒するような態度は評価の対象外です。
・メディア技術の発展のおかげで、今や音楽は最も安価（＝タダ同然で手に入るように思えるもの）なコンテンツのひとつになりました。演習ではもちろんそうした現象についても批判的な検討を試みますが、著作権は絶対に守って下さい。もちろん音楽以外の著作権についても同様です。

【Outline (in English)】
This course deals with pop culture as well as impact of COVID-19 on the cultural and creative sectors especially popular music like Rock, Pops, Punk, Hip-Hop, EDM, House/Techno/Rave, J-Pop/Idol or K-Pop etc.; how "bring us together"-culture like popular music should/could be with "new normal"? It also enhances recognition of their forming condition in our society along with relationship between art and people. The participants are expected to explain basic concepts of modern art, pop culture, popular music and media studies. They are also expected to be able to evaluate or explain changes in the media environment and its influences into art and culture related with our dairy life. The aims of this seminar are to be able to discuss and imagine not-understandable actual situation of our living world and to realize how complex the relationship is between art/culture and politics by which our dairy lives are affected unconsciously. The key words of this seminar are: "media"/"technologies", "empathy"/"sympathy", "sense of unity", "body" and "identity". The participants are evaluated through presentations, writing reports and discussion each times.
【Grading Criteria /Policy】
2nd and 3rd year students
Report assignment:50 %
Research Presentation and contribution to discussion in the class;50 %
4th year students
Report assignment;40 %
Research presentation and contribution to discussion in the class;60 %
Preparatory study and review time for this class are 2 hours.

LIN300GA

言語文化演習

副島　健作

サブタイトル：**日本語教育のための日本語学**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない学習者に日本語を教えるという側面から、日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。また、「ポライトネス」理論によって、日本語の「語用論」的な機能について学ぶ。

【到達目標】
1）言語の実態と、一般的な母語話者が持っている言語的知識を区別する（日本語を客観的にとらえる）。
2）言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
3）広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
4）相手の感情を害する誤用とはどういうものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。
5）言語には使用者や使用の状況、場面によって様々なヴァリエーションがあり、また言語そのものも刻一刻と変化していくものである。この問題についての考えを深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
まずは自分たちが母語をどのように使用しているかという実態を観察し、次に日本語言語学や語用論等の知見を応用して分析する。
　具体的には、授業計画であげたような項目について、観察をはじめる（ボトムアップのアプローチ）。同時に並行して理論書の講読をすすめていく（トップダウンのアプローチ）。
　最終的には、受講者の問題意識に応じて、現象の断片について個々に考察をすすめ、その都度授業内でフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 具体的エピソード i	テキストの紹介・配布。 授業の進め方の確認。 外国人の日本語使用から「気づく」日本語の使用上の問題点を確認する。
第 2 回	具体的エピソード ii	第一回に引き続き、問題点を確認する。
第 3 回	文献購読　① 言語学の 1 分野としての日本語学／音声・音韻	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 4 回	文献購読　② 形態論（１）－形態素、語、品詞－／形態論（２）－活用－	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 5 回	文献講読　③ 格／文の構造と文法カテゴリー	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 6 回	文献講読　④ 主題と主語／ボイス（１）－受身と使役－	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 7 回	文献講読　⑤ ボイス（２）－授受－／自動詞と他動詞	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 8 回	文献講読　⑥ 時間を表す表現（１）－テンス－／時間を表す表現（２）	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 9 回	文献講読　⑦ モダリティ／とりたて	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 10 回	文献講読　⑧ 複文（１）／複文（２）－因果関係	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 11 回	文献講読　⑨ 名詞修飾／「のだ」	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 12 回	文献講読　⑩ 「は」と「が」／談話・テキスト	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 13 回	文献購読　⑪ 敬語／方言	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 14 回	春学期試験	春学期の内容に関する試験
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の確認。 これまで学んできた日本語言語学に関する知識をまとめ，その問題点を確認する。
第 2 回	文献購読　⑫ さまざまなバリエーション／日本語教育文法	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 3 回	文献購読　⑬ コーパス	庵功雄「新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版」を読む
第 4 回	文献購読　① 「ポライトネス」の背景	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第 5 回	文献購読　② ブラウン＆レヴィンソンのポライトネス理論	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第 6 回	文献購読　③ 敬語とポライトネス	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第 7 回	文献購読　④ 〈距離〉とポライトネス	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第 8 回	文献購読　⑤ ポライトネスのコミュニケーション	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第 9 回	文献購読　⑥ 終助詞「か／よ／ね」の意味とポライトネス	滝浦真人『ポライトネス入門』を読む
第 10 回	まとめ	ポライトネス理論に関するまとめ
第 11 回	テーマに関する報告 i	各自のテーマについて報告する
第 12 回	テーマに関する報告 ii	各自のテーマについて報告する
第 13 回	全体のまとめ	一年間学んできた内容についてのまとめ
第 14 回	報告とレポート提出	各自のテーマについて報告する レポートを提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その都度言及するアサインメントに必ずアクセスし、自分で自分が扱うべき領域を開拓していくように努めること。その内容については、必要があれば、その都度質疑応答や議論の対象としたい。
　本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
最初に、庵功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第２版』を購読し、次いで、滝浦真人『ポライトネス入門』を購読する。

【参考書】
高橋太郎（2005)『日本語の文法』ひつじ書房
日本語文法学会（編）(2014)『日本語文法辞典』大修館書店
益岡隆志・田窪行則 (1992)『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版
ブラウン＆レヴィンソン／田中典子監訳 (2011)『ポライトネス』研究社
滝浦真人 (2005)『日本の敬語論』大修館書店
井出祥子 (2006)『わきまえの語用論』大修館書店
三宅和子 (2011)『日本語の対人関係把握と配慮表現行動』ひつじ書房
トマス／浅羽亮一監修 (1998)『語用論入門』研究社
オーティー編／浅羽亮一監修 (2004)『異文化理解の語用論』研究社

【成績評価の方法と基準】
本授業の到達目標がどれくらい達成できているかを以下の方法により合計１００点で評価する。
　レポート（40 %）=（興味のある研究論文について紹介し、自分の意見を述べる）
　発表のパフォーマンス（20 %）
　理解度確認のための課題（20 %）
　受講態度、その他（20 %）
　この成績評価の方法をもとに総合的に判定し、60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
From the aspect of teaching Japanese to non-native learners, students can deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, the differences between Japanese and other languages such as the native language of the learners, and grammar and vocabulary for communication, as well as learn about the pragmatic functions of the Japanese language through the theory of "politeness".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) To distinguish between the actual state of language and the linguistic knowledge possessed by native speakers in general (an objective view of the Japanese language).

(2) To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
(3) To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
(4) To think about what kinds of misuse are harmful to the other person's feelings, and whether there are other things besides misuse, such as speech style, that can affect the other person's feelings.
(5) There are many variations of language depending on the user, the situation of use, and the occasion, and language itself changes from moment to moment. Students will deepen their thinking on this issue.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to be sure to access the assignments that are mentioned in each case, and try to develop your own areas to handle. The contents will be the subject of question-and-answer sessions and discussions, if necessary.
Your required study time is at least four hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Report (40%) = (Introduce a research paper of your interest and state your opinion)
Performance of the presentation (20%)
Assignments to check for understanding (20%)
Attitude and others (20%)

ARSx300GA

言語文化演習

大西　亮

サブタイトル：**スペイン語圏の文化を探索する**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「スペイン語圏の文化と社会」と聞いて私たちは何を思い浮かべるだろうか？ スペインはもちろん北はメキシコから南はアルゼンチンにいたるまで、広大な領域にまたがるスペイン語圏の国々については人によってさまざまなイメージがあるだろう。近年のニュースに目を向けると、スペインのカタルーニャ自治州の独立問題をはじめ、アメリカとメキシコとのあいだに横たわる不法移民の問題や、コロナウイルス禍を機に表面化したスペイン語圏の国々における社会的・経済的格差の問題などが注目を集めた。一方で、サッカーをはじめとするスポーツや ZARA に代表される流行ファッション、ヒットチャートを席巻している中南米系アーティストの活躍に熱い視線を注いでいる人も少なくないだろう。こうした話題の多くは、スペイン語圏だけにかかわるものではなく、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が見えてくるだろうか。
このゼミでは、スペイン語圏の文化と社会に光をあてつつ、世界のさまざまな地域との接触や交流を視野に入れながら、生成変化する人間社会のありようを浮き彫りにすることを目的とする。ゼミ生は、歴史、芸術、スポーツ、等々、おのおのの関心に応じて特定のテーマを設定し、それらを幅広い視角から見つめなおす柔軟な姿勢を身につけることが求められる。
ゼミ生は、おもに日本語を使って上記テーマに沿った活動を行なうことになる。スペイン語学習歴や、スペイン語圏の文化と社会に関する事前知識の有無は問われない。

【到達目標】
このゼミでは、上記「授業の概要と目的」に沿って、以下のような能力を伸ばすことを目的とする。
・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識の習得。
・スペイン語圏の文化と社会に関する基礎的な知識を活かしながら、興味や関心のあるテーマを見つけ、それを追究していく思考力。
・興味や関心のあるテーマについて、それを幅広い視角から見つめなおす柔軟な発想力。
・興味や関心のあるテーマについて論理的に解釈し、それを他者にむけて明快に説明する能力。
・他者との議論を通じてみずからの問題意識を深める能力。
・効果的なプレゼンテーション技法および論理的な文章表現力。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ゼミは２部構成のもとに進められる。第１部では、スペイン語圏の文化と社会を見ていくうえで「最低限これだけは知っておきたい」という事柄について、さまざまな資料を用いながらディスカッション形式で学んでいく。それを受けるかたちで、第２部では、より専門的な内容について、プレゼンテーションやグループ討議を通じて理解を深めていく。授業内での発表については、それぞれのテーマについて全体討議を実施し、教員がそれをまとめるかたちで指導、助言等を行なう。リアクションペーパーの提出を課す場合は、翌週の授業で教員からフィードバックを行ない、全体討議を通じて学生の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、春学期のゼミ運営方針について話し合う。
第 2 回	各自のテーマ設定	各自「スペイン語圏の文化と社会」に関する発表テーマを自由に選ぶ。それを受けて、必要な下調べの方法や発表のポイントについて教員がコメントを加える。
第 3 回	各自で設定したテーマに関する事前学習	第 2 回のゼミで各自設定したテーマからいくつかの項目をピックアップし、関連資料を用いながら事前学習を行なう。
第 4 回	各自で設定したテーマに関する発表	各自で設定したテーマに関する発表を行なう。それを受けて、発表で扱われたテーマに関する補足説明を教員が行ない、それを踏まえてグループディスカッションを行なう。
第 5 回	各自で設定したテーマに関する発表（つづき）	第 4 回にひきつづき、各自で設定したテーマに関する発表を行なう。それを受けて、発表で扱われたテーマに関する補足説明を教員が行ない、さらなる理解を促す。
第 6 回	各自で設定したテーマに関する発表（まとめ）	各自で設定したテーマに関する発表のまとめを行なう。すべての発表を通じて見えてきた共通の問題や関心領域に注目し、教員による補足説明を行なったあと、グループディスカッションを通じて理解を深める。
第 7 回	スペイン・カタルーニャ州の独立運動と「スペイン社会のいま」	カタルーニャの独立運動に関する複数の資料を用いながら、この運動が生じた背景や歴史的経緯について、グループディスカッション等を通じて理解を深める。
第 8 回	スペイン内戦とフランコ独裁	カタルーニャ独立運動の背景を理解するために不可欠なスペイン内戦とその後のフランコ独裁時代の社会について学ぶ。
第 9 回	フランコ独裁とスポーツ	フランコ独裁時代におけるスポーツ、とりわけ国民的スポーツの代表格であるサッカーが果たした役割について見ていく。
第 10 回	スペインにおけるスポーツの歴史	スペイン社会の成り立ちにおいてスポーツが果たした役割を幅広い視点から見ていく。
第 11 回	スペインにおける映画産業	スペイン民主化の過程を映し出している映画に注目し、グループディスカッション等を通じてその背景理解に努める。
第 12 回	日本とスペインの交流史	日本とスペインを結ぶ知られざる歴史に光を当て、両国関係の歴史をひもとく。
第 13 回	スペインの食文化	食を通じてスペイン文化の特質を探る方途を探る。
第 14 回	春学期ゼミの振り返り	春学期の活動を振り返り、グループディスカッションや全体討議を通じて総括を行なう。
第 1 回	後期ゼミ運営方針についての話し合い	学生による自主的なゼミ運営という基本原則を確認し、具体的なゼミ運営方針について話し合う。
第 2 回	4 年生による研究発表	各自設定したテーマについての 4 年生の発表後、関連テーマに関するグループディスカッションを行なう。
第 3 回	4 年生による研究発表（つづき）	各自設定したテーマについての 4 年生の発表後、それを受けるかたちで 3 年生がプレゼンテーションを行ない、理解を深める。
第 4 回	スペインとラテンアメリカの交流史	広大なラテンアメリカ諸国とスペインの関係を歴史的観点から読み解く。
第 5 回	スペイン語圏における世界遺産の歴史と現状	スペイン語圏に存在する主だった世界遺産を取り上げ、その歴史と現状について見ていく。
第 6 回	ラテンアメリカのスポーツ	サッカーや野球など、ラテンアメリカのスポーツに着目し、そこから見えてくるさまざまな問題について考える。
第 7 回	ラテンアメリカの食文化	バラエティ豊かなラテンアメリカ諸国の食文化に着目し、その背後に横たわる歴史や文化に関する理解を深める。
第 8 回	中南米と日本の交流史	ラテンアメリカ諸国に点在する日系社会を中心に、中南米と日本の交流史に関する理解を深める。
第 9 回	スペイン語圏の音楽と舞踊	スペイン語圏の音楽に関するテーマを選び、グループ発表を中心にその歴史的背景についての理解を深める。
第 10 回	スペインおよび中南米における日本文化の現在	アニメや日本料理、ファッションなど、いまスペイン語圏で注目を浴びている日本文化の諸相をとりあげ、グループ発表等を通じてその実情に迫る。
第 11 回	中南米と北米の関係史	アメリカ合衆国が中南米社会にもたらしたさまざまな影響について見ていく。
第 12 回	スペインとイスラム文化	イスラム教徒が残したさまざまな影響を軸にスペインの社会の現状をとらえなおす。
第 13 回	スペイン語圏の文化と社会に関する総括	ゼミで扱ったさまざまなテーマをふりかえり、それらに共通する特徴や問題についてディスカッション形式で自由に話し合う。

第 14 回　まとめ	年間のゼミ活動を振り返り、反省点等の話し合いを通じて次年度のゼミ活動の活性化に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のテーマに沿って参考文献を指示するので、それを熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ラテンアメリカ五百年―歴史のトルソー』（岩波書店）清水透著

【参考書】
初回授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表 (70 %)、平常点 (30 %）を目安に、発表の準備やプレゼンテーションスキル、グループ討議への積極的な参加、等々を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
まずは日本語できちんと議論し、論理的に自説を展開することのできる力を身につけることをめざします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to enable students to face various aspects in vast Spanish-speaking nations, not only from Spain but Mexico in the north as well as the Argentine in the south etc.
Many of these problems have broken out in close contacts and relations with Europe, America and other countries in the world. What unexpected crucial scenes and points do students discover in approaching the problems in Spanish-speaking nations ?
To achieve the goal, there are diverse angles according to students' own interests —— history, art, sports, literature and so forth. It is, however, not enough to discover and confront their own favorite fields. Starting from their interesting areas, it is hopefully important to assess a variety of aspects in their flexible views.
In this seminar, students will be expected to challenge various activities to find out crucial points, mostly speaking Japanese. This course is, therefore, open to all students —— including those unfamiliar with Spanish language.
We sincerely welcome all students challenging our exciting intellectual discovery-trip.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Quality of the students' presentation in the class: 70% and in class contribution:30%

LIT300GA

言語文化演習

衣笠　正晃

サブタイトル：**身近な文化を読みほどく**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
どのような社会でも、その文化はつねに異文化＝他者との出会いや対決のなかで自らを形成し続けており（＝相関的）、その結果として多様な（＝複数的）要素が、重なり合って存在する（＝重層的）ものとなっています。
本ゼミではこのような〈相関性・複数性・重層性〉という視点から、われわれを取り巻くさまざまな文化事象を、ゼミの仲間との自主的な議論を通じて考察してゆきます。そのなかで現代社会のあり方とそれが抱える問題を深く理解するとともに、それに向き合う批判的な視座と判断力を身につけることを目指します。
なおこれまで本ゼミの授業や個人研究で取り上げられてきた対象は、アニメ、マンガ（コミック）、映画、ポピュラー音楽、ファッション、ツーリズム（観光）から、スポーツ社会学、都市空間論、教育問題、言語と社会、IT と社会など、多岐にわたります。

【到達目標】
1）比較文学・比較文化、カルチュラル・スタディーズ、文化社会学、メディア・スタディーズなど、文化の研究・分析に必要な理論的枠組みや知識を習得するとともに、批判的思考を身に付ける。
2）幅広い知的好奇心を保ちつつ自らの関心領域を絞り込み、具体的な文化事象の考察をおこない、現代世界の諸問題とその歴史的文脈について理解し、自らの考えを深める。
3）個人研究の発表、グループでの討議・報告を通じて、自らの意見を説得的に伝えることのできる論理性・プレゼンテーション力を身につける。
4）先行研究など文献の読解やフィールドワークなどの調査に必要な、アカデミックスキルを学び取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
上記の目標を実現するため、このゼミではグループワークと個人研究を並行しておこないます。
春学期には、文化を考えるための基礎となる考え方や理論を確認するため、教員の講義や文献購読にもとづいたディベートや、グループワークによるプレゼンテーション、ディスカッションをおこないます。秋学期は講義とそれにもとづくディベート、国際文化情報学会のためのグループワーク、各自の個人研究の紹介・発表をおこないます。また随所で理論的な枠組み、モデルとなる研究を検討します。
演習参加者は自分の関心に応じてテーマを設定し（必要に応じて担当教員がアドバイスします）、授業を通じた学び、ゼミ生相互の批評やアドバイスを生かしながら、自らの研究として集約します。発表担当者はグループ・個人いずれの場合も、レジュメを作成し、パワーポイントなどを用いて発表をおこないます（事前に資料を配付してもらいます）。発表に対しては全員が参加してのディスカッションをおこないますので、担当者以外の人も十分な予習と積極的な発言が求められます。また毎回各自のコメントを提出してもらいますが、その内容については授業や学習支援システムをつうじて共有し、フィードバックします。
なお授業での講読文献・グループワークのテーマについては、ゼミメンバーの関心や研究テーマを考慮して決定します。
また夏休み中に実施予定の合宿では、テーマを決めた学習会や研究の中間報告を予定しています。加えて学期中にフィールドワークを実施する予定です。
※授業の進め方については、学生と教員との話し合いにもとづいて変更を加えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバス・授業の進め方の確認、各自が関心をもつトピックの紹介
2	グループワーク (1) ＋教員による講義 (1)	4 年生による研究テーマの紹介、および教員による講義（文化研究の方法論ついて）
3	グループワーク (2)	発表とディスカッション、および第 2 回授業での講義にもとづくディベート
4	グループワーク (3)	発表とディスカッション、およびグループワークのテーマ決め
5	グループワーク (4) ＋教員による講義 (2)	発表とディスカッション、および教員による講義（批判的思考について）
6	グループワーク (5)	発表とディスカッション、および第 5 回授業での講義にもとづくディベート
7	グループワーク (6)	発表とディスカッション（学生による模擬授業①）
8	グループワーク (7)	発表とディスカッション（学生による模擬授業②）
9	フィールドワーク	東京の街を歩くなかでの問題発見とレポートの作成
10	グループワーク (8)	フィールドワークでの見聞にもとづくディベート
11	教員による講義 (3)	論文の書き方についての整理と解説
12	グループワーク (9)	発表とディスカッション（国際文化情報学会での発表テーマについて①）
13	グループワーク (10)	発表とディスカッション（国際文化情報学会での発表テーマについて②）
14	総括と反省	春学期の議論のまとめ、夏合宿の準備
1	イントロダクション＋教員による講義 (1)	秋学期のスケジュールの確認、および教員による講義（比較文化の諸問題）
2	グループワーク (1)	第 1 回授業での講義にもとづくディベート
3	教員による講義 (2)	教員による講義（日本文化論の諸問題）
4	グループワーク (2)	第 3 回授業での講義にもとづくディベート
5	教員による講義 (3)	教員による講義（時事問題のなかでの問題発見①）
6	グループワーク (3)	第 5 回授業での講義にもとづくディベート
7	教員による講義 (4)	教員による講義（時事問題のなかでの問題発見②）
8	グループワーク (4)	第 7 回授業での講義にもとづくディベート、および卒論・ゼミ論の第 1 次提出
9	個人研究発表 (1) ＋グループワーク (5)	3 年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (1)、および国際文化情報学会でのゼミ発表準備 (1)
10	個人研究発表 (2) ＋グループワーク (6)	3 年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (2)、および国際文化情報学会でのゼミ発表準備 (2)
11	グループワーク (7)	国際文化情報学会でのゼミ発表準備 (3)
12	個人研究発表 (3)	4 年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (1)
13	個人研究発表 (4)	4 年生による個人研究発表とゼミ全体での相互批評 (2)
14	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い、卒論・ゼミ論の最終提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定ないし配布された文献・資料を十分に読み込んでおくこと。関連する資料・情報について事前の指示にしたがって（または自主的に）収集・入手し、理解につとめること。
・発表を担当する場合（グループ、個人とも）は、レジュメ等の資料作成を含め、プレゼンテーションの準備をおこなうこと。担当しない場合も事前の指示にしたがって予習をおこない、質問・議論すべき点をあらかじめ考えておくこと（内容の要約をミニレポートとして提出してもらう場合があります）。
・フィールドワークなどの際、指示にしたがってレポートを作成し、提出すること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・苅谷剛彦『知的複眼思考法――誰でも持っている創造力のスイッチ』（講談社〈講談社 α 文庫〉、2018 年）
※その他文献や資料のプリント類を随時使用します。

【参考書】
※授業中に随時紹介します。基本図書およびブックガイドとして下記のものを挙げておきます。
・松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・ﾌﾟﾚｾﾞﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ」の方法』（改訂第 2 版）（玉川大学出版部、2015 年）
・渡辺潤・宮入恭平（編著）『「文化系」学生のレポート・卒論術』（青弓社、2013 年）
・井上俊・長谷正人（編著）『文化社会学入門――テーマとツール』（ミネルヴァ書房、2010 年）
・吉見俊哉『現代文化論』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業準備、発表、議論への参加など。50 %）、提出物（リアクションペーパー、課題、レポートなど。50 %）をあわせて評価します。
なお評価にあたっては、以下の 5 点に着目します。
(1) 文化を研究・分析するための基本概念と方法論を理解・習得できているか。

（2）対象とする事例について、十分な情報にもとづいて、社会的・歴史的文脈のなかで正確に理解できているか。
（3）文献読解や調査のスキルを習得できているか。
（4）報告や討論を通じてコミュニケーション能力を向上させ、共同の学びに積極的に参加・貢献できているか。
（5）授業での学習成果を主体的・説得的に表現できているか。
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・ゼミ生の関心対象が多岐にわたるため、共通した目的としての批判的視点の育成と、実践的な調査方法についての指導をいっそう充実させたい。
・学生各自の研究・論文執筆へのサポートを強化するために、面談指導の機会を十分に設定したい。

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配付および課題提出にあたっては学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
　自分の研究テーマに閉じこもるのではなく、幅広い知的関心をもってグループワークに参加するとともに、他のメンバーのテーマにたいして積極的に関心をもち、コメントやアドバイスのできる皆さんの参加を期待しています。

【Outline (in English)】
In this seminar we will learn how to analyze everyday cultural phenomena around us through active discussions among members, paying particular attention to the correlated, multitudinous, and multilayered structure of culture.　The goals of the course are to acquire a better understanding of the issues of contemporary society and cultivate a critical attitude toward them. Students will be expected to have completed required assignments after each class meeting. The required study time will be more than four hours for a class.　The overall grade will be decided based on in-class participation (50%) and submitted papers (50%).

LIN300GA

言語文化演習

奥石　哲哉

サブタイトル：**英語，英語圏文化研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，学生が英語・英語圏文化を中心に，その言語・文化事象をさまざまな形で受信し，自らの考えを発信していくことを目的とします．

【到達目標】
到達目標としては，1）学生が授業を通じ，できるだけ多くの英語に触れ，英語の力をつける，2）学生が学んだことを可能なかぎり発信していく，の二つです．具体的には，学生がまず英語を理解する力をつけ，文献が読めたり，ニュース等が聞けるようになったりしなければいけません．そのために，数多くの言語・文化事象を自ら受信する能力を高めることで，きちんと英語圏の言語・文化を理解していく態度を身につけていきます．その上で，それを学生が発信していきますが，その際には可能なかぎり，英語で発信することを考えていきます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的にオンラインでの開講となります．授業計画自体に変更はありませんが，変更がある場合には，「学習支援システム」で提示します．初回までに，具体的なオンライン授業授業の方法などを同システムまたはメールにて提示します．
英語・英語文化について，あるいはより一般的に，言語・文化についての材料を用意して，学生が読んだり見聞きしながら体験していくことから始めます．その後，ゼミ生同士で気づきを共有したり，さらに各自が自らの考えを発表したりすることで，より理解・考察を深めていきます．
春学期では，主に英語の言語・文化事象を体験していくことに焦点を当てます．担当教員や学生が選んだ教材を読んだり，見聞きしたりしながら，きちんと理解できる能力を培います．担当者だけでなく，他のゼミ生も教材を徹底的に調べて，自分なりに理解してくることが要求されます．
秋学期では，教材を理解していくことを続けながら，各自の選んだテーマについてのプレゼンを混ぜていきます．自らの意見を発信し，全員で討論することによって，学生は視野を広げ，より深い理解に繋げることを目指します．
課題等に対してのフィードバックは，個々の学生の事情に応じて，「学習支援システム」，個人メール等を通じて行う予定です．さらに最終授業にて，全体の講評・まとめを行いたいと思います．
なお，以下の授業計画ですが，教材の数については変更する可能性がありますことをご了解ください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生との話し合い．ゼミについての概略を説明．学生・担当教員の自己紹介．春学期でどのような教材を用いるか確認．すぐ次回の教材（教材_1）を配布し，担当者を決める．
2	教材_1（1 回目）	教材_1 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
3	教材_1（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．併せて教材_2 を配布．担当者を決める．
4	教材_2（1 回目）	教材_2 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_3 を配布．担当者を決める．
5	教材_2（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
6	教材_3（1 回目）	教材_3 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_4 を配布．担当者を決める．
7	教材_3（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
8	教材_4（1 回目）	教材_4 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_5 を配布．担当者を決める．
9	教材_4（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
10	教材_5（1 回目）	教材_5 について担当者が正確に理解しているか，チェック．併せて教材_6 を配布．担当者を決める．
11	教材_5（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
12	教材_6（1 回目）	教材_6 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
13	教材_6（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
14	総括_1	これまでの教材の理解の仕方を総括する．資料の用い方等についても，再度検討し，今後の研究に役立てる．
15	総括_2	これまでの教材の理解の仕方を総括する．資料の用い方等についても，再度検討し，今後の研究に役立てる．さらに問題点などをプレゼンしてもらい，全員で討議．その後，秋学期へどう続けていくか総括において考えていく．
16	イントロダクション	春学期を振り返り，改めて秋学期の授業開始に際し，スケジュール等を確認する．教材_7 を配布し，担当者を決める．
17	教材_7（1 回目）	教材_7 について担当者が正確に理解しているか，チェック．教材_8 を配布し，担当者を決める．
18	教材_7（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
19	教材_8（1 回目）	教材_8 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
20	教材_8（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．
21	学部学会に向けた取り組み_1	学部発表の内容を固めていく．
22	学部学会に向けた取り組み_2	学部発表の内容を固めていく．
23	学部学会に向けた取り組み_3	学部発表の内容を固めていく．
24	学部学会のリハーサル_1	学部学会の発表を念頭に置き，これまで研究してきたことを実際に発表してみる．プレゼンの仕方などについて学習する．
25	学部学会のリハーサル_2	学部学会の発表を念頭に置き，これまで研究してきたことを実際に発表してみる．プレゼンの仕方などについて学習する．
26	学部学会の最終リハーサル	学部学会を控え，最後のリハーサルを行う．実際の発表を見据え，あくまで当日のことを頭に描きながら，よりよい発表になるようベストを尽くす．
27	教材_9（1 回目）	教材_9 について担当者が正確に理解しているか，チェック．
28	教材_9（2 回目：より詳細に検討，wrap-up）	前回の作業を続け，まとめに入る．教材を理解するための資料等について，適宜担当教員が説明．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教材の扱っている事柄や学部学会のトピックについて，学生がきちんと先行研究を読むこと．また，固有名詞（人名，地名等）もおろそかにせず，きちんと下調べをしておくこと．最近ではネットを用いたりすればたいていの情報は入手できます．
大学設置基準に鑑み，本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特定のものは用いません．プリントの形で配布，あるいは授業支援システム等を通じて配布します．

【参考書】
随時，指定します．

【成績評価の方法と基準】
　平常点 (50%)，国際文化情報学会への貢献等 (50%) を合計して成績を出します．なお，授業は出席することが当然なので、成績評価基準として「出席点」や「出席」という記載はしませんが，欠席が 5 回以上になりますと，参加度ゼロという扱いをするため平常点が極めて低くなり，単位取得が困難になります．
国際文化情報学会への参加は，必ずしも義務ではありませんが，何らかの発表の機会を設けますので，学生は発表をすることが求められます．
　この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
　本年度の意見がまだ届いていないので，直接聴取したものではありませんが，個人個人で学会に参加し，発表することで，自分で調べて公表し，批判に晒されるということがいい経験になっていると思います．

【学生が準備すべき機器他】
　プレゼンが必要なときには，パソコン，スクリーンを用います．また DVD 等も随時使用いたします．

【その他の重要事項】
１．英語に興味が持てない方には不向きです．特に，英語を読むのが億劫な学生には向きません．
２．上記の授業計画 (Schedule) は実状に合わせて変更・修正を行います．
３．遅刻・欠席は原則として一切認めません．

【カリキュラム上の位置づけ】
　本科目は，3 年生，4 年生が SA 等を通じて自ら選んだコース（言語文化コース）での集大成に至る科目です．4 年間を一つの山にたとえた場合その頂点に向かう科目なので，その重要性をしっかりと認識してください．

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】By the end of this course, you should:
- become acquainted with the basic literature on language, communication, and culture studies in general.
- begin to develop your own ability to express your opinion using English.

【到達目標（Learning Objectives）】
By taking the course, you will be able to:
- familiarise yourself with various texts in English, and
- express your own opinions publicly.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
You should prepare for each class session by reading relevant materials, etc. Often ignored is the importance of proper nouns. Please check their meanings beforehand.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
- Class activities (50%) and 'publication' experience (50%, e.g. give presentation in the FIC Conference held in autumn).
- 1 demerit for each class missed. 5 demerits = total failure of the course.

CUA300GA

言語文化演習

佐々木　直美

サブタイトル：**世界遺産に学ぶ**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは旅行先や TV などで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。

【到達目標】
①世界遺産の意義を理解する。
②世界が抱える諸問題を認識し、それについて自分の意見を述べ議論を展開させる力を付ける。
③資料収集、文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。
④世界遺産検定 2 級以上の知識を付ける。
⑤世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　ゼミ生との話し合いによってゼミ全体での研究テーマを設定し、その基礎文献の輪講と討論を行います。状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。（感染症拡大状況により中止となること場合もあります。）
　同時に各受講生は、各自で研究のテーマを設定し、個人研究を行います。
また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会への参加準備も行いますので、積極的なゼミへの参加と協力が求められます。
毎年、サブゼミの時間を使って世界遺産検定２級の自習学習や学会発表準備を行いますので、受講生はサブゼミへの参加が求められます。
対面授業７回以上と状況によりオンラインを併用した授業形態とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1	昨年度の振り返り。 今年度のテーマについて議論する。
2	個人研究についての報告会	個人研究についてテーマと基本文献リストを発表する。 全体テーマについての 課題図書の選定を行う。
3	世界遺産の現状と課題（１）	世界遺産の基礎知識を学ぶ。グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
4	世界遺産の現状と課題（２）	世界遺産の現状と問題について理解を深めるためのグループワークを行う。
5	世界遺産の現状と課題（３）	グループワークの成果をプレゼンテーションする。
6	記憶と遺産 原爆（１）	課題図書 『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』 の輪講と討論
7	記憶と遺産 原爆（２）	課題図書『長崎原爆記―被爆医師の証言 』の輪講と討論
8	記憶と遺産 長崎のキリシタン（１）	課題図書 『平和の翼と波を広げる-現在・過去・未来-』 の輪講と討論
9	記憶と遺産 長崎のキリシタン（２）	課題図書 映画『沈黙』をテーマに討論
10	文化遺産の活用（１）	課題図書『アンデスの文化遺産を活かす』（１〜３章）の輪講と討論
11	文化遺産の活用（２）	課題図書『アンデスの文化遺産を活かす』（４〜６章）の輪講と討論
12	個人研究発表（１）	４年生の個人研究進捗報告
13	個人研究発表（２）	３年生個人研究進捗報告
14	まとめ	春学期の間に学んできたことをまとめ、各メンバーが考えたことを持ち寄り、議論する。 学会準備
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
3	グループ・ワーク（１）	学会発表にむけた収集収集。 課題資料の輪講と討論
4	グループ・ワーク（２）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
5	グループ・ワーク（３）	学会発表にむけた発表資料作成。 課題資料の輪講と討論
6	グループ・ワーク（４）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論
7	グループ・ワーク（５）	学会発表資料の調整。 課題資料の輪講と討論
8	グループ・ワーク（６）	学会発表資料の全体確認。 課題資料の輪講と討論
9	グループ・ワーク（７）	学会発表最終調整。 課題資料の輪講と討論
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル。 課題資料の輪講と討論
11	文献講読	学会発表の振り返り 課題図書の輪講と討論
12	個人研究発表１	４年生による個人研究発表
13	個人研究発表２	３年生による個人研究発表
14	討論会および総括	受講生がテーマを設定し、討論会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
・本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高瀬毅『ナガサキ　消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013 年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010 年。
秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言 (平和文庫)』 2010 年。

松尾潤『祈りの記憶　長崎と天草地方の潜伏キリシタンの世界』批評社、2018 年。
長崎大学・ICU 共同研究プロジェクト編『平和の翼と波を広げる-現在・過去・未来-』長崎文献社、2020 年。
NPO 法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド 300』毎日コミュニケーションズ、2017 年。

その他、適宜授業内で指示します。

【参考書】
木曽功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015 年。
NPO 法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典< 上> ＜下＞ 世界遺産検定 1 級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2016 年。
その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（60 %）と個人研究（40%）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間であっても遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】
　学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】
希望者は『世界遺産検定』（NPO 法人世界遺産アカデミー主催）の２級取得を目指すことができます。その際にはゼミの先輩たちと共に受検対策をサポートします。
春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。
授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】
Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc. In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.
< Course outline >
The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.
< Learning objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.
2.Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.
3. Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.
< Learning activities >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria/Policy >
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

ART300GA

言語文化演習

佐藤　千登勢

サブタイトル：**映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、さまざまな国の映画作品を通して象徴性・メタファー・寓意的表象で語られる映画言語を読み解き、背後にある、それぞれの国・地域の土着的文化、慣習、歴史的経緯、イデオロギー、社会体制を確認する作業も含めて、映画鑑賞と作品分析を楽しみます。そのための基礎概念として、《全体主義》《亡命・離散》《差別》《抑圧》《エスニシティ》《マイノリティ》といった社会的テーマから《エディプス・コンプレックス》《トラウマ》《潜在意識》《欲望》など個人の内的世界に関わるモチーフをキーワードに、映画作品の多面性・両義性・重層性、そして映画作品に反映する国や地域の文化や社会について議論します。映画作品を分析する視点を培い、議論する力を養うことが本演習の目的となります。

【到達目標】
映画作品は世界の縮図であり、多様な国々の社会、経済、文化、民族的な傾向を反映したモデルと言えます。ですから、様々な国々の映画作品を鑑賞、分析することで、洞察力やものごとの本質を見抜く力を身につけ、さらにこれを言語化してプレゼンテーションする技術、議論する力を獲得する。これが演習の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
初回から第３回までは、教員が提案する映画作品を皆で共有し、教員からは映画分析の方法やレジュメの切り方、議論ポイントの提示方法などを示します。これに基づき、ゼミ生には複数のグループに分かれて討論をしてもらいます。その後、グループごとの意見を発表してもらい、さらに議論を深めていくかたちをとります。４回目以降は、ゼミ生のプレゼンテーション（映画の選択、レジュメを基に解説、司会、議論のまとめ）となります。
翌週までに、すべてのゼミ生には自身の見解をまとめたリアクションペーパー（映画鑑賞記録文）を提出してもらいます。教員は興味深い内容のリアクションペーパーを毎週何点か選び、ゼミ生全員でこれを共有するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、各回担当者を決定。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧、効果について概説する。
2	伝統と規範の破壊：暴力の表象	『とっととくたばれ』（ロシア映画）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論とまとめ。
3	戦争の描き方：暴力の表象	『炎 628』（ソ連映画）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論とまとめ。
4	ゼミ生による報告１	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
5	ゼミ生による報告２	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
6	ゼミ生による報告３	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
7	ゼミ生による報告４	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
8	ゼミ生による報告５	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
9	ゼミ生による報告６	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
10	ゼミ生による報告７	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
11	ゼミ生による報告８	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
12	ゼミ生による報告９	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
13	ゼミ生による報告 10	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
14	ゼミ生による報告 11	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、各回担当者を決定。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧、効果について確認する。
2	宇宙映画の描き方	『サリュート７』（ロシア映画）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論。
3	ロシアのフェミニズム	『you and i』（米ロ合作映画）鑑賞の上、教員による概説。学生による議論。
4	ゼミ生による報告１	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
5	ゼミ生による報告２	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
6	ゼミ生による報告３	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
7	ゼミ生による報告４	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
8	ゼミ生による報告５	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
9	ゼミ生による報告６	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
10	ゼミ生による報告７	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
11	ゼミ生による報告８	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。

12	ゼミ生による報告９	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
13	ゼミ生による報告 10	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。
14	ゼミ生による報告 11	担当学生による映画選択、概説、司会などのプレゼンテーション。議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当の学生は、自身がプレゼンテーションする映画作品を３回以上鑑賞の上、社会背景、歴史背景、制作背景、象徴、カメラワークなどの観点から詳細に調査を行い、レジュメを作成してください。発表準備に要する時間は計 10 時間程度。
他の学生はゼミの前までに必ず映画作品について予習をしておくこと。また、毎回、ゼミで議論した映画作品について自身の見解をまとめたリアクションペーパーを翌週までに提出する。本授業の準備学習・復習時間は各１時間を標準とします。
なお、大学の行動方針によりリアルタイム・オンライン授業となった場合、映画作品は各自、必ず鑑賞しておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストは使用しません。適宜、テーマと関連する文献のコピーを教員が配付します。

【参考書】
・ジェニファー・ヴァン・シル『映画表現の教科書』吉田俊太郎訳（フィルムアート社、2012）
・カレン・M・ゴックシク他『アカデミック・ライティング』土屋武久訳（小鳥遊書房、2019）

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、プレゼンテーション（20 %）、リアクションペーパー（20 %）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の議論を中心とした演習を望む声もあれば、教員からの概説を中心とした演習を望む意見もありました。以後は、両者の配分のバランスに配慮しながら演習を進め、学生のみなさんに知識を得る楽しさや充実感を味わってもらうと同時に、自らの意見をまとめて見解を述べ、議論する技術を身につけてもらうよう尽力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
報告用レジュメをあらかじめ LINE グループにアップする。
ゼミ活動内容を随時、インスタグラムにアップする。

【Outline (in English)】
● Course outline
In this seminar, we will analyze and interpret motion pictures of various countries from the point of view of an allegorical representation, metaphor, camera work, and the historical and political background of each of the countries. The basic concepts: Oedipus complex , trauma, subconscious, fascism, totalitarianism, discrimination, suppression, ethnicity and minority.
● Learning Objectives
By watching and analyzing movie works from various countries, you will acquire the ability to see the essence of things, as well as the ability to verbalize and present them, and the ability to discuss.
● Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to prepare for the movie work. Also, after each class meeting, you will be expected to submit a reaction paper that summarizes your views on the movie works discussed in the seminar by the next week.
● Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Short reports(20 %), making a presentation（20 %）and usual performance score(60 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

HIS300GA

言語文化演習

鈴木　靖

サブタイトル：**アジアから見た日本**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国や台湾、韓国などアジアの人々の対日イメージと日本人の自己イメージとの間には大きな懸隔があり、良好な近隣関係を築く上での障害となっている。この授業では「アジアから見た日本」をテーマに、これらの国や地域と日本との政治的関係や文化的交流の歴史を概観するとともに、アジアの人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件や人物に焦点を当て、それらが当該国や地域の教育やテレビ・映画などを通じてどのように語り伝えられているかを学ぶ。

【到達目標】
アジアの人々の対日イメージがどのように形成されたかを理解し、日本とアジアという双方の視点から問題を考える力（「共感力」empathy）を養い、国際社会人として円滑な異文化間コミュニケーションを行う力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度は春学期に日本と中国、秋学期に日本と朝鮮半島の関係史を学ぶ。
春学期には、ハーバード大学のエズラ・F・ヴォーゲルが第三者の視点から書いた『日中関係史』と高校の歴史教科書を比較しながら、グローバルな視点から日中の交流史を考えてみたい。
秋学期は、日本の歴史教育研究会と韓国の歴史教科書研究会が 1997 年から 10 年間にわたる共同作業を経て編纂した『日韓歴史共通教材・日韓交流の歴史』をテキストに、朝鮮半島の人々の対日イメージがどのように形成されたのかを考える。
また、これらの学習と並行して、アジアに関連したドキュメンタリー映像作品を制作する。一昨年度は朝鮮大学校に通う在日コリアンの学生さんに取材した映像作品を制作した。
課題や発表に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	一年間の学習目標と方法、計画について話し合う
第 2 回	中国の日本文化への貢献 — 600〜838 年	遣隋使・遣唐使の時代、日本は中国から何を学んだのか、今日に残るその遺産について考える
第 3 回	革新的な学びを伴わない貿易関係— 838〜1862 年	最後の遣唐使が派遣されて以降、幕末に日中の政府関係者が再び顔をあわせるまでの 1000 年の日中関係史を概観する
第 4 回	西洋諸国への対応と関係再開— 1839〜1882 年	アヘン戦争後の西洋諸国の進出に対する日中の対応と、明治維新後の日中関係について考える
第 5 回	朝鮮をめぐる競争と日清戦争— 1882〜1895 年	日清戦争の発端となった壬午軍乱から下関条約、三国干渉に至るまでの朝鮮・日本・中と、この戦争が中国に与えた衝撃について考える
第 6 回	日本に学ぶ中国の近代化 — 1895〜1937 年	日清戦争の敗北後、日本を手本として近代化を進めた中国と、日本の対応について考える。
第 7 回	台湾と満州の植民地化— 1895〜1945 年	台湾の植民地化と、傀儡国家満州国ができるまでの経緯と、それらが今日に残した遺産について考える
第 8 回	政治的混乱と戦争への道 — 1911〜1937 年	辛亥革命後の中国の政治的混乱と日中戦争に至るまでの日中関係を考える
第 9 回	日中戦争— 1937〜1945 年	1937 年から 45 年まで 8 年に及んだ日中戦争とそれが残した負の遺産について考える
第 10 回	大日本帝国の崩壊と冷戦 — 1945〜1972	1945 年の終戦から、1972 年の日中国交正常化に至るまでの日中関係を考える
第 11 回	協力— 1972〜1992 年	中国の「改革開放」政策と日本の経済協力について考える
第 12 回	日中関係の悪化— 1992〜2018 年	1992 年以降、歴史問題や領土問題の再燃よって悪化した日中関係について考える
第 13 回	新時代に向かって— 2014 年〜	現代の日中関係の課題とその解決策について考える
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学習を振り返り、どのような新たな知見を得たかを話し合う
第 15 回	日韓の和解のために	朴裕河『和解のために』とは ・大震災のあとに、未来を考える ・はじめに ・日本語版あとがき ・（解説）あえて火中の栗を拾う ・（解説）和解のために降りる
第 16 回	教科書問題①	第一章 一、日本の「反省」と新しい歴史教科をつくる会 二、反省する戦後日本 三、「つくる会」の不満
第 17 回	教科書問題②	第一章 四、韓日双方の対応の問題点 五、「事実」と倫理 六、「つくる会」と民族主義 七、「愛国心」を超えて
第 18 回	教科書問題③	〔調査発表〕 教科書問題の歴史と現状について
第 19 回	慰安婦問題①	第二章 一、「慰安婦はなかった」のか 二、日本政府の対応と「女性のためのアジア平和国民基金」 三、「道義的」責任の意義と限界
第 20 回	慰安婦問題②	四、韓国の不信 五、韓国の内なる責任 六、韓国のなかの加害性 七、「国家」を超えて
第 21 回	慰安婦問題③	〔調査発表〕 慰安婦問題の歴史と現状について
第 22 回	靖国問題①	第三章 一、小泉首相の「反戦」の意志 二、靖国と戦後日本 三、被害意識としての靖国支持
第 23 回	靖国問題②	第三章 四、「国家のための死」と守られるべきもの 五、韓国の矛盾、国立墓地 六、被害者としての軍人 七、「謝罪」する追悼
第 24 回	靖国問題③	〔調査発表〕 靖国問題の歴史と現状について
第 25 回	領土問題①	第四章 一、ふたつの独島ものがたり（一） 二、所有の政治学 三、ふたつの独島ものがたり（二）
第 26 回	領土問題②	第四章 四、領土拡張の欲望と近代 五、ふたつの独島ものがたり（三） 六、アメリカというファクター
第 27 回	領土問題③	第四章 七、警戒心と表象 八、島根県と独島 九、境界民の思考のために 十、独島の主は誰か
第 28 回	まとめ	第五章 一、近代がもたらした四つの問題 二、本質主義を超えて 三、新たな批判のために 四、韓日協定と日本の選択 五、冷戦の構図のなかの韓国と日本 六、「国民」を超えて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は、テキストの内容をまとめるだけでなく、それを補充あるいは反証する資料を紹介し、論理的思考と批判的思考をもって実証的な発表ができるよう準備する
・発表者以外は、テキストの当該箇所を精読するとともに、他の関連資料も事前に参照して、発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備する。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【春学期】

・エズラ・F・ヴォーゲル著・益尾知佐子訳『日中関係史― 1500 年の交流から読むアジアの未来』（日本経済新聞出版社、2019 年）
【秋学期】
・朴裕河著・佐藤久訳『和解のために　教科書・慰安婦・靖国・独島』（平凡社ライブラリー、2011 年）

【参考書】
【春学期】
・本田勝一著『南京への道』（朝日文庫、1989 年年）
・笠原十九司『南京事件論争史―日本人は史実をどう認識してきたか』（平凡社新書、2007 年）
【秋学期】
・内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（山川出版社、2002 年）
・孫崎享『日本の国境問題―尖閣・竹島・北方領土』（ちくま新書、2011 年）

【成績評価の方法と基準】
成績は輪読発表（60 %）とリアクション・メッセージ、グループワークなどゼミの活動への参加度（40 %）によって評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
全体のディスカッションではなかなか意見を出しにくいようなので、一昨年度から小さなグループにわかれて意見交換を行い、そこでの議論の内容を代表者が発表するグループワーク形式に変更した。
またコロナ禍での感染防止のため、リアクション・ペーパーは使用せず、かわりに LINE のメッセージで発表者に意見や感想を送ることにした。

【学生が準備すべき機器他】
演習では、授業時間外でも共同作業ができるよう、独自に設置した SNS サービス fixi を活用する。URL は、
・fixi
http://fic.xsrv.jp/elgg/
授業の中では次のような情報機器を使用する。
(1) プレゼンテーション
パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける
〔使用機材〕ＰＣ、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど
(2) グループ・ワーク
発表者や他者の意見にしっかり耳を傾けるとともに、批判的思考と資料的根拠をもって論理的、実証的に意見を述べ、ディスカッションに貢献する力を身につける
〔使用機材〕マイク、教室内の拡声装置
(3) 現地取材
取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につける
〔使用機器〕ビデオカメラ、三脚、マイク、fixi（インタビューの起こしと翻訳に利用）
(4) 映像制作
文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを身につける
〔使用機器〕パソコン、fixi（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces how Japan's self image differs from the ideas and opinions held by the people of China, Taiwan and Korea, throughout history and what historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions.
[Learning Objectives]
The goal of this course is to understand the reasons for the difference between how Japan sees itself, and how they are seen by the countries of China, Taiwan and Korea, through the use of text and visual materials.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from an assigned text. Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.
[Grading Criteria/Policies]
Each student is expected to give at least one presentation during the course. Grading will be decided based on the quality of the student's performance(60%) and in class participation(40%).

ARSc300GA

言語文化演習

遠藤　郁子

サブタイトル：**アメリカの「なぜ」を考えよう**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、ひとつの社会現象、問題、文化事象などに対してさまざまな角度から「なぜ」と問い続け、資料をもとにそれを分析します。与えられた情報を「事実」としてただ受け止めるのではなく、想像力を働かせ、柔軟な態度でそれを考察する能力を身に付けることが目的です。担当教員の専門領域がアメリカの文学・文化なので、アメリカに関する知見を深めることで世界について、また自分について知ることも演習の目的とします。
研究を通して自身の関心を深めつつ、授業では各学生の研究に関わる発表とアクティビティを通してゼミ生全員で様々なテーマについて話し合うことで広い視野を身に付けます。年に２本のゼミ論執筆と入念な発表準備を通して読む・書く・話すスキルの向上も目指します。

【到達目標】
I. この演習で学生は以下の力を身につけます。
(1) 一つの題材から、検討に値する問題点を見つけ出す。
(2) 上記の問題点の理由を調べ、解釈・検討し、それを他者に伝える。
(3) 他者の意見に耳を傾け、場合によっては自らの見解を修正しつつ、より正確で精緻な、説得力のある結論へと練り上げる。
言い換えれば (1) 〜 (3) のプロセスを通して、学生は問題発見、情報収集、解釈と分析と思考 、そして表現のスキルを磨いてゆきます。それが当演習の目標の一つです。
II. こうした探求の姿勢は、一つの事象の背景が決して単一で単純ではないことを、改めて気づかせてくれるはずです。その複雑さをときほぐすための、強靱かつ繊細な知力と感受性を身につけることも、当演習の目標となります。
III.「大学時代になにを学びましたか？」と聞かれたとき躊躇なく答えられることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
学生は授業で浮かび上がった問題や、自分の経験を通して興味を抱いた事柄をテーマに選び、授業で獲得した方法論を使って、情報を取捨選択しながらゼミ論文を完成させ、プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションでは自身のテーマについて発表するだけでなく、それについて受講生全員で考え、理解を深めるためのアクティビティを提供してもらいます。ゼミ論の執筆はもちろん一人で作業するだけではありません。随時論文の進行状況を報告しあいながら、学生同士の意見やアドバイスが活発に交差する機会を、授業内外で設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。自身の関心のあるトピックを共有しあいます。
第 2 回	表象分析（1）	特定の表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討します。
第 3 回	表象分析（2）	前回の授業で気づいたことに基づき、特定の表象作品（映画・音楽など）を分析します。
第 4 回	ゼミ論合評会（1）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 5 回	ゼミ論合評会（2）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 6 回	ゼミ論合評会（3）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 7 回	ゼミ論合評会（4）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 8 回	春学期ゼミ論助走	テーマ設定の仕方やレジュメの書き方、書式などについて説明。ゼミ論の構成や論理的な思考についてもトレーニングします。
第 9 回	ゼミ論合評会（5）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 10 回	ゼミ論合評会（6）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 11 回	ゼミ論合評会（7）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 12 回	ゼミ論合評会（8）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 13 回	ゼミ論合評会（9）	４年次生のゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、方法論や内容に関する質疑応答と討議をします。
第 14 回	春学期の総括・反省	春学期ゼミの総括・反省を行います。
第 1 回	表象分析（1）	特定の表象作品（映画・音楽など）では、どんなテーマ設定が可能か検討します。
第 2 回	ゼミ論合評会（1）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます
第 3 回	ゼミ論合評会（2）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 4 回	ゼミ論合評会（3）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 5 回	ゼミ論合評会（4）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 6 回	ゼミ論合評会（5）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 7 回	秋学期ゼミ論助走	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 8 回	ゼミ論合評会（6）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 9 回	ゼミ論合評会（7）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 10 回	ゼミ論合評会（8）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 11 回	ゼミ論合評会（9）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 12 回	ゼミ論合評会（１０）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 13 回	ゼミ論合評会（１１）	３・４年次生の春学期ゼミ論をあらかじめ読み、概要を執筆者が発表。その後、発表者がプロジェクトを用意し、全員で作業に取り組みます。
第 14 回	秋学期の総括・反省	秋学期ゼミの総括・反省を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生が翌週に向けて事前準備（題材を読む・観る・聞く・調べる）を行うことは、授業に参加するために不可欠です。準備の方法や範囲は、毎回具体的に指示します。春・秋学期のゼミ論作成には相応の時間と労力を費やすことになりますが、完成時の知的な満足感・充実感は学生時代の成果の一つとして、なにものにも換えられないはずです。また卒業してからも大きな自信となることでしょう。本授業外の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。主に論文、新聞、雑誌、ネット記事などの印刷物を使用します。

【参考書】
適宜、授業時間内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
（１）発表 (30%)
（２）レジュメや各回コメントシートなどの課題の完成度（30 %）
（３）ゼミ論（30 %）
（４）毎回の授業における発言や貢献度（10 %）
上記 4 つの側面を主たる評価の対象として、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の希望を随時授業の内容や流れに反映し、受講者が主体的につくりあげる授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では Google Classroom を活用します。また各種マテリアルへのアクセスが必要な場合もあるので、パソコン、スマートフォンなどのディヴァイスを所持していることが望ましい。

【その他の重要事項】
（１）授業や授業準備を優先させられる
（２）向上心・知的好奇心が強い
（３）USA や特定の文化、あるいは文化全般に興味がある
– 以上の条件を満たす学生を望みます。また、学部 SA 先がアメリカ以外の学生や「嫌米」の学生なども歓迎します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Through this course, students will be introduced to basic concepts and theories in order to understand various cultures, mainly those in the United States. Students are expected to develop an interest in the issues of ideology, power, everyday meaning-making and cultural practices. This course will explore different territories within the realm : popular culture and media studies, minority and subcultures, race, gender,etc. In addition, students will be learning and trying out various methods to find information, give presentations, write papers, cite sources, etc.
【到達目標（Learning Objectives）】
I. In this course, students will develop the following skills:
(1) The ability to find problems worthy of consideration from a single subject.
(2) The ability to investigate, interpret and examine the reasons for the above problems and communicate them to others.
(3) The ability to listen to the opinions of others, possibly revising their own views, and refine them into a more accurate, precise, and persuasive conclusion.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
It is essential for students to prepare in advance for the following week (reading, watching, listening, and researching the subject matter(s)) in order to participate in the class. This course will require students to complete about two hours of pre- and post-course study for each class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
The following four aspects are the main targets of evaluation,which will be judged comprehensively.
(1) Personal presentation (30%)
(2) Completion of assignments such as essay plans and comment sheets for each session (30%)
(3) Seminar essay (30%)
(4) Contributions to each class (10%)
The above four aspects will be the main targets of evaluation and will be judged comprehensively.

ARSx300GA

言語文化演習

廣松　勲

サブタイトル：**フランコフォニーの言語文化**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「フランコフォニー（＝フランス語圏）」の言語や文化を総合的に分析・検討することで、世界に散在するフランス語・フランス文化の多様性と共通性を考察する。それにより、フランコフォニーに留まらず、文化接触や文化的差異の調整を理解する際の分析手法を身につけることを目的とする。
2022 年度は、主にカリブ海域と北米大陸のフランコフォニーに関連する書籍・論文・映像作品などを読解・視聴し、検討する（フランス海外県のマルティニックやグアドループ、カナダ・ケベック州など）。
多少なりとも「フランス的なもの」に関心があれば、フランス語の言語能力などの前提知識は必要としない。

【到達目標】
到達目標は、大きく分けて 2 つある。
①「フランス共和国」の言語文化を超えて、「フランコフォニー」の言語文化へと拡張を遂げつつあるフランス語・フランス文化が、各地域において、どのような方法によって多文化・他文化との共生の道を探っているのかを説明できること。
②文化接触や文化的差異の「妥当な調整」といった現象を分析する際に必要となる方法論を、確りと意識して分析・考察に取り組むことができるようになること。
これらの目標に到達するために、学生は自ら選んだフランコフォニー地域におけるフランス語・文化を調査・分析することで、「どのような文化接触の結果として、どのような共生への道が目指されてきたのか」、その上で「そのような共生への道が今後も有効なものであるのかどうか」を考察することになる。
調査・分析・考察の結果は、中間発表に加えて、最終的にレポートや論文などの形にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本演習は原則として対面で行う。ただし、大学の行動方針レベルにより一時的に変更などがある場合には、詳細を学習支援システムで伝達する。
本演習では、学生の人数・関心等に鑑みながら、以下のような形で演習を進める。
≪ 春学期について ≫ テクストや映像を丁寧に読み込む方法を知るため、主に演習形式（レジュメ発表と討議）で進める。邦訳・字幕版の存在する代表的なフランコフォニーの文献・映像、それらに関するエッセイなどを分析対象とする。まず最初の数回の演習では、参加学生と対話しながら、フランコフォニーの言語文化を読解する際の「方法論」や「レジュメの作成方法」などを講義する。その後、演習形式の講読では、担当の学生が分担箇所をレジュメ発表し（何がどのように描かれているか？ など）、その上で問題提起とゼミ全体での討議を行う（なぜそのように描かれているのか？ など）。
春学期の最後には、個人研究のテーマや分析方法を決定する際のヒントを見つけるべく、学習内容についてレポートを提出してもらう。
≪ 秋学期について ≫ 前半では、講読形式を継続する予定である。後半では、各自が自らの関心・問題意識から個人研究の口頭発表を行った上で、全員で討議を行うことになる。
秋学期末までに、個人研究の成果をレポートや論文などの形で提出してもらう。
≪ リアクション・ペーパーについて ≫ 全体討議などで触れられなかった疑問点や意見、さらに演習運営上の希望を含めて、リアクション・ペーパーを提出してもらう。その内容については、翌週の演習などで検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本演習（特に春学期）の内容および参加方法を説明する。 ・「フランコフォニー（フランス語圏）」とは何か？ ・春学期の講読分担を決める。
2	Ⅰ．方法論の概説、レジュメ作成方法・問題提起の仕方の確認	・文献読解の方法論を概説する。テクストや映像を対象とした「テクスト分析」や「社会学的分析」を中心に論じる。 ・講読で必要となる「レジュメ」等の作成方法や「レポート」の書き方・構成方法等を解説する。 ・研究テーマ、関心などを抽出する方法を学ぶ。
3	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る①	・平野千香子の評論『フランス植民地主義の歴史』（序、第一章）を読む。 ・映画『移民の記憶』（一部分）
4	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る② 個人発表①	・評論『フランス植民地主義の歴史』（第二章、第三章）を読む。 ・研究テーマや関心について簡単に口頭発表
5	Ⅱ．フランス植民地帝国の歴史を知る③	・評論『フランス植民地主義の歴史』（第四章、第五章）を読む。 ・映画『はじまりの小屋』（一部分）を見る。
6	Ⅲ．カリブ海域の言語文化①	・概略的にアメリカ大陸のフランコフォニーについて解説を行う。 ・概説的にカリブ海域諸島に関する解説を行う。 ・特に、ネグリチュード、アンティユ性、クレオール性、クレオール化といった文化概念を説明する。
7	Ⅲ．カリブ海域の言語文化② 個人発表②	・エメ・セゼールの『帰郷ノート／植民地主義論』の一部を講読する。 ・研究テーマに関する視点・問題意識などについて発表
8	Ⅲ．カリブ海域の言語文化③	・『帰郷ノート／植民地主義論』の訳者による「エメ・セゼール小論」を講読する。 ・セゼールに関する映像を見る。
9	Ⅲ．カリブ海域の言語文化④	・エドゥアール・グリッサンの評論『関係の詩学』（ⅠとⅡ）を講読する。
10	Ⅲ．カリブ海域の言語文化⑤ 個人発表③	・評論『関係の詩学』（ⅢとⅣ）を講読する。 ・研究テーマの調査状況を報告する。
11	Ⅲ．カリブ海域の言語文化⑥	・評論『関係の詩学』（Ⅴ）を講読する。 ・グリッサンに関する映像を見る。
12	Ⅲ．カリブ海域の言語文化⑦	・J・ベルナベ、R・コンフィアン、P・シャモワゾーの評論『クレオール性礼賛』の前半を講読する。
13	Ⅲ．カリブ海域の言語文化⑧ 個人発表④	・評論『クレオール性礼賛』の後半を講読する。 ・シャモワゾーの映像作品を見る。 ・研究テーマの調査状況を報告する。
14	Ⅲ．カリブ海域の言語文化⑨ 総括	・春学期のまとめを行う。 ・個人発表やレジュメ作成に関する講評を行い、秋学期の準備をする。
15	イントロダクション 研究テーマの状況報告	・概略的にアメリカ大陸のフランコフォニーについて解説を行う。 ・特に歴史的・言語的コンテクストに注目しつつ、マルチカルチャー、インターカルチャー、トランスカルチャーといった文化概念を説明する。 ・個人研究の進捗状況について報告する
16	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化①	・ジェラール・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（はじめに、第一章〜第二章）を講読する。 ・映画『プレイキングコップ』を見る（一部）
17	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化②	・ジェラール・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（第三章〜第五章）を講読する。
18	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化③	・ジェラール・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（第六章〜第八章）を講読する。 ・ハイチ系移民に関する映像作品を見る。
19	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化④	・ダニー・ラフェリエールの小説『帰還の謎』（前半）を講読する。
20	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化⑤	・小説『帰還の謎』（中盤）を講読する。 ・ラフェリエールの映像作品を見る。

21	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化⑥	・小説『帰還の謎』（後半）を講読する。
22	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化⑦	・ジャック・ゴドブーの小説『やぁ、ガラルノー！』（前半）を読む。 ・ジャック・ゴドブーの映像作品を見る。
23	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化⑧	・小説『やぁ、ガラルノー！』（中盤）を読む。
24	Ⅳ．カナダ・ケベック州の言語文化⑨	・小説『やぁ、ガラルノー！』（後半）を読む。 ・グザヴィエ・ドランの映像作品を見る（一部）
25	個人発表①	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・映画『ルムンバ』を見る。
26	個人発表③	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・映画『ラスト・キング・オブ・スコットランド』を見る。
27	個人発表④	・学生各自の個人研究に関して発表を行う。各発表につき、発表 20 分程度／討議 20 分程度を予定。 ・映画『ホテル・ルワンダ』を見る。
28	総括	・秋学期、および一年間のまとめを行う。 ・研究テーマの発展方法や調査分析について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。主に以下の 2 点です。

≪ 準備学習に関して ≫ レジュメ作成担当の学生は、充実した討議のためにも、「要旨」と「問題提起」を確りと切り分けて提示すること。また、担当ではない学生も積極的に討議に参加するために、講読文献を含めた関連資料にも触れておくこと。

≪ 情報収集に関して ≫ 参加学生は、各種メディアを介して、フランコフォニー社会の言語・文化・社会等について、できるだけ情報収集するように心掛けてほしい。また、演習内などで告知する講演会や上演会への参加は義務ではないが、できれば積極的に参加してくれることを願う。

【テキスト（教科書）】

講読文献に関しては、参考文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。ただし、学生との相談によって、講読文献・映像を追加・変更する場合がある。

適宜、その他の資料は配布する（紙媒体またはシステム上にて）。

【参考書】

参考文献に関しては、講読文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。希望者には、さらに詳しい参考文献・映像等を提示する。

以下の「フランコフォニー国際組織　OIF」のサイトも参考になります（英語ページあり）。

https://www.francophonie.org/

【成績評価の方法と基準】

「平常点（リアクションペーパーの提出、質疑参加など）： 30 %」、「講読発表・個人発表： 30 %」、「学期末ごとのレポート： 40 %」を見て、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読を行うために必要なレジュメ作成や問題提起の仕方等については、春学期最初の授業だけでなく、適宜解説を行う。

【その他の重要事項】

履修に際しては、できるだけ春学期と秋学期合わせての履修を推奨する。

フランス語の知識（＝語学能力）は要求しない。ただし、講読の際にフランス語原典を読み、レジュメを作成しても構わない（ただし、フランス語を知らない学生にも分かるようなレジュメであって欲しい）。また、日本語以外の文献も積極的に参照することが望ましい。

講読文献の分量や内容によっては、比較的多くの準備時間が必要となることがある。そのため、レジュメ作成担当者は、早めに準備作業を始めることを推奨する。

講読や個人研究を進める上で疑問点などがあれば、廣松研究室（BT2008）での個人面談やオンライン面談、メール相談などにて話し合うことができる。

【Outline (in English)】

This course deals with the problematics of the French-speaking world (la francophonie) around the world while reading a variety of books and articles (principally written in japanese). It also enhances understanding of the situation of french language or national identity in the relevant countries or regions. For this year 2022, we will deal with Carribean and North American regions (Martinique, Guadeloupe, Quebec,etc).

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) from the text.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%, presentations: 30%, term-end reports: 40%.

LIT300GA

言語文化演習

岩下　弘史

サブタイトル：**比較文学・比較文化研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は比較文学・比較文化論的な観点から考察・研究をおこなう。研究対象は、参加者の人数や希望に合わせてある程度柔軟に対応するが、近代以降の日本の文学（映画）・文化・思想ならびにそれと関連する海外の文学・文化・思想を想定している。
日本の文学（文化）や思想は東アジアや欧米との関わりのなかで発展してきた。他方、日本の文学や思想それ自体が世界に発信されて独特の受容をされてきたという事実もある。このような領域横断的な観点から、日本文学（文化）や思想における外国文学（文化）・思想の受容、異文化表象、日本の近代化（西洋化）の問題、文学・文化の翻訳の問題、日本文化論などについて学生が深く考えられるようになることを目的とする。

【到達目標】
1. 適切な先行研究の収集や文献を丁寧に読みこむなど研究に必要な基礎的スキルを学ぶ。また比較研究の基礎を学ぶ。
2. 個人研究の発表やそれについてのディスカッションを通じて、自らの意見を的確に伝えられるようになる。論理的な議論ができるようになる。わからないことをわからないままにせず、なるべく明晰に語れるようになる。
3. 自身の関心から出発し、先行研究を踏まえたうえで自説を発展させ、最終的にはそれについて構造を持った論文が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式と演習形式の併用によって進められる。発表やディスカッションへの参加は義務となる。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システム Hoppii を通じておこなう。なお大学の行動方針レベルによってはオンラインでおこなうこともある。詳細は学習支援システム Hoppii で伝える。
また受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各自が関心をもつトピックの紹介（自己紹介を兼ねる）、授業の進め方の確認
2	イントロダクション	文献や資料探索の方法、発表資料作成方法など基礎事項の確認
3	グループワーク (1)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
4	グループワーク (2)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
5	グループワーク (3)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
6	グループワーク (4)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
7	グループワーク (5)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (5)
8	グループワーク (6)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
9	グループワーク (7)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
10	グループワーク (8)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
11	グループワーク (9)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
12	グループワーク (10)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (5)
13	グループワーク (11)	グループによる発表と、それについての全員によるディスカッション (6)
14	総括と反省	春学期の議論のまとめ
1	イントロダクション	秋学期の方針の確認
2	論文の書き方について	論理的な文章とは何か、先行研究とはどのように向き合うべきかなどについての説明
3	グループワーク (1)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (1)
4	グループワーク (2)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (2)
5	グループワーク (3)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (3)
6	グループワーク (4)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (4)
7	グループワーク (5)	基礎文献講読担当者の発表と、それについての全員によるディスカッション (5)
8	個人研究発表 (1)	自身の関心とそれに関連する先行研究をまとめ、それについてのディスカッションを経て自身の問題を深める（1）
9	個人研究発表 (2)	自身の関心とそれに関連する先行研究をまとめ、それについてのディスカッションを経て自身の問題を深める（2）
10	個人研究発表 (3)	自身の関心とそれに関連する先行研究をまとめ、それについてのディスカッションを経て自身の問題を深める（3）
11	個人研究発表 (4)	自身の関心とそれに関連する先行研究をまとめ、それについてのディスカッションを経て自身の問題を深める（4）
12	個人研究発表 (5)	自身の関心とそれに関連する先行研究をまとめ、それについてのディスカッションを経て自身の問題を深める（5）
13	個人研究発表 (6)	自身の関心とそれに関連する先行研究をまとめ、それについてのディスカッションを経て自身の問題を深める（6）
14	総括と反省	秋学期の議論のまとめ、来年度に向けての話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書がある場合は必ず読んで授業に出席する。また毎回の授業で配布するプリントは必ず復習すること。本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いないが、各授業でプリントを配布する。

【参考書】
・異文化理解
青木保『多文化世界』岩波新書、2003 年
稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会、2000 年
・比較文学・比較文化
佐々木英昭編『異文化への視線―新しい比較文学のために』名古屋大学出版会、1996 年
土屋勝彦編『越境する文学』水声社、2009 年
松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』世界思想社、1995 年
・日本人論、日本文化論
船曳健夫『「日本人論」再考』講談社学術文庫、2010 年
大久保喬樹『日本文化論の系譜―『武士道』から『「甘え」の構造』まで』中公新書、2003 年
その他一次文献多数。

【成績評価の方法と基準】
発表・発言などの平常点 (40%) および提出レポート (60%)。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
自分が何がわからないかを発見し、理解に近づいていく訓練の場となります。自分で明晰に説明できない物事は自分がそれを十分に理解できていないことを意味します。語り得るものについては明晰に語られ得るわけです（語り得ぬものについて沈黙せねばならないかどうかはまた別の問題）。
よくわからないものをわからないまま受容するのではなく、出来る限り理解することを目指します。先人たちの研究業績に敬意を払いながらも批判的に向き合い、じっくりと自分の力で考えてみたい人を歓迎します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help the students to acquire basic academic skills and have better understanding of modern Japanese literature and thoughts. This class focuses on how these are related with Western counterparts. The participants are expected to discuss modern Japanese culture in their own words at the end of the course.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant text. Required study time is at least two hours. In addition, after each class, students will be expected to spend reviewing the class content at least two hours to fully understand it.
Overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end paper: 60%, In-class contribution: 40%

LIT300GA

言語文化演習

大野　ロベルト

サブタイトル：**言葉と人間**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は言葉の動物であるということを、ほとんどの人間は十分に意識せずに生きている。言い換えれば、それは自分が何者かを知らないままに生きているということである。このゼミでは、古典から近代までの日本文学を出発点に、海外文学やあらゆる文化芸術にも積極的に目を向けながら、徹底的に言葉と戯れつつ、人間とは何かという問題を考究したい。

【到達目標】
文学を中心とする文化的な事象について、自身の考えを明確な言葉で他者に伝えることができるようになる。適切な文献調査に基づいた、理論的かつ論証的な論文の作成ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
演習形式と講義形式を併用して授業を進める。基本的には、毎回の主題について教員が行う講義をきっかけに、学生によるディスカッションを行うが、学生各自にも学期ごとに少なくとも一度は発表を行ってもらい、それに基づくディスカッションやディベートも積み重ねてゆくことになる。レポートは夏休みに明けに 1 本、年度末に 1 本を提出してもらう。通年のゼミであるため、フィードバックは全体に対しても、個人的にも、随時行うことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方について説明し、自己紹介を行う。
2	言葉とは何か	ソシュールなどの理論を紹介しながら、言葉について考える。
3	人間とは何か	文学理論や現代思想を逍遥しながら、人間という存在について考える。
4	古典の言葉１	『古今和歌集』から日本語の本質を考える。
5	古典の言葉２	『土佐日記』を素材に言葉とジェンダーを考える。
6	古典の言葉３	『枕草子』を素材に言葉の仕組みを考える。
7	古典の言葉４	『無名草子』を中心に作者と読者の関係を考える。
8	言葉と社会１	夏目漱石の人と作品から、近代化と日本語の再生についてとりあげる。
9	言葉と社会２	谷崎潤一郎の人と作品から、美意識と自我のあり方について考える。
10	言葉と社会３	太宰治の人と作品から、私小説の受容について考える。
11	言葉と社会４	川端康成の人と作品から、古典の遺産について考える。
12	言葉と社会５	三島由紀夫の人と作品から、メディアの横断について考える。
13	個別研究に向けて	個別研究の計画発表。
14	春学期のまとめ	ふりかえりと課題説明、後期の内容について打ち合わせる。
1	イントロダクション	論文の書き方についておさらいする。
2	読書とは何か	エーコなどの理論を紹介しながら、読むということについて考える。
3	言葉と身体１	北條民雄とハンセン病文学を通して文学・身体・権力の関係を探る。
4	言葉と身体２	澁澤龍彦と暗黒舞踏の関係性から批評という行為の可能性を考える。
5	言葉と身体３	能と和歌を素材にいまいちど古典を意識し、日本語に宿る身体性を確認する。
6	文献購読１	担当学生による発表とディスカッション。
7	文献購読２	担当学生による発表とディスカッション。
8	文献購読３	担当学生による発表とディスカッション。
9	文献購読４	担当学生による発表とディスカッション。
10	研究発表１	担当学生による発表とディスカッション。
11	研究発表２	担当学生による発表とディスカッション。
12	研究発表３	担当学生による発表とディスカッション。
13	研究発表４	担当学生による発表とディスカッション。
14	秋学期のまとめ	ふりかえりと課題提出、来年度への展望を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義やディスカッションの出発点となるテクストを事前に精読し、作品の背景についても調べておくことが最低限の責務である。発表者はレジュメやパワーポイントの作成を怠らないこと。ディスカッションなどへの積極的な参加は必須である。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】
授業中に折に触れて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、通年の研究発表 30 %、レポート 2 本 40 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This seminar encourages students to tackle the big yet underrated question: what makes us human? While we take into consideration all kinds of arts from different cultures and periods, Japanese literature, from classical to modern, will be the pivot.
The objective of this seminar is to acquire the set of skills necessary to convey, with clear language, one's idea about cultural issues, both orally and in writing.
The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.
The grading criteria is as follows: 30 % participation, 30% presentation, and 40% written assignments. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSi300GA

国際社会演習

廣田　郷士

サブタイトル：**アフリカを学ぶ／アフリカに学ぶ**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんはアフリカについて何を知っていますか？　何を連想するでしょう？　わたしたちが「知っている」アフリカとは、えてして、広大な大陸のごく一部を、ある特定の見方から切り取ったイメージでしかありません。アフリカとは実に 50 以上の独立国を含み、地域や社会や民族によって全く異なる言語、文化、慣習が存在する広大で豊かな場所。この演習では、そんな多様性豊かなアフリカのさまざまな時空間を「旅」することで、アフリカについて多角的に学んでいきます。アフリカについて学ぶことは、アフリカから学ぶことでもあり、わたしたちの思考法や物の見方が自然と変化を遂げていく経験となるでしょう。
また、この演習で学ぶことと平行して、あるいは、この演習で学ぶことからインスピレーションを受けて、他の旧植民地地域の歴史や文化にも関心を向けられるかもしれません。受講生個人の研究・発表のテーマは、アフリカに限らず、カリブ海や東アジアなどの地域、人種差別や移民／難民などのテーマを対象とすることも可能です。

【到達目標】
・アフリカのさまざまな文化表現を通して、アフリカの多様性を理解し、かつアフリカの歴史・社会・政治に幅広く触れる。
・アフリカ（および旧植民地地域）について学び、考えることで、「世界史」への新しい視座を得る。
・批評・議論の力を発展させ、自主的な調査・研究の方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・アフリカの歴史、文化、社会に関する議論、学術論文、文学作品などに触れる。
・担当者が問題提起を含む発表を行い、全体で討論を行う。または、全員が課題文献を読み問題意識や論点を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
・3 年生の春学期の課題として、授業内で扱ったテーマか自分の関心にもとづいて 1 冊本を選び、レポートを作成する。また、秋学期の後半には全員に研究発表を行ってもらう。春学期同様、授業内で扱ったテーマから選んでもよいが、個人の関心や問題意識にもとづいて自由にテーマを設定することもできる。
・オフィスアワーなどを用いた個人面談で、課題 (レポート、論文など) に対して指導、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の演習の進め方について説明。自己紹介、関心のあるテーマを共有。
第 2 回	レポートと論文の書き方	発表やレジュメ作成の方法を学ぶ。レポートや論文の書き方について、疑問や不明な点を解消できるように基本事項を復習する。
第 3 回	アフリカを学ぶために①	わたしたちはどのようにアフリカにアプローチすべきか。まずは大陸の歴史を概観する。
第 4 回	アフリカを学ぶために②	アフリカ研究の基礎知識を身に付けるために、さまざまな導入的な文献を読む。
第 5 回	アフリカを学ぶために③	アフリカ研究の基礎知識を身に付けるために、さまざまな導入的な文献を読む。
第 6 回	映画から学ぶアフリカの現代史①	映画をより深く理解するために歴史的・政治的背景を学ぶ。
第 7 回	映画から学ぶアフリカの現代史②	映画を鑑賞してグループ・ディスカッションを行う。
第 8 回	フランツ・ファノンを読む①	フランツ・ファノンの足跡と思想について、グループ・ディスカッションを行う。
第 9 回	フランツ・ファノンを読む②	引き続きファノンについての文献を読み、議論を行う。
第 10 回	フランツ・ファノンを読む③	ファノンの行動と思想が同時代のアフリカに与えた影響について考える。
第 11 回	ドキュメンタリーで見るアフリカ	アフリカに関するドキュメンタリー映画を見てグループ・ディスカッションを行う。
第 12 回	イメージとしてのアフリカ①	アフリカ人作家のエッセイを通して、作られたアフリカの「イメージ」について考える。
第 13 回	イメージとしてのアフリカ②	アフリカに関する偏見やステレオタイプはどのようにつくられてきたのか。複数の文献から歴史的に検証する。
第 14 回	春学期のまとめ	レポートの提出。春学期で学んだことの復習、まとめ。
第 1 回	イントロダクション	秋学期の演習の進め方について説明。国際文化情報学会や後半に行う研究発表に関して意見を交換する。
第 2 回	アフリカ文学と言語	アフリカ人作家のエッセイを通して、アフリカ文学を読解する手がかりをつかむ。主に植民地支配と言語について考える。
第 3 回	アフリカ文学を読む①	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第 4 回	アフリカ文学を読む②	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第 5 回	アフリカ文学を読む③	アフリカ文学作品を精読。批評・分析の対象となる箇所を共有したうえで、グループ・ディスカッションを行う。
第 6 回	アフリカ芸術と政治①	アフリカの芸術・芸術祭を通して、アフリカという文脈での「美学」と「政治」について考える。資料や文献を提示するので、二週にわたりそれをもとにして討論を行う。
第 7 回	アフリカ芸術と政治②	引き続きアフリカにおける美学と政治についての文献と作品を読んだうえで、担当者が発表、全体で議論する。
第 8 回	パンアフリカニズムという夢①	パンアフリカニズムの歴史、思想について、複数の文献を参照しながら理解を深める。
第 9 回	パンアフリカニズムという夢②	パンアフリカニズムについて、アフリカ大陸の経験と絡めて学ぶ。
第 10 回	研究発表①	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 11 回	研究発表②	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 12 回	研究発表③	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 13 回	研究発表④	個人の研究発表。全体で討論を行う。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のレポート、卒業研究の提出。秋学期で学んだことの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次週のための準備・予習は必ず行うこと。
・文献を読む場合、指名された担当者はレジュメを作成して発表する。
また、発表担当の有無によらず、受講者全員が文献を共有し、問題意識をもって授業に臨んでほしい。
・春学期・秋学期ともにレポートを課題として出すので、そのための調査を独自に行うこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時にコピーを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への貢献度、授業時間内の課題の提出）10 %
・授業での発表（調査やレジュメの完成度）　30 %
・学期末のレポート　60%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の自主的な学習、授業への積極的な参加をうながせるよう工夫をおこないたい。

【その他の重要事項】
・全員が何らかの形で授業に貢献すること。
・授業で提示された文献をしっかり読むのは言うまでもなく、自分で文献を探して積極的に読んでいき、研究テーマをできるだけ早く見つけられるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline]

This African Studies seminar class is designed to expose students to varying interdisciplinary approaches to and perspectives on the Continent.
[Learning objectives]
By the end of this course, students will have (1) a solid understanding of important themes in the study of African history, culture, and society, (2) confidence in expressing their views orally and in written form, and (3) the ability to undertake independent research projects.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
[Grading criteria]
Evaluation will be based on contribution to discussion (10%), presentation (30%) and final essay (60%).

SOS300GA

国際社会演習

今泉　裕美子

サブタイトル：**「国際関係」を問い直し、つむぎ直す**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際関係学を学ぶゼミです。
私たちの生活は"global" という表現であふれています。しかし、国境を越えた諸現象を表現するには、他にも"international"、"transnational"、"supra-national" などの表現もあります。その違いを知っていますか？「国際関係（International Relations）」というと海外のこと、政治、経済に関すること、外交に関すること、とイメージしていませんか？
こうしたイメージは、「国際関係」研究が西欧の近代国家同士の関係を対象として出発したことと関わります。しかしやがて、非西欧、非国家をも対象とし、それらの多様な「関係」を射程にいれる、すなわち既存の「国際関係」認識を問い直しながら、研究の視点や方法、概念を豊かにさせ、国際関係学が生み出されました。
ゼミでは「国際関係」が、私たちが自覚する/しない、にかかわらずとり結んでいる諸関係から成立していること、に着目します。世界（その一部である日本）には、どのような独自性をもつ人々がくらし、地域社会や文化を育み、私たちとどう関係しあっているのか。その独自性や関係はどのように作られたのか。
これまで無関係だと思っていた人々との、見えなかった関係が見えてくると、新たな出会いがあり、聞こえなかった情報もどんどん飛び込んできます。自分の「国際関係」認識を阻んでいたものは何か、認識を変化させた自分が「国際関係」をどうつむぎ直せるのか、を学びます。

【到達目標】
(1) 国際関係に関する基本的な概念、理論、思想を歴史的な背景のなかで理解できる。
(2) 国際関係学の方法論（"関係性" に基づくものの見方、学際的アプローチ、対象の共時的・通時的把握）を習得し、本学部での学びの特徴を理解する。
(3) 国際関係学を通じて自分が関心がある事象はもちろんのこと、一見、自分と関係ないと思える事象をも自分の関心に引き付け、分析することができる。
(4) 共同研究、個人研究で取り組むべきテーマを明確にし、関連する先行研究の整理、史・資料の収集、分析、口頭発表、ディスカッション、論文執筆の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
(1)2022 年度の共同研究テーマは春学期は「"Pacific Islands" からみる国際関係、国際関係からみる"Pacific Islands"」。秋学期は 3 年生が決定する。
(2) 毎回の授業では、最初の 30 分は、決められた担当者が関心ある報道を 1 つとりあげて報告、議論する。その後、授業計画に基づき担当者が報告（15 分）し、議論（15 分）する。
(3) 授業計画に基づく口頭発表では、担当する報告者が定められた文献や動画について、レジュメ（要旨、用語解説、問題提起）を作成し、議論を深めるために関連する文献や資料を読む。報告者以外のゼミ生も文献、動画について予習し、意見や質問を準備する。授業の最後に教員が講評する。
(4) 個人研究のテーマは 3 年時を通じて決定する。
(5) 国際文化情報学会で報告する（原則として 3 年は共同研究、4 年は個人研究）。
(6) 共同研究テーマに関する学外調査、国内外の他大学との合同ゼミ、などを行う。（COVID-19 の感染状況に応じて）
(7) 授業計画はゼミ生の関心、進捗状況、社会情勢によって一部変更する場合もある。サブゼミを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション－国際関係学とは？	国際関係学に関する概説、授業の進め方など確認。
2	4 年生の個人研究の中間発表	4 年生は個人研究に関する先行研究の整理、論文構成、序論を発表。3 年生は 4 年生の研究内容、本演習での個人研究テーマの設定や追究の方法を学ぶ。
3	「国際関係」の分析になぜ「歴史」が必要か？	「国際関係」の研究になぜ「歴史に向かう」必要があるのか、を「文字」による歴史を E.H.Carr の主張から、「非文字」による歴史を民話や怪談を事例に学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「歴史に向かう」
4	「マイノリティ」から「国際関係」を問い直す	「民族」、「人種」、「ジェンダー」に関する具体的な事例から「マイノリティ」の概念を学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「マイノリティ」
5	「地域」から「国際関係」を問い直す	水俣の「民衆」の近代化の経験（生活と共同体の変化、朝鮮半島の植民地化、開発と環境問題）の事例から学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』-「地域」から
6	第二次世界大戦の「終結」と「戦争観」から「国際関係」を問い直す	第二次世界大戦の戦時体制と報道統制、戦争「終結」をめぐる日本や世界各地の動向、戦後の「戦争観」の事例から学ぶ。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』－「戦争の終わらせ方」
7	『歴史を学ぶこと』から「国際関係」を問い直す	テキストの報告に加え、第 3 回〜第 6 回で扱った事項・概念の整理、論点をまとめる。 テキスト：鹿野政直『歴史を学ぶこと』－「むすび」、「質問の時間」
8	学術論文を読む、書くに関するワークショップ	テーマ設定、史・資料収集、分析、論理的な表現、論文の読み方を学ぶ。 テキスト：斉藤孝他『学術論文の技法』
9	"Pacific Islands"とは？	どのような国や地域があり、どのような人が暮しているのか。植民地化の歴史、現在抱える問題、海と島という自然環境が育む文化や社会の特徴を学ぶ。
10	"Pacific Islands"から「国際関係」をみる①	気候温暖化、放射性廃棄物、軍事植民地化、BLM など、現在世界と共有する問題の所在とこの地域ならではの現れ方を学ぶ。
11	"Pacific Islands"から「国際関係」をみる②	"Pacific Islands"が問題に取り組むえでの独自性、極小な島ゆえの知恵や協力の仕方を学ぶ。
12	「国際関係」から"Pacific Islands"をみる	「国際関係」の様々な行為体、世界の諸地域と"Pacific Islands"との関わり合いを知る。
13	"Pacific Islands"の人たちとのディスカッション	ゼミ生が関心あるテーマについてウェブで行う。
14	春学期のまとめ	春学期の学びをふり返り、秋学期につなげる。
1	秋学期のイントロダクション	秋学期の授業計画の確認。学部学会での共同研究テーマの確認。
2	個人研究の中間発表①	4 年生、3 年生の研究発表。
3	個人研究の中間発表②	3 年生の研究発表。
4	国際文化情報学会の準備①	共同研究に関する報告と議論。
5	国際文化情報学会の準備②	共同研究に関する報告と議論。
6	国際文化情報学会の準備③	共同研究に関する報告と議論。
7	国際文化情報学会の準備④	共同研究に関する報告と議論。
8	国際文化情報学会の準備⑤	個人研究発表の予行。
9	国際文化情報学会発表の準備⑥	共同研究発表の予行。
10	国際文化情報学会発表の準備⑦	共同研究発表の予行。
11	国際文化情報学会発表のふり返り	各発表に関する評価を持ち寄り、今後の研究につなげる。
12	個人研究の発表	3 年生による発表。
13	秋学期のまとめ	秋学期の学びをふり返り、整理する。
14	1 年のまとめ	1 年の学びをふり返り、整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 報告担当者は、担当者同士で事前に打ち合わせをし、指定されたテキストのほかに関連文献、史・資料を読み、レジュメを作成する。担当者でない場合もテキストを精読し、基礎的な事項は調べ、意見や疑問点を準備する。
(2) 共同研究、個人研究は、自主的に教員から指導を受ける。関係機関での調査、聞き取り、フィールドワークなどを実施する。学んでいる外国語を活用する。大学内外のシンポジウムや講演会などを積極的に活用する。
(3) 新聞は 1 紙以上、社説や投書欄を含めて毎日必ず目を通す。まとめサイトの利用は厳禁。
本授業は準備・復習に各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】
○国際関係学に関する基本文献
　百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
　百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。
○鹿野政直『歴史を学ぶこと』岩波書店、1998 年。
○学術論文の書き方
斉藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005 年。
その他、随時提示する。

【参考書】
随時提示する。

【成績評価の方法と基準】
・口頭発表、議論など毎回の授業への参加度（50 %）
・提出物（50 %）。
いずれも、準備への取り組み、完成度とあわせて評価する。
やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれば成績評価に考慮する。提出物は締め切りに遅れた場合、特別な理由（期末試験のルールに則る）以外は未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
本ゼミで学ぶ内容、方法をわかりやすくした。

【学生が準備すべき機器他】
Web 授業を行う場合は PC を必要とする。学習支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
(1) ４年への継続は、３年次末の個人研究発表会でテーマを決定し、課された準備を行い得た学生にのみ認める。
(2)「国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ」は必ず受講していること/すること、研究テーマに応じて国際社会コースを中心に同コース以外の授業も積極的に受講し、学際的に課題を追究する方法を学ぶ。
(3) 本ゼミは個人研究と共同研究が密接に関連する。両者を両立させ、主体的かつ責任をもってゼミ運営に関わり、協力しあえる学生を歓迎する。

【Outline (in English)】
【Course outline】　The aim of this course is to provide students with discipline of International Studies to understand international society. Through the 20th century, the classical view of the international society with nation states as actors did not reflect realities any longer. We will review how the transformation of international relations has affected the study of them.　Students will also examine our daily life and domestic issue are part of international society by synthesize national and international situations on equal terms. Finally, we will analyze the events and issues to resolve the problems in contemporary world.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students are expected to:
(1)Recognize major concepts and theoretical frameworks of international relations in historical context.
(2)Understand the discipline of International Study with
a) the perspectives of “interrelatedness” in the political, economic, social, and cultural spheres,
b)interdisciplinary approach by knowing how different disciplines interrelate one another,
c)historical approach with “diachronic” and “synchronic” views.
(3)Formulate own and common topics in class. Students should be able to:
a)analyze research data and previous studies,
b)interpret research results,
c)have presentation and discussion to develop own research,
d)improve skills of communication and academic writing.
【Learning activities outside of classroom】
(1)Each class will commence by 15-minute presentation and 15-minute discussion of the news article. Presenters should choose one article and analyze it critically.
(2)Presenters of each class will be expected to write resume based on the readings assigned for the class. The presentations will be prepared for deep understanding of the readings and further discussion using other non-assigned sources for their comments.　Other students will also be expected to understand of the readings and prepare for comments and questions.
(3)Pre-class and post-class assignment task are expected to take approximately 2 hours each to complete.
【Grading Criteria/Policy】
This course will be evaluated through in class contribution based on attendance, preparation of readings, presentation, participation in discussion, group research, etc.(50%), and assignment papers (50%).

POL300GA

国際社会演習

大中　一彌

サブタイトル：**貧しさのある社会と政治**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】教養としての政治学をまなびます。春セメスターでは入門者向けの教科書をもちい、政治学の概論をひととおり勉強します。メディアと政治のかかわりから始まり、そもそも投票に行くべきなのか、また、政治家とはどんな人たちなのか、政治制度としての民主主義の基本的な特徴を検討したのち、一般の市民生活にまだしも近い地方自治の世界や、アジア各国を含めた政治体制の国際比較、グローバル化された経済と政治の相互作用、国際テロリズムといったテーマを検討します。秋セメスターでは、特定の分野を掘り下げた研究（各論）として、「人間にとって貧困とは何か」という課題に取り組みます。見田宗介『まなざしの地獄』を参考図書としつつ、よそ者としての貧者や、貧困と家族、子どもにとっての貧困、グローバリゼーションと貧困、見えない貧困、といったテーマを見つめなおします。
【意義①：あなた個人に直接役立つ】文系色が濃いが情報学にも取り組む学際的な学部の出身者として、国内外の社会問題にたいする知識や考察を掘り下げることで専門性のある職業に就き、一定の安定した待遇を得たい方にとっては役立つ学びとなります。
【意義②：あなた個人にとっては間接的だが、世代や社会全体には直接役立つ】民主主義のもと、主権者である国民に、政治にかんする洞察力がないと、衆愚政治におちいる危険性があります。教養としての政治学をまなぶ意義は、若い世代の政治にかんする洞察力を高め、民主主義の質の向上を図る点にあります。
This seminar introduces students to basic conceptual instruments of political research. The students are expected to develop their media literacy necessary to critically evaluate political discourses.

【到達目標】
●1．社会科学分野における読み書き能力（リテラシー）の向上：日常言語としての日本語や英語から、大学生の専門的な学びに必要な学習言語としての日本語や英語への移行を果たす。具体的には、政治学の教科書や、メディアの言説に触れ、漢字の読みや意味がわからない場合、わからないまま放置せずに自分から調べることを習慣化する。また英語については、ネット上で提供されている自動翻訳で得られた日本語をそのまま読み上げ、自分でも内容がよくわからないのに発表するのではなく、英語の構文や社会的背景を考えられる人になる。
●2．多文化的な状況にたいする理解力の向上：多文化的な状況を理解するのに英語以外の外国語も必要であることを理解する。具体的には、英語以外の外国語を使える人（諸外国語圏ＳＡ経験者・参加予定者など）にたいして「『こんにちは』って中国語 or スペイン語 or ドイツ語 or フランス語 or 朝鮮語 or ロシア語で言ってみて〜」などと発言する行為は、英語圏または日本語圏における単一言語使用 monolingualism からみた内／外区分に無意識に影響されているのではないかと、自分に問いかけられる人になる。
●3．しくみとしての社会のイメージを自分のなかに持つ：地球全体にせよ、ひとつの町や村にせよ、さまざまな現象をうみだす社会はしくみとして複雑です。まずは、複雑なしくみを前に理解するのをあきらめたり、乱暴なやり方で単純化してしまうといった態度はとらないよう心がける。その上で、複雑な社会に関するイメージを自分のなかで少しずつ作りあげるよう普段から努力し、そのためにゼミ内外での学びやコミュニケーションを活用できる人になる。
By the end of the course, students are expected to :
- Improving her or his literacy in the field of social sciences.
- Enhancing her or his multicultural competence.
- Elaborating her or his own image of society as a complex system.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業の進め方と方法はつぎのとおりです：
1．教科書の輪読（授業内の発表＋議論）
2．新聞コーナー（学生による話題提供、報道のされ方の分析、討論）
なお、これらの課題にかんするフィードバックは基本的に授業時間内で行いますが、学習支援システムや Google Classroom など LMS 上で行う場合もあります。
この科目は「対面授業」の科目ですが、感染状況の先行きが見通せないため、隔週で対面と未定を交互に置いてあります。変更が生じた場合には、学習支援システムで変更周知を行います。コロナ対策については、「【学生の意見等からの気づき】Changes following student comments」もあわせてご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ 将来の希望とゼミでの学びにかんするトーク	教科書の入手方法の確認、輪読や新聞コーナーの担当日程決定
2	政治を知ろう　〜メディアと政治〜	教科書① 13-33 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
3	選挙に行こう　〜18 歳選挙権〜	教科書① 34-61 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
4	政治家の生活を覗いてみよう　〜政治家と有権者、政治家と政党〜	教科書① 62-88 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
5	議会を知ろう　〜なぜ「会派」が必要なのか〜	教科書① 91-115 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
6	政策を考えてみよう　〜政策過程・執政制度・政官関係〜	教科書① 116-142 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
7	デモクラシーを考えてみよう　〜「みんな」で決める複数のやり方〜	教科書① 143-169 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
8	社会の現場を知ろう　〜市民社会の意義〜	教科書① 173-203 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
9	市役所と地方議会に行ってみよう　〜地方自治の理念と現実〜	教科書① 204-232 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
10	支え合う仕組みを考えよう　〜福祉国家とその変容〜	教科書① 233-260 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
11	国家の仕組みと運営を考えてみよう　〜政治体制とガバナンス〜	教科書① 263-291 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
12	海外と関わろう　〜グローバル化する政治と経済の相互作用〜	教科書① 292-323 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
13	海外に出よう　〜安全保障の問題と国際協力〜	教科書① 324-352 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー

14	まとめ（予備日）	春セメスターの取り組みのふりかえりと、秋セメスター教科書の入手方法や学期中の分担の確認
1	孤立と零落　～貧困体験の中核～	教科書② 9-21 頁に関する発表と議論
2	貧困の社会学・序説　～見田宗介「まなざしの地獄」を読む～	教科書② 22-34 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
3	貧しい暮らし	教科書② 35-48 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
4	よそ者としての貧者　～まなざしと不安～	教科書② 49-63 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
5	排除の地理学　～貧者の生活世界～	教科書② 64-80 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
6	貧困と家族　～「恥」・近代家族・福祉国家～	教科書② 81-95 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
7	責められる家族　～貧困の犯罪化をめぐって～	教科書② 96-111 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
8	子どもにとって貧困とは何か	教科書② 112-127 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
9	貧困と友人関係　～「伴を慕う心」の行方～	教科書② 128-142 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
10	グローバリゼーションと貧困（1）　～階級・階層構造と社会変動～	教科書② 157-170 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
11	グローバリゼーションと貧困（2）　～誰が排除されているのか～	教科書② 171-183 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
12	グローバリゼーションと貧困（3）　～空間構造の変動～	教科書② 184-198 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
13	見える貧困、見えない貧困	教科書② 199-212 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー
14	社会を否定する人々、社会を求める人々	教科書② 213-230 頁に関する学生の発表と議論 新聞コーナー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1．次回で扱われる教科書の内容を読む

2．海外メディアや国内の地方紙を毎日読む習慣をつける。この演習と関係ありそうな記事をチェックする。

3．大学設置基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。この基準にしたがうなら、あなたがこの演習の予習や復習にかける時間は、１日あたり 35 分程度以上となります。

Students will be expected to have completed the required assignments before class meeting. According to the Standards for the Establishment of Universities in Japan, students are required to prepare and review at least four hours per session to earn two credits.

【テキスト（教科書）】

【春】教科書①永井史男・水島治郎・品田裕『政治学入門』ミネルヴァ書房、2019 年。

【秋】教科書②西澤晃彦『人間にとって貧困とは何か』放送大学教材、2019 年。

【参考書】

・法政大学オンラインデータベースに入っている JapanKnowledge などの事典・辞典類をもちい、分からない用語や単語を調べること

・見田宗介『まなざしの地獄』河出書房新社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準はつぎのとおりです。

演習への出席が成績評価項目としてかかげられていませんが、対面授業とリアルタイム・オンライン授業の双方において、水４～５限の時間帯に、演習に参加することが、単位修得の前提条件となります。

1. 学生による発表（新聞コーナー１回３点、教科書発表１回 10 点満点）35%

2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言や Hoppii 掲示板への書き込みなど）20%

3. その他（授業運営への協力など）10%

4. 期末提出物（タームペーパーなど）35%

Several components contribute to a student's final grade. Not the least of these is attendance. Your final grade is determined as follows:

1. Student presentations in the classroom (Brief weekly reports by each student on international or local news in Japan; In-class oral presentations on the textbook with preparation of a written summary) - 35%

2. Discussion / Active contribution (Participating in class discussions and Posting on the Learning Management System Message Board) - 20%

3. Other kinds of contribution (Cooperation in class management) - 10%

4. Term paper - 35%

【学生の意見等からの気づき】

【このゼミを取るか迷っている人へ】「必要な学びなのかもしれないけれど、つまらなさそう」が多くの人にとって政治学の入り口です。しかし、ゼミで勉強して他の人の話を聞いたり、知識がついてくるのにしたがい「必要だし興味も持てる」に少しずつ変わっていきます。

【コロナ対策】このシラバスを執筆している 2022 年 1 月 19 日現在、日本政府はまん延防止等重点措置を首都圏を含む 13 都県に適用しようとしています。コロナ禍の初年度であった 2020 年度は、Zoom など新しい機器の使い方を苦労して身に付けつつ、その利点のおかげでゼミの活動を続けることができました。コロナ禍２年目となった 2021 年度は、みな使い方には慣れましたが、遠隔だけではメンバー間の横のつながりを作るには十分でないことも実感しました。就職活動をする人や、各国の感染状況が落ち着けば、さまざま形で海外留学をする人も出てくることが予想されます。感染状況が落ち着いている限りで対面を原則としつつ、感染が急拡大している局面や、授業当日に出席できない人への配慮として、Zoom の録画なども活用し、ゼミの活動に継続的に参加してもらえる方策を準備したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿やさまざまな連絡、学期末の成果物の提出など、基本的にすべてウェブ上（学習支援システムや Google Classroom）で行なっています。Zoom を使った画面共有を利用して、学生の皆さんに報告をお願いする場合があります。端末やインターネット接続（有線が望ましい）など、自宅の情報環境を整備してください。また、自宅など学外からも法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。PressReader の利用を新聞コーナーにかんし推奨しています。

【その他の重要事項】

進路について、個別の面接を実施しています。公務員試験、教職課程、大学院進学などを志望されている方は、早めにご相談を。

【Outline (in English)】

This seminar introduces students to basic conceptual instruments of political research with a focus on the notion of poverty in a comparative perspective. The students are expected to develop their media literacy necessary to critically evaluate political discourses. Topics will include inequality, labor politics, and centrality of social class in contemporary capitalism.

ARSk300GA

国際社会演習

熊田　泰章

サブタイトル：**アートは国境を越える？！ - 間文化性研究**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＊＊＊ ＜＜ 2022 年度企画＞＞ ＊＊＊
春学期と秋学期のゼミ授業に加えて、9 月に、上海外国語大学日本文化経済学部の協力により、上海外大の 3 年生・4 年生との共同ゼミを、上海で開催する。上海外大キャンパスの学生寮に宿泊し、上海をフィールドとする間文化性研究を、東京の学生と上海の学生の協働で行い、成果をインスタレーション作品によって表現し、上海外大で発表する。この企画は、本来、2020 年 9 月に実施することを上海外大と合意しており、上海外大の学生参加希望者も 20 名ほど募っていたものであるが、コロナ禍により 2021 年度に延期した後に、結局、2021 年度は秋学期にオンライン共同ゼミとして実施した。このオンライン共同ゼミでは、世界の特色ある書店を取り上げた文献を講読し、加えて、学部学会で発表するインスタレーション作品制作について意見交換を行い、その中で得られた構想により、インスタレーション作品を制作して学部学会で発表した。この経験を活かして、上海での共同ゼミを 2022 年 9 月に開催することを目指す予定である。
上海と東京は、それぞれ固有の文化の歴史を持ち、現在の固有の文化を形成してきたが、互いに理解しあうことができるのは、互いに共有するものがあるが故なのであり、このような個別の固有性の持続と互いの共有性の確認が多文化共生＝世界平和の根源である。共同ゼミの成果確認として、世界共通「言語」としての現代アートを自らも制作し、「上海と東京は違っているけれど互いに理解できるのはなぜか」をテーマとするインスタレーション作品を制作して、上海外大キャンパスで発表する。このように、春学期・秋学期の学びと上海共同ゼミの成果を活かして、個別の固有性の持続と互いの共有性の確認が多文化共生＝世界平和の根源であることについて、現代アートを通して理解を深める。
＊＊＊＊
ゼミのテーマは文化研究であり、国際文化学部の英語表記にも含まれる概念：Interculturality ＜インターカルチュラリティ／間文化性＞を研究する。ゼミ授業の目的は、「アート」を通して文化や民族の異なる人々が個々の文化の独自性を互いに尊重し、共生する社会を考察することにある。そのための最初の一歩として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラリティを学ぶ。具体的には、芸術は「文化」をどのように表現できるのか。あるいはそれが 文化」を志向／思考する上でどんな役に立つのか。これらの問いについて、基本文献を手掛かりにディスカッションを行い、考察する。考察するとは、「自分の頭で考える」ということである。自分の頭で考えるには、2 つの作業が必要である。一つは、事実関係の確認が必要であり、参考になる資料をきちんと探すこと。研究では、先行研究をしっかり把握することが出発となる。二つ目は、自分たちの取り組んでいる個別の「文化」の事例を、いつも広い問題領域の中で位置付け、考えようとする姿勢である。ゼミでは、それぞれの地域文化に着目しつつ、それらが織りなす国際文化に視野を広げ、社会の諸相における文化の関係性と躍動性を研究する。基本文献を読み込む理論研究に加えて、間文化性を身体性として確認するために、現代アート：インスタレーション作品を制作して発表する。現代アートが、地域文化を再確認しつつ国際文化の関係性を構築するために大きく貢献していることを明らかにする。また、作品が成立するための主たる行為者を、それは製作者ではなく、作品を鑑賞する受容者であるとして要求する作品――例えば、マルセル・デュシャン『泉』――について考察し、「作品の内在性と受容者の能動性」を学ぶ。この考察を通して、私たちが生きる「文化」が、存続の危機にさらされる時に、その持続のために、当事者である私たちが何をすることが可能なのかを考えることが、ゼミの課題である。そのようにして、文献精読・発表・討議によって学問的に考察すること、一人一人の研究を行うこと、そして、インスタレーションによって表現することを、一年間のゼミ活動を通して達成する。

【到達目標】
国際文化学部の基本概念： Interculturality ＜インターカルチュラリティ＞を理解し、文化の生成と変化の仕組みを把握する。
学術論文を精密に読み、学術研究の基本を身に付ける。
学術研究の基本に即して論文を書く。
各自の研究テーマを決め、研究成果を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本文献と英語論文を読み、討論する。
個人研究発表を行う。
現代アートの展覧会を見に行く。
インスタレーション作品制作と発表を行う；春学期に 1 回、秋学期には学部学会で発表する。
個人研究論文集を作成する。
ゼミ合宿として各地の現代アート国際展などを訪ねる。
9 月に、上海外大で上海外大学生と共同ゼミを行い、間文化性と多文化共生について学び、インスタレーション作品を上海外大キャンパスで発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 1 章第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
3	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 1 章第 2 回 英語論文第 1 回	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズの第 2 回 英論第 1 回のレポート・全員の討論
4	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 2 章第 1 回 個人研究構想発表第 1 回	第 2 章第 1 回 個人研究構想を順に発表する第 1 回
5	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回	第 2 章第 2 回 個人研究構想発表第 2 回
6	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 2 章第 3 回 インスタレーション作品構想第 1 回	第 2 章第 3 回 作品制作の構想について討論第 1 回
7	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 3 章第 1 回 作品構想第 2 回	第 3 章第 1 回 作品制作の構想について討論第 2 回
8	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 3 章第 2 回 インスタレーション作品制作第 1 回	第 3 章第 2 回 作品制作第 1 回
9	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 3 章第 3 回 作品制作第 2 回	第 3 章第 3 回 作品制作第 2 回
10	インスタレーション作品発表会	作品発表と解説を行う
11	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 4 章第 1 回 作品発表総括	第 4 章第 1 回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第 4 章第 2 回 個人研究発表第 1 回	第 4 章第 2 回 個人研究発表と質疑第 1 回
13	英語論文第 2 回 個人研究発表第 2 回	英語論文第 2 回 個人研究発表と質疑第 2 回
14	まとめ	このセメスターの総括
15	イントロダクション 上海共同ゼミの総括	上海共同ゼミについての振り返り 秋学期ゼミ運営について決定
16	基本文献 『美学への招待』第 1 章	基本文献第 1 章担当者レポートと全員の討論・エクササイズ
17	基本文献 『美学への招待』第 2 章 個人研究中間発表第 1 回	第 2 章 個人研究の中間発表と質疑第 1 回
18	基本文献 『美学への招待』第 3 章 個人研究中間発表第 2 回	第 3 章 個人研究の中間発表と質疑第 2 回
19	基本文献 『美学への招待』第 4 章 個人研究中間発表第 3 回	第 4 章 個人研究の中間発表と質疑第 3 回
20	英語論文第 3 回 インスタレーション作品構想第 1 回	英論第 3 回 作品制作の構想について討論第 1 回
21	基本文献 『美学への招待』第 5 章 作品構想第 2 回	第 5 章 作品制作の構想について討論第 2 回

22	基本文献 『美学への招待』第 6 章 インスタレーション作品制作第 1 回	第 6 章 作品制作開始
23	基本文献 『美学への招待』第 7 章 作品制作第 2 回	第 7 章 作品制作継続
24	基本文献 『美学への招待』第 8 章 学部学会発表準備 作品制作第 3 回	第 8 章 最終準備ゲネプロ
25	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
26	基本文献 『美学への招待』第 9 章 最終個人研究発表 1 回目	第 9 章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑 第 1 回
27	基本文献 『美学への招待』第 10 章 最終個人研究発表第 2 回	第 10 章 最終個人研究発表と質疑第 2 回
28	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。
学習ノートは、準備学習 ⇒ 授業内 ⇒ 復習で順次参照し、書き込んでいく。
学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。
ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。
本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基本文献：
1. 佐々木健一『美学への招待（増補版）』中央公論新社、2019 年
2. ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい美術鑑賞法』 犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006 年
3. エドワード・W. サイード『オリエンタリズム』（上下）今沢紀子訳、平凡社、1993 年
4. ジェラール・ジュネット『芸術の作品Ⅰ－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013 年
5. アゴタ・クリストフ『悪童日記』堀茂樹訳、早川書房、1991 年
6. ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛―ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温司・大塚直子訳、白水社、2002 年
7. ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001 年
8. 英語論文、もしくは、関連する英文記事（例えば以下のような英文記事）：
Ishiguro, Kazuo: My Twentieth Century Evening - and Other Small Breakthroughs [Nobel Lecture on 7 December 2017].
https://www.nobelprize.org/prizes/literature/2017/ishiguro/lecture/
(参照日 7. Jan. 2022)

【参考書】
1. 熊田泰章編『国際文化研究への道－共生と連帯を求めて』彩流社、2013 年
2. 熊田泰章「唯一であることの相対的価値についての試論」法政大学国際文化学部『異文化論文編（１５）』、2014 年

【成績評価の方法と基準】
基本文献の発表と討論（50 %）、各自の研究発表と討論（50 %）によって評価。
基本文献で展開される概念提示と問題提起を理解した上で、理解したことを発表し、討論を通して整理することが重要です。各自の研究発表を行うことで、問題を発見する探求力と論証力を鍛錬します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】
貸与ないし各自のパソコン持参。
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを用いる。

【その他の重要事項】
<< アートを通して国際社会を分節する！ >>
<< Articulate the international community with art!>>
＊担当教員＝熊田泰章：
国際文化学部開設に従事し、学部長として 1 期生に学位記を手渡す。2017 年度～2020 年度は、総長を補佐する大学常務理事の職務に従事し、グローバル教育センター長を兼務したが、そのため、学部授業担当を一部調整した。間文化性研究として、言語表現と図像表現の原理について通時的・共時的に考察している。
自分自身の学部卒業論文では、ヨーロッパ昔話の国際比較研究を取り上げた。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The main theme of this seminar is cultural research and we study the concept of “interculturality” as seen in the name of our faculty, “Intercultural Communication”. The purpose of our research is to examine the society where people from different culture or groups live together respecting each other through art. As a first step to achieve that, we learn “interculturality” as a base of cultural diversity. For example, our research questions are “how can art express culture?" and “how can art help to accomplish or determine culture?”. We discuss these questions reading relevant literature. In addition to the theoretical research based on the literature, we present works of contemporary art as a joint research theme in order to exercise “interculturality”. It is our mission to consider, through determining art, what we can do about the current situation where our culture is having difficulty surviving. While trying to answer this question academically through discussion, each member summarizes their own opinion as a thesis and express it as an installation.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-understand the basic concept of the Faculty: Interculturality.
-understand the mechanism of cultural generation and change.
-read academic papers precisely and acquire the basics of academic research.
-write a dissertation in line with the basics of academic research.
－ decide on own research theme and present research results.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the followings:
-presentation and discussion on basic literature(50%).
-presentation and discussion on own research(50%).

HIS300GA

国際社会演習

佐々木　一惠

サブタイトル：**トランスナショナル・ヒストリー研究**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
過去とは、私たちにとっては＜異文化＞の一つであり、また過去の出来事や事象を探究することとは、現代と過去との間の関係性を相関的に捉えていくことでもあります。この演習では、国境を越える人・モノ・カネ・思想・文化の移動によって生じた現象及び問題を歴史的な視点から検討していきます。そこから、私たちにとって「当たり前」な事象や歴史認識を、批判的に捉えなおしていく力を養っていきます。また、ナショナルな境界を越える諸問題について、自分なりの研究テーマ（対象や地域は自由）を構想し、調査・分析し論文としてまとめていく方法・技術の修得を目指します。

【到達目標】
・文献を読み、内容を理解するだけでなく、自分なりの解釈や批判を含めたクリティカル・レビューや先行研究分析ができるようになる。
・一次史料（資料）に関して、それが書かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈の中で解釈できるようになる。
・自分が関心のある事象について、歴史的な視点から史料（資料）収集や現地調査を行い、研究論文（3 年生は 10,000 字程度、4 年生は 20,000 字程度）としてまとめていけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
（1）文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）
（2）一次史料分析の発表を行う
（3）個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う）
（4）先行研究レビュー（自分のテーマに関する先行研究を整理しレポートにまとめ発表する）
＊提出された課題については、コメントをつけて返しますますので、修正の上、再提出するようにしてください。また個人研究については、適宜、対面もしくはオンラインにより研究指導を実施します。
（5）その他（夏合宿、他大学との合同ゼミ、国際文化情報学会での発表、論文合評会など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介　授業の説明　トランスナショナル・ヒストリーとは グループでの話し合い
第 2 回	高校『世界史』から大学の歴史学へ①	テキスト：「視点を変え通説を疑うことから始める歴史学―ガンディーは誰にとっての『偉人』なのか」
第 3 回	高校『世界史』から大学の歴史学へ②	研究論文・研究書の読み方、リーティング・ノートの作成、先行研究の分析、発表の仕方、など。
第 4 回	先行研究の分析①	文献：「ガンディーとアンベードカルー『不可触民問題』をめぐって」
第 5 回	先行研究の分析②	文献：「ガンディーとインド農民」
第 6 回	先行研究の分析③	文献：「ガンディーと女性」
第 7 回	一次史料の分析①	グループ発表①：ガンディーに関する一次史料を用いた分析の発表。
第 8 回	一次史料の分析②	グループ発表②：ガンディーに関する一次史料を用いた分析の発表。
第 9 回	一次史料の分析③	グループ発表③：ガンディーに関する一次史料を用いた分析の発表。
第 10 回	トランスナショナル・ヒストリーから捉えるガンディー①	グループ発表①：ガンディーについてトランスナショナル・ヒストリーの視点から読み直し、テーマを設定した発表。
第 11 回	トランスナショナル・ヒストリーから捉えるガンディー②	グループ発表②：ガンディーについてトランスナショナル・ヒストリーの視点から読み直し、テーマを設定した発表。
第 12 回	トランスナショナル・ヒストリーから捉えるガンディー③	グループ発表③：ガンディーについてトランスナショナル・ヒストリーの視点から読み直し、テーマを設定した発表。
第 13 回	論文作法	論文の書き方についてのワークショップ。
第 14 回	まとめ	今学期学んだことを振り返る。
第 1 回	イントロダクション	今学期の計画と目標について
第 2 回	個人研究中間発表①	4 年生の個人研究発表
第 3 回	個人研究中間発表②	4 年生の個人研究発表
第 4 回	個人研究中間発表③	3 年生の個人研究発表
第 5 回	学会発表準備①	一次史料を用いたグループ研究
第 6 回	学会発表準備②	一次史料を用いたグループ研究
第 7 回	学会発表準備③	一次史料を用いたグループ研究
第 8 回	学会発表準備④	個人発表の予行演習
第 9 回	学会発表準備⑤	個人発表の予行演習
第 10 回	学会発表準備⑥	個人発表の予行演習
第 11 回	個人研究発表①	3 年生の個人研究発表
第 12 回	個人研究発表②	3 年生の個人研究発表
第 13 回	個人研究発表③	3 年生の個人研究発表
第 14 回	まとめ	今年度、演習で学んだことについて振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 文献を読み、疑問点や質問、意見を準備してくる。
(2) 発表にあたっている班は、事前に集まって発表のための準備を行う。
(3) 個人研究の準備を進める（文献表の作成、先行文献の整理と批判、資料収集、調査、等）
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○ 大学の歴史教育を考える会編『わかる・身につく歴史学の学び方―歴史学がわかると世界が見える』大月書店、2021 年。
○　内藤雅雄『ガンディー―現代インド社会との対話　同時代人に見るその思想・運動の衝撃』明石書店、2017 年。
【一次史料】
○　M.K. ガーンディー（田中敏雄訳）『南アフリカでのサッティヤーグラハの歴史 1：非暴力不服従運動の誕生』平凡社、2005 年。

○　M.K. ガーンディー（田中敏雄訳）『南アフリカでのサッティヤーグラハの歴史 2：非暴力不服従運動の誕生』平凡社、2005 年。

○　M.K. ガーンディー（田中敏雄訳）『ガーンディー自叙伝 1 ：真理へと近づく様々な実験』平凡社、2006 年。

○　M.K. ガーンディー（田中敏雄訳）『ガーンディー自叙伝 2 ：真理へと近づく様々な実験』平凡社、2006 年。
○　M.K. Gandhi, Communal Unity (Ahmedabad : Navajivan Publishing House, 1947).
○ The Collected Works of Mahatma Gandhi (New Delhi : Publications Division, Ministry of Information and Broadcasting, Government of India , 1971-1984).

【参考書】
必要に応じて授業の中で示します。

【成績評価の方法と基準】
発表・グループ発表５０％、提出課題５０％。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生間のピア・レビューがとても効果が高いことに気がついた。

【学生が準備すべき機器他】
史料（資料）検索の実習等において、パソコンを使用することがある。

【その他の重要事項】
担当教員の他の授業の受講を推奨します。
【学部基盤科目】
「宗教と社会」
「ジェンダー論」
【学部専攻科目】
「宗教社会論 II（キリスト教と社会運動）」
「Approaches to Transnational History」
【大学院科目（自由科目として受講）】
「多文化相関論 III（歴史学の諸アプローチ）」
「ジェンダー論（ジェンダー史の展開）」

【Outline (in English)】
【Course outline】
The seminar explores the history of the cross-border movements of people, goods, ideas, capital, information, and symbols so that students can develop the ability to analyze social, economic, political, and cultural issues cross-culturally and interracially.
【Learning objectives】
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) conduct a critical review and analysis of previous research, 2) interpret primary sources in the political, economic, social, and cultural contexts in which they were written, and 3) collect historical materials on issues of their interest and write a research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to: 1) have read the assigned texts and prepared with questions, comments, and opinions, 2) prepare for group presentations, and 3) conduct individual research for their research projects.
【Grading Criteria /Policy】
Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments. The final grade is determined by presentations (50%) and assignments (50%).

ARSk300GA

国際社会演習

曽　士才

サブタイトル：**ヒトの移動で読み解く世界**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光や仕事、留学、あるいは国際結婚など、自らの意思で定住地を離れ、軽々と越境することが現代社会における人の移動の特徴だといえる。その意味では現代人はみな「ツーリスト」だと言えるでしょう。このゼミでは人の移動を切り口にして日本を、そして世界を読み解く研究をする。

【到達目標】
日本や諸外国のなかの移民コミュニティや移民が継承する／創造する文化について、あるいは観光客誘致のための情報発信に力を入れている地域や人気観光スポットについて、自ら現地をフィールドワークし、関連する研究文献を読んで分析する。「移民」や「観光」を通して私たちが生きているこの社会を深く理解することを目標としている。そして、研究成果を国際文化情報学会で発表し、研究論文を法政大学の懸賞論文に応募し、外部評価を受けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
19 世紀は「移民の世紀」と呼ばれ、ヨーロッパから多くの移民が新大陸アメリカへと渡って行った。同じ頃、アジアでも中国やインドから欧州列強の植民地へのヒトの移動が見られた。「戦争の世紀」と呼ばれる 20 世紀に入ると、難民や国際労働力としてのヒトの移動が世界規模で広がっていった。そして、21 世紀は「観光の世紀」とも呼ばれ、人類最大の異文化接触や交流が日々、世界で展開するようになっている。
目下、新型コロナウイルスの感染流行により、ヒトの移動が大きく制限を受けており、特に国境を越える移動は甚大な影響を受けている。国連世界観光機構（UNWTO）によると、コロナ感染の終息とともに、国内観光がいち早く回復し、経済復興を後押しすると予測されているが、国際観光については、21 年度第 3 四半期には好転するも回復には至っていないとしている。
感染状況は予断を許さないが、授業は原則対面方式で行う。状況次第では、オンライン授業と併用することもある。春セメスターでは、チームまたは個人単位で研究調査テーマを決め、先行研究を洗い出し、研究文献を熟読するとともに、現地調査を行う。
秋セメスターでは、研究調査を続行し、取集した資料を整理分析し、その成果を研究論文としてまとめる。研究成果は、12 月の国際文化情報学会での口頭発表や懸賞論文への応募などで、第三者の評価を受けるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明；ゼミ生の自己紹介；教員による授業の進め方の説明
第 2 回	上級生による研究紹介（1）	4 年生、3 年生による研究紹介
第 3 回	上級生による研究紹介（2）	4 年生、3 年生による研究紹介
第 4 回	グループ別作業（1）	上級生は調査（準備）や論文執筆、新ゼミ生は研究文献の読破。掲示板で進捗状況を共有
第 5 回	グループ別作業（2）	上級生は調査（準備）や論文執筆、新ゼミ生は研究文献の読破。掲示板で進捗状況を共有
第 6 回	先行研究の発表（1）	観光関係の先行研究の内容を発表（上級生）
第 7 回	先行研究の発表（2）	観光関係の先行研究の内容を発表（新ゼミ生）
第 8 回	先行研究の発表（3）	移民関係の先行研究の内容を発表（上級生）
第 9 回	先行研究の発表（4）	移民関係の先行研究の内容を発表（新ゼミ生）
第 10 回	研究調査計画の立案（1）	テーマ、目的、調査対象の検討
第 11 回	研究調査計画の立案（2）	調査方法、調査内容の検討
第 12 回	研究調査計画の立案（3）	調査地の決定、調査地の概況調査
第 13 回	研究調査計画の発表と討論（1）	観光関係の研究調査計画の発表、討論
第 14 回	研究調査計画の発表と討論（2）	移民関係の研究調査計画の発表、討論
第 1 回	研究調査の概要報告	研究調査の進捗状況の報告；教員から卒論等の説明、学会発表の説明
第 2 回	グループ別作業（1）	研究調査の資料整理と文章化、補充調査
第 3 回	グループ別作業（2）	研究調査の論文執筆、補充調査
第 4 回	研究成果の発表（1）	研究成果の発表と討論。観光分野
第 5 回	研究成果の発表（2）	研究成果の発表と討論。観光・移民分野
第 6 回	研究成果の発表（3）	研究成果の発表と討論。移民分野
第 7 回	外部評価のための準備（1）	学会発表用論文の作成
第 8 回	外部評価のための準備（2）	学会発表用論文の相互批判
第 9 回	グループ別個別指導（1）	観光分野のゼミ論・ゼミレポートの査読とフィードバック
第 10 回	グループ別個別指導（2）	移民分野のゼミ論・ゼミレポートの査読とフィードバック
第 11 回	4 年生による就活ガイダンス	4 年生による就活体験の紹介とアドバイス
第 12 回	ゲストスピーカー講演	外部講師による講演と討論
第 13 回	研究成果の最終発表（1）	執筆した論文・レポートに基づく成果発表
第 14 回	研究成果の最終発表（2）	執筆した論文・レポートに基づく成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期では、個人／グループごとに研究テーマに関する研究文献の読み込みを行う。秋学期では、フィールドワークや文献調査によって得られた調査結果の整理・分析を随時行う。本授業の準備・復習時間は、作業内容によって異なるが、おおむね各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
江淵一公編『トランスカルチュラリズムの研究』明石書店 1998 年
白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化―グローバリゼーションとアイデンティティ』お茶の水書房 2008 年
日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房 2011 年
吉原和男編『現代における人の国際移動―アジアの中の日本』慶応義塾大学出版会 2013 年
佐々木一成『歓呼振興と魅力あるまちづくり』学芸出版社 2008 年
山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』(講談社選書メチエ) 講談社 2009 年

金成玟・岡本亮輔・周倩編『東アジア観光学－まなざし・場所・集団』亜紀書房 2017 年

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期とも、授業中の討論への参加度・調査への参加度 50 %、学期中に提出する論文 50 %の割合で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ参加者数が多く、グループワークの時間が占める割合が高い。ゼミ生全体の交流の機会を確保するために、懇親会や授業支援システムの活用を心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course deals with migration and tourism.

【Learning Objectives】

At the end of the course, participants are expected to understand Japan and other countries from the viewpoint of transnationalism.

【Learning activities outside of classroom】

In spring term, students will be expected to read academic papers on research themes. In autumn term, students will be expected to analyze survey results and write a dissertation.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated to the following process: Term-end report/ dissertation（50 %） and contribution in class or fieldwork（50 %）.

ARSe300GA

国際社会演習

髙柳　俊男

サブタイトル：**朝鮮半島と日本**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2022 年の現在、隣国の韓国に向ける日本の視線には、K-POP をはじめ韓流による関心や憧れがある一方で、領土問題や歴史問題をめぐって軋轢や厳しい見方もある。もう一つの北朝鮮には、かつては熱い視線が注がれた時代もあったが、いまだ国交がなく、親子三代の権力世襲や軍事力優先の国家体制に対して、冷やかな眺めが支配的である。
どうしてこのような現状になっているのであろうか？ そこに至るまでの間には、どのような出来事や人々の営みがあったのだろうか？ 状況を少しでも良い方向に動かしていくためには、何が必要なのだろうか？
この授業では、参加するゼミ生たちとともに、日本と朝鮮半島の間の複雑に絡まった糸を少しずつ解いていく作業をする。これまでの歩みをひも解き、それを踏まえてあるべき未来を考察することをめざしたい。なかでも、現在は埋もれてしまっている貴重な歴史的諸経験や未発の可能性の掘り起こしに努めたい。
同時に、朝鮮問題を中心にしながらも、日本の異文化理解や多文化共生・多民族共生全般という、より広い文脈の中で捉えることを心がける。
受講生たちが具体的な諸事実をとことん突き詰めるなかで、自らの認識を深化させること―いわば「個別を極めることを通じて普遍に至る」ような学び方を身につけることを重視したい。

【到達目標】
日本と朝鮮半島が歩んできた歴史と現在、およびその中で営まれた人々の思索と行動の軌跡を、自らの知性と感性により時間的・空間的広がりの中で理解する。理解した内容を、受け売りではなく、自ら紡いだ言葉で語れるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
今年度は対面授業が再開できることが理想だが、コロナの感染状況等から不可と判断される場合はオンライン授業中心、ないし両者の併用となる。具体的には、学習支援システム上で提示する。授業の基本的な流れは、以下の通り。
第１回目に、参加ゼミ生個々人がこれまで読んで感銘を受けた韓国・朝鮮関連の本で、ぜひ他のメンバーと共有したい作品を挙げてもらう。それらをリスト化し、個々人の読書の参考にするとともに、一部を年間スケジュールの中にも組み込みたい。
第２回目以降は、まずウォーミングアップから始め、髙柳が執筆した日韓関係のいくつかの文献を、導入教材として読む。
続いて今年度のテキストに入る。このテキストは、日韓の現状に心を痛め、打開を模索する 11 人の寄稿者の論考を収めたアンソロジーである。
各自には、ウォーミングアップの時期にテキスト全体に目を通し、自分が取り上げたいものを選定してもらい、それに基づき順に報告してもらう。発表の際には、テキストの内容要約のほか、関連する他の書物や新聞・雑誌報道などにも目を通し、取り上げられたテーマに対する多面的で客観的な分析となるよう心掛けること。
毎回の討論の中で出た疑問点・不足点を、レポーターに次回冒頭で補足してもらい、知識・認識の深化をはかる。
関連映像の視聴を随時まじえ、関連スポットへのフィールドワークも、受講生の自発性と創意工夫、そしてコロナウイルス感染症の状況を勘案しつつ適宜実施したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の自己紹介、自分の推薦する本、年間授業スケジュールの確認、導入教材の配付、レファレンスブックの紹介など
第 2 回	導入教材①	高柳の文章を読む①
第 3 回	導入教材②	高柳の文章を読む②
第 4 回	導入教材③	高柳の文章を読む③
第 5 回	導入教材④	高柳の文章を読む④
第 6 回	映像上映①	学習内容の映像による確認
第 7 回	テキストの個人報告①	レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	テキストの個人報告②	レポーターの報告と全員による討論
第 9 回	映像上映②	学習内容の映像による確認
第 10 回	テキストの個人報告③	レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	テキストの個人報告④	レポーターの報告と全員による討論
第 12 回	テキストの個人報告⑤	レポーターの報告と全員による討論
第 13 回	映像上映③	学習内容の映像による確認
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学習のまとめと、夏季休業中の課題の伝達
第 1 回	秋学期の導入①	夏季休業中の各自の学習成果の報告（一人 10 分程度）
第 2 回	秋学期の導入②	夏季休業中の関連新聞記事の分析（朝日／毎日）
第 3 回	秋学期の導入③	夏季休業中の関連新聞記事の分析（読売／韓国の新聞）
第 4 回	映像上映④	学習内容の映像による確認
第 5 回	テキストの個人報告⑥	レポーターの報告と全員による討論
第 6 回	テキストの個人報告⑦	レポーターの報告と全員による討論
第 7 回	テキストの個人報告⑧	レポーターの報告と全員による討論
第 8 回	映像上映⑤	学習内容の映像による確認
第 9 回	テキストの個人報告⑨	レポーターの報告と全員による討論
第 10 回	テキストの個人報告⑩	レポーターの報告と全員による討論
第 11 回	テキストの個人報告⑪	レポーターの報告と全員による討論
第 12 回	映像上映⑥	学習内容の映像による確認
第 13 回	ゼミ生推薦の本の読書会	年度始めにゼミ生全員が推奨した本の中から 1 冊を選び、全員で読んで討論する
第 14 回	年間のまとめ	年間の学習のまとめと、春季休業中の学習計画の策定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介する各種参考文献の講読、関連スポットへの訪問、学内外における関連イベントへの参加など。
なお、日本近現代史・東アジア近現代史の大きな流れについて、高校で習う程度の基礎知識を前提にするので、不足を感じる人は自分で補うよう努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
内田樹編『街場の日韓論』（晶文社、2020 年）。

【参考書】
レファレンスブックとして、『朝鮮を知る事典』（平凡社）、『朝鮮人物事典』（大和書房）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、『在日コリアン辞典』（明石書店）などを随時参照すること。韓国・朝鮮について深く考えたいと願う人は、自分で購入し、ゼミに持参することを強く推奨する。

【成績評価の方法と基準】
演習なので、担当するレポーターはもちろん、それ以外のゼミ生も毎回事前にテキストを読み込み、ポイントを把握して来たうえで出席し、必ず何かしら自分なりの質問や意見を表明することが大切である。
そうした平常時の貢献度と発表時の報告内容を 35 %ずつ、各学期末のレポートを 30 %として判断する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミはサークルや「仲良しクラブ」ではないが、かといって参加者個人の孤独な作業とも異なる。探究心に溢れた一人一人の自立した営みの上に、みなで切磋琢磨できるような場となるよう、ともに努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
リモート授業となる場合は、PC などの通信環境。

【その他の重要事項】
年間を通して、「知の蓄積」という課題を常に考えながら学んでいきたい。
その意味は、一つはこれまでの長い歴史の中で蓄積されてきた人類の膨大な知をどう活用できるかという課題、もう一つは自分の中に知をどう蓄積していけるかという課題を指している。
とくに後者については、一度学んだ内容が再度登場した場合、より高いレベルで考えられるようにするためにはどうしたらよいかを、常に念頭において取り組んでほしい。すなわち、漫然とした受け身の学びではなく、真に能動的な学びとはどうあるべきかという問いかけである。
そのためには、具体にこだわること、すなわち演習内で登場する人名や事件名などの固有名詞を疎かにしない学びが重要である。

【Outline (in English)】
This seminar aims to learn why there are many issues between Japan and Korea, and how we can solve these difficult problems by our own intelligence, sensibility, and experiences.
Students are expected to read the papers mentioned in the classroom, visit relevant locations, and participate in the events held on and off campus.
Final grade will be calculated according to the following process. In-class presentation 35%, in-class contribution 35%, and term-end report 30%.

CUA300GA

国際社会演習

石森　大知

サブタイトル：**グローバル化と共生の人類学**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化とともに人・モノ・情報の移動は加速し、世界の諸文化は均質化する一方で、その反動として差異化に向かう側面もみられる。そこにおいて異質なもの同士の出会いは確実に増加しており、私たちはこれまで以上に他者に対する理解や共感が求められている。本演習では、自己（自文化）と他者（異文化）の差異を認識したうえで、共生に向けた取り組みや相互に理解し合う可能性を学ぶことを目的とする。
具体的には、多文化共生、マイノリティ、移民や難民、宗教間対話、紛争と平和構築、地域活性化、支援やボランティアなどの文献の輪読を通して現代社会の諸課題を広く理解する。それと並行して、互酬性の観念、（自立共生などと訳される）コンヴィヴィアリティの概念、共存・共生の思想やあり方などについて学びながら理論的な考察を重ねる。

【到達目標】
・文化人類学の専門的な概念や理論、質的調査の方法論を習得する。
・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心や研究テーマの設定につなげる。
・先行研究の検討に始まり、研究テーマの構想、調査項目の設定、調査の実施と資料の収集、資料の整理・分析、論文の作成に至る一連の学問的営為を習得する。
・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の力や共生に関する洞察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・本授業は原則、対面で実施する。
・春学期は文献の輪読をベースにしつつ、適宜、講義形式を取り入れることで共通の問題意識を深める。秋学期は授業の成果を国際文化情報学会で発表するために、３年生はグループ単位、４年生は個人単位で調査・研究を行う。
・文献の輪読では、毎回発表者を立てる。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
・履修者から出された興味深いコメントや質問等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、自己紹介、各自の問題関心を発表
第 2 回	グローバル化と共生社会への視点	本演習のテーマに関する講義、グループ分け、輪読文献の選定
第 3 回	多文化主義の現在①	（文献の発表・討論）世界の多文化主義とその課題を学ぶ
第 4 回	多文化主義の現在②	（文献の発表・討論）日本における「多文化共生」
第 5 回	マイノリティと現代社会①	（文献の発表・討論）先住民としての権利
第 6 回	マイノリティと現代社会②	（文献の発表・討論）移民・ニューカマー外国人
第 7 回	マイノリティと現代社会③	（文献の発表・討論）障がい者・老人・ケア
第 8 回	コミュニティの再生①	（文献の発表・討論）宗教的他者との共存・共生
第 9 回	コミュニティの再生②	（文献の発表・討論）文化の資源化と観光開発
第 10 回	コミュニティの再生③	（文献の発表・討論）まちづくり、祭りとイベント
第 11 回	質的な調査・研究を進めるために	研究論文の構成と考え方、フィールドワークの方法論
第 12 回	研究テーマ発表①	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第 13 回	研究テーマ発表②	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第 14 回	総括	春学期のまとめと秋学期の準備
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール
第 2 回	研究テーマ発表①	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第 3 回	研究テーマ発表②	各自の研究テーマについて発表し、グループ討論を行う。
第 4 回	グローバル支援と互酬性①	（文献の発表・討論）変貌する NGO・市民活動の現場
第 5 回	グローバル支援と互酬性②	（文献の発表・討論）学生の海外ボランティア
第 6 回	コンヴィヴィアルな社会の展望①	（文献の発表・討論）民族・宗教紛争と平和構築
第 7 回	コンヴィヴィアルな社会の展望②	（文献の発表・討論）グローバル化する難民・移民との対話
第 8 回	国際文化情報学会の発表準備①	研究テーマの絞り込み
第 9 回	国際文化情報学会の発表準備②	研究テーマに関する文献の収集
第 10 回	国際文化情報学会の発表準備③	研究テーマの深化と分担
第 11 回	国際文化情報学会の発表準備④	学会発表の予行演習
第 12 回	研究成果の発表①	研究成果を発表し、グループ討論を行う。
第 13 回	研究成果の発表②	研究成果を発表し、グループ討論を行う。
第 14 回	総括	１年間に学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・自らの研究テーマについて日ごろから関心を深め、必要な文献を読み調べる。
・フィールドワーク等を実施して資料を収集するとともに、資料の整理・分析を行う。
・研究発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】
志水宏吉ほか編『共生学宣言』大阪大学出版会、2020 年。
石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学－グローバル化する開発言説とポスト世俗主義』春風社、2019 年。
信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学－変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017 年。
塩原良和『共に生きる－多民族・多文化社会における対話』弘文堂、2017 年。

イヴァン・イリイチ『コンヴィヴィアリティのための道具』渡辺京二・渡辺梨佐訳、ちくま学芸文庫、2015 年。
内藤直樹・山北輝裕編『社会的包摂/排除の人類学－開発・難民・福祉』昭和堂、2014 年。
加藤剛編『もっと知ろう! わたしたちの隣人－ニューカマー外国人と日本社会』世界思想社、2010 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介する）

【成績評価の方法と基準】
討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70 %）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30 %）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の議論がより活発になるような授業運営（議論を引き出すための工夫、発言しやすい雰囲気や授業の流れ）を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、グローバル化と共生について文化人類学的視点から授業を行う。

【Outline (in English)】
This seminar introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on cultural symbiosis. We also deepen our understanding on issues related to the global issues. At the end of the course, students are expected to have knowledge of issues on minorities, multiculturalism, interfaith dialogue, ethnic conflicts, community development and so on in a wider perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

SOS300GA

国際社会演習

松本　悟

サブタイトル：**国際協力を捉える視点**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期・秋学期**/Spring・Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜**
備考（履修条件等）：**単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国際協力」とは異なる文化的背景を抱えた人々のつながりの一形態であり、演習で扱うイシューは国際協力を必要とする背景や実施した影響も含む。具体的には、貧困、環境、開発、格差、紛争、難民、教育などの「グローバルイシュー」、国際機構、ＮＧＯ、政府機関、企業などの「組織」、ボランティア、募金、善意、助け合いなど「国際協力を実践する個人や社会のあり方」、そうした実践を表象するメディアも学びの対象とする。その前提に立って、国際文化学部の学生として「国際協力」やその背景要因、意図せざる結果を考察することを通して、物事を洞察する多様な分析視角＝視点を修得する。

【到達目標】
【2 年次】人文社会科学の視点や研究方法を使って SA/SJ 等に関係する短いサーベイ論文を書けるようになる、もしくはそれをサポートできるようになる。
【3 年春学期】「国際協力」を広く分析する人文社会科学の視点や研究方法を習得し、各自が研究したいテーマと研究方法を見出せるようになる。
【3 年秋学期】実際に調査・取材や研究に携わってその結果を発表したり、先輩の研究の進捗に積極的に触れたりすることを通して、研究に必要な方法を習得し、各自が研究したいテーマに関わる意義ある問いや仮説を立てられる、もしくはそれをサポートできるようになる。
【4 年春学期】「国際協力」に係る事象を分析する人文社会科学の視点を深めるとともに、自らの研究テーマに沿った調査を進めることで、実践知（フロネーシス）として知識を捉えることができるようになる。
【4 年秋学期】先行研究や適切な方法に基づいた研究論文の執筆と研究発表を行うことができる、もしくは、それをサポートできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【基本方針】新型コロナウィルス感染防止に係る法政大学の「教育活動における行動方針」のレベル 1 や 2 の場合は対面で、レベル 3 以上の場合はリアルタイムのオンラインで実施する。ただしレベル 1 と 2 の場合も、十分な感染防止対策を行うと同時に基礎疾患など個別の事情に応じて自宅等からの受講を認めハイブリッドで実施する。
【課題へのフィードバック】毎回の発表に対してはその場でコメントし、研究進捗報告などの課題に対しては学習支援システムを通じてコメントする。
【概要】春学期は「視点」と「方法論」を毎回学ぶ。「視点」では読む力、理解する力、考える力、発表する力を鍛え、「方法論」（サブゼミ）で考えたり調べたりするのに必要な研究方法を実習する。秋学期は、10 月の法政大学懸賞論文や 12 月の国際文化情報学会など発表の場を積極的に活かして、春学期のインプットをアウトプットへと繋げていく。
【方法】
1．読む力、考える力、発表する力、議論する力の鍛錬：ゼミの卒業生が書いた卒業論文を題材にした議論・発表、各自の研究テーマに関する文献や事例をもとにした発表・議論を行う。
2．研究方法の習得：研究方法に関する課題文献を読んだ上で実習する。
3．「叩き愛」：お互いの研究計画、進捗報告、草稿などを事前に読んでゼミの時間にコメントし合う。「愛を持って叩く」という姿勢が重要。
4．外部講師の招へい：演習の学びを高め、実践との繋がりを考えるため外部講師を招くこともある。
5．ゼミ合宿：9 月上旬に 2 泊 3 日で実施する（新型コロナウイルス感染状況によってはオンライン開催）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の説明、他己紹介、論文とは何か、をテーマにこのゼミを体感するような議論。
第 2 回	支援／方法論	「視点」では「支援」を、「方法論」では方法と方法論の違いを取り上げる。
第 3 回	弱者／先行研究レビュー	「視点」では弱者（スラム、孤児院）を取り上げ、「方法論」では先行研究レビューの意味について学ぶ。
第 4 回	難民／質的調査と量的調査	「視点」では難民を取り上げ、「方法論」では質的調査と量的調査の違いについて学ぶ。
第 5 回	観光と資源／ドキュメント分析	「視点」では観光と資源を取り上げ、「方法論」ではドキュメント分析について学ぶ。
第 6 回	表象と偏見／ライフストーリーインタビュー	「視点」では表象（写真、バレエ）と偏見を取り上げ、「方法論」ではライフストーリーインタビューの課題に取り組む。
第 7 回	新興ドナー／事例研究	「視点」では新興ドナーを取り上げ、「方法論」では事例研究について学ぶ。
第 8 回	4 年生の個人研究進捗共有	4 年生の卒業研究の進捗状況を共有して議論する。
第 9 回	個人発表①	2 年生、3 年生による文献発表と議論（グループ①）
第 10 回	個人発表②	2 年生、3 年生による文献発表と議論（グループ②）
第 11 回	留学	SA や派遣留学の経験を共有し留学について考える
第 12 回	ライフストーリーインタビュー研究と叩き愛①	2 年生、3 年生のライフストーリーインタビューをもとにした論文にコメントし合う。グループ①を対象とする。
第 13 回	ライフストーリーインタビュー研究と叩き愛②	2 年生、3 年生のライフストーリーインタビューをもとにした論文にコメントし合う。グループ②を対象とする。
第 14 回	懸賞論文初稿の叩き愛と春学期の学び	10 月締切の法政大学懸賞論文初稿にコメントし合う。春学期の学びを KJ 法を使って発見する。
第 15 回	個人研究論文の発表とグループ討議（Ａグループ）	法政大学懸賞論文に投稿する学生の個人研究論文の発表とそれに対するグループ討議（Ａグループ）
第 16 回	個人研究論文の発表とグループ討議（Ｂグループ）	法政大学懸賞論文に投稿する学生の個人研究論文の発表とそれに対するグループ討議（Ｂグループ）
第 17 回	懸賞論文から学ぶ	法政大学懸賞論文に投稿することの意義、学び、難しさを共有する。
第 18 回	ゼミ生によるゼミ（テーマＡ）	3 年生が自らの研究テーマに関する課題を提示し、ゼミでの議論を担当する。テーマは 3 年生の研究テーマを踏まえて春学期の終わりに決定する。
第 19 回	ゼミ生によるゼミ（テーマＢ）	3 年生が自らの研究テーマに関する課題を提示し、ゼミでの議論を担当する。テーマは 3 年生の研究テーマを踏まえて春学期の終わりに決定する。
第 20 回	ゼミ生によるゼミ（テーマＣ）	3 年生が自らの研究テーマに関する課題を提示し、ゼミでの議論を担当する。テーマは 3 年生の研究テーマを踏まえて春学期の終わりに決定する。
第 21 回	国際文化情報学会投稿論文叩き愛（Ａグループ）	学会に投稿する論文の草稿を読み、コメントし合う（Ａグループ）。なお、学会での発表方法によってゼミの内容が変わる可能性がある。
第 22 回	国際文化情報学会投稿論文叩き愛（Ｂグループ）	学会に投稿する論文の草稿を読み、コメントし合う（Ｂグループ）。なお、学会での発表方法によってゼミの内容が変わる可能性がある。
第 23 回	実務者による講演①「政府による国際協力」	政府開発援助に携わる実務者を招いてゼミを行う。
第 24 回	実務者による講演②「ＮＧＯによる国際協力」	ＮＧＯで国際協力に関わっている実務者を招いてゼミを行う。
第 25 回	ゼミ生によるゼミ（テーマＤ）	3 年生が自らの研究テーマに関する課題を提示し、ゼミでの議論を担当する。テーマは 3 年生の研究テーマを踏まえて春学期の終わりに決定する。
第 26 回	ゼミ生によるゼミ（テーマＥ）	3 年生が自らの研究テーマに関する課題を提示し、ゼミでの議論を担当する。テーマは 3 年生の研究テーマを踏まえて春学期の終わりに決定する。
第 27 回	秋学期の振り返り、4 年生座談会	4 年生の個人研究からの学びを共有する。また、春学期に学んだ KJ 法を使って秋学期のゼミを振り返る。
第 28 回	3 年生の個人研究中間発表	3 年生の 1 年間の成果を発表し、4 年生からフィードバックをもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
■ほぼ毎週事前課題の文献があるので必ず精読してくること。
■発表担当になった場合は、事前に準備すること。
■毎回のゼミ後に「学び」を学習支援システムに提出すること。
■法政大学懸賞論文、外国語でのスピーチコンテスト、学生論文コンクールなど大学内外のコンテストへの投稿・出展を奨励・サポートするので、積極的に挑戦して欲しい。
■本授業の毎回の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
■ 4 月の演習が始まるまでに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。

鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。
■ 7 月第 1 週までに最低 1 度は以下の文献を読んでおくこと。
川喜多二郎（1967）『発想法―創造性開発のために』中公新書。

【参考書】
■文章の書き方をトレーニングするために以下の文献を折に触れて読むことを薦める。
吉岡友治（2015）『シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術』草思社。
それ以外については毎回の授業で紹介する。なお、担当教員が書いた本、本の章、論文などを調べて読んでおくと演習での学びが定着しやすい。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への参加度）60%、授業後の「学び」の提出 40%。
・ただし 2 年生と 3 年生は各学期に 4 回以上欠席した場合は単位を取得できない。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
■知識を吸収する授業は演習以外にもあるので、演習では学生たち自らが調べたことなどを議論する時間を設けて欲しいという要望が多く出されたので、2021 年度からはそれを踏まえた授業計画にしている。
■この演習で卒業研究に取り組むことを知らなかったという声もあったので、原則として全員が個人研究に取り組むことを明記した。

【学生が準備すべき機器他】
■学習支援システムを頻繁に使用する。正式の連絡は演習の ML で伝える。
■対面授業とオンラインの併用（ハイフレックス）になる場合は、対面で出席する学生も各自パソコンを持参すること。
■発表や議論の際は、WORD、EXCEL、Power Point、Jamboard などを使い、議論や考えを図式化するように心がけること。

【その他の重要事項】
■このゼミでは研究し論文を書くことを学びの「手段」として捉えているので、原則全員が研究や論文（2 年生論文や卒業論文）に取り組む。ゼミの内容も研究や論文に取り組むことを前提で組まれている。結果的に書けなかったり、思うような内容でなかったりしても、取り組むプロセスで習得できることに意味と価値がある。もちろん精神的に辛かったり個人的な事情があったりして断念することはやむを得ないので、その場合は遠慮なく申し出て欲しい。
■担当教員は学術博士（国際協力学）の学位を持つ一方で、NHK 報道記者、開発途上国での草の根協力、国際援助政策の策定にも長く携わってきた経験から、具体的事例と理論を融合した演習を行う。
■図書館、CiNii や Web of Science などの大学のリソースを早めに使えるようになること。春学期の初めにそのための実習を行うが、1 度習っただけでは使えるようにならないので、日常的にこうしたリソースを使うようにして欲しい。
■授業内容は変更がありうるので 3 月の演習説明会や 4 月の演習開始時に説明する。
■ 2021 年度から 2 年生を若干名受け入れているので、シラバスもそれに対応したものになっている。具体的には、水曜日 5 限以降に必修授業がある場合は、そちらを優先して構わない。秋学期に SA に参加しない学生や夏休みの SJ に参加する留学生に対しては、演習の到達目標に準じた秋学期のカリキュラムを追加する。
■ 3 年～4 年次は継続して履修すること。ただし、途中で関心を失ったり、他にやりたいことを見出した場合は履修登録の継続を見送ることを推奨する。
■ 4 年次から新たに履修する場合は、3 年次までに人文社会科学的なものの見方や学術的な研究の方法を一定程度身につけ、かつ本演習に係る具体的なテーマを設定し文献研究を進めていること。
■国際文化協力、平和学、国際関係学概論、国際関係研究Ⅰ・Ⅱ、実践社会調査法、実践国際協力など、関連する授業を受講していることが望ましい。特に実践社会調査法は春学期のゼミ内容の関係しているので是非履修して欲しい。
■コロナ禍で 2020 年度以降このゼミの特色の 1 つである海外フィールドワークが実施できていない。もし複数のゼミ生に強い希望があれば、授業時間外に国内フィールドワーク（文献レビューに基づくインタビュー調査）について検討する。

【Outline (in English)】
[Course Outline] This seminar covers inter-national cooperation, inter-cultural cooperation and various social problems or "global issues" which demand such cooperations, including poverty, environmental destruction, inequality, conflicts, refugees, or lack of education. It focuses actors (governments, international organizations, NGOs, companies), social norms (voluntarism, dependency, good faith, mutual help) or representations through various media. The goals of this seminar are to enable students to understand the relevant issues in diverse perspectives, and to develop their ideas and skills to conduct his/her own research.
[Learning Objectives]
By the end of the course;
A. The second year students are expected to understand the methodology of social science and humanities, and to write a short essay on the topic relevant to SA or SJ based on it.
B. The third year students are expected to design the research project in accordance with the relevant literature review and the academic methodology.
C. The fourth year students are expected to complete the qualified academic research paper of more than 20,000 letters in Japanese or 8,000 words in English.
[Learning activities outside of classroom]
1. Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class. Your study time will be more than two hours for a class.
2. Students will be expected to have completed the required writing assignments after each class. Your study time will be more than two hours for a class.
3. In addition, students will be expected to present your research at least once each semester. Your preparation time will be more than ten hours.
[Grading Criteria/Policies]
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Assignments: 60%, in class contribution: 40%.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

石森　大知、北　文美子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、学生が「国際文化学部に親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師ら登壇する「オムニバス授業」です。
本学部学生の中は、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が大きいものであることを理解するでしょう。
本授業では、そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】
1）国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
2）実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
3）国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。
・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。
・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は学習支援システムの授業内掲示板に質問を書き込んでください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。
・第 3 回の授業（4 月 21 日）については休講とし、5 月 14 日（土）5 時限、補講日を利用し、同外部講師による授業を行います。日程に注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第 2 回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、経済研究所、所長代理）	総合商社とは何か
第 3 回	小林義己氏（㈱ ANA 総合研究所、主席研究員）	航空　コロナの先にある未来
第 4 回	藤下超氏（NHK、国際放送局専任局長）	テレビ報道の今と未来
第 5 回	小田原治氏（株式会社 INPEX、理事兼フェロー経営企画本部、本部長補佐）	INPEX のエネルギー・トランスフォーメションについて
第 6 回	三木陽介氏（毎日新聞社、採用研修センター室長）	記者入門（記事を書いてみよう！）
第 7 回	田中義樹氏（株式会社テレビ朝日テレビ朝日、広報局お客様フロント部）、吉平将英氏（テレビ朝日広報局お客様フロント部）	テレビを取り巻く環境の変化、そこに生まれるビジネスチャンス
第 8 回	畑中晴雄（花王株式会社、ESG 戦略部、部長）	花王の ESG 戦略と具体的な取組
第 9 回	代島裕世氏（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYA の SDGs ビジネス
第 10 回	シムカート・ビョルン氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナルジャパン、キャンペーン・コーディネーター）	気候変動から人権を守るボランティア活動
第 11 回	神野斉氏（株式会社明石書店、編集部、部長）	出版の今―縮む世界と広がる世界
第 12 回	松山匡延氏（M-wing 合同会社、代表）	国際協力事業におけるインターンシップについて
第 13 回	片貝 悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、プロフェッショナルサービス第一本部、エンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニア
第 14 回	大城勝浩氏（株式会社朝日広告社 、デジタルメディアセンター、センター長）	広告会社のホンシツ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の配布資料については、確りと再読すること。
・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】
・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・「平常点（出席＆コメントシート）60 %」と「期末レポート 40 %」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
・第 14 回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】
・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。

・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団体で勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】
This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

COT200GA

ディジタル情報学概論

重定　如彦

サブタイトル：**ディジタル社会を生き抜くための基礎知識**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。
ディジタル情報化社会、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。
この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。
情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】
ディジタルとは何かについて理解する。
ディジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。
ディジタル情報化社会及び、それを支えるディジタル技術全体を広く正しく理解する。
現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
上記の到達目標を達成するため、教科書である「ディジタル情報学概論」の内容をもとにディジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。
授業の前半ではディジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。
具体的にはまず「ディジタルとは何か」から始まり、ディジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、ディジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。
次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうディジタル技術について解説する。
各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。
おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とディジタル	ディジタルとは何か 情報の符号化 ディジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛生を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6 回	ディジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	ディジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型ディジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、ディジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 ディジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、ディジタルマップと GIS	3 次元 GC ディジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】
奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/
にいくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %
「評価基準」
平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。
レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。
期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。
また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】
PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.
Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Distribution.
Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.
Grading Criteria
Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.
Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.
The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

HUI200GA

【2022 年度休講】仮想世界研究

甲　洋介

サブタイトル：
配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。受動的に講義を受けるのでなく、「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点を用いて検討できるよう、工夫されている科目である。
● **手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」**
ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。
その一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、**”手ごたえ”＝リアリティ**（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が『変化』し、どのように『拡張』されたのか。そして、**それは問題なのか**。
● **つながっているフリは寂しい？　でも親密なのはもっと怖い**
「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。
仮想世界の問題は、SF や物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。そして、新たな仮想世界を造り始めることだろう。

【到達目標】
そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？
本科目の履修を終えると、次の事柄について基本用語を用いて言及できるようになる
a. 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
b. 手ごたえのない現実世界と、妙にリアルな仮想世界、というパラドックス
c.「仮想現実感」(VR) の構成要素と基本的な考え方
d. VR の、社会のさまざまな側面への浸透
e. 仮想世界はなぜ生まれ、どのような意味を持つのか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。
● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は”生きやすい”。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。
仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか**。問い直す必要があろう。
● 授業冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、各回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。
※新型コロナ感染状況によって進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすい − それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑う − なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？
4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へ　−ネットで恋した相手、それは○○だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：理論	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か：方向性	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
14	まとめ	現実？　仮想世界を生きる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「接続された心」"Life on the Screen"（S. タークル、早川書房）
・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD（Association for Computing Machinery）
・「2001 年宇宙の旅」 (A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】
・アニメ：「攻殻機動隊〜GHOST IN THE SHELL」
・映画：「惑星ソラリス」（アンドレイ・タルコフスキー）
・"Alone Together" (S.Turkle、Basic Books 出版)
担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。　他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・期末レポートまたは試験 (60 %)
・授業・討議における積極性な貢献度合い（発表、コメントシートを含む）(40 %)
を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
『仮想世界におけるこころ』の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】
「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】
This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

文化情報学概論

森村　修

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**情報倫理学**
旧科目との重複履修：○
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
《授業の概要》
本科目は、**国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目**です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2022 年度の本授業では、「エコロジー（=生態学 ecology）ってなに?!」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（=エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の**〈環境に優しい〉とか〈自然との共生〉を唄う「エコ」という意味での「エコロジー」ではない**ということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということを研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。
《授業の目的》
そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版,2000」にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人と人（自分と他人、親と子ども、など）の〈あいだ〉の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの〈あいだ〉にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（=エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。
【授業の意義】
本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミニュケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方で「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】
・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第 3 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第 4 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第 6 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第 8 回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」(1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第 9 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (2)	・三つの「エコロジー（生態学）」(2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第 10 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (3)	・三つの「エコロジー（生態学）」(3) 自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第 11 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」（by 上野俊哉）
第 12 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ①	・「エコソフィー」とは何か？
第 13 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよね——でも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】
・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第 2 版、新思索社、2000 年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ「三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008 年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016 年

【成績評価の方法と基準】
小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30 %）・小テスト（30 %）・平常点（40 %）。
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします

※要注意
リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
【注意点】
(1)「文化情報学」とは、**狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません**。。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、**「文化情報」の「学」**を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、**動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります**。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】
大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】
This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2022, we will consider the question of "**What is the relationship between communication and its environment?!** " and we will examine the problems of "communication".
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to examine the issue of communication.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%

ARSi200GA

【2022 年度休講】国際関係研究Ⅵ

粟飯原　文子

サブタイトル：**アフリカから見る世界**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サハラ以南アフリカについて、主に歴史、社会、政治、国際関係というカテゴリーから学び、アフリカ研究の導入となる知識を身につける。それによって、変わりゆくアフリカ地域の「いま」を考え、アフリカを多面的に理解することを目指す。

【到達目標】
・アフリカを学ぶための基礎知識を身につける。
・アフリカの多様性を理解し、アフリカ研究への関心を高める。
・世界史のなかのアフリカ地域をとらえ直す。国際関係におけるアフリカの位置について考える。
・アフリカについて学び、アフリカから「世界」を見ることで、欧米中心的な視点や思考を乗り越える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
・毎回資料を配布するので、各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション―アフリカを学ぶために	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。アフリカについて学ぶにあたり、いくつかの前提を共有する。
第 2 回	イメージとしてのアフリカ	長いあいだイメージとして構築されてきた「アフリカ」について、その歴史を批判的に振り返る。
第 3 回	アフリカ史の視点①	「アフリカ史」の視点をもつことの意味はなにか考える。王国・帝国の歴史を見ていく。
第 4 回	アフリカ史の視点②	引き続き、アフリカ史の視点から歴史を語り直すとはどういうことかを考え、いくつかの事例を見ていく。スワヒリ文明、奴隷貿易、抵抗の歴史など。
第 5 回	アフリカの宗教①	大陸の信仰・宗教について概観する。
第 6 回	アフリカの宗教②	アフリカに広がった、イスラームとキリスト教について学ぶ。
第 7 回	アフリカと移動①	アフリカ大陸の「移動」の歴史を概観する。
第 8 回	アフリカと移動②	現代の大陸内外に広がる人びとの移動を考察する。
第 9 回	アフリカ近現代史を振り返る①	アフリカの現在への考察を深めるために、近現代史を振り返る。植民地時代を詳しく見ていく。
第 10 回	アフリカ近現代史を振り返る②	アフリカ諸国独立に至るプロセス、独立後の難題について概観する。
第 11 回	アフリカと紛争①	ポスト冷戦期のアフリカにおける武力紛争について、いくつかの文脈に位置づけて考える。
第 12 回	アフリカと紛争②	アフリカにおける紛争解決について学ぶ。
第 13 回	アフリカと国際関係	アフリカの国際関係について、アフリカ諸国間関係、新興国との関係を中心に考える。
第 14 回	全体のまとめと復習	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60 %）
・期末課題（40 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・アフリカについてまったく学んだことのない学生にも理解してもらえるよう、十分な説明を心掛けたい。
・リアクションペーパーに対するコメントが興味深いという声が多かったので、より積極的におこなっていきたい。

【その他の重要事項】
受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to introduce students to key concepts and debates in the discipline of African Studies. Over the course of the semester, we will examine important topics in 1) history, 2) society, 3) politics and 4) international relations.

CUA200GA

国際関係研究Ⅶ

石森　大知

サブタイトル：**家族と結婚の人類学**
配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について考察する。

【到達目標】
・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第 2 回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第 3 回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第 4 回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第 5 回	性と生殖①	民俗生殖理論
第 6 回	性と生殖②	親子の絆とは何か
第 7 回	生殖医療と親子関係①	生殖技術と現代社会
第 8 回	生殖医療と親子関係②	新しい家族の行方
第 9 回	結婚と社会関係①	インセストタブーの解釈
第 10 回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第 11 回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第 12 回	ライフサイクル②	老いることの意味
第 13 回	ライフサイクル③	現世から来世へ
第 14 回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』学陽書房、2017 年。
波平恵美子編『文化人類学－カレッジ版（第３版）』医学書院、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】
文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】
・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、家族と結婚について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】
This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life. The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

OTR300GA

海外フィールドスクール

稲垣　立男

サブタイトル：**表象文化コース**
配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**オータムセッション/Autumn Session**
人数制限・選抜・抽選：**定員： 30 名**
備考（履修条件等）：**年度により開講コースは変わる。**
2022 年度は、SA・SJ 参加（国際文化学部生）、法政大学が実施する異文化交流プログラムへの参加（国際文化学部生以外）を条件としない。

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外フィールドスクール・表象文化コースは例年東南アジア各国に渡航して実施されていますが、2022 年度は秋季講座としてオンラインおよび対面（市ヶ谷キャンパス）で実施されます。この授業では、フィリピンの文化と芸術をテーマとして生活や文化背景の違う人々との共同作業を通じて、多角的な見方、考え方による双方向の文化理解やコミュニケーションについて体験的に学びます。担当教員は稲垣立男です。
法政大学の表象文化コースは、美術や音楽、演劇やダンスなどのパフォーミングアーツ、映画などの映像作品やテキストによる小説や詩などの文学をその研究対象としていますが、海外フィールドスクール・表象文化コースについても同じテーマで実施されます。
フィリピン在住の各文化活動に関連されている各講師の皆さんに、フィリピンの環境問題や社会問題と美術や演劇、映画などの文化活動を関連させるワークショップを中心とする講座となっています。

【到達目標】
フィリピン在住の研究者、ジャーナリスト、NPO 運営者、アートキュレーター、アーティストらによる講義やワークショップ、フィリピンをテーマとした東京都内でのフィールドワークを通じてフィリピンの文化や人々の暮らし、演劇や現代アートなどの芸術表現や文化政策への理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
地域に特有の環境問題や社会的問題をテーマとして演劇ワークショップや仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。
1.　各課題と関連した社会的課題に関する講義と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。
2.　次に参加者とのディスカッションや大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。
3.　最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。
授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
・Zoom（ミーティング）
・Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
・Miro（コラボレーション）
・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
事前学習	事前学習	各講義やワークショップの詳細、注意事項など フィリピンの文化や芸術に関連した内容の講義や事前調査について
9/14	フィリピンの文化と社会 1	外部講師による講義 フィリピンの文化や芸術に関連した内容の講義や事前調査について
9/14	フィリピンの文化と社会 1	外部講師による講義 マニラの文化とアーティストの活動について
9/15	フィリピンの文化と社会 2	講義と関連したフィリピン文化に関するディスカッションとワークショップ
9/15	フィリピンの文化と社会 2	外部講師による講義 ルソン北部の自然と環境問題について
9/16	フィリピンの文化と社会 3	外部講師による講義 演劇ワークショップによる環境教育
9/16	演劇ワークショップ 1	外部講師による実習 演劇ワークショップによる環境教育
9/17	演劇ワークショップ 2	外部講師による実習 演劇ワークショップによる環境教育
9/17	演劇ワークショップ 3	外部講師による実習 プレゼンテーションと講評会
9/19	フィリピンの文化と社会 4	外部講師による講義 フィリピン・マニラのアートシーン
9/19	現代アートワークショップ 1	外部講師による実習 フィールドワークと作品制作 1
9/20	現代アートワークショップ 2	外部講師による実習 フィールドワークと作品制作 2
9/20	現代アートワークショップ 3	外部講師による実習 プレゼンテーションと講評会
事後学習	成果の報告	作品・レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。。本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

大野拓司「フィリピンを知るための 64 章」明石書店
鈴木勉「フィリピンのアートと国際文化交流」水曜社
鈴木勉「インディペンデント映画の逆襲―フィリピン映画と自画像の構築」風響社

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度に緊急事態宣言かでやむなくオンラインで実施した海外フィールドスクールでは、フィリピンへの渡航のみならず対面授業もできませんでしたが、学生たちは積極的な態度で受講した結果、充実した異文化体験の場、新しい芸術文化に関する出会いの場となったようです。

【選抜について】

定員 30 名とし、30 名を超える場合には 4 月の履修登録前に選抜を行います。選抜方法の詳しい内容は、学習支援システムを通じてご連絡します。

また、2022 年度は 2021 年度に続き SA・SJ 参加（国際文化学部生）、法政大学が実施する異文化交流プログラムへの参加（国際文化学部生以外）を条件としません。（2020 年度、2021 年度は SA・SJ、異文化交流プログラムへの参加が不可能だったため）

【参考・海外フィールドスクールについて】

※以下は例年実施されている海外フィールドスクール（3 コース）の授業概要と目的です。各コースでは、東南アジア各国に渡航し、現地でフィールドワークを行います。

海外フィールドスクール・プログラム（ Field School Program ： 略称 FS）とは、2 年次に実施される長期・夏期スタディ・アブロード・プログラム（SA）とスタディ・ジャパン・プログラム（SJ）で培われた異文化間のコミュニケーション力のみならず、それまでの本学・本学部における基礎的・専門的な学びを十分に活用し、海外のフィールドでより専門性の高い知識、研究手法、表現方法を習得するものです。東・東南アジアをフィールドに開発と文化コース、表象文化コース、環境と文化コースの 3 つのコースで実施します。当該年度の開催コースは、国際文化学部 Web サイトにてご案内いたします。（3 コースのうち、2 コースが例年実施されます。）

【Outline (in English)】

Course outline

Field schools and representational culture courses are held every year in Southeast Asian countries, but in 2022, they will be held online and face-to-face (Ichigaya Campus) as autumn courses. In this class, you will experience two-way cultural understanding and communication based on multifaceted perspectives and ways of thinking through collaborative work with people from different lifestyles and cultural backgrounds on the theme of Filipino culture and art. The instructor is Tatsuo Inagaki.

Hosei University's Representation Culture Course focuses on performing arts such as art and music, theatre and dance, video works such as movies, and literature such as textual novels and poetry. It will be carried out under the same theme. For each instructor related to each cultural activity living in the Philippines, the course focuses on workshops that relate the environmental and social issues of the Philippines to cultural activities such as art, theatre, and movies.

Learning Objectives

Through lectures and workshops by researchers, journalists, NPO operators, art curators, artists living in the Philippines, and fieldwork in Tokyo with the theme of the Philippines, Filipino culture and people's lives, art such as theatre and contemporary art, The goal is to deepen the understanding of expression and cultural policy.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

LANe300GA

Art, Rebellion and Advertising

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Theme: Art Topic: Symbols and Logos	English lecture, reading, discussion and written assignment on symbols and logos.
Week 3	Theme: Art Topic: Symbols and meanings in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'	English reading, lecture and discussion on the symbols and their means in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'	English lecture, reading, discussion and written assignment on Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'.
Week 5	Theme: Art Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'	English reading, lecture and discussion on Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'.
Week 6	Theme: Art Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?	English lecture, reading, discussion and written assignment on whether functional objects can be considered works of art.
Week 7	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s	English reading, lecture and discussion on the music of Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young	English lecture, reading, discussion and written assignment on the music of Bob Dylan and Neil Young as a stimulus for social change.
Week 9	Theme: Rebellion Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech	English reading, lecture and discussion of Martin Luther King's 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques continued	English reading, lecture and discussion of more techniques used in advertising.
Week 12	Theme: Advertising Topic: Advertising vs Branding	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs Topic: Is the unexamined life worth living?	English reading, lecture and discussion on the underlying briefs people seldom consider.
Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.
Presentations – 70%
Class participation – 30%
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
None

LANe300GA

The History of Tourism

MARK E FIELD

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**
備考（履修条件等）：**※ 2022 年度は春学期開講とする。**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】
The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
In this course, we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.
Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】
An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】
40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
20% Short Presentations
40% Final Examination/Term Project
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】
OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

PHL300GA

History of Western Thought

MARK E FIELD

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：※ 2022 年度は春学期開講とする。

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The Culture, Language, and Thought of the English-Speaking World is the product of many historical interactions between a variety of peoples with different ways of thinking and living in the world. To understand many aspects of the societies in the modern English-Speaking World, one must first recognize the historical forces that shaped them and brought them about.

【到達目標】
The primary goal of this course is to give students the basic knowledge necessary to understand: 1) how societies and cultures change in general and 2) how the cultures of the English-Speaking World developed their unique forms. Using the framework of cultural change, we will examine the formation of "Western" religious and political institutions that developed before 1500 CE in order to better appreciate the roots of "Western" social, political, and economic thought. Building on this foundation, the evolution of modern social systems and political-economic thought that occurred in the English-Speaking World after 1500 CE will be discussed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.
The course will start out by outlining the forces behind cultural change. This will be followed by a series of lectures discussing the development of European political and religious institutions following the Ancient Greco-Roman era. We will then attempt to analyze Britain's rather unique political & economic institutions at the beginning of the modern era as a product of cultural change. Building on this foundation, the cultural changes, i.e., the changes in thought, caused by the Protestant Reformation and Enlightenment Philosophy will be examined and their impact on the development of British and American Political-Economic Systems through the 19th and 20th Centuries will be discussed. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Introduction to the Forces Behind Cultural Change
2 回	Religion & Philosophy:	The Foundations of Culture & Thought?
3 回	The Role of Myths:	Social Formation in the Ancient World
4 回	Cultural Conflicts:	Change in the Hellenic World
5 回	The World at the End of the Ancient Era:	Roman's Unique Position
6 回	Mass Migration:	The End of the Roman Empire
7 回	Political and Religious Conflicts:	The Medieval World
8 回	The World at the Beginning of the Modern Era:	Britain's Unique Position
9 回	The Renaissance:	The English Reformation & The English Enlightenment
10 回	The English World:	Revolutionary Challenges, Industrialization & Empire
11 回	World War I:	Wilson's Democratic Vision
12 回	World Depression:	Keynesian Economics & FDR's New Deal
13 回	Post-War America & Britain:	The New International Order
14 回	Examination/ Comments:	Recapping what has been covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lectures at home to enhance their participation in classroom lectures and discussions. Students may also be expected to find and analyze information from various forms of English resource materials and media independently for the preparation of Research Papers.
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide some course reading material during the semester.

【参考書】
Participating students will do independent reading for their written assignments.

【成績評価の方法と基準】
30% In Class Evaluation (Participation, Discussions, etc.)
30% Homework/Research Paper/Midterm Examination,
40% Final Examination/Term Project.
**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.
The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.
The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

LANr200GA

スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ

エレーナ　三神

サブタイトル：**ロシア語**
配当年次／単位：**年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、９月３日までに学習支援システムにて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の目的は、ロシア語を使ってスムーズなコミュニケーションができるようになることです。そのために今まで得た文法知識を活かしロシア語発話能力及び聞き取り能力を伸ばすこと、実際の会話に使えるロシア語のボキャブラリーや表現幅（慣用句や挨拶的なフレーズを含めて）を拡大することを目指します。

【到達目標】
異文化知識を持ってそれぞれの場面に応じた円滑なコミュニケーションを行えるようになることが授業の重要な目標になっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
ロシア語でコミュニケーションを円滑に行えるようになるために、授業では様々な練習を通じて実践的な会話力を徐々に身につけていくことに力をいれます。文法知識を定着させ、コミュニケーション現場で活用できるようにするために、色々の場面・状況を想定した会話練習、リスニング練習などを積極的に授業に取り入れていきます。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題にコメントをつけて、学習支援システムの返却かドライブリンク送信などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	「ロシアの祝祭」-1（与格用法、プレゼントの文化）	リスニング、会話練習
2	「ロシアの祝祭」-2（年月日表現）	リスニング、会話練習
3	「誕生日の祝い方」（命令形：助言表現）	リスニング、会話練習
4	電話のエチケット、招待表現	リスニング、会話練習
5	自分の話（全格の復習）	リスニング、会話練習
6	「ロシアに住んだ経験」（修飾語の前置格）	リスニング、会話練習
7	不完了・完了動詞の使い方	リスニング、会話練習
8	接頭辞のついた移動動詞の使い方	リスニング、会話練習
9	「モスクワで出会った」（履歴の話）	リスニング、会話練習
10	「人の人生」（形容詞と数字の生格・前置格）	リスニング、会話練習
11	「有名な人物：宇宙飛行士」（修飾語の造格）	リスニング、会話練習
12	「有名な人物：作家」（с ＢＯй́の使い方）	リスニング、会話練習
13	総合学習、試験対策	リスニング、会話練習
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に扱った表現・単語の復習、作文又は聴解宿題が毎回あります。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

【テキスト（教科書）】
授業時および学習支援システムにてプリントを配布します。

【参考書】
「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著）　東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】
期末試験　50 %、平常点（小テスト、宿題、授業への取り組み）50 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業の場合に授業記録、配信が行います。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、インターネット環境

【Outline (in English)】
The goals of this course are to develop students' Russian language skills and abilities to interact more naturally in Russian, to give students the communication skills necessary for a successful study trip abroad.

LANk200GA

スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ

梁　禮先

サブタイトル：**朝鮮語**
配当年次／単位：**年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、9 月 3 日までに学習支援システムにて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今まで習ってきた朝鮮語を使って、会話は勿論のこと、自分の考えなどを表現できることをこの授業の目的にします。特に、自信をもって積極的に朝鮮語を行使できることです。包括的に、読む・話す・思考・討議を通して、その実力をつけていきたいと思います。

【到達目標】
朝鮮語を使ってスムーズに日常会話は勿論、自分の考えや、討議なども活発に朝鮮語でできることを到達目標にしたいと思います。朝鮮語で考えて朝鮮語で話し、朝鮮語で作文など、全てを朝鮮語で行えることを目指していきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
聞く、話す、書く、すべてを朝鮮語を使って授業を進めます。発表、討議などを通して、朝鮮語で考えて話せるスキールを磨いていきます。
課題とフィードバックは、学習支援システムを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について説明します。	授業の進め方について説明します。 また、チームプレイメンバーを決めます。
第 2 回	韓国のエッセイを読む (1)	韓国のエッセイを読み、今までと違う表現を学ぶ
第 3 回	韓国のエッセイを読む (2)	韓国のエッセイを読み、今までと違う様々な表現を学ぶ
第 4 回	韓国の童話を読む (1)	韓国の童話を読み、今までと違う表現を学ぶ
第 5 回	韓国の童話を読む (2)	韓国の童話を読み、今までと違う様々な表現を学ぶ
第 6 回	授業内グループワーク 1	テーマ別グループワークを実施
第 7 回	授業内グループワーク 2	テーマ別グループワークを実施
第 8 回	チームプレイの発表「主題と構想」	主題と構想の説明
第 9 回	チームプレイの発表「展開 1」	展開の説明 1
第 10 回	チームプレイの発表「展開 2」	展開の説明 2
第 11 回	チームプレイの発表 1	1 チームの発表と質疑応答
第 12 回	チームプレイの発表 2	2 チームの発表と質疑応答
第 13 回	チームプレイの発表 3	3 チームの発表と質疑応答
第 14 回	期末試験	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムから課題及びフィードバックを提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で使う資料などは、授業内で配布します。

【参考書】
必要な参考資料は、授業内または学習支援システムに記載します。

【成績評価の方法と基準】
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
授業 (学習態度、チームプレイ、課題など) の総合点　40%
期末テスト 60%

【学生の意見等からの気づき】
それぞれレベル別に意見が分かれていたので、できるだけ多様に対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
なし。しかし、必要に応じて授業で教示します。

【その他の重要事項】
朝鮮語で授業を行い、討議、レポートなども全て朝鮮語で実施、提出してもらいます。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop your skills for not only speaking but also for expressing your own thoughts by using the Korean language that you have learned. Especially, the aim is to be able to actively and confidently use Korean. I would like to develop your skills through reading, speaking, thinking, and discussing comprehensively.

LANe200GA

スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ

ALAN M NICHOLLS

サブタイトル：**英語**
配当年次／単位：**年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、大学付与のアドレス宛にて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will focus on some major aspects of Culture in Australia including Holidays, rituals, ceremonies, history, sport, and language. Students will compare and contrast aspects of Australian culture with Japanese culture to gain a greater understanding of Australian people.

【到達目標】
Understanding of various aspects of Australian Culture and how it affects the behaviour of Australians.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students will discuss the differences between Australian and Japanese cultures. They will listen to some Australian music to learn Australian idioms and vocabulary. Students will analyze a movie about Australia with a focus on idioms and expressions.　Students will have the opportunity to interview 3 guests who currently live in Australia using questions developed by the class.
All assignments will be submitted, assessed, and returned to students with detailed comments within 7 days.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	Introduction	Ground rules Using Google classroom Assessment
2	History	Pre-European history of Indigenous Australians. Compare with Japanese Pre-European culture.
3	Holidays	Links to Religion, War and History. Compare with Japanese holidays.
4	Multiculturalism	Is Australia really multicultural? Why are there so many ethnic groups?
5	Guest 1	Students interview a Guest with questions they have prepared. The Indigenous peoples issues.
6	Geography	A tough climate. Unique wildlife. Dry humor - heavy sarcasm.
7	Politics	Compare and contrast the political systems of Japan and Australia.
8	Egalitarianism	Are Australians really equal? Compare and contrast with Japan.
9	Guest 2	Students ask questions the class has prepared. Australian lifestyle.
10	Education	Compare and Contrast education systems. Prepare questions for Guest 3
11	Language	Idioms Vocabulary Expletives
12	Guest 3	Students interview guest 3. Sports Music
13	Icon Presentations	Students present any presentations that have not been presented.
14	Summary and mop-up	Students ask any questions that have not been addressed in the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Watching Movie "Australia" (Baz Luhrmann - available through Prime Video). Analyze for major themes.
Listening to "And the Band Played Waltzing Matilda" (EricBogle - YouTube) and analyzing the lyrics.
Research each topic before each lesson.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
N/A

【参考書】
To be advised during the course.

【成績評価の方法と基準】
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
4 Worksheets (10% each) 40%
3 Written Homework (10% each) 30%
1 Short presentation (10%) 10%
2 Self-assessment - Participation (10% each) 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
A laptop or Tablet computer capable of accessing Zoom and reliable Wi-Fi connection.
Access to Google Classroom.

【その他の重要事項】
Students must be able to make polite questions in spoken English.

【Outline (in English)】
This course will focus on some major aspects of Culture in Australia including Holidays, rituals, ceremonies, history, sport, and language. Students will compare and contrast aspects of Australian culture with Japanese culture to gain a greater understanding of Australian people.

LANe200GA

スタディ・アブロード（専攻） Ⅱ

JAMES O ESSEX

サブタイトル：**英語 Study Abroad (UK)**
配当年次／単位：**年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、大学付与のアドレス宛にて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will give you a basic understanding of British life and culture that will enable you to assimilate while studying abroad in the UK. the topics handled are those not commonly found in textbooks, but which are both important and useful all the same.

【到達目標】
You will improve your listening comprehension and develop your vocabulary. You will also gain practice in talking about Japan/your own country.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
Each lesson will consist of a short video introducing the theme for that week, following which students will complete a range of tasks either in pairs/with a small group or individually. Each class begins with a video which takes you on a journey. which you are part of in terms of experiencing what is on screen.
Students will receive feedback and comments on in-class activities and homework throughout the semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course (syllabus, assessment, expectations, etc. the differences between the UK, Great Britain, the British Isles etc, and the history of the English language.	The class will begin with an introduction, including an overview of the syllabus, the mode of assessment and class expectations, etc. The story of English starts more than a thousand years ago. You'll learn how the language has changed over the years, find out about all the different kinds of English and learn from some of the hundreds of thousands of students who come to Great Britain to learn English every year.
2	The British Countryside	Britain's countryside is great, rich with lakes, mountains and monuments. You'll learn about the Lake District first, before crossing the border to Wales. the lakes and mountains of Scotland and two of the world's natural wonders: the Giant's Causeway in Ireland and the magnificent Durdle Door in Dorset.
3	British Creativity	From Wallace and Gromit to Ewan McGregor, Britain's cinema is great. You'll learn about the London Film Museum and find out about the facilities for making film in the UK. You'll also look back at past masters of British creativity at Tate Britain and then come right up to date with an introduction to Britain's great computer gaming scene.
4	British Innovation	You'll go behind the scenes at Dyson, home of the space-age vacuum cleaner and much more! British innovation is not just in the home: you'll also learn about robots, space exploration – and very fast cars.
5	British Entrepreneurship	You'll learn about Richard Branson and the secret of entrepreneurial success, visiting two of Britain's youngest - and most fashionable - entrepreneurs, before meeting one of the judges of Britain's very own entrepreneurial reality TV show, Dragons' Den.
6	British Green Issues	You might not think of Britain as a tropical country, but at the Eden Project they have their very own rainforest! You'll also learn about the centre's cutting-edge work in research and education, and pretend to be a bat for one of the world's rarest plants. the cutting edge of green technology, and see how London's Olympic Stadium wins gold in the green Games.
7	British Heritage	You'll learn about the best way to see London's many sights, and travel back in time to the Warwick Castle of 500 years ago. Then you'll go even further back in time – 4,500 years back! - to investigate one of Britain's greatest and most mysterious sites – Stonehenge.
8	British Knowledge	You'll learn about one of the world's greatest universities: Oxford, and discover some of its history and hear about its famous students. In addition, you'll learn about one of the world's largest science museums and the Wellcome Medical Museum, and find out how British scientists, engineers and doctors have shaped our understanding of the world.
9	British Literature	hakespeare, Dickens and more... Britain's literary history is world class, and Richard speaks to experts about some of the country's greatest writers. Modern-day authors cast their own spells, too, and you'll "visit" a very magical place to find out about contemporary English writers.
10	British Music	Some of the greatest music in the world comes from Britain, and British music is still topping the charts today. You'll "visit" The Premises recording studio, where many world-famous artists have made music. You'll continue the musical journey with the opening night of Aida at the Royal Albert Hall. Then it's off to Southampton to find out how great British music is entertaining and helping people from all walks of life.
11	British Shopping	London has some of the world's most famous department stores: Harrods, Selfridges, Fortnum & Mason, Harvey Nichols and many others. You'll "visit" them and also sample a smaller shop for a range of shopping experiences. Then you'll leaves the big shopping areas for small, interesting shops and markets.and you'll hear from some London shoppers who tell us what they like.
12	British Sport	Whatever your taste, Britain is home to some of the greatest sports – and sporting venues – in the world. Watch the video and go behind the scenes at Silverstone Circuit, home of F1, and Wembley Stadium, temple of football!
13	Speaking Test 1	The first group of students (Group A) will take their test today.

14	Speaking Test 2	The second group of students (Group B) will take their test today.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be set from time to time.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this class.

【参考書】
There is no specific reference material.

【成績評価の方法と基準】
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
Participation: 28% - equivalent of 2% points for each lesson
Task Portfolio: 24% - equivalent of 2% for each lessons' tasks
Speaking Test: 40% - matrix/grading criteria will be provided the week prior to tests
Vocabulary notebook (to be submitted when your speaking test commences) 5% - expected standards for vocabulary notebooks will be explained in the first lesson.
Perfect attendance: 3%

【学生の意見等からの気づき】
This is a new course.

【学生が準備すべき機器他】
No equipment is necessary.

【Outline (in English)】
This course will give you a basic understanding of British life and culture that will enable you to assimilate while studying abroad in the UK.

LANe200GA

スタディ・アブロード（専攻） Ⅱ

PAUL K KALLENDER

サブタイトル：**英語**
配当年次／単位：**年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、大学付与のアドレス宛にて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will use a communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however extra emphasis will be placed on speaking and debating skills.

【到達目標】
Building on the English language skills acquired in the first and second-year required courses, students will work on developing the type of language skills they would normally have been acquired in the traditional study abroad context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
Various discourse themes related to life and study in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments.
Feedback on class assignments will be given as required, usually at the beginning of the following class, and if necessary, via email with the instructor.
Special emphasis will be given to critical reading and communicative/debating skills. Feedback on class assignments will be given as required, usually at the beginning of the following class, and if necessary, via email with the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	Introduction to US.Culture	This will include major topics in US culture revolving around food, casual conversation, TV and sports culture, shopping, and introduction to social issues.
2	American Holidays and History	Will cover the history and practice, and historical and cultural significance of public holidays such as Independence Day, Columbus Day, Thanksgiving Day, Martin Luther King Jr., George Washington Day, Groundhog Day, Labor Day (Veterans Day will be covered later)
3	US Political Ideas, Ideals and Myths	US Declaration of Independence and Constitution, The Bill of Rights, The US Constitution, Uncommon facts about the US Constitution, etc.
4	American Food Beyond the Hamburger	Top 10 Traditional American Foods, Street Food in Los Angeles (ethic foods), American Food the World Fiends Weird, US Junk Food and Supersize Me
5	American Sports: Beyond the the Big Three	NFL, Baseball and Basketball, the growth of soccer and minority sports.
6	US Movies: Hollywood and Beyond	Hollywood History and power, US genre movies, history of Westerns, Sundance and Indie movies.
7	Music	History of Jazz, Rock'n'Roll, Rap,& Hip-Hop
8	US TV & Media	Top US TV Shows of All Time. Friends, Seinfeld, The Simpsons, South Park
9	US East Coast vs US West Coast	Living in New York vs Los Angeles, Lifestyles, Stereotypes Cost of Living, etc. San Francisco.
10	Politics	The US vs the Japanese Political System Democrats and Republicans, Presidential Power, Congress & Checks and Balances
11	US Education	American Public Schools, The American College System, The Ivy League
12	US Healthcare System	; International healthcare criteria; Medical bills and insurance; Medicare and Medicaid; Politics and ACA/ Obamacare
13	Military and Gun Culture	Veterans Day; US Military and Hollywood; Woke Army Recruitment; The NRA Mass Shootings & The Gun Control Debate
14	Contemporary Civil Rights Issues	Historical racism, US Civil Rights from the NAACP through to BLM.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will need to complete homework quiz sheets preparing for the following class. Students will need to spend around 120 minutes preparing for each class. the work will based on direct research and vocabulary acquisition set by the instructor, which will be checked each week.
The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】
There will be no textbook on this course. The instructor will provide all the materials necessary.

【参考書】
Students can log into the various media provided during class. Information will be provided in the first class including URLs and other web resources.

【成績評価の方法と基準】
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
1) Class Participation: 70%. This means demonstrating involvement in asking and answering questions, participating in pair and group work, etc.
2) Weekly homework sheets 30%
3) Attendance of 100% (14 sessions) is expected. Any unexplained absence without a legitimate reason will automatically disbar a student from the top grade.
4) Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
No changes have been made since last year.

【学生が準備すべき機器他】
Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil and eraser, and have an electronic dictionary ready. The instructor will explain vocabulary upon request, if another student does not know the answer. Use of smartphones is strictly prohibited.

【Outline (in English)】
Building on the English language skills acquired in the first and second-year required courses, students will work on developing the type of language skills they would normally have been acquired in the traditional study abroad context.

LANd200GA

スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ

林　志津江

サブタイトル：**ドイツ語**
配当年次／単位：**年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、９月３日までに学習支援システムにて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA ドイツ語圏の代替科目あるいはその準備として、ドイツ語運用能力に向けたトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
・ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、ドイツ語で表現・説明することができる。
・ドイツ語で自分の意見を述べ、質問やコメントをすることができる。
・具体的なテーマで短いドイツ語の作文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
・各回、指定されたドイツ語テクストを前もって読んでおきます。
・授業ではプレゼンテーションやペアワークなどを取り入れつつ、テクストの内容と重要概念（語彙）を確認し、ドイツ語でアウトプット（作文）します。授業はこの繰り返しです。練習を積み重ねながら「言いたいこと」がよりスムーズにドイツ語で言えるようになるようブラッシュアップしていきます。
・ペアワーク、グループワークは２、３年生が一緒に取り組みます。
・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ここまでの復習
2	言葉と文化 ー 食べ物の名前	同じ食べ物・食事でも土地ごとで名前が違うことについて
3	住まいを整える ー ドイツ人は綺麗好きで心配性？	"gemütlich"という価値
4	教育と大学制度ー その１	異なる学校制度、中等教育の選択と課題、オルタナティブ教育の可能性
5	教育と大学制度 ー その２	Abitur 受験と大学進学、"Ausbildung"と"Bildung"
6	近現代ドイツの歴史（１）ー プロイセンの台頭	神聖ローマ帝国の崩壊と３月革命、統一ドイツの成立
7	中欧の様相（１） ー ヴィーンとドナウ川流域（その１）	ハプスブルクの遺産、カフェーハウスあるいは「会議は踊る」
8	中欧の様相（２） ー ヴィーンとドナウ川流域（その２）	伝統と革新、オーストリアの自然と文化
9	近現代ドイツの歴史（２）ー 日本がマネしたかったこと	ヴィルヘルム帝政期から第一次世界大戦、ヴァイマール共和国の成立まで
10	中欧の様相（３） ー スイスってどんな国ですか	ヴィルヘルム・テル伝説と「永世中立国」
11	近現代ドイツの歴史（３）ー 日本が手を組んだ相手とは？	ナチの政権奪取、絶滅政策の果てに
12	近現代ドイツの歴史（４）ー ロイファナ＝リューネブルク大学（の前身校）が目指した理想	東西ドイツの成立、「経済の奇跡」とその次世代の若者たち、
13	近現代ドイツの歴史（５）ー 理想の果てに	東ドイツの理想と「ベルリンの壁」、「壁」の崩壊から再統一へ
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
・所定の予習・復習課題を出します。
・新聞（日刊紙）を読むこと。「何を話すか」のブラッシュアップにも文章によるニュースメディアは必要です。ドイツ語圏のメディアには SNS を効果的に利用してアクセスするとと良いでしょう。

【テキスト（教科書）】
・Uta Matecki "*Dreimal Deutsch*" (Klett, 2003/2005/2009)
・立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】
・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
・野口愛南『見るだけで楽しく学べる「暮らし」と「文化」ドイツのことば図鑑』（KADOKAWA, 2019 年）
・熊谷徹『脱原発を決めたドイツの挑戦　再生可能エネルギー大国への道』（角川書店、2012 年）
・石田勇治『図説 ドイツの歴史』（河出書房新社、2007 年）
・踊共二『図説　スイスの歴史』（河出書房新社、2011 年）
・増谷英樹『図説 ウィーンの歴史』（河出書房新社、2016 年）
・加藤雅彦『図説　ハプスブルク帝国』（河出書房新社、2018 年）
・森井裕一『ドイツの歴史を知るための 50 章』（明石書店、2016 年）
・岩村偉史『ドイツがわかる ― 歴史的・文化的背景から読み解く』（三修社、2019 年）
・隅田貫『ドイツではそんなに働かない』（角川書店、2021 年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60 %、学期末課題（テスト）40 %を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
科目としては初めて担当しますが、学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典は必携です。ただし議論の時は使ってはいけません。
・オンライン授業になった場合は、WiFi が利用可能なデジタルガジェット（できれば PC）を準備してください。ハイフレックス型の場合は WiFi が利用可能なデジタルガジェット（PC、スマートフォンないしタブレット）を準備、学内教室で受講する場合はイヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）も持参してください。

【その他の重要事項】
・この授業は SA ドイツ参加予定学生および SA 免除学生（2021 年度 2 年生、3 年生）をを対象とします。３セメスター以上のドイツ語学習歴があることを前提に授業を進めます。
・授業内容（テーマ）と順序は変更されることがあります。
・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」、「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。
・以上の受験結果については、2022 年 1 月 20 日の時点で担当者が結果を正確に確認できた場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します（「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」については３級以上のみ）。

【Outline (in English)】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as past-expected participants. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANs200GA

スタディ・アブロード（専攻）Ⅱ

BARRIENTOS R J DAVID

サブタイトル：**スペイン語**
配当年次／単位：**年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**選抜・抽選をする場合は、９月３日までに学習支援システムにて通知する。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではスペイン語だけを使用する環境に身を置き、スペイン語で話す・聞く・書く・読む力を鍛える。すでに習得しているスペイン語の力を確実に自分のものとし、更に様々な状況に対応できる語彙力・運用能力を身につけ、スペイン語の能力をレベルアップすることを目的とする。

【到達目標】
①スペイン語を自然に操ることができる。
②積極的にスペイン語を使うことができる。
③直接法（過去形・現在形・未来形・命令形）と接続法（現在形）を理解し、正しく用いることができる。
④スペイン語圏の国々の文化、多様性に触れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行い、演習形式で授業を進める。ペアもしくはグループでスペイン語で話す機会を設け、授業内で発表も行う。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明。
	Un dia normal	最近の出来事について話す。
2	El fin de semana	先週末に何をしたか話し，過去の出来事について感想を言う。
3	El trabajo	仕事や勉強、交通手段について，頻度を表わす表現を使い話す。
4	Tiendas y restaurantes	店で商品やその値段について尋ね、レストランで注文し要求を伝える。
5	Experiencias y opiniones	個人的な体験について話し、意見を伝える（賛成／反対する）。
6	Ropa e ir de compras	着ている服を説明し、服の比較をし、店で服を買う。
7	En una fiesta	今していることを話す。 お祝いを言い，贈り物をあげ、贈り物について話す。 物事について感想を言う。 食べ物や飲み物をすすめ、すすめを承諾する／断る。 日にちを言う。
8	Permisos y favores	許可を求め・与え、可能か不可能かを尋ねる。 頼みごとをし、頼みごとをきき／断り、借りる。
9	Viajes	過去の旅行・理想の旅行について話す。 座席の好み等について話し比較し、交通手段についての情報を尋ねる／与える。 天気について話す。
10	Famosos	歴史上の著名人、今の著名人について話す。
11	La infancia	過去の人物，場所について説明し，過去の習慣について話す。
12	El mundo	未来について話し、予想する。
13	Planes	将来の計画、義務や必要性について話す。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。予習として、配付プリントの指定箇所を事前に読み、vocabulary を覚え、授業内で示される課題に取り組む。復習として、授業内で使用した audio を聴き、授業で扱った文法事項を振り返る。

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（20%）、スピーキングテスト（20%）、授業参加および課題（60%）で評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course you are going to immerse yourself in Spanish and train four skills: speaking, listening, writing and reading. The aim is to achieve fluency and and take your Spanish proficiency to the next level so that you can deal with various situations in Spanish.

法政大学
HOSEI University